

『真のいのちの書』

神の師の教え

第X巻

教え 277～309

『真の生命の書』 出版事業

全12巻からなる『真の生命の書 (Libro de la Vida Verdadera) 』
は、全人類への遺産であり、
メキシコシティの「Secretaría de Educación
」に登録されています。

スペイン語版原著に関する詳細情報：
アソシアシオン・デ・エストウディオス・エスピリチュアレス・ヴ
ィダ・ヴェルダデラ、A.C.
Apartado Postal 888, México, D.F., - C.P. 06000

ドイツ語訳、ドイツ語版への序文、解説、脚注、注釈および本書に
関する注記の責任者：
ヴァルター・マイヤーおよびトラウゴット・ゲルテンボート。

2017年1月現在

編集（新正書法およびレイアウト）：
Buchdienst zum Leben
マンフレッド・ベーゼ
キルヒヴェーク5
D-88521 エルティンゲン

電話：+49 (0) 7371 929 66 42
Eメール：manfredbaese@gmx.de

『真の生命の書』は、この版を基にDeepL Translatorを用いて多くの言語に翻訳されています。

これらは、ゴットホルト・ゲルテンボートによって翻訳され、ライヒル出版社から出版された、著作権を有する真正かつオリジナルの著作物です。これらは本来の純粋な形で保存されなければならない、改変してはなりません。改変することは罪であり、神の裁きを招くことになります。

主がアンナ・マリア・ホスタに語られた言葉：

2017年3月25日

イエスは彼女にこう言われます。「封印の時代」……

……そしてこう言われます：

「これを活用しなさい。今日、わたしはあなたを選び、わたしの教えを受け取り、それを人々に伝えるようにしたのだ。」

この取り組みの責任者は、これらの書物の所有者である主イエス・キリスト、私たちの神の御名において、アンナ・マリア・ホスタが務めています。

(Eメール：hoanna64@yahoo.com)

DeepL - ダウンロードリンク：www.DeepL.com/Translator
(ビジネス版)

DeepLは現在100以上の言語に対応しており、デスクトップにダウンロード可能です。翻訳にはインターネット接続が必要です。

更新日：2026年8月24日

目次

内容

『真のいのちの書』	1
目次	4
序文	6
はじめに	8
教え 277	17
教え 278	26
教え 279	36
教え 280	46
教え 281	56
教え 282	67
教え 283	77
教え 284	87
教え 285	96
教え 286	107
教え 287	116
教え 288	125
教え 289	135
教え 290	145
教え 291	155
教え 292	168
教え 293	177
教え 294	187
教え 295	196
教え 296	206

教え 297.....	216
教え 298.....	226
教え 299.....	237
教え 300.....	248
教え 301.....	257
教え 302.....	267
教え 303.....	278
教え 304.....	289
教え 305.....	301
教え 306.....	313
教え 307.....	325
教え 308.....	335
教え 309.....	346
目次.....	359
1866年から1950年にかけてのメキシコにおける神の教え	367

序文

神は古来より、人類に御自身を現し、御言葉によって私たちに慰め、戒めを与え、御自身の創造と私たちの存在について教えを授けてくれました。キリスト教以前の時代、人々がこれらの神の教えを忘れるたびに、神は預言者たちを遣わし、御自身の律法を思い出させてくださいました。

人々がこの十戒から600以上の人的な規則を作り出したとき、神はイエスを遣わされた。イエスの口を通して、キリスト、すなわち神の御言葉が示され、イエスは十戒をたった一つの戒めにまとめられた。「何よりも神を愛し、隣人を自分と同じように愛せよ。」

しかし、人々は再び、この神からの単純で救いをもたらす教えを忘れてしまいました。今日に至るまで続く残酷な戦争や非人道的な迫害は、その悲しい証拠です。

神の真理と人間の教義が混同され、外的な儀式や儀礼が過度に重視され、また純粋な神の言葉が人間による誤った解釈によって歪められてきた結果、今日、多くの人々が一種の霊的な奴隷状態の中で生きています。

それゆえ、神が今日、啓発と戒めの言葉をもって再び人類に語りかけることは、過去も現在も不可欠である。これはメキシコにおいて66年間（1884年～1950年）にわたり行われた――100カ所以上の集会所で同時に、庶民が毎週日曜日に集まり、神の心を高揚させ、教訓に満ちた言葉に耳を傾けたのである。これらの集会の目撃者たちは、これらの神の言葉が、「声の伝達者」と呼ばれる伝達者たちの口から、水晶のように澄んだ水の川のように流れ出し、2～3時間にわたり、一切の中断もなく、わずかな言い間違いもなく語られたと証言しています。

純粋で偏見のない心で神の言葉の真意を受け入れた者は、主の臨在と天の父の限りない愛を感じ取った。

1950年以前の過去10年間、これらの教えは速記され、後でまとめられるよう議事録として書き留められました。366の教えが選ばれ、1956年から1962年にかけて、全12巻からなる『真の生命の書』として出版されました。

親愛なる読者の皆様、今、皆様の手元にあるのは、その12巻のうちの1巻であり、スペイン語から忠実に、一語一語を正確に翻訳されたものです。これは、一度だけ、あるいはざっと目を通しただけで、すぐに片付けてしまうような本ではありません。その深い意味を十分に理解するためには、テキストを少しずつ「一口ずつ」噛みしめるように読み進め、それについて瞑想し、自らの内面で神聖な精神とのつながりを感じ取ろうと試みることをお勧めします。

教えの中に含まれる繰り返しについては、第2巻の序文で詳しく

説明されており、誰にとっても気にならないはずです。それどころか、今日、私たちの心がどれほど多くの建設的ではない情報にさらされ、条件付けられているかを考えれば、繰り返されるものの、常に高揚感を与え、心を豊かにするこの魂の糧は、私たち全員の中に眠っている内なる価値を呼び覚ますために極めて重要なのです。

はじめに

『真のいのちの書』という啓示の全作品には、ある本質的なテーマが共通の糸として貫かれており、それらは第10巻にも見られます。以下に、読者の皆様の指針および概要として役立つよう、本書からの抜粋をいくつかまとめました。

キリストの再臨

私の新しいメッセージや、私の言葉の真意に、誰も驚いてはならない。なぜなら、第一時代の預言者たちは、第二時代のキリストと同様に、あなたがたが今日経験しているこの時代を、極めて明確に予告していたからである。(279, 9)

私の愛の教えは、伝達者たちを通じてそれを聞いたごく少数の者たちだけに向けられたものではなかった。私のメッセージは、すべての人々に知られるために世に広められたのである。それゆえ、私はあなたがたに告げる。このメッセージは、さまざまな形をとって地の果てにまで届くであろう。なぜなら、それは、人類が地上の苦難の時代の頂点に達したとき、すでに第二の時代に約束されていた慰めの始まりだからである。(282, 57)

あなたがたが抱える計り知れないほどの光の欠如——すなわち、知恵、愛、高揚を意味する光——を鑑みて、私は来ざるを得なかった。この光をあなたがたに与えるために、私が人間としてあなたがたの間に現れることは適切ではなかった。なぜなら、あなたがたを霊化へと導くためには、私が霊的かつ目に見えない、しかしあなたがたの信仰と愛にとっては感じ取れる形で、私の存在を明らかにする必要があったからである。(293, 57-58)

この言葉が世界中に広まり、人々が「誰がこれを靈感し、誰が口述して書き記させたのか」と問うとき、その伝達者や播種者たちは、聖霊が、によって整えられたその伝達者の知性を通じてこれを啓示したのだと証言すべきである。(295, 26)

第三の時代

第一の時代は、いわば人間の霊的な幼年期であり、その時期、人間は目を開き、父の御顔を見、その御声を聞くが、父を理解するにはまだほど遠い。その証拠は、人間が、その真意を魂で深く掘り下げることもなく、単にテキストの文字に固執することで、父に従おうとしたことにある。

第二の時代には、わたし、「御言葉」が、イエスとしてあなたがたの間に住み、わたしの生涯をもって、魂の道をあなたがたに示すために来たのである。この「第二の時代」とは、成長期、すなわち霊的な青春の初期にあたる。それは、キリストが人々に愛を教え、

眠っている心の琴線をかき立て、父と隣人への愛という力強い衝動のもとで、彼らの心が新たな感情に共鳴するように導いた時代である。

これが「第三の時代」であり、人間の魂は物質主義の鎖から自らを解き放たなければならない。これにより、人類の歴史がこれまで経験したことのないほど激しい世界観の争いがもたらされるだろう。（295、56-57+64）

人間の悪が頂点に達したこの「第三の時代」は、それにもかかわらず、和解と赦しの時代となるだろう。（305, 12）

第六の封印

第六の封印は解かれ、地上の靈性化の先駆者であるあなた方に、その内容の一部を示した。しかし、今日あなたがたが耳にするこの言葉が一度途絶えたとしても、その光は引き続きすべての人々に注がれ続けるだろう。（284、46）

現在、私は人類を代表して、ここにいるこの大勢の人々を受け入れています。そして、私が「人類」と言うとき、それは現代の人々だけでなく、六つの靈的な時代を通じて地球に住んできたすべての世代のことを指しています。私がこの六つの時代にあなたがたに伝えたメッセージは、まさに私が「封印」という名で象徴してきたものであり、あなたがたもすでにご存じのように、そのうちのまだ一つが解かれることで、他のすべての封印の意味や意義——すなわち、魂の生命、発展、そして完成という崇高な意義——が明らかにされるのです。（303, 52）

靈的なイスラエルの民と靈的な使命

神の民は、再び人類の中に現れるだろう——ある人種に具現化された民ではなく、血や人種、言語ではなく、靈によって結ばれた、私の弟子たちからなる大勢の群れである。この民は、書物を通じて私の教えを説くことだけに留まることはない。言葉に命が宿るためには、それを生きなければならない。この民は、書物や書籍を広めるだけでなく、模範や行いをも広める者となる。（292, 28-29）

これらの啓示を託されたこの民は、立ち上がって、その証しをなすことが必要である。それによって、人々は目覚め、この時代に特有のな靈的なしるしや顕現を認識できるようになるからである。（277, 15）

靈的存在たちの世界は、この地上の谷に住む時が来るのをただ待っている。彼らは光の存在であり、遅れた民族の懷に転生することを厭わない。なぜなら、彼らの使命はまさに、眠っている者たちを目覚めさせることにあるからである。（288, 46）

精神、靈魂、魂

人間は創造主の反映であり、神の似姿である。子供たちは、自分たちを生み出した父に必然的に似てくるものである。この類似性は、神の特性を備え、さらに永遠の命を持つ靈魂に根ざしている。物質、すなわち人間の肉体は、魂にとって一時的な衣に過ぎない。(295, 44)

人間が成し遂げるあらゆる行いの先頭に立つべきなのは、人間の靈魂である。なぜなら、地上での命が託されているのは、まさにその靈魂だからである。(305, 7)

靈的な祈り

靈魂は、はるか昔に創造主の懷から生まれたという直感的な知識を保っている。そして、出発点に戻るためにはまだ長い道のりが待ち受けていることを知っているため、少なくともこの瞬間だけは父とつながることができるかと悟り、祈りに専心する。魂は、祈りの中に、自分を慈しみ、力づけ、癒やす慰めを見出すことを知っている。

私は祈る者たちを祝福する。その祈りが靈的であればあるほど、私が彼らに感じさせる平安はより大きなものとなる。これは容易に理解できることである。なぜなら、祈るために、神聖な存在の臨在を感じるために、像や物体の前にひざまずくことに頼らなければならない者は、心の中で父の臨在という靈的な感覚を体験することはできないからである。(279, 1-2)

それに対して、私の教えのほんのわずかな部分を実践するだけでも、その人がどれほど容易に変わっていくかを見てください。その例をお聞きになりたいですか？

ある人がいました。彼は生涯を通じて、私を愛していると口先だけの祈りを捧げていました―それは他人が作り上げた祈りであり、その言葉の意味さえ知らなかったため、彼自身には理解できないものでした。しかしやがて、彼は真の祈りのあり方を悟り、古い習慣を捨て去って、魂の奥底に意識を集中させ、思いを神へと向け、初めて神の臨在を感じた。

主に対して何を言えばよいのかわからなかったが、胸が震え始め、目から涙がこぼれ落ちた。彼の心には、ただ一つの言葉だけが浮かんできた。「父よ、私はあなたと話す方法さえ知らないのに、何と云えばよいのでしょうか？」しかし、その涙、そのすすり泣き、その内なる歓喜、そして彼の戸惑いさえもが、父に向かって、あなたがたが人間の言葉や書物の中で決して見つけることのできないほど美しい言葉で語りかけていたのだ。

主に向かって靈的に祈り始める人間のそのたどたどしい言葉は、幼い子供たちの最初の言葉に似ています。それは、生き生きと目覚め始めた存在の最初の表現を耳にする親たちにとって、喜びと歓喜の源となるものです。(281, 23-24)

完全なる霊的な交信

私は、霊的な対話について多くを語ってきた。あなたがたは、それを高次な形で用いることを学び、その渴望に身を委ねるようになるだろうと伝えてきた。(291, 81)

この教えが広まれば、すでに多くの宗教団体が存在していることから、このメッセージの目的について問われることになるでしょう。その時には、この言葉が人類に与えられたのは、各々の宗教が教えていない「霊から霊への対話」を人々に教えるためであり、このメッセージこそが、あなたがたが持つすべての霊的資質を明らかにする神聖な光であることを、彼らに明らかにすべきである。(294, 44)

日ごとにさらに完成させていくべき「霊と霊との対話」を実践しなさい。なぜなら、あなた方と人類が私と交信することこそが、私の意志だからである。この結びつきを通じて、あなた方は私の靈感や使命を受け取り、私はあなた方の魂を受け入れ、あなた方の祈りを聞き、あなた方の霊的な腕が私を抱きしめることを許すのである。(304, 51)

この啓示は、完全な対話へとあなた方を近づける上昇の道において、あなた方がさらに一步前進することを可能にした段階であった。(278, 44)

神の啓示の受容と拒絶

過去の聖典を通じて、この時代を予告した預言を知っている者はどれほどいるだろうか。それにもかかわらず——もし彼らが私の啓示に立ち会ったとしても、それを信じようとはせず、またそれをあの約束の成就と受け止めることもないだろう！彼らは、この光を見分けることのできる発展段階に達していない者たちなのである。一方、今日、この時代に人々の前に現れているのが私であることを証しするために命を捧げようとする人々のうち、どれほど多くの者が、こうした出来事を語る預言が存在することさえ知らなかったのか。その理由は、彼らの魂がすでにその準備を整え、光を受け入れる態勢ができていたからである。(298, 19)

ここにいるこの人々の群れは、信者と不信者から成っているが、彼らは皆、愛を渴望し、光と真理を渴望している魂である。信仰を持つ者たちが養われ、強くなる一方で、不信者たちは永遠の命のパンを拒み、その飢えと渇きに耐えなければならない。彼らは、物質主義、無知、そして狂信に満ちた生活によって混乱させられ、それを忘れ去ることができないために、私の存在を認識し、感じるができない魂たちである。それは、人々の批判を恐れる心である。他人が自分について何と言うかを気にかけている限り、どうして魂の高みへと意識を集中させ、私の本質を感じ取ることができるだろ

うか。結局、彼らは「そのような場所に私の存在などない」と言うでしょう。しかし実際には、彼らは——そこにいながらも——私のもとにはいなかったのです。なぜなら、彼らの魂は、思考や関心事、心配事、そして情熱に縛られ、そこに取り残されていたからです。

私は確かにやって来た。確かにあなたがたと共にいた。なぜなら、私は常に私を必要とする者たち——苦難の杯を飲み干し、隷属と屈辱のパンを口にする者たち——のことを思い続けているからだ。
(301, 2)

試練の意味

時折、あなたがたの平安は闘いとなり、不安や恐怖へと変わる。これは、嵐が野原や庭を荒れ狂わせ、木々を激しく揺さぶり、花から花びらを散らすときに起こる。その時、あなたがたは、そうした試練にどのような意味があるのかと問う。しかし、私はあなたがたに告げます。竜巻は木々から悪い実や枯れた葉を落とし、庭の中にあってはならないものをすべて吹き飛ばすのです。(278, 31)

試練のさなかに、あなたがたの良心がこう告げるのを許しなさい。「私はあなたがたを罰しているのではなく、あなたがたはまさに清められているのだ」と。そして、解き放たれた自然の力が恐怖を引き起こすのを見たとき、それを「神の罰だ」と言って冒涇してはならない。それは、あなたがたを清めるための試練なのだと悟りなさい。(293, 75)

あなたがたは、経験という長い道のりを歩んできた。経験の光を得たとき、盲目と無知であるあの無垢さは消え去った。さらに、あなたがたは自らを汚してしまった。それゆえ、あなたがたを清め、浄化するための試練と苦痛があるのだ。(301, 24)

すべての人への霊的なインスピレーション

民よ、霊的なメッセージやインスピレーションを受け取ることができるのは、あなたたちだけではないことを知ってください。この世界には、私がこれらの声の媒体を通じて御言葉を注いでいることを知らずとも、人類に啓示として注がれようとしている光の近さを予感している人々が大勢います。彼らは私の霊から必要な準備を与えられ、あなたがたの証しを聞き、あなたがたが彼らに私の神聖なメッセージを伝えるとき、歓喜してこう言うでしょう。「これこそが、私が待ち望んでいたものだ。」(283, 51)

すべての人々の間の霊的な調和

慈善と平和が花開く善と愛こそが、神秘の扉を開く鍵となり、それによって人々は普遍的な調和へと一步を踏み出すことになる。(292, 5)

すべての存在の間に存在する霊的な調和は、彼らに偉大な啓示をもたらし、精神と精神との対話を生み出すだろう。それは距離を縮め、遠く離れた人々を近づけ、対立や境界を取り除くことになる。

(286, 3)

私は、すべての の子供たちの間に——地球に住む者たちにも、他の世界に生きる者たちにも——調和が支配し始めるよう働きかけている父である。(286, 2)

霊的な目覚め

この人類は、何世紀にもわたって不和の中で生き、数多くの苦しみと苦い経験を積んできたが、今や、民族間の団結やすべての人々の間の調和は、物質的な利益や地上の価値観に基づいては成り立たないことを理解できるようになった。やがて人類は、高潔な魂こそが、人類の平和の基盤となる確固たる土台、揺るぎない岩となることができるのだと理解するようになるだろう。(289, 3)

私がこのようにあなた方に語りかけるのは、あなた方の魂の発達を私以上に知る者はいないからであり、また、今日の人間は、その甚だしい物質主義や、この世への愛、そして最大の罪にまで発展した情熱にもかかわらず、一見「肉」や物質的な生活に溺れているように見えるだけであり、実際にはそうではないことを私が知っているからだ。私は知っている。彼らが魂の中で私の愛の優しい触れを感じた瞬間、彼らはすぐに私のもとへ駆け寄り、その重荷を捨て去り、無意識のうちにこれほどまでに切望している真理の道を、私に従って歩み始めるだろう。(305, 36)

慈悲

人々が精神の高揚という状態に達するための再生への第一歩は、慈悲である。魂に対する慈悲、肉体に対する慈悲、隣人に対する慈悲。(287, 31) 私が病院や刑務所、悲しみに沈む家庭、崩壊した夫婦関係、孤児たち、あるいは魂が飢えている人々へと視線を向けるとき——なぜ、そこにあなたがたの姿が見当たらないのか。私があなたがたに祈りを教えただけでなく、言葉の賜物も与え、癒すことを教えたことを思い起こしてください。そして、多くの機会に、あなたがたが真に備えさえしていれば、あなたがたの存在が奇跡を起こし得ると、私はあなたがたに語ってきました。(306, 27)

先駆者ロケ・ロハスは、エリヤの霊に触発されて、次のように記しました。「隣人に対して慈悲、そしてさらに慈悲を尽くしなさい。そうすれば、あなたがたは、その栄光に満ちた私の父を仰ぎ見ることになるだろう。」

弟子たちよ、この言葉には真理と光が宿っている。なぜなら、人生において慈悲を実践しない者は、決して私の王国に入ることはできないからだ。それとは対照的に、私はあなたがたに保証する。た

とえ最も冷酷で頑なな罪人であっても、慈悲によって救われることができるのだ。(308, 52)

輪廻転生と靈的發展

ヤコブは夢の中で、存在たちが絶え間なく昇り降りしている靈的な階段の存在を、あなたがたに明らかにした。その内容を理解した者は誰か。その秘密を解き明かした者は誰か。あの族長が見たイメージの真意の中には、魂の発達、靈的な被造物たちが人間として絶え間なく転生すること、存在たちの償いと贖罪、神と人間との交わり、そして靈から靈への対話が含まれている。(287, 59)

この第三の時代において、私はあなたがたに魂の輪廻転生の確証をもたらした。人類は確かに、いつの時代もそれに関する直感的な知識を持っており、魂はこの秘密を「肉体」に明らかにしてきたが、常に不信仰で弱かった肉体は、それを疑ってきたのである。(309, 22)

しかし、私はこの時代に、その確証をあなた方に伝え、こう告げるために来たのである。「魂の輪廻転生において、私の完全なる愛の法則が明らかにされるのだ。」(309, 22)

靈界

あなたがたの物質世界の彼方に存在する魂の生命は、人間にとって秘密であるはずもなければ、そうあってはならないものでした。父はあなたがたの知識への渴望をご覧になり、啓示と靈感という賜物を通じて教えを始められ、無限の様々な形で御自身を現されました。しかし、この教えは、最初の人間が現れて以来すでに始まっており、今日に至るまで絶えることなく続いています。(289, 17)

目を覚ませ、民よ！あの世は、あなたがたの地上の歩みを注視している！あの世は、あなたがたの行いを知っている！もし、あの世が、敵意と情熱の海に沈みゆくこの人類を見れば、彼らは心を揺さぶられ、あなたがたのために祈るだろう。(298, 41)

物質的な生命の彼方に存在する靈的な存在についての認識に対する人類の信仰を強めるために、かつて、あなたがたには「天使」という名を与えた父の使者たちによるいくつかの顕現が許されたのである。(301, 10)

また、あなたがたは、自分の仕事を独りでこなしているなどと思ってはなりません。なぜなら、あなたがたには、これほど大きな靈的意義を持つ業を成し遂げるのに十分な力がまだ備わっていないからです。あなたがたには、進むべき道を示し、種を蒔くべき場所と道筋を教えてくれる存在がいることを知らなければなりません。

これらの先駆者たちは、他の世界、他の故郷から来た、あなた方の兄弟姉妹たちです。彼らはそこからあなた方の歩みを見守り、道を開いてくれています。なぜなら、彼らもまた、平和と愛、そして

兄弟愛の働き手だからです。彼らは、あなたたちよりも清らかで、より深い知識と豊富な経験を持つ魂たちであり、彼らから悪を恐れる必要は一切ありません。彼らは、あなたたちが立ち止まることを許さない者たち——あなたがたが種を放置したとき、あなたたちの心に不安をもたらす者たちなのです。（297, 6）

愛の法則と力

隣人への愛、理解、そして赦しに由来する愛の法則は、私があなたがたの霊的使命のために啓発した基盤である。（291, 8）

あなたがたの歩みを導くのは恐れであってはならず、また、その律法を遵守するよう強いるのもであってはならない。信仰と愛こそが、あなたがたの人生において善行を成し遂げるよう駆り立てる力であるべきだ。そうしてこそ、あなたがたの功績は真のものとなるのだ。（305, 51）

平和、すなわち最高の霊的財産

あなたがたの心に安らぎを与え、魂に平安をもたらすのは、わたしの言葉である。わたしがあなたがたのために定めた最も偉大なものは、平和である。この宝を持つ者はすべてを持っている——この魂の状態を知る者は、この世のいかなる最大の財産や宝物ともそれを交換しようとはしないだろう。

もしあなたがたが、平和を得て保つための秘訣は何かと私に問うならば、その秘訣は、あなたがたの父の御心を行うことにあり、私は告げよう。そして、もしあなたがたが、神の御心をどのように果たせばよいかと私に問うならば、私は、私の律法と教えをあながたの人生に適用することだと答えるだろう。（307, 1-2）

良心の声

良心と親しくなりなさい。それは友好的ない声であり、主が——父として、師として、あるいは裁き主として——その光を透かして輝かせる光なのです。（293, 74）

人間が、自身を取り巻くあらゆるものよりも前に、そしてそれらすべての上に立っていること、また、自由意志と良心を備えている唯一の存在であることを見よ。人間のあらゆる迷い、墮落、そして罪は、この自由意志に端を発している。しかし、それらは創造主の正義と永遠の前においては、つかの間の過ちに過ぎない。なぜなら、やがて良心は、肉体の弱さや魂の誘惑に打ち勝つことになるからだ。それによって、無知を意味する闇に対する知識である「光」の勝利が訪れる。それは、愛、正義、調和である「善」が、利己主義、放縦、不正義である「悪」に打ち勝つこととなるのだ。（295, 49）

精神的な解放

各宗派が、信者たちを古い信仰観や時代遅れの信仰体系という固定された枠組みの中に留めようと努めても、その努力は無駄で無益なものとなるだろう。なぜなら、人間の思考力の根底にまで浸透し、啓示と神の靈感、疑念や謎の解明、そして精神的な解放の時代に向けて魂を目覚めさせる神聖な光を、誰も止めることはできないからだ。

また、思考、精神、信仰の自由を渴望して立ち上がる人類が作り出す大波を、誰も止めることはできないだろう。私が様々な宗教団体から、その教え子や信者、信奉者たちを奪い取るなどとは、誰も信じてはならない——いいえ。しかし、今や新たな時代が始まる時が来た。忘れ去られた教訓を日の目に見せ、無益な慣習、教義、伝統を排除し、魂をあらゆる誤りから清め、解き放ち、これまで常に儀式に取って代わられてきた「霊の真の糧」を彼らに与える時が来たのだ。(290、58-60)

この時期に私の言葉を聞いたあなた方のうち、どれほどの人にとって、解放の日とは、まさにこの声を初めて聞いたその日そのものであったことか！ 信仰への復活という奇跡「」を思い起こす、その祝福された日を、あなた方はどれほど深い愛をもって記憶に刻んだことか！ (294、24)

教え 277

1. わたしは、あなたがたの中に、あらゆる時代を通じてわたしに従うキャラバンの先鋒を見出した——賢明なイスラエル、その民のために道を切り開くユダの闘志である。あなたがたは最後の戦いを繰り広げるためにやって来ており、あなたがたの歩みを導き、その業の頂点へと導くために、わたしがあなたがたの前に立っている。

2. 私は、人類が最大の危機を経験しているまさにこの試練の瞬間に、あなた方を遣わした。そして、人類はしばらくの間、権力への欲望を追い求め続けるだろうが、その後、痛ましいほどの消耗に陥り、やがて良心が呼びかけ、どれほど多くの無駄な道を歩み、いかにして自らの存在を浪費してきたかを悟ることになる、と告げておく。私の御名によって彼らに語りかけ、霊性への道を歩んで私のもとへ来るよう、賢明に導くであろう。

魂が目覚まし、思索にふける時、それは確かなものにすぎらうとし、最も短く安全な道を見出そうとし、原点へと立ち返って、そこで基礎、美德、真の科学を見出し、私が人間に与えた最初で最後の法則が、あらゆる完全性の源である愛であることを悟るだろう。

3. 私は、あなたがたが私の言葉の成就を待ち望みながら生き、常に私や霊界とつながりを保ち、私から遠く離れているとか、私から切り離されていると感じることがないようにしてほしい。私は、さまざまな世界の魂たちの結合をもたらし、その結合によって彼らが強くなり、私が彼らに課した業を成し遂げられるようにする。

4. それを実現するために、私はあなたがたに、自分の個性を否定したり、この世から身を引いたりすることを求めてはいない。何しろ、あなたがたはこの世に生きているのだから。ただ、あなたがたには、肉体の必要を満たすために、どうしても必要なものだけを用いるべきだ、と告げる。そうすることで、魂は自由を感じ、自らの内面や周囲を見つめる中で、私の業におけるその偉大な使命を理解することができるからだ。真実であること。

5. 私は、人間生活に不可欠なものをあなた方に与える。私は、あなた方に義務を怠ることを求めるわけではない。むしろ、私の言葉は、それらを全うするようあなた方を導くであろう。なぜなら、その義務のうち、最も些細なものでさえ、あなた方の使命の一部を成しているからである。

あなたがたは、闘争と活動、そして努力の時代を生きており、これらすべてを御霊の奉仕に捧げ、すべての賜物を開花させることが必要です。そうして初めて、第二の時代の私の弟子たちの中に起こ

った変容が、あなたがたの中にも成し遂げられるのです。彼らは――あたかも一つの御霊に結ばれたかのように――私と一つとなりました。

6. 偽りの、あるいは見せかけだけの準備をしたまま、人々のところへ行くことはできません。なぜなら、彼らの魂は発達しており、彼らの目を覆っていた覆いは、とっくに落ちているからです。彼らに霊性をもたらし、平和を捧げ、周囲に安らぎと兄弟愛の雰囲気醸し出せば、彼らはあなたの方の言葉に耳を傾け、それを受け入れるようになるでしょう。その言葉には、私の靈感と力が宿っているのです。

7. あなたがたが説教し、平和を教えるならば、自らも平和を愛する者でありなさい。愛について語るならば、言葉で表現する前に、まずその愛を感じなさい。もし周囲の人々が同様にその実りをあなたに差し出すなら、それを拒んではならない。あなたがたが知り得るすべてのことを吟味し、彼らの教えの中に許容され、正しいとされるものに従いなさい。また、宗教的実践において狂信的になり、その儀式行為を物質化させることによって理解力を損なってしまった人々にも出会うだろう。その際には、忍耐強く彼らの知識を広げる手助けをし、彼らが私の教えに深く没頭したときに、彼らの精神が到達しうる地平を示してあげなさい。彼らに、私の普遍的な精神について、魂の不死について、そして魂の絶え間ない発展について語らなければならない。彼らに真の祈り、すなわち精神との対話を教え、偏見や誤りから彼らを解放しなければならない。これこそが、私があなた方に命じる務めである――愛と忍耐の務めである。

8. あなたがたは皆、私の子である自分の魂を見守りなさい。私の新たな啓示を受け入れなさい。もし、私がかつて与えた言葉の意味をこれまで見出せなかったとしても、ここに来なさい。そうすれば、この教えを通じて、すべてを認識し、理解できるようになるでしょう。なぜなら、私はあなたがたに思い出させ、あらゆる時代の私の言葉と行いをすべてあなたがたの中に統合するからです。そうして、あなたがたは父なる神のさらなる証しを得るのです。

9. 私があなたがたに授けた力を用いて、あらゆる試練と誘惑に打ち勝ちなさい。苦しみの中でも忍耐強くありなさい。そうすれば、あなたがたは自分の舟を操り、自らを救うことができるでしょう。

10. 私は、この第三の時代において、あなたがたの神への崇拝が、花から漂う香りのように、純粹で完全なものとなることを望んでいる。

11. 人々が、自らの魂の中に神殿を築き、その中に信仰の炎を灯す準備が整ったとき、神聖なものを冒瀆する行為は止み、戦争は終結し、涙の谷は次第に平和の地へと変わり、天の御国はすべての人の心に近づくであろう。

12. たとえ私の言うことがすべて不可能に思えても、このように私があなたたちに語りかけることを許してください。私は、この世界が将来どうなるかを知っています——それは永遠に続く未来であり、あなたたち小さな被造物には理解できないものです。

13. あなたがたは現在のことさえ自覚していないのに、どうしてこれから起こることを予言したり、わたしの言葉が預言することを疑ったりできるだろうか。

14. すでに、私の使者たちがこの世にやって来ている。時が来れば、彼らは人々の目から暗闇の覆いを取り除くであろう。彼らは、真の愛の行いによって真理を守るためにこの世に遣わされた使者たちである。しかし、誰が彼らを見出したというのか。今日の子供たちの中に、明日の預言者や使徒がいて、誰が予感しているだろうか。しかし、あなたがたが肉眼で見ることが出来る者たちにさえこのようなことが起こるのなら——私が、平和のメッセージと目覚めの呼びかけを携えた、私の霊的な光の軍勢もまた、あなたがたの世界に近づいていると告げたら、一体何が起こるだろうか。あなたがたは、これを微塵も予感していなかった。

15. これらの啓示を託されたこの民は、立ち上がって、その証しをなす必要がある。それによって、人々は目覚め、この時代に特有の霊的なしるしや現れを認識できるようになるからである。

16. それゆえ、私は絶えず、あなたがたにこの種を守り抜くよう告げているのだ。そうして初めて、あなたがたとあなたがたの子供たちが、この光を地上の諸民族へと運ぶ者となるのである。

私が、私のメッセージを地球のさまざまな場所に伝えるために、あなたがたの良心が「正しい道を歩んでいる」と告げる限り、あなたがたが適切だと考える手段を用いることを許す。

17. しかし、今この瞬間、私の声を聞いているあなたがただけが、この使命を遂行する唯一の使者であるとは申し上げない。いいえ——あなたがたにはその一部を担う役割が与えられ、あなたがたの後を継ぐ者たちは、彼らに与えられた役割を果たすことになる。なぜなら、私の新しい民にとって、この業は計り知れないほど巨大なものだからである。

18. あなたがたが目指すべきことは、この業が世代から世代へと受け継がれ、その霊性と純粹さをもって表現され、その真実のすべてが保たれるようにすることである。

19. あなたがたは、まだ私の教えの本質と真意のすべてを認識していない。それゆえ、あなたがたはそれを、霊性を全く含まない粗雑な儀式によって歪めてしまったのである。しかし、あなたがたの知性が魂と共に真実へと目覚めたとき、その両者はもはや、私の業に不純なものを混入させることはできなくなるだろう。

20. あなたがたは、この地上に来る前に与えられた使命として、世界にそれを与えているのです。それは、あなたがたの魂が持ち込んだメッセージなのです。

21. 理性はこれらすべてを知らないが、魂たちは、主が再び世界に御言葉を告げられる際、その御言葉を聞く運命にある者たちが皆、この世で集まるだろうと告げられていたことを覚えている。

22. 魂の中に主の使命と約束を保ち続けることができた者たちは幸いである。彼らの中には、わたしの霊の光が宿っていたからである。彼らは今、託された使命を果たしており、自分たちに与えられた役割を終えた暁には、自分たちの後に新たな「働き手」たちが現れ、始められた業を引き継いでいくのを見届けるといふ、霊的な喜びを味わうことになるだろう。彼らは、これらの後継者たちの中に、道が整えられ、平らにされ、畑への種まきがすでに始まっているのを見出し、そのことに満足と喜びを感じるだろう。

23. あなたがたは先駆者であり、この時代において、同時代の人々の誰も道を整えてくれなかったために多くの困難に直面したにもかかわらず、それでもなお世界にメッセージを伝えることができたのです。新しい世代は、道が十分に整えられ、種が蒔かれている状態に出会うため、彼らが担うそのメッセージを、より大きな光と明瞭さをもって広めなければならないことを、心に留めておいてください。

24. 預言者たちがメシアの到来を告げ始めた最も初期の時代から、彼らは、メシアが人間となるゆえに、すべての国々が彼によって祝福されると語ってきた。しかし今日、わたしはあなたがたに告げる。この第三の時代において、わたしの霊がすべての魂と結びつくために来ることゆえに、すべての民が新たに祝福されるのだ。

25. 祈り、悔い改め、善行によって自らの清めを求める者たちは、祝福される。なぜなら、彼らは真に自らの汚点を洗い流し、わたしの前に清らかな姿で現れる者たちだからである。このように真理

を理解する者たちは幸いである。彼らは道を見出し、過ぎ去った時代の無知と闇を後に残すからである。

私が「第二の時代」に、民がエホバの祭壇の前で捧げていた流血と無実の犠牲を終わらせるために来られ、父に自らの命を捧げることを読んだように、今日、私は、あなたがたが私の教えの真の成就に代えて行っている、さまざまな無益な礼拝の形式や儀式から、あなたがたを遠ざけるために来ている。

26. あなたがたが私の教えに耳を傾ける時、かつては不可能に思えたことを理解し、実行できることに驚くだろう。それは、あなたがたの魂が、これまで知らなかった道を一步一步歩んできたからである。あなたがたの知性に灯った一筋の光だけで、あなたがたの心の奥深くに根付いていた外的な礼拝を、取り除くのには十分であった。

27. また、あなたがたが真理をより深く見つめるにつれて、象徴主義も礼拝から消え去り、あなたがたは、純粋で、簡素で、霊的であり、かつ容易に実践できる礼拝を喜びとするようになる。

28. 私はまだすべてを語り尽くしたわけでも、すべてを明らかにしたわけでもありません。それゆえ、あなたがたは、これまでに達成したことに満足してはならず、最初に受け取ったものだけで満足してはならないと告げます。私の宝庫にはまだ多くのものが守られており、あなたがたの魂はそれを知るべきなのです。あなたがたは、この道において、まだ多くの重要な一步を踏み出さなければならないでしょう。

わたしは、あなたがたに、律法を実践する別の方法、そしてわたしの言葉によって明らかにされた霊的なものや神聖なものを認識する別の方法を教える。なぜなら、あなたがたが科学者や神学者のように、わたしを探求しようとするなど望まないからだ。あなたがたは、祈りを通じて思いを父へと向けることによって、父の隠された知恵に問いかけなければならない。そうすれば、謙虚さと敬意、そして愛に包まれて、父が喜んであなたがたに啓示したかったことを、父から受け取ることになるだろう。このようにして知恵の門にたどり着く者は、光を切望する幼子として、あるいは知識を渴望する弟子として見なされるでしょう。私はその者に私の臨在を感じさせ、その者を慈しみ、あなたがたの父の御心に従って知るべきすべてのことをその者に示します。私はその者の疑いを払拭し、その目の前から多くの秘密のペールを引きはがし、光で満たしてやる。そうすれば、その者が祈りを終え、人生の闘いへと戻ったとき、師

との教えの時間に学んだことを、その人間としての本性に明らかにすることができるだろう。

29. 私の本質を認識し、神性へと入り込もうとした者たちの中で、必要な謙虚さと敬意を持って私の御前に臨まなかった者たちは、常に迷い、決して偉大な教えを得ることはなかった。なぜなら、その扉は謙虚な者にのみ開かれ、高慢な者には常に閉ざされているからである。人々は依然として、人生に対して幼子のような存在であり、弟子となるには程遠い。

30. 私は、あなたがたに精神と心の謙虚さを求める。そうしてこそ、光への渴望を抱いて霊的な道を歩むあなたがたは、知りたがっているすべてのものを見出すことができるのだ。準備の整った者たちは、この私の啓示の時代が過ぎ去り、異国の者たちの隊商が、あなたがたが耳にし、目にしたことを尋ねてやって来たとしても、泣く必要も、この時代を懐かしむ必要もないだろう。その時、あなたがたは、私が教えたすべてのことを忠実に証しし、彼らが謎に包まれていると見なすすべてのものについて説明をしなければならない。

。あなたがたの知性と語りの明晰さに驚嘆して、彼らはあなたがたを「光の子ら」と呼び、こう言うでしょう。「あなたがたは、たとえそれが人間の知性を通じてであったとしても、神聖なる師の御声を聞いたのだから、幸いな者たちだ。」

31. わたしは人々に改めてわたしの言葉を授ける。それは、彼らが見捨てられていないことを知らせ、彼らの霊の声によって目覚めさせ、この世の後の生活において、魂に偉大な神の奇跡が待ち受けていることを悟らせるためである。

32. わたしは彼らを通して人々に語りかけた。そして、霊的なものとつながるために祈ることを知る者も、また、科学を通じて自然の神秘を深く探求する者が証言するように、同じことを体験する。これら二つの道において、探求すればするほど、理性も霊もますます多くのことを発見していくのである。しかし、人間が研究や探求において愛にインスピレーションを得る時が、いつ訪れるのだろうか。それが実現して初めて、その業績は世に永続するものとなる。科学の動機が権力への欲望、傲慢、物質主義、あるいは憎しみである限り、人々は、自らの軽率さを罰する、解き放たれた自然の力の懲らしめを絶えず味わうことになるだろう。

33. 現代の科学者は、その著作において全くの無理解を示している。なぜなら、彼は国家や民族を破壊し、同胞の命を何千人もの規模で奪い、人々を奴隷化し、人間の生活を嵐のように乱しているか

らだ。彼は自らが引き起こしている悪を理解しておらず、自らの行為がもたらす影響の重大さにも気づいていない。それゆえ、私は彼らを「軽率」と呼ぶのである。

34. この人類を救うことができたのは、わたしの慈悲だけであった。それゆえ、わたしは人の心に触れ、その魂を目覚めさせるために来たのである。そうして、人が良心の静かな声に耳を傾けられるようにするためである。その声は、人が引き起こしたあらゆる悪を賢明に認識させると同時に、過ちや悪を償う方法をその人に示してくれるだろう。

35. 人々は、すべての者が私のもとに来なければならないことを理解しなければならない——しかし、彼らが望むような人間としての姿ではなく、霊的な状態においてである。そうして初めて、彼らは自らの行いがすべての者の幸福に向けられるよう努め、それが結果として彼ら自身にとっても利益となるのである。

36. どれほど多くの人々が、悪や傲慢、虚栄に満ちた野望の中で膨れ上がり、どれほど多くの人々が、惨めで霊的に裸であるにもかかわらず、自らに冠を被ってきたことか。あなたがたが「真理」と見なしているものと、わたしの真理との間には、なんと大きな隔たりがあることか！

37. おお、民よ、あなたはわたしの言葉を聞いて泣いている。いつになったら、全人類がわたしの啓示を前にして泣くようになるのだろうか。わたしはあなたがたすべてを赦す。今こそ恵みの時であり、わたしの無限の光をすべての世界と、わたしのすべての子供たちの上に注ぎ出す。

38. これは光の時代であり、聖霊の光である神の知恵が、心と魂の最も秘められた隅々までも照らし出すであろう。

39. 今や、人間はまもなく、この世に生まれる者がどこから来るのか、この人生の意味、使命、目的が何であることを理解するようになり、そして、自分が「死」と呼んできたものを自ら説明できるようになるだろう。

まもなく、人類は理論や表面的な礼拝の形式を捨て、その代わりに真理を生きようになる。そうして、人類は自らの存在を善に捧げ、行いを通じてわたしを崇め、この世を去る時が来れば、肉体の目を永遠に閉じるという事実を「死」とは呼ばなくなるだろう。なぜなら、それが魂がより高次の生命へと完全に移行する瞬間であることを知っているからだ。

40. もしあなたがた全員が、肉体を離れる際の魂の解脱こそが、平和と完全性の住処に近づくために不可欠な過渡的な段階であるこ

とを知れば、人々の心には現実に対する真の認識が芽生えるだろう。

41. 創造主は、その性質が絶えず発展しつつも、常に完全性へと向かって進んでいる世界に、人間を置かれた。

しかし、この自然の懷に生きる人々は、道徳的な向上を志さず、自らの存在の本質であり理由である魂の完成を切望しないため、その自然と調和して発展してはいない。

42. 人間の発展、その進歩、科学、そして文明は、人間の中に存在する最も崇高で高貴なもの、すなわち精神の魂の高揚を決して目的としてこなかった。人間の努力、野心、願望、そして懸念は、常にこの世をその目標としてきた。人間はここで知識を求め、ここで財宝を蓄え、ここで快樂、名誉、報酬、権力の座、そして榮譽を手に入れ、ここで自らの栄光を見出そうとしてきた。それゆえ、私はあなたがたにこう告げる。自然は、絶え間ない発展という法則に従って、より精妙なもの、より完全なものへと一步一步前進し、その歩みを止めることなく進んでいる一方で、人間は取り残され、前進できていない。それゆえ、地上における人間の運命の打撃、すなわち人生の道程で遭遇する試練、障害、そして苦難が生じるのである。というのも、人間は、人生を取り巻くあらゆるものと調和し、主が初めから命じられたように、魂の上向きの発展を通じて万物の主となるよう心掛ける代わりに、貪欲、傲慢、憎しみといった低俗な情欲を通じて主になろうとしたからである。しかし、そのことに気づくことなく、彼は自らの虚栄心によって自らを罰することとなった。すなわち、神がその御意志の下に置かれた万物の主であり君主であるという地位から転落し、周囲のあらゆる自然の力の僕となり、奴隸となり、さらにはその犠牲者となってしまったのである。

43. まず第一に、自らの本質の核心に本質を見出すことによって、自分自身を知ることが決意しなさい。そうすれば、あなたがたが何よりもまず靈魂であり、神の子であることに気づいたとき、心が啓発されることを、私は保証する。

44. わたしの言葉は、靈的な知識への扉を開き、あなたがたが心の中に、父が子供たちのために宝庫に蓄えておられるもののいくつかを蓄えられるようにする。

45. 人間は、多くの賜物と神聖な栄光の担い手である靈魂をその内に宿しており、その恵みを授かるにふさわしい者とするのは、神の言葉、すなわち神の教えである。

46. 人類は、その物質主義によってどれほど自らを貶めてしまったことか。高きもの、清きもの、真実なものに対する無関心ゆえに、どれほどの涙を流さなければならなかったことか！

47. 靈魂は美德へと傾き、肉体は罪へと傾く。両者は調和することなく互いに葛藤している。それゆえ、私は御言葉によって、魂には正当なものを、世界にはそのものにふさわしいものを与えることで、両者が一つの理想の下に結ばれる方法を教えたのである。

「肉体」の中には、本能や情熱、そして物質的なものへの傾倒が存在します。なぜなら、それらはそこにその源があるからです。それゆえ、あなた方には、人間の心の琴線に優しく響き、心を高潔にし、高揚させつつも、地上の人間を支配する法則の遵守から逸脱させないような教えが必要なのです。この教えによって、魂は永遠へと昇華し、その起源であるあの領域へと至ることができるでしょう。もし魂が「肉」とこの世に打ち勝つことができれば、その後、すでに人間の肉体の殻から解放された魂は、段階を追って上へと昇り、父にますます近づき、それによって、かつて住み、自分を奴隷にしていたこの世を、ますます遠く後方に置き去りにすることが容易になるでしょう。

48. 人間をその創造主に似せている靈の火花は、それが生まれた無限の炎にますます近づいていく。そして、その火花は、自覚を持ち、愛に満ち溢れ、知識と力に満ちた、輝かしい存在となるだろう。その存在は、わずかな痛みも、些細な苦難も存在せず、完全かつ真の至福が支配する、完全なる状態を享受する。

49. もしこれがあなたがたの精神の目標でなかったならば——まことに、わたしはあなたがたに告げる。これほど多くの教えを通じて、わたしの教えをあなたがたに知らせることはなかっただろう。なぜなら、その場合は、「最初の時代」の律法だけで、あなたがたが地上で平和に暮らすには十分だったはずだからである。しかし、私が人間の中に生き、この世の彼方に無限に優れた世界を約束したことを考え、さらに、別の時代に再び来て、引き続きあなたたちに語りかけ、あなたがたが理解できなかったすべてを説明すると約束したことを思い起こせば、人間の靈的な使命は、あなたがたが期待しうるあらゆるものよりも高く、はるかに高いものであり、また、約束された至福は、あなたがたが予感したり想像したりできるものよりも、無限に大きいのだと結論づけることになるでしょう。

私の平安があなた方とともにありますように！

教え 278

1. 愛する弟子たちよ、私は再びあなたがたに告げる。目を覚まし、祈りなさい。なぜなら、肉体は弱く、その弱さゆえに、魂を正しい道から逸らしてしまうことがあるからだ。

2. 警戒して生きることを心得ている魂は、主が彼女のために定めた道から決して逸れることはなく、より高い発展段階に到達するまで、その受け継いだ遺産と賜物を活用することができる。この存在は、警戒して生き、決して物質に支配されることがないため、試練の中で前進していかなければならない。見張り、祈る者は、人生の危機から常に勝利を収め、確かな足取りで人生の道を歩み抜くことになる。

3. 祈りと警戒を忘れてしまう者の振る舞いは、これとはどれほど異なることか！ その人は、私が人間に与えた最高の武器、すなわち信仰、愛、そして知識の光によって自らを守ることを、自ら進んで放棄しているのだ。直感、良心、そして夢を通じて語りかける内なる声に耳を傾けないのは、まさにその人である。しかし、その人の心と理性はその言葉を理解できず、自らの精神からのメッセージを信じようとしな。

4. もし人間が、自分より高い次元に存在し、振動しているより高次の生命について意識的に生き、自らの精神に問いかける術を知っていたなら——どれほどの不快な出来事を免れ、どれほどの深淵から身を守ることができたことか。しかし、人は生涯を通じて、自らの疑いや不確実性に対する解決策を持たない者たち——物質的な自然を深く探求してはいるものの、魂が昏睡状態に陥っているために霊的な生活を知らない科学者たち——に助言を求めているのである。

5. 人間の魂は、自分自身を見出し、その闘いを支えるために託されたあらゆる能力を発見するために、目覚めなければならない。

6. 今日、人間はまるで生命の木から落ち、風のなすがままに翻弄される、小さくて枯れた葉のようだ。千変万化の運命にさらされ、自然の力には無力であり、死を前にしては脆弱で哀れな存在である。それにもかかわらず、人間は、この世で自己を完成させるために私から遣わされた君主として、地球の支配者であるべき存在なのだ。

7. 目覚めの時が来た。今こそ、真理を求めて急ぎ、自らの野心や絶望、無知が導いた道を引き返さなければならない。

8. その啓示によって世界を揺るがすために現れる、わたしの光から逃げ出してはならない。まもなく、あなたがたは霊的な大空に、この難破した世界の救いの星が輝いているのを見るだろう——それは、あなたがたの人生の本質である律法から遠ざかってしまったために、物質主義的で不毛かつ利己的な生活の影の中に迷い込んでしまった人類のための星である。

9. 祝福された民よ。私がこのように人類についてあなた方に語る時、あなた方の心は揺さぶられないのか。あなた方が果たさなければならぬ、あの極めて困難な使命を、すぐに思い浮かべないのか。

10. 私がこのようにあなた方に語りかけるのは、あなたがたが備えをするためである。なぜなら、今や、この世に私の使者と使節たちが現れる時が近づいているからであり、その使節たちの中には、あなた方のうち数名、すなわちこの第三の時代に私の御言葉を聞いた者たちが含まれるからである。

11. 心清き者たちのみが、私のメッセージを広めるために諸国や諸民族へと旅立つことを許される。なぜなら、彼らこそが、この業の真実を証しするにふさわしい唯一の存在となるからである。

12. これらの使徒たちが、彼らを待ち望む国々へと旅立つとき、彼らの心からはあらゆる宗教的狂信がすでに消し去られていなければならない。お世辞や称賛を求めるわずかな願望さえも存在してはならず、また、彼らが成し遂げる愛の業のために、この世のお金で自らの手を汚すようなことをしてはならない。彼らは奇跡を売り物にしてはならず、互いの愛に値段をつけてはならない。彼らは主ではなく、しもべでなければならない。やがて、あなたがたは真の謙遜の偉大さを理解する時が来るでしょう。その時には、奉仕者であることを理解した者は、実際には善を行い、慈悲を広めるという使命において自由であり、その人生において信仰と確信、そして平安に導かれていたことを悟るでしょう。

13. 一方、王であり主であると自任しながら、その資格を持たない者は——たとえ諸国民が彼の足元にひれ伏していたとしても——奴隷であり、惨めな存在である。なぜなら、彼には安らぎも、平和も、安全も、信仰もないからだ。

14. もしあなたがたが霊的な闘いにおいて真の励ましを得たいと願うなら、隣人に向き合ってください。そうすれば、悲しむ者を慰め、病人を癒やし、迷える者を救うたびに、この世が提供するあらゆる楽しみとは比べものにならないほど、深い満足感と、言葉に尽くせないほどの幸福を感じるでしょう。あなたがたの人間的で小

さな心が、かつてこのような喜びを経験したことがあるとすれば、それはあなたがたの魂が葛藤し、高みへと昇ったからに他なりません。

15. 私は、あなたがたの心の中に次のような秘めた疑問を見出します。「もしこの言葉の温もりが一度失われてしまったら、私たちはどうになってしまうのだろうか？」その理由は、私の啓示が終わるその瞬間から、この世を蝕み始める苦痛の時代を、あなたがたの魂が予感しているからです。

16. わたしはあなたがたに告げる。もしあなたがたがわたしの教えに従うならば、恐れることは何もない。なぜなら、わたしの道を歩む者には、わたしの光が照らし、その者はわたしの平安を持つからである。祈ることを忘れてしまった者たち、心に隣人愛を感じない者たち、自分たちが持つ霊の賜物を知らない者たちを案じてほしい。彼らのすべてのために祈りなさい。

17. 祈りを教えなさい。あなたがたの隣人たちに、創造主と対話すべきなのは彼らの霊であることを理解させなさい。そうすれば、彼らの祈りはほとんど常に、肉体の叫びであり、恐怖の表れであり、信仰の欠如、反抗、あるいはわたしに対する不信の証拠であることに気づくでしょう。

18. あなたがたの隣人たちに、私の霊を動かし、私の憐れみや慈悲を呼び起こすために、自分の体を苦しめたり、傷つけたりする必要はないことを理解させてください。肉体的苦しみや苦行を自らに課す者たちは、私にとって最も喜ばれる捧げ物が何であるかについて、ほんの少しの知識も持たず、また、私の愛や、あなたがたの父である私の慈悲について、何の想像も持っていないがゆえに、そうしているのだ。

19. あなたがたは、私があなたがたに憐れみをかけるためには、あなたがたの目に涙があり、心に痛みが必要だとでも思っているのか。それは、私に冷酷さ、無情さ、無関心、利己心を帰するに等しい。あなたがたが愛する神に、そのような欠点があるなど想像できるだろうか。

20. あなたがたは、私を知るためにどれほど努力してこなかったことか！その理由は、あなたがたの知性を、御霊と調和して考えるように鍛えてこなかったからである。

21. 私があなたがたに祈りについて多く語る理由は、祈りに内在するあらゆる力と働きを、あなたがたが発見する必要があるからだ。なぜなら、あなたがたの霊が、この世において定められた偉大な

使命を果たす時が来たからであり、祈りこそがその戦いのための最も優れた武器だからである。

22. 祈りを理解する者は、神の兵士である。なぜなら、その霊化によって、その者は無敵となるからである。その武器は、な世界が気づくことなく作用する。その光は闇を照らし、その力は悪意を挫き、その愛は平和を蒔く。その者は、使命を全うするために物質的な手段を必要とせず、あたかもすでに霊界にいるかのように、その使命を果たし、行動する。

23. 私は人類に、霊的な目覚めのために必要な時間を与えてきたが、その時間は終わりに近づいている。人類は、この世の道をあと数歩進むだけで、そこで立ち止まり、進んで愛の王国へと入っていくことになるだろう。

24. 今もなお、あなたがたは、ある強者が別の強者に襲いかかり、相手を滅ぼして地球の支配者として生き残ろうとする姿を目にするだろう。彼らは、自由意志の限界を越えてしまったがゆえに、彼らが追い求めたその力が与えられないことを自覚していない。

25. 戦いの終わりに、ただ一人立ち続け、勝利の叫びを上げようとしたとしても、その者は、自分の王国が廃墟と死体で成り立ち、その世界帝国が悲慘と死で成り立っていることに気づくだろう。そして、これが世界における戦争の終焉となる。

26. その時、人間はもはや、わたしを自らの科学の妨げであるとか、権力への野心や偉大さへの渴望の敵であるなどとは主張できなくなるだろう。なぜなら、わたしは彼を最後まで、限界まで歩ませたからだ。あなたがたも知っている通り、人間的なものにはすべて限界があるのだから。

人間は自らの想像通りに世界を築き上げたが、その土台が堅固でなかったため、自らそれを破壊してしまった。一体、誰を責めることができるのか？ しかし、苦痛が極限に達し、自らの行いの結果に心が戦慄したとき、人は慈悲と赦しを叫ぶだろう。なぜなら、その瞬間になって初めて、魂は自らを囚われていた牢獄を打ち破り、かつて忘れていた「あの方」への渴望をもってそこから飛び出そうとするからだ。あるいは、たとえ一度「あの方」を思い出したとしても、それはただその力を疑うためだけだったのだ。

27. 人間は、私の「報復」ではなく、私の「正義」を知るようになるだろう。もし私にそのような感情が存在し、それを人類に解き放ったならば、私は彼らを清めるところか、汚してしまうことになるからだ。しかし、私の正義には、あなたがたの魂に清らかさを取り戻させるという使命がある。

28. 見よ、人々が自らの滅亡を準備している間にも、私は彼らの救いと復活のためにすべてを整えている。たとえ彼らが、悔い改めと律法に忠実であり続けるという決意を強めるために必要な、計り知れない苦しみ の試練を経なければならぬとしても。

29. 私の愛はすべての人を救い、すべての人に私のもとへ立ち返る機会を与える。そうすれば、あなたがたは、全能者であり、最終的な勝利者こそが私であることを知るだろう。しかし、私は敗者や死者、あるいは屈辱を受けた者たちを支配することはない。私の勝利は真の勝利である。なぜなら、私は勝利者たちを統治するからである。

30. あなたがたは、私が手入れをした芝生に雑草を生えさせなかった公園のようなものである。私は、訪問者がその光景を楽しめ、散歩する者が悪天候から身を守り、木陰で休むことができるように、低木が育ち、つぼみが芽吹き、花卉が開くことを許してきたのである。

31. 時には、あなたがたの平安が闘いや動揺、あるいは恐怖へと変わることもある。それは、嵐が野原や庭を荒れ狂い、木々を激しく揺さぶり、花から花びらを散らすときである。その時、あなたがたは、そうした試練にどのような意味があるのかと問う。しかし、私はあなたがたに告げよう。その暴風は、木々から悪い実や枯れた葉を落とし、その庭に存在すべきでないものをすべて吹き飛ばすのだ。

32. この庭が花開き、わたしの御心に従って実を結ぶとき、わたしはその門を開き、他の地方の住民たちを招き入れ、彼らが最も好む実を贈り、それを自分たちの地方へ持ち帰れるようにする。

33. 私は、竜巻に吹き荒らされながらもしっかりと立ち続け、枝が一時的に葉を落としたにもかかわらず、すぐに再び緑に覆われた木々を祝福する。

34. 試練が終わったとき、あなたがたは、腐った果実や枯れた葉が木から落ちているのを見て驚いた。

35. わたしは、あなたがたに試練に耐える力を与え、この神聖な教訓の意味を理解するための光を与えた。

36. もし私が、あなたがたの木が時折実らせるあの悪い実とは何かと尋ねたら――あなたがたは私に何と答えるだろうか。きっとすぐに、それは誠実に働かず、自らを新たにし、私に良いものを捧げない兄弟姉妹たちだと答えるだろう。しかし、私はあなたがたに告げよう。その悪い実とは、あなたがたの兄弟姉妹のことではない。嵐によって園から吹き飛ばされるのは、彼らではないのだ。悪い実

とは、悪い習慣であり、悪い感情であり、彼らが私の業の中で犯す過ちのことである。そして、枯れた葉とは、私の弟子たちの間で今もなお習慣として続いている、あらゆる不必要な礼拝行為のことである。それは、外見的な礼拝の形式、儀式、象徴的な行為、そして振る舞いといったもので、はるか遠い過去に属するものだが、今日ではすでに、生命の樹から落ちた、樹液のない枯れた葉のようになっている。

37. もし私の教えが、あなたがたのうちの誰かを、私の正義と愛の木に属するに値しない悪い実であると見なすのであれば、それは真実ではない。なぜなら、それは律法に背く者に対して慈悲を示さず、困窮する者に対して愛を示さず、またその者を改心させる権威も示さないからである。

38. あなたがたは知っている通り、私は誰をも追い払うことはなく、私の子供たちの一人も見捨てることはない。むしろ、その人の心からあらゆる不純さを追い払い、私の律法の真の成就を妨げてきたあらゆる悪を、その胸の中から追い出すよう教えるのである。

39. もし私が不完全な者たちを拒絶し、善人と義人だけを受け入れなければならないとしたら――まことに、あなたがたに告げるが、あなたがたのうち誰一人として私によって選ばれる者はいないだろう。なぜなら、あなたがたは皆不完全であり、私はあなたがたの中に一人の義人も見出せないからだ。

40. わたしの教えの偉大さは、罪人の救いにある。

41. あなたがたの父に感謝しなさい。なぜなら、人類が私の教えを歪曲し、無限に公正なものをあたかも不公正であるかのように見せかけているため、あなたがたにその教えを説明してくださるのは、父ご自身だからである。

42. あなたがたは、わたしの庭を象徴している。あなたがたを育ててきたのは、わたしの言葉であった。しかし、あなたがたはまだ花を咲かせておらず、実も結んでいない。まことに、あなたがたの庭の花は、あなたがたが霊と霊とで交わり合うときに初めて咲き、あなたがたの木の実は、あなたがたの行いが真実、愛、知識を含み、生命と栄養、そして良き味わいを持つときに初めて熟すのである。

43. もう一度言うておくが、あなたがたが人間の知性を通じてわたしを聞いたこの「第三の時代」は、単なる準備段階、あるいは形成段階に過ぎなかった――それはわたしの「言葉」、すなわちわたしの霊の啓示ではあったが、依然として人間化され、物質化されて

いたのである。それゆえ、この伝達形態は、あなたがたの霊的探求の目標となり得ない、とわたしは告げる。

44. この啓示は、完全な対話へとあなた方を近づける上昇の道において、あなた方がさらに一步前進することを可能にした段階であった。

45. 私はしばしばこのことについてあなた方に語っている。それは、現在の時代の終わりが来たとき、あなた方がな躊躇いなく新しい時代へと踏み出せるようにするためである。そうすれば、あなた方は、私の神聖な御言葉を授かるために、必ずしも「声の伝達者」が必要ではないことを確信するだろう。なぜなら、その御言葉はあらゆる魂に降り注ぐからである。

46. その光を通して、あなたがたは私の使命を受け取り、私の臨在を感じ、私の声を聞くことになるでしょう。

47. その時、初心者らは弟子となっているだろう。もはや、主を呼び求め、「父よ、私のところに来てください。私を助けてください。私を立ち上がらせてください」と言ったあの者ではなくなるのだ。そうして彼は、自ら立ち上がり、父のもとへ近づき、こう告げる者となるでしょう。「愛する師よ、わが父よ、私はここにいます。あなたの御声を聞き、あなたから神聖な御意志を受け取る準備ができています。」

48. 人々よ、私がこれらの声の媒体を通じてあなたがたに啓示したことは、私が人類に啓示すべきことのすべてではなく、またそうあり得ないことを理解せよ。

49. 確かに、私はこれらの口を通して多くのことを告げ知らせたが、それは——たとえ広範なものであっても——私の秘められた宝庫ではなく、私の知恵の書全体でもない。もう一度言う。それは、霊化の時代への準備であり、その導入に過ぎなかったのだ。

50. あなたがたはすでに自らの賜物を開花させ始めているが、この言葉が終わって初めて、最も広範な開花を迎えることになる。

51. まずは、わたしに備えさせてほしい。そうすれば、あなたがたがわたしの最後の教えを聞くとき、わたしの民の間には、もはやこの形ではわたしを聞くことができなくなることへの悲しみではなく、祝宴が繰り広げられるだろう。

52. あなたがたの魂には、民が雷鳴の中でエホバの声を聞き、稲妻の閃光の中にその光を見、石に刻まれた律法を受け取り、マナに象徴された永遠の命のパンを授かったあの時代の記憶がよみがえるだろう。

53. あなたがたの霊は、私が——人間となって——あなたがたと共に暮らし、見られ、聞かれ、理解されるために、また、私の奇跡の力によってあなたがたの眠れる魂を目覚めさせ、私の愛の証しを与えるために、この世にいた私の存在を思い出させるだろう。そして、あなたがたが信仰を見出せるように、私はあなたがたが私に求めたすべてのもの——赦し、忍耐、奇跡、祝福、血、そして命——を授けた。

54. また、あなたがたは、私が自分の言葉を聞き取れるようにし、誰もが理解できるようその内容をそれぞれの理解力に合わせて調整し、私の伝達者や代弁者を通じてこの啓示を受けたあの時を思い出さう。

55. その時、あなたがたは悲しみと喜びのあまり泣くことになるだろう。悲しみは、霊的な道を歩んできた自分の遅さを悟ったとき、そして、父が常にあなたがたの悲惨さと貧しさの只中に降りてこざるを得なかった原因となった、あなたがたの心の硬さゆえに生じる。あなたがたの涙は、喜びによるものとなるでしょう。それは、その遅さにもかかわらず、すでに「新しい時代」の門にたどり着いたことを悟ったときです。その時代には、もはや父を犠牲にすることもなく、破滅から救ってほしいと涙ながらに呼び求めたり懇願したりすることなくなるでしょう。なぜなら、あなたがたはすでに父のもとへ行き、父と語り合い、魂をもって父の声を聞くことを理解するようになるからです。

56. この啓示の最後の瞬間に、なぜ苦痛が存在しなければならないのか。この日こそ、より大きな光とより大きな完全性を伴う新たな時代の始まりを告げる日であるではないか。わたしは、この日をわたしの民にとって霊的な祝祭としたいと、あなたがたに告げてきた。

57. まことに、あなたがたに告げる。わたしは、今日まであなたがたに啓示してきたものよりも、さらに偉大な教えをあなたがたのために用意している。しかし、あなたがたは、いつになったら、私が「声の使者」たちの言葉を通じて教え、明らかにしてきたすべてのことを深く探求し、理解できるようになるのだろうか。いつになったら、あなたがたは、この教えの核心をすでに理解したと私に告げることができるのだろうか。

58. 心配するな。あなたがたが真に私の御言葉の研究と実践に専心するならば、道の終わりまで私があなたがたを導いていくからである。私が、あなたがたの道を照らす光であることを覚えておきなさい。

59. 民よ、私はあなたがたに、創世の初めからあなたがたの父の慈悲によって授けられてきた、この祝福された遺産を認識してほしいと願っている。あなたがたは、第三の時代にわたしの真理を証しするために、その時からすでに印を刻まれているのだ。あなたがたの長い旅路のあらゆる道において、わたしの光はあなたがたに付き添ってきた。

60. あなたがたは、このメッセージを受け取る時にわたしを認識し、疑いがあなたがたをわたしから遠ざけることがないように、あらかじめ備えられてきた。それゆえ、あなたがたは時折、振り返ってみると、自分を縛っていた多くの束縛から解放されたことに驚かされることがある。あなたがたは、私の業の明瞭さと私の言葉の慈愛を悟ったのだから、踏み出した一步を後悔することはない。あなたがたは皆、自分が歩む道と、現在行っていることをよく知っている。私の啓示には秘密はなく、私の言葉には曖昧さもない。

61. 私の教えの明快さと詳しさによって、あなたがたの靈魂は、父が託されたものを次第に明らかにし、長い間隠されていた賜物を開花させていくことになるでしょう。あなたがたは眠りにについていたため、今になって初めて、私の光を見たことに気づいているのです。私があなた方を驚かせたのではなく、あなた方自身が自分自身を驚かせたのです。私は子供たちにとって謎などではありませんでしたが、あなた方はまだ多くの秘密を隠しています。それゆえ、私が助けに来て、あなた方が真理を完全に悟れるようにしたのです。

62. 再びこの道に踏み出したことを、主にお礼を言いなさい。しかし、それだけで満足してはならない。私が、あなたがたがそれを通して私のもとへ来るために、その道を差し伸べたことを忘れないでください。あなたがたは霊的な教えの弟子ですが、その目標はまだ遠くにあると感じているでしょう。しかし、私の教えはあなたがたを支え、私の言葉はあなたがたを励まし、私の慈悲はあなたがたを強め、あなたがたに失敗がないようにします。なぜなら、あなたがたが霊性の頂点に到達して初めて、その実りを収穫できるからです。

63. 現在、わたしの言葉は地を照らしている。それは予告された時にちょうど到来したものであり、人類の数と比べればこのメッセージの証人はわずかではあるが、やがてわたしの言葉が全世界に響き渡る日が来るだろう。

これまで、あなたがたはただわたしに耳を傾けるだけで満足してきた。しかし、わたしの啓示が終わりを告げれば、あなたがたの中から、わたしの教えを深く学び、その真髄を守り抜き、この働きに

おいて人々を納得させるような愛の行いが確実に成し遂げられるよう、断固として明確に導く弟子たちが現れるだろう。

64. 今日、私はなお多くの人々が誤りに囚われているのを見る。彼らは、私の教えに、本来それには属さない儀式や伝統を混ぜ合わせているからだ。しかし、あなたがたが学びを終えて初めて、あなたがたの神への崇拝と礼拝の行いに清めと真実がもたらされ、その結果として、民の霊的な一致がもたらされるのである。

65. 今、あなたがたは自分たちが負う責任を理解し、この業の偉大さを把握していると思っている。しかし、私はあなたがたに告げる。この教えの時期が終わり、聞いたことを熟考して初めて、その理解が得られるのだ。

66. あなたがたは、私の言葉の中にすべてが明確に語られているのを見出すだろう。いかなる点においても、不明確であったり曖昧であったりすることはない。しかし、人類に、輝く光、な平和、そして真の慰めという「良き知らせ」を捧げることができるようになるためには、このメッセージについて一定期間、熟考に時間を割かなければならない。これこそが、おお、民よ、この啓示の証人として、あなたがたに定められた使命である。それゆえ、私は、父に対してすでに遥か昔に負ったこの義務について、あなたがたに説明を求めるのである。

目を覚まし、祈り、備えなさい。そうしてこそ、あなたがたはわたしの言葉を、その純粋なままに伝えることができるのだ。まことに、あなたがたに告げる。もしあなたがたがこのように言葉を伝えるならば、それは勝利を収めるだろう。なぜなら、そうしてこそ、あらゆる非難、敵意、そして追及に耐えうるからである。しかし、それを広める者たちは、自分たちがさらされる不敬な批判や試練に耐えうるよう、自らの行いをもってそれを証ししなければならない。あなたがたが、偏執や秘密主義に陥ることなく、私の言葉を自分の生活に実践することができれば、これを成し遂げることができるだろう。

私の平安があなた方とともにありますように！

教え 279

1. あなたがたは茨の道を歩んでおり、痛みを感じるたびに、良心の声が聞こえてくる。その声は、あなたがたが父の律法を全うするにはまだほど遠く、それゆえにつまずいているのだと告げている。

靈魂は、はるか昔に創造主の懷から生まれたという直感的な知識を保っています。そして、出発点に戻るためにはまだ長い道のりが残されていることを知っているため、少なくともこの瞬間だけは父とつながることができるかと悟り、祈りに身を捧げるのです。魂は、祈りの中に、自分を慈しみ、力づけ、癒やす慰めを見出すことを知っている。

2. 私は祈る者たちを祝福する。彼らの祈りが靈的であればあるほど、私が彼らに感じさせる平安はより大きなものとなる。これは容易に理解できることである。なぜなら、祈るために、神聖な存在の臨在を感じるために像や物体の前にひざまずくことを必要とする者は、心の中で父の臨在という靈的な感覚を体験することはできないからである。

3. 「見ずに信じる者は幸いである」と、私はかつて言ったが、今、改めてそう言う。なぜなら、この世の事柄に対して目を閉じる者は、靈的なものに対して目を開くからであり、私の靈的な臨在を信じる者は、それを感じ、その喜びを味わわなければならないからだ。

4. 地上の人々は、いつになったら、直接の祈り、あるいは——それは同じことだが——靈から靈への祈りを通じて、心の中でわたしを感じるという喜びを自らの靈から奪うことをやめるのだろうか。それは、わたしの光が人々の生活を照らし、彼らが真理を知り、自らの誤りを悟ったときである。

5. 今こそ、祈り、瞑想するのにふさわしい時である。しかし、その祈りは狂信や偶像崇拜を排したものであり、私の神聖な御言葉について静かで深い思索を伴うものでなければならない。

6. あらゆる時間、あらゆる場所が、祈りと瞑想に適している。私が教えの中で、そのために特別に定められた場所や瞬間があるなどと言ったことは一度もありません。あなたがたの靈は、あなたがたが住むこの世界よりもはるかに偉大であるのに、一体なぜ、祈るために特定の場所を探し求める必要があるのでしょうか？私が無限であるのに、なぜ私を肖像画やそのような限られた場所に閉じ込めようとするのでしょうか？

7. 人々の魂の貧しさや、この世での不幸の最も重大な原因は、彼らの不完全な祈りの在り方にある。それゆえ、私は、この認識が全人類に届くようにならないと、あなた方に告げるのである。

8. あなたがたは、霊の時代の入り口に立っている。だから、私が霊に属する事柄について多くを語っても、不思議に思うことはない。

9. 私の新しいメッセージや、私の言葉の意味に、誰も驚いてはならない。なぜなら、第一の時代の預言者たちは、第二の時代のキリストと同様に、あなたがたが今日経験しているこの時代を、極めて明確に予告していたからである。

10. 多くの者が、今こそそれらの預言が成就する時であると悟り、世界中を旅してきた。しかし、私はあなたがたに言わなければならない。すべての者が聖書の意味を理解したわけではない。彼らは、かつてユダヤ人たちがメシアの到来とその王国について行ったのと同様に、物質的な観点から聖書を解釈しているからだ。

11. 私が地上にいた時、私はあなたがたにこう言いました。「わたしの王国はこの世のものではない。」また別の機会には、こう言いました。「わたしはあなたがたのもとを離れなければならない。あなたがたが到るべき住まいを、わたしが備えておくためである。」

12. それゆえ、弟子たちよ、私がより高い人生について語り、霊的な人生を明らかにし、その道を通してそこに至るための道筋を示した教えをもたらしたとき——その道とは、あなたがたが理解すべきものであり、それは単にわたしの言葉だけではなく、初めの時代の律法や、霊的な生活について人々に語ったわたしの使者たちからあなたがたに伝えられたすべての預言でもあった——それなのに、なぜあなたがたは、それらの啓示が持つ神聖な意味を物質的なものとして受け取ってしまったのか。私はかつて、人々にたとえや象徴を用いて語りかけてきました。なぜなら、魂も知性の器官も、その光を十分に受け入れる能力を持っていなかったからです。それゆえ、それらの言葉や形象、たとえ話を霊的な領域へと転化させ、その真の意味を見出すまで霊的に解釈することが、絶対に必要だったのです。

13. 「わたしの王国はこの世のものではない」と、わたしは改めてあなたがたに告げる。わたしの王国は霊界にある。なぜなら、本質において、わたしは霊だからである。しかし、あなたがたはこの

本質の子らである以上、あなたがたもまたその王国に属するのは当然のことである。

その御国に到達するために、私はあなたがたに教えを授け、知恵を啓示した。それらは、あなたがたを人間としての状態から高め、一步一步、霊的な御国へと近づかせてくれるものである。

14. 民よ、祈り、瞑想しなさい。そうすれば、あなたは誤りに陥ることもなく、誰かに惑わされることもないだろう。あなたは、父の声を聞くために目に見えない山へと向かう者であるから、新時代の種なのだ。

15. 今や、闇と深淵から魂たちが昇り、神の民の列を拡大している。その子らの中には、アブラハム、ヤコブ、モーセ、エリヤ、そして自らの行いによって民の名を尊び、神の名を賛美することを知っていたすべての人々の種が宿っている。

16. ある声があなたの方を目覚めさせた。それは、光と命の御国へとあなたの方を招く、慈愛に満ち、慰めを与える声である。しかし、もしあなたが引き続き自らの魂を貶め、律法を軽んじることを選ぶならば、その声は正義の声へと変わることもある。

17. 従順で謙虚な者たちよ、私の言葉はこう告げる。「堅く立ち続けなさい。そうすれば、あなたは私の恵みを大いに受け、兄弟姉妹たちのために多くのことを成し遂げることができるだろう。」愚かな者たちよ、わが声はこう告げる。「もしあなたがたが、この祝福された機会を利用して、罪の汚れや、あなたがたが生きている無知の闇から逃れなければ、主がその御言葉の中で何を伝えられたのか、また主が御民に明らかにされた霊の賜物が何であったのかを知ることなく、時代が過ぎ去っていくのを見ることになるだろう。

18. 確かに、すべての者にとって、自らを救い、高みへと舞い上がるのにふさわしい時は訪れるだろう。しかし、その日を遅らせる者には災いあれ！この世の虚しいものに没頭したために、魂の成長を遂げる機会を逃した者には、災いあれ！その者は、新たな機会を待つ期間がどれほど長くなるかを知らず、また、その償いの痛みも知らない。そこには、父からのわずかな報復も、最も穏やかな罰も存在しないが、父の厳格で容赦のない正義が確かに存在するのだ。

19. 私が今、あなたがたの中に身を置いているこの日、あなたがたは、かつての機会をすでに逃したり、無駄にしたりしていないか、また、あなたがたの魂が、はるか昔に託された使命を果たすためのこの新たな機会を得るために、どれほどの期間待ち続けてきたかを知っているだろうか？あなたがたの心や理性は、魂の過去、その

運命、負債、課題、そして贖罪について、一体何を知っているというのか。何も知らない！それゆえ、魂の完成を中断してはならないし、この世の富への愛によって魂を誘惑してはならない。魂は、別の道、別の目標、別の理想に従わなければならない。

20. これは、人類の中に輝かしく幕を開ける時代の最初の日々である。それは嵐、稲妻、激震、そして苦痛の中で現れた。しかし、暗い雲は晴れ渡り、真理の光はその全き威厳をもって輝きを放つだろう。

21. 今日、あなたがたは依然として、光に先立つ曇り空の日々の中に生きている。それにもかかわらず、この光は、曇り空のわずかな晴れ間を捉えて、その短い光線を差し込み、地球上のいくつかの地点に届き、人々の心を動かし、魂を揺さぶり、目覚めさせている。

22. この光に驚かされた者たちは皆、その歩みを止めて、「あなたはどなたですか」と尋ねた。そして、私は彼らにこう答えた。「私は世の光であり、永遠の光であり、真理であり、愛である。私は、あなたがたに語りかけるために再び来ると約束した者——『神の御言葉』であると語られた者である。」

23. ダマスカスへの道中のサウロのように、彼らは自らの誇りをすべて謙虚にし、高慢を克服し、謙虚に顔を伏せて、心から私にこう言った。「わが父、わが主よ、私をお赦してください。今、私は、自覚することなくあなたを迫害していたことを理解しました。」

24. その瞬間から、それらの心は小さな弟子たちへと変容した。なぜなら、この第三の時代において、今日に至るまで、私の新しい弟子たちの間には、かつて私の弟子たちの中で私をこれほど激しく迫害し、その後これほど熱烈に私を愛した者ほど、高潔な使徒は現れていないからである。

25. あなたがたは、この世で偉大な愛の業によって霊的な使命を刻み込み、彼らが深く愛し、そのために命を捧げた方——すなわち、彼らの師——の足跡の傍らに自らの足跡を残した人々の、小さな模倣者であり、後継者である。

26. 私は、過去の時代について、時には大まかに、また時には詳細に語りかける。それは、あなたがたが、偉大な教訓の例から、不滅で不変である霊的な真意を引き出せるようになるためである。

27. ここに私の心がある。あらゆる願い、あらゆる悩み、あらゆる打ち明け話に、この心は開かれているのだ！

28. 私はあなた方にとって、父であり、師であり、友であり、看護人であり、医師であり、助言者です。すべての苦難を私に委ね、

涙を拭い、希望と願いを私に託し、私をあなたの心を開ける相手としてください。

29. 祈りなさい、わが子らよ。祈りによってこそ、知恵と健康と力が得られるのだから。

30. わたしは、あなたがたがわたしの真の弟子となることを望んでいる――自らの使命を自覚した存在として――この地上でつまづくことのないよう、魂を高揚させる術を知る人々として。

31. 祈る者は、深淵や断崖を恐れることはなく、その魂は常に安らぎに満ちている。

32. もしあなたがた全員がこのように生きようになれば、あなたがたは父への愛の聖域を築き上げることになるだろう。その聖域の内部には、兄弟愛、高揚感、そして調和を証しする霊的な賛美歌の響きが響き渡るだろう。

33. あなたがたは、まだ私の教えの下にある。それは、あなたがたが歩む道で解決困難な試練に遭遇したとき、私の言葉からそれ乗り越えるための方法を学べるようにするためである。なぜなら、今日のこの初心者は、明日には弟子となり、さらには師となるからである。それゆえ、彼らは今、学ぶべきことがたくさんあるのだ。

34. わたしは、あなたがたの心を形作り、知性を鍛え、感情を穏やかにし、第三の時代におけるわたしの到来を証しするために、あなたがたを送り出すことができるようにする。

35. 私の新しい言葉は、まだ地上に広まってははいない。それが受け入れられるようになる前に、私は諸国民に、私の到来を告げる前兆を与える。霊界は現在、人々に霊的生活の現実を自覚させるという任務を果たしている。

36. ここ、あなたがたの間で、私は詳しく自らを明らかにしてきた。あなたがたは、それが単なる示唆やしるしに過ぎなかったなどとは言えない。なぜなら、人間の知性を通じて伝えられた私の言葉は、たとえそれが霊と霊との対話を成し遂げるための準備的なメッセージに過ぎないとしても、明快かつ明確であったからである。

37. 確かに、これらの伝達者たちを通じて語られた私の言葉は、詳細かつ深遠な教えであった。それは、すでに明らかにされていた真理を裏付けるとともに、新たな啓示ももたらしたのである。

38. 私は、霊的な使命、存在の発展、輪廻転生、そして魂の償いについて、あなたがたに語ってきた。また、地球上で人類が経験してきた様々な試練と教えの段階についても語ってきた。それらは、七つの封印で封じられた書物によって象徴されている。今が第三の時代であり、私が霊としてあなたがたの元へやって来るのは、あな

たがたが私の霊的な臨在を感じ取ることができると認めたからであることを明らかにしました。また、すべての律法を二つの戒め、すなわち「父を愛すること」と「互いに愛し合うこと」に要約できると、あなたがたに告げました。

39. よく考えてみれば、私があなたがたに与えたのは単なるしるしではなく、私の父なる愛の偉大な現れであったことが理解できるでしょう。

40. ただしるしだけを受けたのは、他の民たちである――すなわち、私が再び来るとの約束を心から消し去ることなく、宇宙を探求し、あらゆる大きな出来事の意味に注意を払い、「師は近くにおられる」と言えることを願っている者たちである。

41. 世の人々は、わたしの新たな顕現にどれほど無関心なことか！目を覚ましてわたしを待ち望む者はどれほど少なく、眠り込んでいる者はどれほど多いことか！

42. わたしを待ち望んで生きる者たちについて言えば、この時代にわたしの臨在の真の姿を見抜いている者は、すべてではないと、あなた方に告げることができる。というのも、古い信仰観の影響を受けて、私が人間としてこの世に戻ってくると考える者たちがいる一方で、私が人間の目に見える何らかの姿で現れなければならないと信じている者たちもあり、真実を察し、私の到来が霊的なものであると予感している者はごくわずかだからである。

43. ある者たちは、私がどのような姿をとるか、いつ、どの日に地上に現れるか、そしてどの場所に現れるかを問う一方で、他の者たちは、特定の現れ方や時期を考えずにこう言う。「師はすでに私たちの間にいる。その光、すなわちその御霊が、私たちを包み込んでいる。」

44. このメッセージがすべての人の心に届いたとき、ある人々にとっては歓喜の瞬間となるだろう。なぜなら、彼らはこのメッセージの中に、自らの予感や信仰がすべて裏付けられているのを見出すからである。一方、他の人々は、このメッセージが、自分たちが起こると思っていたことや、それが明らかにされる方法と一致しないとして、その真実性を否定するだろう。

45. 愛する民よ、彼ら全員のことを思いやりなさい。そして、これらの魂たちにとって待ち続けることは苦痛であり、彼らが「この時が私の再臨の時ではないかもしれない」と考えることに苦しんでいる間、あなたがたは日々、私の言葉によって慰められていることを知ってください。それが終わるとき、人類に対するあなたがたの責任は、どれほど大きなものになることか！

46. 目を覚ませ、民よ。そして、地上の他の諸民族をも目覚めさせよ。それが、今のところあなたがたがなすべきすべてである。わたしは、あなたがたに約束した通り、「雲」の中に現れ、すべての者がわたしを見るであろう。

47. なぜ、あなたがたは、私が霊として来ることには意味がないなどと思うのか。私が人間として死んだ後も、弟子たちに語りかけ続け、霊的存在として彼らに姿を現したことを思い出せ。

48. もし、私が彼らに与えた、彼らの信仰を強め、宣教の任務に向けて新たな勇気を吹き込んだあの御業がなかったら、彼らはどうなっていたことか。

49. 私が去った後の彼らの姿は悲痛なものだった。涙が絶え間なく頬を伝い、刻一刻と胸からすすり泣きが漏れ、彼らは熱心に祈りを捧げ、恐怖と良心の呵責に苛まれていた。彼らは知っていたのだ。ある者は私を売り渡し、別の者は私を否み、そしてほとんど全員が、私が死の床にある時に私を見捨てたことを。

50. 彼らは、いかにして、あらゆる完全さの師であるその方の証人となることができたのだろうか。これほどまでに信仰観や考え方、生き方が異なる人々に立ち向かうための勇気と力を、彼らはどこから得ればよいというのか。

51. まさにその時、私の霊が彼らの間に現れ、彼らの痛みを和らげ、信仰に火を灯し、私の教えの理想をもって彼らの心を燃え立たせたのである。

52. 私は、弟子たちにとって私の霊が視覚的にも感覚的にも実感できるよう、それに人間の姿を与えた。しかし、私の臨在は依然として霊的なものであった。そして、その顕現が私の使徒たちの間にどのような影響と意義をもたらしたか、ご覧なさい。

53. まことに、あなたがたに告げる。今日、私がかつてのように御霊を人間として現すことはなかった。それは、あなたがたの魂の発達段階が当時とは異なっているからである。とはいえ――私の臨在は微細で触れることのできないものであるにもかかわらず、ここにいる者全員によって感じ取られている。あなたがたの肉眼が、師があなたがたの中にいることを確認する必要などないのだ。

54. 魂には、霊的なものを感じ、認識し、理解することができる高次の感覚が備わっている。私は、あなたがたがまさにこの繊細な感性を通じて、私の臨在を感知することを望んでいる。

55. もしあなたがたがこの言葉をもう聞き取れなくなったら、悲しみや弱さに陥り、愛の欠如ゆえに良心の呵責に苛まれるだろう。しかし、その時も私はあなたがたのところへやって来て、あなたが

たの心の奥底でこう告げるだろう。「私はここにいる。恐れるな。自分の道を歩め。あなたがたは一人ではない。」

56. あの「第二の時代」、弟子たちが師を失って世を旅していたとき、私以外に誰が彼らを励ましたのでしょうか。彼ら一人ひとりの働きは、あなた方にとって称賛に値するものと思われませんか。しかし、私はあなたがたに告げよう。彼らもまた、他の人間と同じように弱さを持っていたのだ。その後、彼らは愛と信仰に満たされ、この世で、まるで狼の中にいる羊のように、人々の迫害や嘲笑にさらされながらも、自らの道を歩み続けることに、決して気落ちすることはなかった。

57. 彼らには奇跡を行う力があり、その恵みを用いて人々の心を真理へと回心させることを知っていた。

58. 私の使徒たちの口からイエスの御言葉を聞いたすべての人々に幸いがある。なぜなら、彼らのもとでは私の教えは一切変容することなく、その純粋さと真実のすべてを保ったまま伝えられたからである。それゆえ、人々は彼らの話に耳を傾ける時、魂の中に主の臨在を感じ、その存在の中に、力と知恵と威厳という未知の感覚を覚えたのである。

59. ガリラヤのあの貧しく謙虚な漁師たちは、あなたがたにとってふさわしい手本です。愛によって霊的な漁師へと変えられた彼らは、イエスから学んだ御言葉によって諸民族や諸王国を震撼させ、その粘り強さと自己犠牲によって、諸民族の回心と霊的な平和の実現への道を切り拓きました。王から物乞いに至るまで――彼らすべてが、あの真のキリスト教の時代に、わたしの平安を体験した。

60. 人々の間にあったあの霊性の時代は長くは続かなかった。しかし、すべてを知っている私は、あなたがたが再び私を必要とすることを知っていたからこそ、私の再臨を告げ、約束していたのである。

61. 私は、人々が私の教えを世代から世代へとますます神秘化し、私の律法を改変し、真理を歪めていくことを知っていた。私は、人々が私の再臨の約束を忘れ、もはや互いを兄弟とは見なさず、最も残酷で、卑怯で、非人道的な武器を用いて互いに殺し合うようになることを知っていた。

62. しかし今、その時、すなわち約束された日が訪れ、私はここにいます。私があなた方に自らを現すために選んだ方法を非難してはなりません。なぜなら、私を裁くのは世界ではなく、今こそ人類の裁きの時であるゆえに、人類を裁くのは私自身だからです。

63. 私は人々の心の中に王国を築く——多くの者が期待するような地上の王国ではなく、霊的な王国である——その力は、この世の権力からではなく、愛と正義から湧き出るものである。

64. 私がこのように語るのを聞いて、驚く者もいるのを見ている。しかし、私はあなたがたに問う。なぜ、いつも私を絹や金、宝石に身を包んだ姿として想像しようとするのか。私とその反対を明らかにしたにもかかわらず、なぜあなたがたは常に、私の王国がこの世のものであると望むのか。

65. わたしは新たな教えをもたらす。それによって、あなたがたは地上で霊的に生きることを学ぶだろう。それこそが、神によって人々に定められた真の命である。

66. わたしはすでに、あなたがたに「霊化」とは、偽善でも、宗教的狂信でも、超自然的な行為でもないと告げた。霊化とは、魂と身体の調和、神と人間の法則の遵守、生活における質素さと清らかさ、父への絶対的かつ深い信仰、隣人を通して神に仕えることへの信頼と喜び、そして道徳と魂の完成という理想を意味する。

67. 私があなたがたに、私の教えの純粹さを示すとき、あなたがたは自らの過ちがより鮮明に浮き彫りになるのを感じるだろう。さあ、弟子たちよ、もしあなたがたが明日、良心の声に耳を傾けて立ち上がり、すべての過ちを償い、失われた時間を取り戻し、行動の清らかさを通じて私の教えの真髄を示すのであれば、私はあなたがたのすべての過ちを赦す用意がある。

68. 高潔であり、わたしの律法を重んじる民が現れることが必要である。その民は、霊化が決して不可能なことではなく、人間性の刷新が犠牲ではなく、また霊的な奉仕が人間としての生活を放棄することではないことを、人々に証明するのだ。

69. あなたがたは、長い歴史と長い発展の過程から生まれた必要な経験を持っているからこそ、私の業を説き、教える者となることができるでしょう。

70. あなたがたは、スピリチュアリズムを知るために多くの道を歩まなければならなかった。あなた方もかつては偶像崇拜にふけり、象徴の助けなしには私の存在を見出し、儀式なしには私を崇めることができませんでした。しかし幸いなことに、あなた方は分かれ道にたどり着き、どの方向へ進むべきかわからなくなったとき、待ち望んでいた師の声を聞き、師が再び道を示してくださったのです。

71. あなたがたの豊富な経験は、同胞たちを理解し、また励ますために役立っていると思わないか。

72. 私はすでに、戦いが激しいものになると予言した。なぜなら、誰もが自分の宗教を完全であり、その実践の仕方を非の打ち所がないものだと考えているからだ。しかし、もしそうであったなら、私がこの時代にやって来て、あなたたちに語りかける理由などなかっただろうと、私は告げる。

73. 私は、啓示を通じて、極めて霊的な教えをあなた方に与えている。なぜなら、あなた方の礼拝の形式には異教が支配しており、という狂信という悪しき種が、無知と憎悪の感情であなた方を毒しているのを見ているからだ。

74. 私の右の手には光の剣がある。私は、あらゆる反抗、あらゆる既存の悪、そしてあらゆる虚偽を滅ぼす戦士であり、王である。私の戦いが終わり、人々の心が祈り、生きるために一つになることを学んだとき、あなたがたの霊の眼差しは、無限の光と永遠の平安の中にいる私を見出すだろう。「これが私の王国だ」と私はあなた方に告げるだろう。「そして、私はあなた方の王である。なぜなら、それこそが私の存在理由であり、私があなた方を創造した目的、すなわち統治するためだからだ。」

75. 私がいかに人間とは異なる方法で私の征服を成し遂げているかを知らなさい。また、あなたがたの心の中で統治するために、恐怖や暴力によってあなたがたを服従させるのではなく、人間となってあなたがたと共に生き、あなたがたの足を洗い、口づけし、あなたがたのための犠牲となったことを知らなさい。

76. 私は自分自身を完全にあなたがたに捧げた。それゆえ、あなたがたは皆、やがて私に身を委ねることになるのだ、と私は告げる。

私の平安があなたがたと共にありますように！

教え 280

1. わたしの言葉の真意をあなたがたの魂に深く刻み込みなさい。そうすれば、それはあなたがたの心から溢れ出し、隣人愛へと、平和へと、そして同胞たちへの教えへと変容するでしょう。

2. この民が地上に残す足跡は平和のものであり、それは、人類にあの世への扉を開く鍵を真に持っていることを世界に示すであろう。その使命は、人類のバベルが残した遺産が滅びるまで、国境を取り払い、諸民族を霊的に一つに結びつけることである。

この新しいイスラエルの民において、すべての国々が祝福されることになる。なぜなら、この民は私の言葉を宣べ伝えるためにその知性を私に捧げ、また、この民の中で霊と霊との対話が開始されるからである。

3. その道のりにおいて、それは靈性を蒔き、光を残し、道に迷った者たちの再生への道を切り開き、人々の心に種を蒔くであろう。その実りこそが、人間同士の調和と兄弟愛となるのだ。

4. 私がこの民の使命について語る時、私は神として語り、父として教え、裁き主として命じるのである。

5. わたしの言葉は、今この瞬間にそれを聞く者たちだけに向けられたものではない。それは全宇宙を包み込んでいる。しかし、かつてわたしの律法と教えが、ある一つの民の中から始まったのと同様に、あなたがたは、わたしの教えが持つ力を想像することさえできない。それゆえ、この言葉の真の価値を見出し、それを解釈し、完全に実践するのは、他の民や他の人々となるだろう。

6. 人々が真理への渴望をもって立ち上がり、その魂の中に高次の発展という理想が覚醒するためには、賢明で、強く、力強い教えがこの世の生活を照らすことが不可欠である。

7. あなたがたは、私が「第二の時代」に愛のメッセージとしてあなたがたにもたらしたその教えの効力を、私が否定していると思うのか。いいえ、私はそれを再びあなたがたにもたらす。なぜなら、あなたがたはもはや地上でそれを持っていないからであり、それを書物に埋もれさせ、もはや心の中に抱いていないからだ。しかし今、私は私の教えの中でそれをあなたがたに返してあげる。なぜなら、あなたがたに対する私の愛は不変だからである。ただ、私がそれを置く場所は、もはやあなたがたの心の中ではなく、あなたがたの靈魂の中となる。そこでは、魂を養うパンがそこに留まるため、それは二度と失われることはないのだ。

8. 物質的な生活においては無名で取るに足らないこれらの声の担い手たちの知性という器官を通じての私の啓示は、私が世界に恵みをもたらすために来たこと——すなわち、彼らの学者や博士たちの間には、私の意志に完全に身を委ねることで、その知性において私の神性の光を受け入れる準備ができていた人間を一人も発見できなかったこと——のな証拠であった。

9. 私にとって不可能なことは何もない。私の意志は成就しており、これからも常にそうなるだろう。たとえ時折、支配しているのは私の意志ではなく、人間の意志であるかのように見えることがあっても。

10. 人間の自由意志の歩み、地上の支配、傲慢による勝利、そして時に暴力を用いて強いる強制は、永遠に比べればあまりにも儚いものであり、それらは確かにある意味で神の計画を改変し得るかもしれないが、しかし、明日あるいはその計画が実行される過程において、私の霊の意志は、善を存続させ、不純なものを排除することで、あらゆる存在に対してますます明らかにされていくであろう。

11. 人間が地上に築き上げたあの王国は、まもなく私によって裁かれなければならない。そしてまことに、私はあなたがたに告げる。そこから残るのは、善、すなわち許容され、真理を含むものだけである。しかし、傲慢、利己心、嘘を含むもの、すなわち毒であり死であるものはすべて、破壊され、容赦のない滅びの炎の中に投げ込まれるであろう。

しかし、この「悪の破壊」という業を成し遂げるのは誰だろうか。人間である。人間は、自らの科学によって発見され、隣人に害を及ぼすために用いられたあらゆるものを、自らの手で破壊するという役割を引き受けることになる。そして試練が終わりを告げれば、人間が発見した真の光のみが残り、これからも人類の道を照らし続けるだろう。

12. ひとたび人々が私の道を歩み始めたとき、私は、この人類の不従順と墮落に満ちたあらゆる世紀、あらゆる時代が、ほんの一瞬に過ぎないかのように見えるようにする。私は、人間の霊的生活を覆い隠していた、実際には短いその期間が、第三の時代の頂点において人々の霊的時代を照らす私の光の神聖な輝きの下で、解消され、消え去るようにする。

13. あなたがたが、わたしの言葉を聞く者たちの数を考えれば、それはごくわずかであるように思えるだろう。しかし、まことに、あなたがたに告げる。あなたがたの背後には——あなたがたの目に

は見えないが——あなたがたが光への道へと導いている、大勢の魂たちが続いているのだ。

14. もし人々が自らの霊的な賜物を知っていたなら——どれほどの苦しみが和らげられたことか！しかし、彼らは、最大の苦痛が迫ってくるのを待ちながら、盲目であり続けるか、あるいは怠惰であり続けることを選んだのである。

15. わたしの教えは、あなたがたを啓発し、かつての預言者たちによって人類に予告されていたあの大きな苦しみを免れるようにするためのものだ。

16. 私が

自然の力を解き放つことで人々を罰しているのだと考える者たちには、そう考えることは大きな誤りであると告げよう。なぜなら、自然は発展し、変化していくものであり、その変化や移行の過程で激変が生じ、あなたがたが私の律法に従わないならば、それが苦しみの原因となる。しかし、あなたがたはそれを神の罰だと解釈しているのだ。確かに、そこには私の正義が働いている。しかし、もしあなたがた——魂を照らす神聖な火花に恵まれた存在として——周囲の自然と調和して生きていたならば、あなたがたの精神は、自然の変容や自然の力の猛威を超えて昇華し、苦しむことはなかっただろう。

17. あなたがたの人生を改善することによってのみ、解き放たれた自然の要素の影響から自らを解放するその力、あるいは能力を見出すことができる。なぜなら、運命の打撃や人生の逆境に打ち勝つための武器は、信仰や祈りだけではないからだ。その信仰と祈りは、徳高く、清く、善良な生活によって支えられなければならないのである。

18. あなたがたが信仰や祈りによって度々無傷でいられたとしても、試練に打ち勝てたのは、あなたがたの功績というよりは、むしろ私があなたがたに抱く憐れみによるものである。

19. 私が教えのたびに、あなたがたに備えるよう告げ、同時に、目を覚まし、祈るよう勧めている理由を理解してください。そうすることで、あなたがたは、人生を取り巻くあらゆるものと調和する霊性を獲得し、自然の力が動き出した際にも、その影響から無傷でいられるようになるのです。

20. あなたがたは、現在経験しているこの時代を理解する必要があります。これは、霊的な領域だけでなく、あなたがたを取り巻く物質的な自然においても、過渡期にあるのです。

21. あなた方を包み込むこの住処は、将来、より高次の存在たちを受け入れるために、現在、完全化へと一步を踏み出していることを知ってください。それゆえ、あなた方が激動を経験するのはごく自然なことです。

22. これは混乱の時代であり、それは人々の生活、すなわち彼らの知性、魂、感情、肉体、そして彼らを包み込み、取り巻くあらゆるものに反映されています。人々は、精神的な備えもなく、信仰もなく、自らの能力への自覚もなく、祈りもなしに、この試練の時代へと踏み込んだがゆえに苦しんでいるのです。

23. 混沌の中で滅びることを防ぐことができるのは、わたしの力と愛だけである。

24. 人々よ、あなた方の生活を高めなさい。私があなた方に送るこの「光の言葉」に身を鍛えなさい。まことに、私はあなた方に告げる。あなた方自身が救われるだけでなく、あなた方の影響力と守りが、多くの同胞にも及ぶことになるのだ。

25. イエスが弟子たちと共に舟に乗って海を渡られた時のことを思い出せ。波は高まり、海は泡立ち、波は荒れ狂っていた。弟子たちは、イエスが眠っておられるのを見て、命の危険を感じた。彼らには、自らを救うための信仰が欠けていたのだ。しかし、師の愛が彼らを助けた。師は右手を伸ばし、荒れ狂う水に静まるよう命じ、自然の力に対するご自身の權威の証しを示されたのである。

26. それらの教訓は、人類にとって新しいものでした。しかし、第三の時代の弟子たちよ、あなたがたは、ただ私が最終的に憐れみをもって、舟に乗っていた弟子たちのようにあなたがたを救うだろうという信頼だけで生きるのではなく、まだあなたがたの本質の中に現れていない魂の力を、自ら開花させなければならないということを深く考えるべきです。

27. あの弟子たちは、私の教えを学んだ。なぜなら、彼らの宣教の道において、彼らは同胞たちを苦しめる大きな試練に遭遇し、彼らに対して自らの霊の權威を明らかにすることを理解したからである。

28. あなたがたは、この時代にこの言葉の真実を証しする者たちの仲間入りをしたいのか。それなら、あなた方の生活に靈性を吹き込みなさい。そうすることで、あなた方の本質の中に秘められているその力を開花させることができるのだ。

29. 人々が靈化を成し遂げれば、彼らは周囲のあらゆるものに優越する存在となるだろう。なぜなら、これまで彼らは、自然の力や影響力にさらされていた弱い存在に過ぎなかったからだ。それらの

力や影響力は、人間より上位にあるべきではない。それらは人間より上に立っているわけではないのだから。

30. この教えは簡潔だが、その内容は深い。弟子たちよ、これを学び、教え広めなさい。

31. 「道に迷ったときは、わたしに目を向けなさい。今日、わたしのそばにいなさい。あなたの思いをわたしに向け、子供が父親に話しかけるように、友人に打ち明けるように、信頼を込めてわたしに語りかけなさい。」

32. わたしは、時折、あなたがたに教えを授けるためにやって来た神聖なる師である。もしあなたがたが極めて苦い杯を飲み干すことになっても、それはわたしがあなたがたを罰するためではなく、わたしのもとへ至るために、あなたがたが自らを清めなければならないからである。

33. わたしはあなたがたを待っている。しかし、あなたがたがこの道に戻る際に躓かないよう、わたしはあなたがたを支えなければならない。そして、まさに今、啓示であり、靈感であり、励ましであるわたしの光をあなたがたに送ることで、そうしているのだ。

34. あなたがたは今、人生の新たな段階へと踏み出そうとしている。道はすでに整えられている。自分の十字架を背負い、わたしに従いなさい。この道に試練がないとは言いません。しかし、困難な道程を通り抜けるときも、苦しみの杯を飲み干すときも、常に、あなた方を励まし、導く声が聞こえるでしょう。あなた方と共にあり、支え、立ち上がらせてくれる私の愛がそこにあるのです。そして、あなた方は私の癒しの香油による優しい愛撫を感じるでしょう。

35. 明日、この声が私の代弁者たちの唇からもはや響かなくなっても、あなたがたはその意味を記憶に留めておくでしょう。そして、その意味はこれからもあなたがたを励まし、導き続けるでしょう。あなたがたは、私が教えた通りに祈り、霊から霊へと私の靈感を受け取るでしょう。私の言葉を学ぶために集まる場所はどこであれ、あなたがたの思いが一つになることによって、光と調和に満ちた神殿を築き上げるでしょう。

それによって、あなたがたは、私の言葉を聞くために集まったこれらの場所が、主の神殿ではないことを理解するでしょう。とはいえ、もしあなたがたが引き続きそれらを集会の場として用いたいと望むなら、そうしてもよいと、私は告げておきます。

皆が一つに結ばれているこの場所で、互いに力、光、信仰、勇気、そして温もりを与え合うことになるでしょう。そして、私の教えを学んだならば、祈りを捧げ、また、師と対話するためのもう一つ

のふさわしい場所である「家」を思い浮かべるために集まるようになるでしょう。

野原や草原が、都会の喧騒から離れるようあなた方を招くとき、そこでもあなた方は祈りにふけるのにふさわしい場所を見つけ、あなた方の内に私の臨在を感じるでしょう。しかし、霊的に一つであり続け、常に私の律法に従って生きてください。

36. 次第に、あなたがたは兄弟愛と団結に慣れていくでしょう。そして、あなたがたの真ん中で、私の意志に従って築くべき霊的な家族は、ますます力を増していくでしょう。

37. まことに、あなたがたに告げる。ひとたびあなたがたの間でこの良き調和が達成されれば、あなたがたは人類にとって良き手本となるだろう。

覚えておきなさい。私の意志なしに、木の一枚の葉さえも動くことはない。すべては私が許す通りに展開し、すべては私によって定められているのだ。

38. 喜びと信仰を身にまといなさい。そして、その道のりで誘惑に襲われたときは、祈り、心配してはならない。なぜなら、祈りの中にこそ、戦い、勝利するために必要な武器が見つかるからである。

39. 急がずに、一步一步その道を歩みなさい。さもないと、つまずいたり、深淵に落ちたりする危険にさらされることになる。その道を真に知り、後にあなたがたが周囲の人々に教えることができるようにしなさい。

40. 自分の最初の行いに満足して、魂を完成させるのに十分な功德を積んだと思い込んではいならない。しかし、日々新たな教訓を学び、より大きな啓示を見出せるよう、常に少しの時間を割いて、わたしの教えを学ぶことに専念しなさい。

41. 知識を渴望する弟子は、常に自らの問いに対する答えを聞き、試練の瞬間に、常に私の父なる助言を耳にすることになる。

42. 進歩した弟子は、周囲の人々にとって愛の源となり、父から真に遺産を授かったと実感し、人々の間で自らの偉大な霊的使命を果たすために旅立つべき時を見極めるだろう。

43. すべての「働き手」には、光と慰めと平安を与えるべき魂の数が割り当てられている。この群れは、あなたがたにとって決して負担になりすぎることはない。なぜなら、あなたがたは生涯を通じて、少しずつ彼らと出会っていくからである。

44. 今日の私の教えは、父としての助言と示唆から成っている。それは単純なものだが、霊的にその奥底に深く入り込めば、私が「

第二の時代」に山の上で大群衆に向けて行ったあの説教の荘厳さを発見することになるだろう。

45. 霊的な雲の上から、私はあなたがたに私の霊の光線を送り、それがあなたがたの本質に降り注ぎ、私の言葉を聞き取らせてくれる。

46. 私は、かつてあなたがたに啓示したものと同様に、高尚な教えをもたらしました。それは、この世のあらゆる知識を超越した教えであり、あなたがたを真の命へと導くことのできる唯一の光です。

47. わたしの教えは、人々に、この地上で高潔で、気高く、清らかな人生を送るよう導く。また、魂がいつか来世の故郷に足を踏み入れたとき、完全性へと近づくための業を成し遂げられるよう、魂を準備させるものである。

48. 今すぐ、来世のための功德を積みなさい。

49. 人類が抱える大きな苦難を目の当たりにし、その苦しみのほんの少しでも和らげることができないと自責の念に駆られて苦しむ者もいる。師のもとに來なさい。そうすれば、私は、いかにして慰め、いかにして平安を与え、いかにして癒やすかを教えよう。

50. 一度、慈善の種を自分の道の途中に蒔いてみれば、人類のあらゆる苦しみや悲劇に比べれば、自分の行いは取るに足らないもののように思えるだろう。しかし、私はあなたがたに告げる。一見取るに足らないその行いが、人類を圧迫する痛みを和らげ、同時に戦争の勢力を弱めることになるのだ。

51. あなたがたは人々の間で静かに働きかけることになるだろう。しかし、やがてその静寂が破られ、福音が全世界に響き渡る時が来る。

52. スピリチュアリズムの使徒たちは、孤立することはない。この教えの広がりにより都合な出来事が、この世で起こるだろう。

53. すべては完璧に準備されている。わたしはあなたがたにわたしの計画を知らせた。あとは、あなたがたがわたしの言葉を徹底的に研究し、わたしが予定したことに反することのないようにすることだけが必要である。

54. 人生の試練とわたしの言葉が、あなた方を備えさせる。ある者たちは、勝利を収めるためにわたしの教えを実践しなかったため、試練に直面したその場で立ち止まってしまった。一方、他の者たちは、師から聞いたことを決して忘れないからこそ、平安のうちに試練を乗り越えている。魂の試練は、忍耐力と粘り強さを与えてくれることを忘れないでください。そして、明日、あなたがたは道中

で、勝利を収めた者たちの「光の言葉」と「証し」を必要としている、多くの敗北者たちに出会うことになるでしょう。

55. 師はこう言います。「霊性を高めなさい。なぜなら、霊性が高まれば、不運を乗り越える助けとなり、肉体の欲求も和らぐからです。」

56. 祈ることを学びなさい。祈りによって、多くの善を行うことができるだけでなく、陰險な攻撃から身を守ることでもあるからだ。祈りは盾であり武器である。敵がいるならば、祈りによって身を守りなさい。しかし、この武器は誰をも傷つけたり害を与えたりしてはならないことを知っておきなさい。なぜなら、その唯一の役割は、闇に光をもたらすことにあるからだ。

57. あなたがたは、この地上に存在するいかなる不純な儀式も、私の教えに決して混ぜることなく、清らかな心で行動しなければならない。

58. これが私の教えである。あなたがたは、私の教えを受け入れる心を開いてここに来た。それゆえ、私はあなたがたの中に光を注ぎ出さざるを得なかった。

59. 愛する民よ、私は言葉の一つひとつに、私の癒しの力と平安を込めた。

60. あなたがたの魂は高揚し、わが声を聞く準備が整っている。私は、それが真の聖域へと変容するのを目にしている。そこへ、私は「言葉」の光であるわが言葉の響きを浸透させ、あなたがたが父の息吹を身近に感じながら、旅の目的地に到達するために必要な力を得られるようにするのだ。

61. あなたがたは、今生き抜いているこの時代を十分に理解した上で、わたしに従うために旅立った。それは、あなたがたの靈魂が、なぜこの地上に来たのかを知っているからである。そうしてこそ、あなたがたは確かな足取りで霊の教えの道を歩み始め、やがて、わたしが長い間人類に待ち望んできた崇敬を、わたしに捧げることができるようになるだろう。

62. 私は、あなたがたが知識と信仰を強め、後に「師の御臨在は短すぎて、その真理を確信する時間が足りなかった」と言わないように、私の啓示の期間が長く続くよう定めたのである。

63. 霊性に満ちた私の教えは、この民の心に芽生え、将来、真理と命の実を結ぶことになる。私の言葉は地上に広まり、それを清め、照らし、正さない場所を一つも残さないだろう。

64. そうして、諸民族は、真の、そして永遠の霊的な生へと目覚め始め、それぞれの様々な信仰形態における表面的で物質主義的な

部分を排除し、ただ私の律法の本質に目を向けることに専念するようになるだろう。

65. 人類は、霊性が与える力を認識し、何世紀にもわたって自らの歩みを妨げてきたあらゆるものから目を背けるようになるだろう。

66. キリスト教の象徴である十字架が、この地上に何百万と存在しても、人々が善意を持たず、互いに愛し合わなければ、何の意味があるだろうか。

67. 外見的なものはもはや人々に力を及ぼさず、敬意も、誠実さも、傷つけてしまったことへの後悔も、もはや存在しない。それゆえ、わたしはあなたがたに告げる。象徴や礼拝の形式は、その時代が終わりを告げたゆえに消え去り、内なる礼拝こそが、人を光へと運び上げ、高め、わたしのもとへと導くものとなるのだ。

68. この時代、私は、その存在の最も純粋な部分、すなわち霊において、私の律法を記し、私の声を響かせ、私の神殿を築き上げるであろう。なぜなら、人の内面にないもの、その魂にないものは、まるで存在しないのと同じだからである。

たとえ私の栄光のために巨大な物質的な教会が建てられようとも、たとえ華麗な祝典や儀式が私に捧げられようとも——その捧げ物は、霊的なものではないため、私に届くことはない。あらゆる外的な礼拝には、常に虚栄と見せびらかしが内在している。それに対し、人知れぬ捧げ物——すなわち、世の目には映らず、あなたがたが霊から霊へと私に捧げるもの——は、その謙虚さ、誠実さ、真実さゆえに、一言で言えば、それが霊から生まれたものであるがゆえに、私の元へと届くのである。「第二の時代」にあなたがたに与えられた、いわゆる「パリサイ人と徴税人のたとえ」という私のたとえ話を思い起こせば、私の教えがいつの時代も変わっていないことが理解できるだろう。

69. もしあなたがたが、キリスト教の信仰を象徴する最後の十字架をこの地上から消し去り、その代わりに互いへの真の愛をもってそれを補うのであれば、私はあなたがたを非難することはないだろう。なぜなら、そうすれば、あなたがたの信仰と外的な神への崇拜は、霊による崇拜と信仰へと変わり、それは私があなたがたに期待していることに合致するからである。もし、あなたがたの礼拝や象徴が、せめて戦争を防ぎ、あなたがたを悪徳に沈ませず、平和を保つだけの力を持っていたなら。しかし、あなたがたが、自分たちの言葉によれば「聖なる」とされるあらゆるものをいかに軽んじてい

るか、あなたがたが神聖だと考えてきたものをいかに踏みにじっているか、よく見てみよ。

70. もう一度言おう。もし、地球上のどこにも、教会も、祭壇も、象徴も、像も一つも存在せず、代わりに、あなたがたが御霊によって祈り、あなたがたの父を愛し、代理者を必要とせずに父を信じることを理解し、そして私が教えの中で示したように互いに愛し合うことができたなら、あなたがたにとってはそれの方がはるかに良いことだろう。そうすれば、あなたがたは救われ、わたしの血の跡によって示された道を歩むことになるだろう——その跡こそ、わたしの教えの真実を確認するために、わたしが刻んだものである。

71. この人類が偶像崇拜と狂信を捨てて初めて、「新しいマナ」が降りてくるのを目にするだろう。もはや、荒野の孤独の中で民を養ったあのマナではなく、試練の日にああなたがたの魂に降り注ぐマナである。これこそが真の天のパンとなる——人々が霊から霊へと受け取るそのパンである。

72. 初期のマナは、終わりの時に、人々の魂が神性から直接霊的な糧を受け取るようになる、私と人々との霊的な対話となるであろうものを象徴するに過ぎなかった。

73. この民が人類に対して負う責任は極めて大きい。真の霊性への模範を示さねばならず、内面的な信仰の実践、神に喜ばれる捧げ物、神にふさわしい礼拝をいかに捧げるかを示さなければならない。心を開き、そこで良心の声に耳を傾けなさい。そうして自らの行いを吟味し、私の教えを忠実に解釈しているのか、それともあなた方もまた私の教えの真意を誤解しているのかを知らなさい。

74. たった一日のうちに霊性の頂点に到達しようと望んではならない。穏やかで、落ち着きがあり、確かな歩みで目標に向かって進めば、決してつまづくこともなく、後悔して引き返す理由も、自分の行いによって恐れを抱くこともないだろう。一步一步を完全な自覚を持って踏み出すよう心がけてください。そうすれば、やがてあなたがたの行いの実りを見ることになるでしょう。

私の平安があなた方とともにありますように！

教え 281

1. 愛する弟子たちよ。多くの宗教が存在するとはいえ、律法はただ一つであり、私の教えもただ一つである。

2. 私の教えは、人々に愛を育むことを教える、霊の教えである。しかし、自らをキリスト教徒と称する人類は、私の教えを何にしてしまったのか。彼らはそれを形式や儀式、口先だけの祈りに変え、その背後に偽善を隠している。

3. 私はあなたがたに告げる。唯一の真理は愛であり、たとえ言葉や歌で私の名を賛美し、称えようとも、愛の行いをしなければ、あなたがたは真理の道に立っているとは言えないのだ。

4. 真理とは、宇宙に顕現した神の愛である。真理を知らぬ者は、神を知らない。

5. 人々は、典礼や儀式を通じて神を信じようとしているが、なんと大きな誤りに陥っていることか！

6. 神は、人間が地上で作り出したものではなく、また、そのようなものであることもできません。

7. 神には限界がなく、神は本質であり、全能である。神を認識し、感じるためには、善を行い、互いに愛し合い、正義を貫くことによって、神と一体となる必要がある。

8. 私がこのようにあなた方に語っても、この時代の民族たちが、その物質主義的な文明の中で、愛の教えを理解し、受け入れることができるとは、あなた方には想像もつかないだろう。しかし、私はあなた方に告げる。私の教えこそが、世界が必要としている種であり、その渇きを癒やすために世界が切望している水なのだ。

9. 人々が抱くこの飢えと渇きは、人生における愛と真実への渴望に由来する。この精神的・道徳的な苦しみは、彼らの戦争、疎外、そして野心的な世俗的追求の結果である。

10. しばらくの間、人々がようやく互いに戦いに疲れ、破壊に嫌気が差し、多くの苦しみによって心を苛まれたとき、彼らは私が示す救いの道を求めようとする。しかし、彼らは私の教えを解釈するさまざまな形を模索するものの、そのすべてにおいて、私を崇拝するために、迷信的な儀式や無益な崇拝、そして表面的な形式に陥ってしまうのである。

11. すべての魂の中に自由への叫びが湧き上がるわけではない。なぜなら、魂を取り巻く霧が非常に濃いからだ。しかし、わたしの光は力強く、人間の心の最も繊細な部分にまで浸透することで、その闇を切り裂くであろう。

12. この光とはどのようなものだろうか。それは、私の新しい御言葉であり、新たな啓示を伴う私の教えであり、人々に神を崇める真の方法を教えるものである。同時に、それは彼らの魂の渇きを癒やす水晶のように澄んだ水を見つけるための道筋をも示してくれる。

13. わたしはすべての人に、神を崇める真の方法を授ける。また、神の律法に従って生きる正しい方法も授ける。その律法の履行こそが、主があなたがた一人ひとりに認めてくださる唯一の事柄である。

14. やがて、人よ、あなたがたはわたしの言葉の内容、すなわちその真意を悟るようになる。そうすれば、わたしの教えは、単に人々に語りかける神の声であるだけでなく、すべての霊の表現でもあることに気づくであろう。

15. 私の言葉は、勇気を与える声であり、自由を求める叫びであり、救いの錨である。

16. 私の教えは、いかなる儀式主義からも自由である。そうでなければ、その本質を失ってしまうだろう。

17. この時代において、私はあなたがたに純粹かつ完全な教えをもたらす。それゆえ、私はこう告げる。あなたがたの一日の働きの終わりに、真の愛をもって人生で行ったことだけが、あなたがたの功績として認められるのだ。なぜなら、それこそが、あなたがたが真理を悟ったことの証となるからである。

18. 人間は、霊の光である私の啓示なしに存在したことは一度もない。しかし、人間はそれを深く探求することを恐れてきた。さて、私はあなたがたに問う。もしあなたがたが執拗に霊的なものを避けているのなら、真理や永遠なるものについて、一体何を知ることができるのか。

19. 私の「第一の時代」および「第二の時代」の啓示は、神聖なものと霊的なことについてのみ語っているにもかかわらず、あなたがたがそれらに与えた唯物論的な解釈をよく考えてみよ。あなたがたがいかに物質的な自然を霊的なものと混同し、いかに敬意を欠いて、深遠なものを表面的なものへと、高尚なものを卑しいものへと変えてしまっているか、よく見てみよ。しかし、なぜあなたがたはそうしたのか？それは、神の御業に何らかの貢献をしたいという願望から、私の教えを、あなたがたが最も大切にしているこの世の生活や人間の安楽に合わせる方法を探しているからである。

20. 弟子たちよ、私があなた方に語ったすべてのことをよく考えなさい。そうすれば、あなたがたが「自分はスピリチュアリストで

ある」と言うとき、それは、口先で説くことを真に実践しているからこそ、そう言えるようになるのです。

21. 「私はスピリチュアリストだ」と言うのはいかに容易なことか。しかし、真にそうあり続けることはいかに難しいことか。

22. 私の言葉を聞き、それを大いに解釈する者たちは数多くいるが、それでも彼らは私の教えを実践する最良の弟子たちではなく、「互いに愛し合いなさい」と告げる神の戒めを果たしていない。

23. それに対して、私の教えのほんのわずかな部分を実践するだけでも、その人がいかに容易に変わっていくかを見てごらん。その例を挙げようか？

ある人がいた。その人は生涯を通じて、言葉による祈りを通して、私を愛していると伝えてきた——しかし、その祈りは他人が作り上げたものであり、彼自身はその言葉の意味さえ知らなかったため、理解すらできなかったのだ。しかし、やがて彼は真の祈りのあり方を悟り、古い習慣を捨て去って、魂の奥底に意識を集中させ、思いを神へと向けると、初めて神の臨在を感じた。

主に対して何を言えばよいのかわからなかったが、胸が震え始め、目から涙がこぼれ落ちた。彼の心にはただ一つの言葉だけが浮かんできた。「父よ、私はあなたと話す方法さえ知らないのに、何とえばよいのでしょうか？」しかし、その涙、そのすすり泣き、その内なる歓び、そして彼の戸惑いさえもが、あなたがたが人間の言葉や書物の中で決して見つけることのできないほど美しい言葉で、父に語りかけていたのだ。

24. 主に向かって霊的に祈り始める人のそのたどたどしい言葉は、幼い子供たちの最初の言葉に似ている。それは、生き始めようとする存在の最初の表現を耳にする親たちにとって、喜びと歓喜の源となるものである。

25. 人々は、太古の昔から与えられてきた啓示に対して、真に正しい解釈を与えることを理解できなかったため、今日、私は霊として訪れ、私が彼らに教えてきたすべての事柄について、明確な説明と正しい解釈を与えるのである。

26. 現代において、あなた方は靈魂の能力と身体的能力を、互いに混同することなく認識している。

27. 私の教えが、やがて新しい日の光として、この眠りについた人類を目覚めさせたとき、精神、理性、そして感情は真の調和を見出すだろう。

28. あなたがたは、この日に心の中に一致と平安を得て、声の媒体の知性を通じて私の教えを聞くという、その場に立ち会ってい

る出来事を自覚した存在として、私の前に現れることができるよう、私に助けを求めている。そして、私はあなたがたの魂を受け入れる。あなたがたが祈りや行いの中で、純粹かつ率直に私に捧げるすべてのものを、私は、天の父に対する子供たちの正当な捧げ物として受け入れる。

29. あなたがたがわたしに捧げる最も切実な願いは、地上に平和が訪れること――すなわち、かつての父権的な生活が人々に戻ることです。しかし、わたしがあなたがたに告げます。この平和が戻るのには、わたしの新しい弟子であるあなたがたが、わたしがあなたがたを準備させている新しい世界の礎を築き上げたときになって初めてです。

30. あなたがたが、隣人一人ひとりを兄弟として見なし、自分と他者との違いを消し去り、彼らの中に私を愛するようになったとき、あなたがたは新しい時代の夜明けを目にすることになる。そして、人々の生活は喜びに満ち、軽やかになり、私は父として認められるようになるだろう。

31. この時代のわたしの言葉は、かつてイエスを通してあなたがたに与えたものと同じである。それは、あなたがたがパレスチナの各地でわたしに従っていたとき、あなたがたの魂を包み込んだのと同じ、水晶のように澄んだ奔流である。その真意はあなたがたに知られている。あなたがたは、その「味わい」を決して間違えることはないだろう。なぜなら、それはあなたがたの魂に神聖な印を刻み込んだからである。

しかし今日、私がこれらの男女を通して自らを現すために降りてきて、あなたがたが彼らの口から発せられる御言葉を聞くと、それが私から来ていることを悟り、なぜ私がこの時代のメッセージを人類に伝えるために、別の形を選ばなかったのかと私に問うのである。

32. あなたがたは、自分たちの間には、わたしに仕えることのできる特別な徳を備えた人はいない、とわたしに言う。モーセも、初期の預言者たちも、ペトロやヨハネも、もはや存在しない。しかし、まことに、あなたがたに告げる。私はいつの時代も徳ある魂たちを遣わしてきた。その中には、謙虚に私に仕えてきた者たちもいたのだ。彼らを愛し、慰めてあげなさい。彼らの担う重荷は極めて大きいからだ。

わたしは彼らの知性と心を清らかな泉のように守ってきた。そして、多くの場合、苦しみこそが彼らを清める最良の手段であった。彼らの人生は、かつてのわたしの使徒たちのそれに似ている。わた

しはあなたがたを祝福する。このようにわたしに従い、わたしが彼らに与えた使命の真の意味を深く感じ取った者たちは、幸いである！

33. わたしはあなたがたを、わたしの王国へ招く。わたしは、いかなる差別もなく、地上のすべての民を呼びかけている。しかし、すべての者がわたしに耳を傾けるわけではないことを、わたしは知っている。人類は自らの灯を消し、暗闇の中を歩んでいる。しかし、誤りが顕著になる場所には、私によって啓発された者が現れ、その周囲に光を広げるだろう——それは、目を覚まし、心を揺さぶる警鐘を鳴らす私の合図を待ちながら見張る、霊的な守護者である。

それらの使者の愛を、あなたがたの心の中で実を結ぶ種とせよ。彼らが外見上の貧しさを帯びてあなたがたの前に現れても、拒んではならない。彼らの言葉に耳を傾けなさい。彼らは私の名において、あなたがたが現在知らない能力を授けるためにやって来るのだから。彼らはあなたがたに完全な祈りを教え、あなたがたを束縛している物質主義の鎖から解き放ち、あなたがたを私のもとへと引き上げる霊的な自由を得る手助けをしてくれるだろう。

34. わたしに耳を傾けるあなたがたは、わたしの言葉のすべてが成就することを切に待ち望んでいる。あなたがたは、この世界がわたしの弟子へと変容するのを目撃したいと願っている。あなたがたは、わたしが困難な使命を帯びて他国へ遣わした者たちの仲間入りをさせてほしいと、わたしに願っている。しかし、まことに、あなたがたに告げる。あなたがたを待ち受ける戦いは非常に大きなものとなるため、その前に備えをしなければならない。

しかし、私があなたがたに語っている使者のすべてが、あなたがたの中にいるわけではない。また、すべての者が、声を通じて私の言葉を聞いたわけではない。彼らの多くは、私とその魂を整えてきたゆえに、直感に基づいて語るだろう。そして私は、私の光が至る所に届くよう、彼らを賢明に配置したのである。

35. 私があなたがたのところへ降りてきたのに、あなたがたは皆私の子供であるにもかかわらず、私が他の国々を顧みないなどとは、どうして信じることができるのか。私の霊は万物を包み込み、すべての被造物を包み込み、理解しているというのに、果たして誰かが私から遠く離れている、あるいは私の外にいるなどということがあるとでも信じたいのか。すべてのものは生きており、わたしから養われている。それゆえ、わたしの普遍的な光は全地球に降り注ぎ、魂たちはこの世界や他の世界においてわたしの影響を受け取って

いる。なぜなら、わたしはすべての被造物を救うために来たからである。

36. 私は、あなたがたがこの時間を無駄にしたり、足跡を残さずにこの世を去ったりすることを望まない。私があなたがたに託した種を真に育む者となり、この世を去った後も、同胞たちの魂の中に蒔いた種が花開くまで働き続けてほしいと願っている。

37. 私は、あなた方を私の指示に縛りつけようとはしない。私はただ愛を込めてあなた方を励ましているだけである。なぜなら、私の教えによって整えられたあなた方の魂から生まれるもの以外、いかなる使命の遂行も私は受け入れないからである。私の律法の中で自由でありなさい。しかし、への従順を習慣としなさい。人間を支配する二つの律法を全うしなさい。それらは本質的には一つのものである。なぜなら、その両方が私から発しているからである。

38. すべての人々のために祈りなさい。すべての人々が私に対して調和と理解を持つことを願いなさい。そして、あなたがたの祈りが、まるで歌のように、熱烈な賛美歌のように天へと昇り、魂を照らし、彼らがその運命の目的地へと至る道を示すものとなるように。

39. 愛する民よ、あなたがたは、わたしの言葉の力に引き寄せられて、これらの場所へやって来る。あなたがたは、必ずしもこれらの集会所に来る必要はない。そこでわたしの臨在を求め、わたしの前にあなたがたの悩みを打ち明けることができるからだ。あなたがたは、わたしが遍在し、どこにでもおり、どこからでもあなたがたの声を聞き取っていることを知っているからだ。

40. あなたがたがここにやって来るのは、わたしの言葉のためであり、あなたがたが求めているのは、あなたがたの魂の糧となる神聖な本質なのです。

41. あなたがたは皆、私がこの形であなたがたに語りかけるのをやめる時を、私がすでに告げていたことを知っています。だからこそ、私の言葉が声の媒体を通して響くたびに、あなたがたは急いでここへやって来るのです。なぜなら、私があなたがたに与える啓示の最後の一つも、自らの魂の中に刻み込みたいと願っているからです。

42. あなたがたが果たすためにこの世にやって来た霊的使命についての内なる知識が、徐々にあなたがたの中で目覚めつつあり、行い、言葉、そして思考をもって私の律法を説くことがいかに困難で重責であるかを理解したため、その責任があなたがたの心を占め始めている。

43. まもなく、あなたがたは私の言葉なしの状態になるだろう。しかし、あなたがたが気弱にならないためには、師が去った後に団結した「第二の時代」の私の弟子たちの模範にインスピレーションを得なければならない。彼らは団結することで、互いに強さ、励まし、力、そして信仰を与え合ったのである。

44. あなたがたが集会において私の臨在を感じ、私の啓示の時を逃さないかどうかは、あなたがたの調和にかかっている。

45. これまで、皆さんは聞くことによって力を得てきましたが、明日は学ぶことによってさらに力を得ることになるでしょう。なぜなら、私の教えの核心に深く入り込み、それぞれの教えが持つ真意を発見したとき、皆さんは驚嘆するからです。

46. 私は今すでに、この時に向けて団結し、私があなたがたにもたらす教えを深く探求する準備をしている者たちを祝福する。なぜなら、この学びを通じて、弟子たちは私の御言葉の真の解釈を発見するからである。そして私はあなたがたに告げる。私の御言葉が光を放つように、あなたがたの解釈もまた、隣人の道を照らすことになるのだ。

47. この教えを正しく解釈する者たちは、礼拝の儀式という日常のルーチンの中で眠りについてしまった同胞たちを目覚めさせる術を知り、彼らに手を差し伸べ、思索の欠如によって混乱の中で座礁してしまうことから彼らを守ることになるだろう。

やがて、この民は世界中に広がり、彼らが聞いたことを証しすると同時に、明確な言葉で私の律法と教えを説くようになるだろう——私が今、あなたがたに語ったことだけでなく、あなたがたが経験してきた時代を通じて私が啓示してきたすべてのことを。

48. 周囲の人々から嘲笑されたり、拒絶されたりすることを恐れてはならない。

49. 私が保証する。この霊性主義者たちの民が人類の中に現れるとき、私はすでに彼らに数多くの、そして非常に大きな霊的な顕現を与えているだろう。これらの顕現によって、霊的に私を待ち望んでいる多くの人々は、私がすでに到来し、語っていたことを予感するようになるだろう。彼らがあなたがたの姿を見て、あなたがたの言葉を聞けば、あなたがたを私の使者として認めるようになると思わないか。

50. まことに、あなたがたに告げる。神学者たちでさえ、これほど多くの出来事の原因を自ら説明することになるだろう。

51. わが民は、地上で大軍のように広がっていくであろう。わが霊はその民と共にあり、その戦いを励まし、私が今この時代および

過去の時代にあなたがたに与えた言葉の最後の一語に至るまで、すべてが成就するようにするであろう。

52. なぜ、あなたがたは、もはやわたしの言葉を聞くことのない日々を思うと泣くのか。心配するな、人々の群れよ。わたしはあなたがたを一人にはしないからだ。

53. 私が去った後、第二の時代に、使徒たちの懷にマリアを残したことを覚えているか。

54. 慈愛に満ちた導き手であり、母であり、悲しむ者たちの慰めである彼女は、しばらくの間、あの弟子たちのそばに留まった。

55. ゴルゴタで味わった苦しみ——すなわち、師を失い、その御言葉も失ったという苦しみ——が彼らの心から消え去ると、彼らは自分たちが果たすべき使命を理解し、地上に福音を広め始めた。主はマリアを地上から天へと引き上げられた。彼女はすでに、その慈愛に満ちた柔和さを人類への遺産として残していたからである。

56. 神の御座の前にいる新入りの弟子たちよ、あなたがたは、もし私が「代弁者」の口を通して伝える啓示を「奪われて」しまったら、私があるがたを見捨てるだろうと考えている。しかし、私はあなたがたに告げる。マリアは死んではいない。あなたがたの霊的な母は、試練の日々、あなたがたが自分を見捨てられたと感じ、私が不在であると感じる日々に、あなたがたを助ける準備ができています。たとえ私がかつてないほど近くにいても。彼女の母なる愛は、あなたがたが力強さを感じ、私が言葉と行いをもって示してきた教えの真の意味を理解する助けとなるだろう。

57. あなたがたは、わたしの律法の戦士であり、霊性化の種蒔き人となるべきである。しかし、今日、すでにあなたがたに告げておくが、スピリチュアリズムは地上に拠点を置くことはなく、また人間の中にその代表者を持つこともない。その支配はこの世のものではなく、あなたがたの唯一の導き手は、キリストにあるあなたがたの良心である。

58. あなたがたの直感の眼は、人々の群れの中から新しい「働き手」を見出すことができるだろう。しかし、「油を注ぐ」ことや聖別を行うのは、あなたがたの手であってはならない。なぜなら、魂に賜物や任務、あるいは使命を託すことのできる唯一の存在は、私——あらゆる存在の運命を記す唯一の存在——だからである。

59. 私がこれらすべてを語る理由は、あなたがたが、真理を含まない誤りや行動、儀式に陥ることを防ぐためである。

60. あなたがたは、ただ私の種を蒔く者、私の預言者、私の使者に過ぎない。しかし、秘められた宝庫は、これからもあなたがたの主の手中にあり続ける。

61. すべてが秩序と愛と霊性であるべき民の中に、支配者や統治者、あるいは暴君が現れないよう、あなたがたの間には完全な調和と兄弟愛が支配することを、私は望んでいる。

62. もしあなたがたが、私が示す通りにその使命を果たすならば、あなたがたの模範は認められ、あなたがたの力はスピリチュアリズムに道を開くことになるだろう。

63. 偶像の誤りを暴き、高慢な支配者や専制的な主をその台座から引きずり下ろし、物質主義の支配という儚い権力を打ち砕くのは、私の教えの光でなければならないことを理解せよ。

64. 私が今日、明日、霊的な生活を説くために準備している民は、裕福ではなく、宝も物質的な財産も所有しないだろう。なぜなら、彼らはその行いによって、神の真理、愛、そして正義が、あなたがたの欺瞞に満ちた富の力に頼る必要などないことを、世界に証明しなければならないからだ。

65. 愛、信仰、そして揺るぎない意志こそが、この業を人類に知らしめる力となるであろう。キリストとその弟子たちの模範に倣い、彼らの生涯と、彼らがあなた方に与えた教えについて深く考えよ。そうすれば、私が真実を語っていることがわかるだろう。

66. 私の手は、一度も硬貨に触れたことがない。ある時、皇帝に対する義務についての私の見解を尋ねるために、意図的に硬貨が私に見せられたことがあったが、私はその硬貨をただ見つめただけで、触れもせずに、私に尋ねた者にこう答えた。「神のものは神に、皇帝のものは皇帝に返しなさい。」

67. これは私の最後の教えの一つではあるが、最後ではない。私はまだしばらくの間、あなた方に語りかけるつもりだが、その後は、もはや人間の知性を通じて語ることは決してないだろう。

68. その後、私が去った後にあなたがたが熟考できるよう、私はあなたがたに内省の期間を与えるつもりだ。その期間中、霊から霊へと、さまざまな形で直感が次第に蘇り始めるだろう。

69. 今、あなたがたが理解できていないことはすべて、その霊的な省察の日々において理解できるようになるでしょう。同時に、新たな啓示や預言によって、あなたがたは驚かされることになるでしょう。

70. ある者の靈感はある別の者のそれによって裏付けられ、それゆえ弟子たちの間に疑念が生じることはないだろう。

71. ロケ・ロハスとダミアナ・オビエドは、この時代における私の霊的啓示の最初の伝達者であった。その男性は知性を通じてエリヤの光を受け取り、その乙女は師の光を受け取った。これにより、私は、私の使徒の群れにおいて、女性も男性と同様に私の食卓に着くことを、あなた方に示そうとしたのである。靈魂は両者において等しい。私が靈魂を求めるこの第三の時代に、なぜ私が両者の間に区別を設ける必要があるだろうか。

72. ロケ・ロハスとダミアナ・オビエドは、あなたがたの先駆者である。彼らは砂漠の真ん中で神の声を聞き、それが真実であるかどうかを問うことなく、信じた。一人は預言者の声を聞き、もう一人は師の慈悲の触れを感じた。

73. あの時から、私はあなたがたにどれほどの秘密を明らかにしてきたことか！最初の御言葉の伝達者たちは亡くなり、他の者たちが現れ、そのようにして現在に至るまで次々と続いてきた。すべての者がその意図において純粹であったわけではない。ある者たちは、信仰への熱意、真理への愛、自己否定、そして自己犠牲の模範であった。しかし、中には虚栄心に駆られ、お世辞や報酬を愛した者たちもいた。

74. 私は当初から、聴衆の群れに真の実を見分けることを教えた。そして、ここに居るあなたがたに告げる。あなたがたは、私の真理を糧として隣人に届けるべきであり、その一方で、真理の炎の中で痕跡を焼き尽くすべきである。

75. あなたがたは、彼らに対する理解と思いやりを欠いていたため、決して自分の声の担い手たちを大切にする術を知らなかった、と私は言わざるを得ない。しかし、あなたがたはそれらの心を励ますことも、育むこともできなかったのだから、せめて今後は、彼らの唇から発せられたもの、すなわち私の言葉である「新しいマナ」を、守り抜いてほしい。

76. 霊能者が地上に増え続けるにつれ、彼らを普通の占い師と混同し、未来について尋ねようと近づいてくる者が多く現れるだろう。科学者たちは、霊たちの生活や、他の世界や惑星での生活について彼らに問い詰めるだろう。私がこれらすべてを予言するのは、もしあなたがたが愚かな質問の嵐にさらされたとき、祈るべきであることを思い出すためである。そうすれば、あなたがたが語るべきこと——すなわち、周囲の人々の愚かさや好奇心に直面した際に伝えるべき、神の御心——を、天の父があなたがたに啓示してくださるだろう。

77. わたしはあなたがたに、わたしの啓示を一つたりとも変えてはならないこと、また、まだ明らかにされる時が来ていないことを探求しようとしないう命じる。あなたがたは常に備えを保たなければならない――まるで、光を求める同胞たちの渴きを癒やす水晶のように澄んだ水を受け入れる準備の整った泉であるかのように。そして、秘密のベールをめくるのは、あなたがたの手であってはならない。果たして、この地上に「七つの封印の書」を開くにふさわしい者が一人でもいたでしょうか？ 子羊のみがそれにふさわしかったのです。つまり、そののみがそうする力を持っていたのです。

知っておきなさい。この地上にいる人々に啓示される教えは数多くあるが、一方で、人が霊の高き住処に住むようになって初めて明らかにされる教えもまた数多くあるのだ。

78. どこにでもわたしを見つけることができる。わたしの臨在は、道のあらゆる場所にあり、わたしは砂漠の真ん中のオアシスにも、嵐の夜の灯台にも姿を変える。

私の平安があなた方とともにありますように！

教え 282

1. 神の光があなた方のために輝き、あなた方に新たな教えを与える言葉となる。心を聖所であるかのように整える者は祝福される。なぜなら、その者は私の言葉を聞いたとき、真の命へと身を伸ばしたからである。

2. 皆、来て、私の愛の奇跡を悟りなさい。私は、罪人の口を通して罪人を救うために来たのだ。

3. この時代において、わたしはあなたがたに、あなたがたが相続物として、あるいは賜物として持っている、わたしがあなたがたの中に置いた力を示す。それは物質の力ではなく、霊の力である。なぜなら、人は肉によって力強くも、偉大でも、賢くもない。それは霊によってである。

私は、善の道へと歩みを向け、天の父の御心に従う者——すなわち、人生を導き、支配する法則に従う者——に語りかける。その者は、常に光と平和と真理の道へと導く力強い力に支えられていると感じるはずである。

4. 弟子たちよ。私が新時代を切り開くために、霊的な贈り物としてあなたがたにもたらしたこの簡素な言葉は、その簡潔さと外見上の謙虚さにおいて、私のもう一つの傑作である。人間の知性を通じて神性を伝えるために、このように人間に働きかけるこの形には、あなたがた全員が発見すべき意味、内容、そして重要性が込められている。

5. 見よ、私の神聖な思いが、ある人間の唇を通じて声となる様子を。その唇は——不純ではあるものの——この奉仕の瞬間、あなた方に霊的な命の糧を与えるために清められるのである。

6. あなたがたの魂も肉体も、わたしを受け入れるために清められたその日、その日があなたがたに何をもたらさないというのでしょうか。

7. あなたがたの信仰は小さく、愛も備えも弱かった。それにもかかわらず、あなたがたがわたしの言葉から受けた実が、あなたがたを無気力状態から引き出し、かつては不幸の中で荒涼とした砂漠のようであった魂の生活を、今や闘いと絶え間ない試練に満ちたあなたがたの人生において、まるでオアシスのように理解し、愛し、学び、感じ取ることを教えてくれたのである。

8. もしあなたがたがこの教えを理解しようと努めるならば、この時代において、人間はわたしなしには何者でもないという完全な認識を持つ者たちの仲間入りをすることになるだろう。

9. この世界を見てみよ——傲慢で、挑発的であり、この世紀の世代を驚嘆させているあらゆる人間の業を誇りとしている。その大多数は、霊的なものを信じず、またそれを愛してもいない。それゆえ、彼らは祈らず、私の律法にも従わない。それにもかかわらず、彼らは、科学の力を借りて築き上げた、驚異に満ちた世界を誇示できることに満足し、誇りを感じている。

10. しかし、何世紀にもわたる科学、闘争、戦争、そして涙の末に築き上げたこの驚嘆すべき人間の世界を、彼らはやがて自らの手と武器によって破壊することになるだろう。愛と正義、そして真の完成への願いを欠いていた彼らの業の、持続不可能性と脆弱さに人類が気づく時が、すでに近づいている。

11. 間もなく、あなたがたは、神なしには何者でもないこと、そして、人間の霊的な部分と肉体的な部分との間に調和のとれた存在を築くための力、命、知性を、私からしか受け取ることができないことを知るようになるだろう。

12. 私は、世界を生かそうと、新たな御言葉を持ってやって来る。何世紀、何時代にもわたり、人類は死だけが支配するのを目の当たりにしてきたからだ。なぜ、あなた方の存在において死が支配してきたのか。その理由は、愛の欠如にある。

13. まことに、あなたがたに告げる。愛こそが、宇宙を動かす不変の力である。愛は、生命の源であり、その意味そのものである。

14. 今、私はすべての人々のための霊的な復活の時代を切り開く。——それは、私が十字架の高みからこの世へと注ぎ、あなたがたに告げたあの祝福された愛の種を花開かせる時代である。すなわち、私が教えたように人々が互いに愛し合うならば、「死」はこの世から一掃され、その代わりに命が人々を支配し、彼らのあらゆる行いの中に現れるようになる、と。

15. 今日、あなたがたは日々、科学の樹の苦い実を食べている。その樹は、あなたがたが自らのあらゆる賜物の調和のとれた開花に努めなかったために、人々によって不完全なまま育てられてきたのだ。それゆえ、知性だけを鍛え、魂と心を疎かにしてきたあなたがたに、どうして自らの発見や行いを正しい方向へと導くことができるだろうか。

16. あなた方の間には、まるで野獣のように情欲に完全に身を任せ、隣人に対して憎悪を抱き、血に飢え、兄弟民族を奴隷にしようと企む者たちがいる。

17. もし誰かが、私の教えが人間の道徳的崩壊を招くかもしれないと考えるならば——まことに、私はあなたがたに告げる、その人

は大きな誤りに陥っている。そして、この時代の な懷疑論者、唯物論者、そして高慢な者たちにこれを証明するために、私は彼らに、自分たちの科学の果実を収穫し、飽きるまでそれを食べさせ、彼らの魂から、私にこう告げる告白が自然と湧き出るまで待つつもりだ。「父よ、私たちをお赦してください。私たちの無分別によって解き放たれた力を食い止めることができるのは、あなたのみの御力だけです。」

18. そうして、私は彼らを助け、平安を与えるであろう。なぜなら、彼らの傲慢さは、すでに彼らに苦難の杯を多く飲ませているからである。私は彼らを魂の平安と自己省察へと導き、そうして——その時にはすでに新たな人生を送っているであろう彼らに——霊的なものの価値を見出し、それを自らの行いに応用することを理解させるのである。私は彼らに、人生は豎琴のようなものであり、その弦は愛、霊性、そして科学を表していることを理解させるだろう。しかし、それらが調和していなかったため、愛の甘美な響き——すなわち霊性の崇高な響き——を生み出すことができなかったのだ。

19. 裁きの時が来た。その時、私はある者たちに「なぜ私を否定したのか」と問い、また他の者たちに「なぜ私を迫害したのか」と問うであろう。自らの内面を深く探求することさえできなかった者が、私の王国の存在を否定する権利などあるだろうか。あなたがたが私の真理を認識せず、それを発見する術を知らないからといって、それが存在しないということにはならない。もしあなたがたが、自分たちが理解できるものだけが存在すると信じるならば、私はあなたがたに告げる。あなたがたの無知は深く、その傲慢さは極めて大きい。

20. まことに、あなたがたに告げる。神とその御国を否定する者は、自分自身を否定したことになる。自らを独立した存在だと考え、神なしでも偉大でいられるという高慢な思いから、自らの中に力を求めようとする者の、この世での歩みは極めて短いものとなる。その者はすぐに道に迷い、その苦しみは極めて痛ましいものとなるだろう。

21. 真の学者たちはどこにいるのか。

22. 知とは、わたしの存在を感じることであり、わたしの光に導かれ、わたしの御心を行うことである。知とは、律法を理解することであり、愛することである。

23. 愛をもって隣人の役に立ちたいと願う者は、人生が提供する数多くの道のいずれかを通じて、善に身を捧げる。その者は、自分が、極めて高き目的のために神の御心によって用いられることを受

け入れるべき人間であることを知っている。おお、弟子たちよ、私はあなたがたに知識を得て、向上への道を失ってしまった者たちをその誤りから解放してほしいと願っている。

24. 真の愛——すなわち、人間の心の感情を超越した愛は、知恵の果実である。見よ、私が言葉によって、あなたがたの想像の世界に知恵を蒔く。そしてその後、私はあなたがたの愛の果実を期待する。

25. 善を行う方法、慰め、奉仕する方法は数多くある。それらはすべて、唯一無二の愛——すなわち、霊の知恵である愛——の表現である。

26. ある者は科学の道を歩み、ある者は精神の道を歩み、またある者は感情に導かれるかもしれないが、それらすべてが合わさって、精神的な調和が生まれるのである。

27. 存在する様々な道を区別し、また、仲間たちが果たしている様々な使命を尊重することを学びなさい。そのためには、偏見のない心、正しい判断力、穏やかな心、そして深い洞察力を持つことが必要です。もしこれらの資質を備えていなければ、自分が思っていたよりも多くの宗教団体が存在し、知っていたものよりも多くの儀式や礼拝があることに気づいたとき、正当な理由もなく憤りを感じるだろう。

28. もし準備をしておかなければ、迫り来る戦いの真っ只中に身を置いたその日、あなたは混乱し、動揺することになるだろう。

29. 理解しようとすることに関心を寄せず、ただ私の言葉を聞くだけの者は、この教えを深く探求し、説明できる者たちの仲間にはなれないだろう。一方、私の言葉の意味を悟ろうとし、それを感じ取り、愛し、魂と心と頭脳に刻み込む者たちがいる。彼らは日々、私の教えへの理解を深めている。

30. もし、より深く知り、完全な形で愛したいというこの渴望が、これらの弟子たちの間で顕現するならば、あなたがたは彼らの顔に、慈愛と隣人愛の美しさ、そして霊性の高貴さが映し出されているのを見るだろう。

31. とはいえ、たとえこの瞬間であっても、真実の鏡として、靈魂の美德——すべての人間に宿るその高次の存在——を映し出すような顔を持つ者は、誰一人としていないだろう。

しかし、あなた方の向こう側で生き、働き、そしてあなた方の行い、言葉、思考を通じてその姿を現すことさえできる、あの霊界について、私はあなた方に何を語ればよいのでしょうか。それらの存在にとって、すべての人間は自らを顕すための手段であり、転生し

た魂は一つになるための絆であり、そして脳は人間界とつながるための手段なのです。

32. 人々の思考が善に向くとき、それらは崇高な目標に献身する、高潔で輝かしい存在たちによって用いられることになる。しかし、人々の思考があらゆる善き影響を拒み、自らの感情や能力を低次の魂に利用されることを許すならば、それらはただ低俗な情欲を育むだけとなる。

33. 私はあなたに告げる。霊界の影響下でない人間の知性など、一つとして存在しないのだ。

34. 多くの者がこれを否定するだろうが、人間の知性が、霊的存在や同胞たちだけでなく、私からの思考や波動さえも受け取ることが不可能であると証明できる者は、誰一人としていない。

35. これは全人類に対する啓示である——この啓示が広まれば、それを大きな喜びをもって受け入れる開かれた心に出会えるだろう。同時に、頑なな反対者や敵対者にも遭遇することになるだろう。

36. しかし、彼らは、霊界の光が人々の生活の中に輝き出すのを防ぐために、一体何ができるというのか。不信仰者たちは、その波動を遮断するために、どのような手段を用いることができるというのか。神の創造的かつ活力を与える力である、その普遍的な影響力の外にいと自認する者は、いったい誰なのか。

37. わたしはあなたがたの霊、魂、そして理性に向かって語っているが、改めて言う。あなたがたは他の存在次元からメッセージや思想、インスピレーションを受け取っており、自分の魂がどこから来てこの肉体へと転生したのかを知らないのと同様に、目に見えず、感じることでできない存在が、誰が魂に語りかけているのかも知らないのだ。

38. この教えを聞いているあなたがたに、私はこう言います。彼らの知性という器の中で私の靈感が高鳴っているからといって、その声を伝える者たちが正義で清らかであると考えてはなりません。いいえ、彼らはただ、私の光を受け取り、それを言葉という形で伝える能力を与えられているに過ぎないのです。彼らは、来るべき時代への約束である、あの霊的な啓示の先駆者たちである。その時代には、人々は、霊界の光が常に自分たちの存在の中に降り注いでいたことを完全に認識し、神の永遠のメッセージを完璧な形で受け取り、伝えるために自らを準備し、霊化していくことになる。

39. 人類よ、あなたは物質的に証明できないことを否定している。私はあなたに告げる。あなたが知っているのは、この世に属するものだけだ。なぜなら、もしあなたが霊について少しでも知ってい

たなら、霊界の存在や影響力、さらにはその啓示を否定しようなどとは決して思わないだろうからだ！

40. 数多くの光の存在たちが、あなたたちのために尽力している。あなたがたが、祈り、思考、そして信仰において彼らと一つになることを理解するその日、あなたたちは人生において、無敵の力、超人的な力を体験し、決してつまづくことはないだろう。

41. 人々の周りには、目に見えない闇と混乱の世界も存在している。あなたがたがその陰險な攻撃と戦う準備が整ったその日から、人生において未知の自由と未知の平安を感じるようになるだろう。

42. 知っておきなさい。知性は、私の神性および霊界からの波動と影響を受け取ること決してやめないのだ。

43. 人間は物質的なものを愛してきた。そこに自分の価値観を見出し、心、理性、そして感覚を向け続けてきた。それゆえ、人間は霊に関わるあらゆるものを軽んじ、無視している。もし人間が霊を理想としていたならば、感覚を研ぎ澄まし、私が今日あなたがたに語ったことの何一つとして知らないものなどなかっただろう。

44. 人間は、神の霊がその性質上、宇宙のあらゆる霊的存在とつながっていることを知ることになるだろう。そして、そのことを知り、信仰によって啓発されれば、すべての被造物に命を吹き込む力、生命、光である私の霊の輝きが、自分にも届くよう努めるようになるだろう。

45. まことに、わたしはあなたがたに言う——そしてこれを忘れてはならない。わたしが人間の知性を通じて自らを現すことが不可能であるとは限らない。もしわたしが自らを現すことができないとしたら、それこそが不可能である。

46. 弟子たちよ、あなたがたの使命は、魂と理性を感受性豊かなものにし、あらゆる霊的な波動を感知し、それを感じ取り、信じ、生き、愛し、それに従うことである。

47. もう一度言うておく。たとえ全人類が、霊的な光が自分たちに届くのを避けようと努めたとしても、決してそれを成し遂げることはできない。なぜなら、人間が持つ命そのものを、存在するすべてのものに響き渡るわたしの霊から受けているからだ。

48. あなたがたは今、あらゆる点で異質に見えるかもしれないが、あなたがたが理解している私の教えを聞いている。あなたがたも知っている通り、たとえこの集会室のような質素で控えめな場所で語られているとしても、これらは決して普通の場所ではなく、天のメッセージを受け取ることができるよう、祈りと霊性への高揚、そして準備に捧げられた、な簡素な宿に他ならない。

あなたがたは、私が現在、人間の知性を通じて自らを現していることを知っている。しかし、語っているのは知性ではなく、私の靈感の光を受け取る霊である。その光は、知性を照らすと「思考」となり、唇に届くと「言葉」へと変わるのだ。

49. これは、私が第三の時代にあなたがたに明らかにした最も美しい賜物の一つであり、あなたがたが自らの霊に備わっている特性、そして霊にまだ残されているものについて理解を深めることができるようにするためである。

50. あなたがた自身の霊的な内面へと深く入り込み、自分自身をよりよく知るようにしなさい。なぜなら、もしあなたがたが自分たちは単なる物質に過ぎないと考えるならば、自らの偉大さを否定し、自らの本質を見誤ることになるからである。

51. あなたがたが霊の真理を知ることに関心を持たない限り、あなたがたは弱く無知なままであり、あなたがたが何者であり、何を持っているか、そのすべてが肉体を通して現れることはないだろう。

52. 人々の唯物論的な科学は、人々の肩に耐え難い重荷を背負わせた。あなたがたは皆疲れ果て、この時代を苦難のうちに歩んでいるが、私は皆を待っている。

53. 人よ、もう先へ進めなくなった仲間たちを、この霊的な祝宴に招き入れなさい。あなたがたは、彼らの心の中に知識という宝が宿っているのを見て、「彼らに何が欠けているというのか？」と言うだろう。それにもかかわらず、彼らの魂には慰めのない空虚があるのだ。

54. 「死を厭い、心に失望を抱く知性ある者たちよ、わたしのもとに来なさい。混乱し、愛する代わりに憎んできた者たちよ、わたしのもとに来なさい。わたしはあなたたちに安らぎを与え、わたしの戒めに従順な精神は決して疲れることがないことを理解させてあげよう。わたしは、知性を決して混乱させない学問へとあなたたちを導いてあげよう。」

55. 心が冷たかったり、判断が厳しかったりするという理由で、私のもとに来ることを躊躇してはならない。私は一人ひとりに、愛の欠如によって失望したその心を照らす、一筋の光のような言葉を用意している。あなたがたが私を信じず、愛していなくても構わない。それが、私があなたがたを私の食卓から締め出す理由にはならない。私が来たのは、罪人のためなのです。

56. 多くの者が、すでにすべてを知っていると思い込み、その高慢さゆえに学びに来ることを拒むだろうことは、わたしも知ってい

る。しかし、彼らがわたしのメッセージの一つを聞くだけで十分であり、わたしは彼らに、彼らにはまだ心があり、真の愛に対して死んではいけないこと、彼らはわたしの元では依然としてわたしの小さな子供たちであり、まだ泣くことができることを証明してやる。

57. 私の愛の教えは、伝達者たちを通じてそれを聞いたごく少数の者たちだけに向けられたものではなかった。私のメッセージは、すべての人々に知られるためにこの世に届けられた。それゆえ、私はあなたがたに告げる。このメッセージは、さまざまな形をとって地の果てにまで届くであろう。なぜなら、それは、人類が地上の苦難の時代の頂点に達したとき、すでに「第二の時代」において約束されていた慰めの始まりだからである。

58. 今日、私が人々が猛烈な勢いで、自らの情欲、悪徳、そして敵意の最も深い深淵へと転落していくのを見る時、私は、彼らに救いの手を差し伸べるために、今こそ彼らの元へ赴かなければならない時が来たことを知っている。彼らがどれほど深く堕ちていようとも、私は彼らの霊に私の声を届ける。その声はこう告げるだろう。「私はあなたがたと共にいる。私のところに来なさい。光を求めなさい。私はあなたがたが闇から逃れるのを助ける。そうすれば、あなたがたは私の平和の盾の下で安らぎを得るだろう。」

59. 私の声は、その存在の内なる神殿——人間が破壊することのできない、すなわち彼自身の靈魂そのものである神殿——に響き渡るだろう。

60. 思い出してください。あなたがたが幼い子供だった頃、皆、無垢な心で生きており、まるでバラの花のようでした。しかしその後、茎から棘が生え、もはや花を咲かせることはなくなりました。今、人類が再び私に差し出しているのは、まさにその棘である。来春、再びバラの花を咲かせるためには、園丁の賢明な剪定鋏によって、これらの植物を刈り込む必要があるだろう。

61. 今日、ほんの少しの間、この地を離れ、霊においてわたしのもとに来なさい。何世紀にもわたり、人間は祈り方を誤ってきた。それゆえ、感覚によって祈り、霊によって祈らなかったため、力を得ることも、わたしの愛によって人生の道を照らすこともできなかったのだ。

62. 人間がこれほど強く傾倒する偶像崇拜は、まるで毒のようなものであり、それゆえに、内なる祈りがもたらす霊的な喜びを味わうことができなかったのだ。

63. 人々は、ただ祈り方を知らなかったというだけで、どれほどの苦難を背負ってきたことか！そしてそれは当然のことだ、弟子た

ちよ。私の霊の中に存在する「命の源」に近づくための努力を何もしない人間に、人生の試練を乗り越えるための霊的な力が、一体どこにあるというのか。人は、の深淵や影の中で私を探し求めるが、実際には、山頂の光の中で私を見つけるために登り上がることができるはずなのだ。

64. ああ、もしこの時代の人々が祈りの力を理解していたなら――どれほど多くの超人的な偉業を成し遂げたことだろう！しかし、彼らは唯物主義の時代に生きており、神聖なものでさえも、それに触れ、目に見えるようにしようと物質化しようとしているのだ。

65. 過去の時代のわたしの僕たち――ノア、アブラハム、イサク、ヤコブ、ヨセフ、あるいはモーセ――は、祈りの力を知っていた。そして彼らは、人類にその不滅の証拠を示し、あらゆる世代の模範となるような祈りの方法を遺した。

66. 彼らにとって、祈る場所はどこでも構わなかった。彼らは、自らの存在の核心に主の神殿を宿していることを知っていたからだ。彼らが私の慈悲の源に近づくために求めた道は、信仰――すなわち、私の臨在、私の正義、私の摂理、そして私の愛への信仰――であった。私は、彼ら一人ひとりに大きな試練を与えた――その試練は、後世に証しとして語り継がれるほど大きなものであった。そして、それらの試練の中で、彼らは創造主に対して忠実であり、従順であり、謙虚であり、献身的なままであった。

67. それらの僕たちの信仰と愛に対する私の応答は、常に即座に行われた。すなわち、私は彼らを、強い信仰と善意を持つ者にのみ与えられる、私の力の顕現の対象としたのである。

68. あなたがたへの私の愛ゆえに、私はこの時に、あなたがたを谷間や深淵の中で探し求め、救い出すためにやって来る。それは、羊飼いが深く愛する羊たちに対して行うのと同じである。

69. しかし、私があなたがたを通して築こうとしている民に対する私の意図を知りたいのであれば、今、私があなたがたをこの天のメッセージを知ってもらうために、地球のさまざまな場所から集めていることを知っておいてほしい。

70. 数え切れないほどの教訓や教えに分けられた私の言葉を通して、私はあなた方をこの教えの弟子とするであろう。そして、あなたがたの存在がこの本質で満たされ、伝統や誤りを乗り越え、靈性を生き、感じ始めるようになったとき、私はあなたがたに、大衆に福音を伝えるために、各地方、諸民族、そして諸国へと旅立つべき時と刻を授けるであろう。

71. あなたがたは、天の星や海の砂のように増え、平和と正義と真理を渴望している家庭、民族、祖国に祝福をもたらすことになる。

72. しかし、この戦いに旅立つとき、それはあなたがたが、私が常にあなたがたに啓示してきたように、また今こうして思い出させたように、すでに霊的な祈りを実践しているからこそ、そうなるのだということを忘れてはならない。

73. 祈りの力なしには、あなたがたは戦いに打ち勝つことも、試練に耐えることもできず、ましてや、周囲の人々に完全な祈りの方法を教えることなど到底できないだろう。

74. しかし、かつてあなたがたが族長、指導者、預言者として記憶している人々が示したように、霊的な祈りの力についての証拠を示すことは必要である。あなたがたを通じて現実となる証拠は、かつてのものとは同じではないだろう。なぜなら、今は時代が異なり、人類は精神的にも物質的にも発展しており、それゆえ、あなたがたが祈りによって得る証拠や奇跡は、かつてのものとは同じにはなり得ないことを心に留めておかなければならないからだ。とはいえ、それらは驚くべきものとなるだろう。

75. あなたがたがこれほど大きな恩恵に値する者となるために必要な条件は、ただ二つだけです。第一は、あなたがたの生き方です。すなわち、正義にかなった、有益な、常に善と隣人愛に導かれた生き方です。二つ目は、この世にあるあらゆるものよりもあなた方を優位に立たせ、その時が来れば危険から救い出し、あらゆる苦難を乗り越えさせ、苦痛に無感覚になり、さらには死さえも打ち負かす力を与えてくれる信仰である。

76. まことに、わたしはあなたがたに告げる。慈愛と信仰をもって、あなたがたは力強く、人間を超えた業を成し遂げることができるだろう。それによって、あなたがたはこの時代に、祈りと愛の力に対する最高の証しを示すことになるのだ。

わが平安があなたがたと共にありますように！

教え 283

1. 愛する弟子たちよ、あなたがたはさまざまな道から集まってきて、祈りの瞬間に一つとなり、魂を父のもとへと高めている。わたしはあなたがたを受け入れる。わたしの声を聞きなさい。道に迷ったときは、わたしのもとに戻りなさい。今日、あなたがたはわたしのそばにいる。わたしは長い間、あなたがたを呼び続けてきた。まことに、あなたがた一人ひとりを待ち望んでいたのだ。

2. ここに集まったあなた方を、私は人類を代表して迎え入れます。私があなた方に与えるものは、それによってあなた方のすべての人々にも与えられたのです。この木陰に来た者も、そこから遠く離れた者も、私からは等しく愛されています。

3. 祈りなさい、民よ。これこそが魂の言葉である。しかし、この言葉を学びなさい。そうすれば、あなたがたがわたしに語りかける時、同時にわたしの声を聞き分けることができるようになるだろう。敬意と謙虚さをもって、しかし父に対して抱くような信頼をもって、友人と話すような親しみを込めて、わたしに語りかけなさい。

4. 心を開きなさい。心こそが私の神殿である。その奥底で、助言であり、靈感であり、啓示である私の声が聞こえるようにしなさい。

5. あなたがたが私の教えの真意を深く理解し、羊が羊飼いの声を認識するように私の声を認識するようになれば、私があなたがたの人生におけるあらゆる時、あらゆる瞬間に語りかけてきたことを悟るでしょう。もしそうでなければ、「御言葉」は永遠のものではありません。

6. 私の目には、人間は常に、危険や転落の脅威にさらされている幼い子供のように映ってきた。そして、私はその父であるから、たとえその心が時折、私の助言や呼びかけ、教えに耳を貸さなくても、私はその子を愛し、導いているのだ。

7. 今日、人々は大きな試練の時期を経験している。しかし、それは私が彼らの苦しみを喜んでいるからではなく、人々が自らを汚してしまったならば、当然のこととして自らを清めなければならないからである。

8. あなたがたは皆、私が清らかなものを愛し、清らかなものだけが私のもとへ至ることを知っている。これは、あなたがたの良心が告げていることである。

9. 私の霊の光は、すべての肉とすべての霊に注がれている。それは、あなたがたが、人生が日々教訓として与える試練を考察し、解

釈できるようにするためであり、また、あなたがた自身を知り、この地上に持ち込んだ使命を理解できるようにするためである。

10. なぜ、あなた方の多くは、自分の運命が、試練や苦痛、罰、あるいは不幸といった形で、わたしによって定められているのではないかと恐れるのか。あなた方を完全に愛しておられる方が、いばらの道を与えるなどという考えに、どうして至ることができるのか。まことに、私はあなたに告げます。不吉で運命の打撃に満ちた道とは、あなたがたが自らの意志で選んだ道なのです。その道に喜び、自由、至福が見出せると信じているがゆえに、真の平和、安全、力、健康、幸福、そして豊かさが存在する、まさにあなたに定められた道から遠ざかっていることに気づいていないのです。

11. 私が教えの中であなたがたに差し出すこの道こそ、あなたがたの魂が創造された時からあらかじめ定められていた道であり、その道の上で、あなたがたはついに切望するものを手に入れることになるのだ。

12. この言葉を聞いてその道に立ち返る者たちは、祝福されるであろう。なぜなら、その道において、彼らはかつて軽んじていた遺産を再び見出すからである。

13. 私の道にも試練はありますが、それらは魂への指針であり、光であり、啓示でもあります。それによって、人生は、あなた方を破滅へと導く狂乱の奔流の中で立ち止まるよう、一押しを与えてくれるのです。

14. 弟子たちよ、あなたがたは千の試練にさらされている。それは、あなたがたの靈魂のあらゆる能力を目覚めさせ、あなたがたの心のすべての琴線に調和をもたらすためである。

15. この民こそ、預言と教えを授かった力強い子である。それゆえ、私は絶えず彼らに、私の言葉を実践し、それを自らの生活に当てはめよう告げている。そうすることで、彼らは自らの賜物の価値を知り、私の教えの真意を熱心に探求するようになる。そうしてこそ、私がかつて、「真理の霊を送り、過去の啓示を解き明かす」と約束した際に約束した光を見出すことができるのだ。

16. 私は、この民が人知れず、知られずに成長することを許している。人類がその存在に気づくことなく、沈黙を破る時が来るまで――それは、この人々が真理と御霊において一つになった時に起こるであろう。

17. あなたがたがわたしを聞くと、愛に心を震わせ、「この声をどこかで聞いたことがあるような気がする」と自問する。また、わたしを聞いた人の中には、「まるで川のほとりや山の上で、師が

説教しているのを見ているような気がする。一体どこで彼を見たの
だろう？」と言う者もいる。

18. そう、民よ、あなたがたは、私が人間としてこの世に生まれて
はいないことを知っていながらも、今、あなたがたに語りかけて
いるのが私であると、信仰によって確信している。なぜなら、私は
「雲の中に」現れると告げていたからであり、その通りになったの
だ。

19. 私が人間の知性を用いてあなた方に語りかけたのは、もし私
が霊から霊へと語りかけていたならば、あなた方は私の声を聞き取
ることさえできず、ましてや理解することなどできなかったからで
ある。

20. しかし、この種の啓示は短期間のものであり、まもなく終わ
りを迎える。なぜなら、将来、あなたがたが私の意志に従って私と
交わり、それを人類に告げ知らせる方法を理解できるようになるた
めに、ごく一部の者が私を聞き取るだけで十分だったからである。

21. わたしは、あなた方を一つの家族にしたい。そのためには、
あなたがたが一つの礼拝の形式を持ち、同じ律法に従うことが不可欠
である。

22. 民よ、まず、その兄弟愛と一致の模範を示し始めなさい。あ
なたがたがこれを達成しない限り、今いる隠された状態から抜け出
し、あなたがたの使命が待ち受ける道の光へと昇り立つことはでき
ないだろう。

23. この霊的な教えから放たれる光は、人類の精神を照らす。そ
して、人々が現在生きている時代について真の認識に至るようにな
れば、彼らは、すべての宗教を凌駕するこの教えの本質を、絶対的
な明瞭さをもって認識するようになるだろう。あなたがたは私にこ
う尋ねる。「師よ、では宗教は真実ではないのですか？」それに対
し、私はこう答える。もしそれらが真実であるならば、真実はただ
一つであるから、存在するのはただ一つだけだろう。それぞれの宗
教は、その至高の光の一部を含んでおり、それらはすべて、魂を導
き、知識の源へと近づける道である。

24. 絶対的な真理を所有する人間は一人もおらず、また、いかな
る書物にもそれは記されていない。この神聖な明晰さ、この全能の
力、この無限の愛、この無制限の英知、この完全な正義は、神の中
に存在する。神こそが唯一の真理である。

25. 私の教えを理解しなさい。あらゆる宗教は、真理を理解する
一つの方法ではあるが、真理そのものではない。それゆえ、あなた
方はそれらの間に存在する違いを目にしているのだ。もう一度言う

が、もしそれらが至高の真理を含んでいたならば、それらはすべて同じであり、一つの問題、一つの世界観、そして私のもとへ至る唯一の道を表していたはずである。

26. したがって、私の教えが世の中で認められるようになれば、人間はその理解によって、いかなる宗教よりもこの教えを優先することになるだろう。なぜなら、人間は、この教えをいかなる形で表現したり物質化したりしてはならないと悟るからである。そうすれば、この教えを「生命そのもの」に適用できなくなってしまうからだ。今、あなたがたは、この教えが、象徴を通じて感覚的に認識できるようにするためのものではなく、魂の中でそれを感じ取るためのものだということを理解すべきである。一度そう理解すれば、あなたがたは、見せかけや偽善、利己的な利益を伴わない、真の内的崇拜を父に捧げることができるようになるだろう。

27. 霊の教えは単なる理論ではなく、人間生活と魂の生活の両方に対する実践的な教えである。これほど包括的で完全な教えは他にない。それはあなたがたが地上に生まれる前から付き添い、この世での日々の営みの間ずっとあなた方を導き、魂がかつての住処へと帰るときには、魂と一体となるのである。

28. あなたがたの礼拝から典礼や伝統を取り除くのは、私ではない——それは、自らの発展の道を照らすより大きな光が必要であることに直面し、自ずと古い観念を超越していく人間の精神である。まもなく、人間は、神に捧げることができる唯一のものは愛の実践であるということを理解するようになるだろう。なぜなら、愛とは善、慈悲、知恵、そして正義を意味するからである。

29. スピリチュアリズムは、キリストがかつて説いた言葉のどれ一つとして消し去ることはない。もしそうではないならば、それは真理に背くことになるため、この名を名乗ることは許されないだろう。同じ師が語っているのだから、どうしてこの言葉がああ言葉に反することがあろうか。もしあなたがたがこの教えの真意を真に深く理解すれば、今日の私の言葉こそが、かつて私が語ったすべての事柄の説明あるいは解説であることに気づくでしょう。それゆえ、現在および未来の人類は、過去の世代よりも多くを理解することができ、それゆえに、より純粋で、より高尚で、より真実な方法で律法を履行することができるのです。

30. あなたがたが、周囲の人々が宗教を実践する様子を注意深く観察すれば、かつて彼らが崇拜の対象としていたものを、今では内なる共感を持たずに眺めていることがわかるだろう。その理由は、魂が自発的に目覚め、真に自分を養うことができるものを渴望して

いるからである。それゆえ、私はあなたがたに告げる。この人類による外的な礼拝の慣行は、やがて消え去る運命にあるのだ。

31. この言葉を受け取るあなたがたには、私の業を、そのありのままの素朴さ、霊性、清らかさ、そして単純さをもってに提示する責務がある。その際、あなたがたを真の道から逸らすような儀式や、新たな伝統、あるいは新たな象徴を作り出すという過ちに陥る余地を、一切残してはならない。

32. 神聖なものや霊的なものを物質的な形によって表現する時代は終わった。かつて人類が象徴や像を創り出したのは、その時代には律法が石に刻まれ、預言者たちは人間であり、「御言葉」が人となり、肉眼で見る事ができたという事実によるものであった。しかし今日、私は霊として来たり、私の使徒たちもまた霊としてあなたがたの元へやって来る。無限なるもの、表現し得ないものから、あなたがたはどのような新たな象徴や新たな形を創り出すことができるだろうか。

33. 霊の教えは、靈魂の表現であり、真の糧である。それゆえ、それはあらゆる物質化や、華美な儀式から一線を画している。

34. 今日、私があなたがたに語ったすべてのことを通じて、あなたがたは、隣人に対する自らの責任がいかに大きいかを理解するだろう。

35. 私の言葉が示す通りに従いなさい。それこそが、他の人々の前で私の業を伝える最善の方法となるでしょう。

36. 慈悲を実践し、光を受け、過ちに陥って躓いた者をその過ちから解き放ちなさい。平和と兄弟愛、そして一致の業を成し遂げなさい。そうすれば、私の愛があなたがたの歩みを導くであろう。

37. 魂の開花を志す人々の心の中で、私が光であることを理解しなさい。私は、苦しみによって押しつぶされそうな者たちにとっての慰めである。

38. 私は長い間、言葉でこの世に御自身を現していなかった。それゆえ、今、再びその声が聞こえるようになった今、あなたがたは、師の御声を聞き、その新たな御言葉を学ぶために、熱心に集まってくるのである。

39. 時折、私の霊が、あなたがたの理解力に即し、分かりやすい何らかの形で現れることが必要となる。あなたがたに語りかけるこの必要性は、私の律法に対するあなたがたの不従順、すなわち真の道からの逸脱に起因している。

40. 人間は、享受している自由意志ゆえに、被造物の中で最も反抗的な存在である。今日に至るまで、人間は良心の指針に従おうとはしなかった。

41. わたしの言葉は、ある者たちを制止し、他の者たちに指針を与え、すべての人を真理において強め、あなた方を深淵から救い出そうとするものである。

42. 「第二の時代」とは大きく異なる、私が今、自らを現すこの方法に、不快感を抱いてはならない。私が二度と同じ形を用いたことは一度もないことを知れ。それは、あなたがたを同じ教えにとどまらせることを意味するからであり、私は常に、あなたがたに新たな教訓を教え、新たな一步を踏み出す手助けをするためにやってくるのだ。

43. あなたがたの魂が、私を聞き取る際に感じる歓びは、私にも伝わってくる。なぜなら、私からの教えはすべて、それを活用する方法を知っている者にとって、光であり、励ましであり、悟りであり、備えであることを、魂は知っているからだ。

44. 疑いなく、それらを活用する弟子とは、人生において安心感を持ち、自らの使命を信じ、もはや死を恐れず、その代わりに、自分待ち受けているあの霊的な生を思うことに喜びを見出す人である。

45. わたしの教えに耳を傾け、それを自分のものとし、それに従う者は幸いである。その者は、この世で生きる術を知り、この世から離れる術を知り、その時が来れば、永遠の命に甦るからである。

46. わたしの言葉に深く没頭する者は祝福される。その者は、苦痛の理由、償いと贖罪の意味を理解するようになったからである。そして、絶望したり冒涇したりして自らの苦しみをさらに増大させる代わりに、信仰と希望に満ちて立ち上がり、自らの罪の重荷が日々軽くなり、苦難の杯がそれほど苦くなくなるよう、闘うのである。

47. 喜びと平安は、信仰を持つ人々——すなわち、父の御心に同意する者たち——に固有のものである。

48. もしあなたがたが隣人を愛し、父の御心を行えば——もしあなたがたが自由意志の一部を犠牲にし、良心が命じる通りに行動すれば——あなたがたの人生はどれほど輝きに満ち、あなたがたの科学はどれほど素晴らしく、先導的なものとなることか。そうすれば、あなたの科学は物質世界の境界を越えて、超自然的な領域に触れることになるだろう。なぜなら、これまでのところ、それはその境界にさえ近づいていないからだ。

49. 科学者の魂は、この世を去り、ついに神の真理と向き合ったとき、どれほどの動揺を覚えることか！　そこで魂は恥じ入ったように顔を伏せ、自らの傲慢を赦してほしいと懇願する。魂は、すべてを知り、すべてができると信じていた。自分の知識や理解を超えたものが存在することを否定していたのだ。しかし今、命の書、すなわち創造主の無限の御業の前に立つに至り、彼女は自らのな無力さを認め、絶対的な英知であられる御方の御前に謙虚に身を包まなければならない。

50. 私が許し、命じているのだから、なぜ今ここでこの書物をめくってみないのか。なぜ霊化を通じて準備を整え、その書物にたどり着き、そのページから啓発をもたらす教訓、あるいは秘密を解き明かす啓示を学ぼうとしないのか。

51. 民よ、霊的なメッセージや靈感を受け取ることができるのは、あなたたちだけではないことを知れ。この世には、私がこれらの伝達者を通じて御言葉を注いでいることを知らずとも、人類に啓示として注がれようとしている光の近さを予感している人々が大勢いる。彼らは私の霊から必要な準備を与えられ、あなたがたの証を聞き、あなたがたが彼らに私の神聖なメッセージを伝えるとき、歓喜してこう言うでしょう。「これこそが、私が待ち望んでいたものだ」と。

52. 私はこのようにしてあなた方を準備している。そうすれば、互いに出会う時が来たとき、あなた方は結びつきを築き、互いに理解し合うことができるようになるのだ。

53. もう一度言うておくが、この時期に私の御霊から啓示を受けているのは、あなたたちだけではない。なぜなら、さまざまな形で受け取られたすべてのメッセージが、この世において一つの霊的な力を形成する時が来るからだ。

あなたがたは、自分たちの役割を果たすことになる――私があなたがたに授けるもの、すなわち、私の新たな啓示である。なぜなら、その律法は新しいものではなく、私がかつてあなたがたに与えたものと同じものだからだ――それは、あなたがたが道から迷い出さないよう、私が思い出させた偉大なる真理の遺産である。愛する民よ、その律法こそが、明日の世界の種なのである。

54. 今日、あなたがたは依然として、疑念、懷疑、不信の時代を生きている。しかし、あらゆる魂に降り注ぐこの神聖な光は、不確実性の最後の影さえも払拭し、その時、真理は人々の生活の中で支配するようになるだろう。

55. 私の平和の言葉、愛の教えに耳を傾けるあなたがたは、決して不和をもたらしてはならない。それどころか、あなたがたの願いは常に、人々を結びつけ、平和を築き、互いに愛し合うことを教える戒めを成就することにあるべきである。

56. 自然界では、人類の科学者たちには説明できない出来事が起こるだろう。その時、あなたがたの言葉は、謙虚さにあふれつつも、同時に確信と自信に満ちて、これまで解決策が見出されていなかった多くの出来事や現象の原因を説明しなければならない。

57. 自然とは、巨大な被造物に他ならないではないか。そう、弟子たちよ、それは、その懷に明日の人類を宿することができるよう、同様に発展し、浄化され、開花し、完成へと向かう被造物なのである。

58. あなたがたは、その完全性を達成するための自然の過渡的な現象に、どれほど頻繁に不機嫌になり、それを神の罰だと見なしていることか。しかし、あなたがた自身もまた、自然や被造物と共に、浄化され、発展し、完全性に向かって進んでいることに気づいていないのだ。

59. たとえ今日、あなたがたが私の言うことを理解できなくても、時が来れば十分な悟りを得るだろう——その時には、周囲のあらゆるものと調和し、何ものもあなたを傷つけず、圧迫せず、病ませることもなくなるほどに。なぜなら、その時には、物質的なものの上に立ち、自然の力の支配下にはない境地に達しているからである。

60. あなた方はあまりにも未熟なため、自然が示す兆しを賞賛するどころか、しばしばそれを恐れてしまう。

61. いつになったら、あなたがたは、今のように奴隷ではなく、この創造のただ中で王侯のように振る舞えるようになるのだろうか。

62. 自然の力が解き放たれるのを見て、あなたがたが恐怖に満ちて祈り、神に憐れみを乞う姿を見ることを、私が喜ぶと思うのか。私は、あなたがたが心の平安に満ち、父の御業を称賛し、命が徐々に衰えていくことのない姿を見たいのだ。私は、平和と従順、そして理解に満ちた心から湧き出るような祈りを、あなた方から受け取りたいのだ。

63. ああ、もしあなたがたが、この人生の光を見るために目を開いたその瞬間から、靈的な世界や自然との真の調和を得るよう努めてくれたら、どれほど良いことか！ そうすれば、永遠の命へと続く道を切り開いてくださった創造主が、あなた方に与えてくださったこの存在がいかに美しいものであるかを、理解するでしょう！ あ

なたがたがそれを達成できるよう助けるために、私はこの第三の時代にやって来て、かつての教えを改めて伝えているのです。

私が「もう一度あなたがたのところへ来る」と告げたことを思い出してください。しかし、私の到来は「第二の時代」のように肉体によるものではなく、私の本質、臨在、そして力をあなたがたに明らかにするために、霊として来たのです。私は今、不信仰者や罪人たちの間に現れ、彼らに再び私の教え、私の教義を授けているのです。第二の時代と同様に、私を信じる者もいれば、私の臨在を否定する者もありました。しかし、私をとして認めた者たちの中から、私を証しする新たな弟子たちが現れるでしょう。

64. 見よ、人類は再び混乱している。しかし、私は彼らに感覚的な礼拝行為を教えるのではなく、父の御心が何であるかを彼らが理解できるよう、ただ愛の教えを与えるだけである。

65. 聖霊は、男性、女性、そして子供たちの間に現れた。彼らに私の恵みが注がれたのは、彼らがこの時代に私の臨在を証しする者となるためである。

66. わたしは、かつてあなたがたに与えたのと同じ律法を示し、同じ教えを思い出させるために来たのである。なぜなら、崇高な知恵を持つ父は、決してあなたがたを惑わすために来られたことは一度もないからである。聖霊の光は、私の教えのすべてをあなたがたに解き明かすために、あなたがたを照らした。それは、あなたがたが、そしてその後、全人類が、愛をもって、行動と思想において完全さを保ちながら、それらを実践できるようにするためである。

67. 人間は、その墮落の極みに生きています。人間は物質的なもの、すなわち金や地上の権力のみを追い求めています、その靈魂は私の平安を切望しています。

イスラエルよ、あなたたちもまた、長い年月をかけて険しい道を歩んできたが、互いに愛し合い、団結する術を知らず、互いに拒み合ってきたため、まだ約束の地にはたどり着けていない。しかし、この第三の時代において、わたしはあなたたちをわたしの食卓の最上の席に招き、あなたたちを慈しんだ。それは、父としてわたしがあなたたちと共にいることを知ってもらい、あなたたちが皆、一つの家族となるためである。

68. 民よ、祝福された子供たちの心を育み、彼らが幼い頃から互いに愛し合い、愛と正義の道を認識できるようになれ。

69. この時代において、わたしの言葉は再びあなたがたを照らす。あなたがたが清く、優雅であるように、わたしは恵みを豊かに注ぎたい。しかし、もしあなたがたが再び罪に陥るならば、民よ、あ

なたがたをわたしの懷から遠ざけるのはわたしではなく、わたしの意志に反して、あなたがた自身がわたしから遠ざかっているのだと悟りなさい。それでも、わたしの赦しと愛は、悔い改めてわたしのもとに戻ろうとする者なら誰をも迎え入れる、開かれた門のようなものである。

70. イスラエルよ。あなたがたはこの時代の使者であり、わたしがあなたがたを、わたしの忠実な僕となるよう選んだのだ。あなたがたは心に痛みを抱えながらも、献身的で従順であることを、わたしは見ている。だから、こう告げる。わたしはあなたがたを立ち上げらせてあげよう、祝福された子供たちよ。人々も自然の力も恐れるな。遠くへ旅立つことを恐れるな。なぜなら、あなたがたを選び、わたしの恵みで包んで、立ち上げらせ、あらゆる時代にスピリチュアリストたちに向けて目覚めの呼びかけを響かせ、彼らがこの世の混乱や狂信から背を向けるようにしたのは、他ならぬわたしだからである。靈性に満ちた行いを通じて、彼らに私の真の教えを示しなさい。

71. 「愛するイスラエルよ、わたしに耳を傾けよ！ 靈的な目を開き、あなたがたの父の栄光を見よ。良心を通してわたしの声を聞き、靈的な耳で天の旋律に耳を傾けよ。そうすれば、あなたがたの心と靈は喜び、平安を感じるだろう。なぜなら、わたしこそが平安そのものであり、あなたがたをその中に生きるよう招いているからだ。私は、私がいつの時代も人類に対して抱いてきた愛を、あなたがたに明らかにする――それが、イエスが『第二の時代』において、あなたがたを罪から贖い、愛を教え、あなたがたの靈と心に真の教えを刻み込むために、その最も尊い血を流した理由である。」

72. 愛する民よ。もしあなたの歩みの途中で、試練や苦痛が大きくなったとしても、心から湧き上がる真の祈りを捧げて、父のもとへ立ち上がってください。そうすれば、あなたは力を得て、父の御名を賛美することになるでしょう。

私の平安があなたがたと共にありますように！

教え 284

1. 民よ、父があなたに差し出す永遠の命のパンを食べなさい。私の言葉を活用しなさい。なぜなら、あなたがたは、この形による私の啓示の終わりに立っているからです。今、父がすべての魂と知性の中に注ぎ出している光に、あなたがたの魂を完全に目覚めさせなさい。

2. 私の霊の光の火花、すなわち神の言葉の反映こそが、私あなたがたに私のメッセージを聞き取れるようにしている「声の媒体」の霊の上に降り注いでいるのである。「言葉」の全き力を受け取ることのできる人間の「声の媒体」など、果たして誰がいるだろうか。誰もいない。そしてまことに、私はあなたがたに告げる。あなたがたは、まだ「言葉」とは何かを知らないのだ。

3. 「言葉」とは、命であり、愛であり、神の言葉である。しかし、声の媒体は、そのすべての中からほんの一粒しか受け取ることができない。だが、ここ、その光線の中、その本質の中に、あなたがたは無限、絶対、永遠を見出すことができるだろう。わたしについて語るにあたり、わたしは偉大な業によっても、また小さく限られた現れによっても、それを成し遂げることができる。私は万物の中にあり、万物が私について語っている。大きなものも小さなものも、等しく完全である。人間はただ、観察し、考え、研究することを理解すればよいのである。

4. 私は、このメッセージを受け取るために地上に遣わされた、あなたがたの魂に語りかけている。それは、後にあなたがたが愛と慈悲の行いを通じて、人類に私の教えを証しするためである。私は、不滅の本質と性質を持つ、あなたがたの靈魂に語りかけている。私は、この世で支えとなっていた肉体を大地に委ねた後、あなたがたに待ち受けるあの命について語っている。そうして、解放の時が来たとき、あなたがたがその瞬間を祝福し、視線を無限へと向け、舞い上がり、自らの功績によって勝ち得た故郷へとたどり着くことができるように。

5. この世に生きている間は、その法則を遵守できるよう、ある限度までこの世のものを愛しなさい。しかし、高き霊的な世界に住むという崇高な目標を常に抱き続けなさい。そうすれば、魂が肉体の殻を脱ぎ捨てたとき、この惑星で愛したものに誘惑されて心を乱されることもなく、もはや属することのない、また決して楽しむことのできない世界に縛られ、鎖でつながれたままになることもないだろう。

6. 私はあなたに告げる。もしある民族が立ち上がり、皆が真理の道を教えるならば、人類はそれに従って立ち上がるだろう。なぜなら、人類は道を見失い、道を踏み外し、苦しみ、つまずき、絶望していると感じているからだ。

7. 人類は、救いの地へと至るために、どこへ歩みを向けるべきかを教えてくれる、兄弟であり、友人であり、助言者である者の到来を待ち望んでいる。

8. 現代の人々の精神的な混乱は、父が古来より与えてきた啓示を拒んできたために、深く深刻なものとなっている。彼らは唯物論的な科学に没頭し、その過程で自らの本質と生命の真髄を完全に忘れてしまったのである。

9. わたしはこの唯物論的な世界へ、あなたがたを遣わし、わたしの教えの福音を伝えるようにする。まことに、あなたがたの証し真実であるならば、人々は、目に見えない導き手と、この世のものではない声に導かれる民を見て、驚嘆するであろう。

最初は好奇心から、人々はあなたがたの歩みや行いを観察するようになるでしょう。しかし、やがて信仰によって、人々はこう叫ぶようになるでしょう。「まことに、この人々が説くことは真実だ」と。

10. あなたがたが、世に警鐘を鳴らす準備が整うまでは、私のマントが他者の目からあなたがたを隠しておく。なぜなら、あなたがたの不完全さは疑念や嘲笑、迫害を招き、あなたがたの弱さは敵の攻撃に耐えられないからだ。しかし、今こそ備えなさい。戦いの時が訪れ、私がマントを脱ぎ捨て、世界があなた方を見るようになるからだ。

11. すべての「働き手」は、その唇に私の言葉の火花を宿し、その手には私の知恵の書を持ち、それが彼らに私の神聖な教えを思い出させるだろう。私によって靈感を受けたその書は、私の弟子たちによって丹念に編纂され、その力は偉大であるゆえに、民にとっての防壁となるだろう。

12. そこからどれほどの知恵が溢れ出るだろう！ どれほどの癒しと慰めが人々の心に注がれることか！ それは、かつて私の言葉を発見したものの、その後それを聞くことがなくなった者たちにとっては喜びとなり、また、一度もそれを聞いたことのない者たちにとっては喜びとなるだろう。

13. それを読むことによって、「死者」たちはよみがえり、道に迷った者たちは道を見出すだろう。この時代にわたしの啓示を証し

できるよう、あなたがたに託されたこの書の真理を守り抜くがよい。

14. もし私が今この瞬間に、あなたがたの木が実らせた果実とは何かと尋ねたなら——あなたがたは私に何を示すことができるだろうか？もし私が、あなたがたが私から受けた教えについて問いただしたなら——あなたがたは私にどのような答えを返すだろうか？

15. あなたがたは沈黙し、その心の中には、あなたがたの働きが私によって裁かれるのではないかという恐れが私に見えている。しかし、私はあなたがたに問う。なぜ恐れるのか。もしあなたがたが使命を果たしたのなら、恐れることは何もない。逆に、もし過ちを犯したのなら、私がそれを正してあげるほうがよいのだ。

16. 名ばかりではなく、行いにおいても霊性主義者であろうとする意志を持て。なぜなら、偽りの追従者や偽りの弟子たちで、この世は溢れているからだ。もしあなたがたが、精神化を旗印とし、光と愛を武器とする教えを心に受け入れたのなら、これらの美德を世界に示さなければならない。あなたがたが、本当に自分の収穫を父に受け入れてもらいたいと願うなら、これがあなたがたが蒔くべき唯一の種であるべきだ。

17. 第二の時代にわたしに従った者たちを模範とせよ——それは使徒たちだけでなく、わたしの言葉に回心し、その行い、さらには自らの命をもってわたしの真理を証しした、数多くの男女たちをも含めるのである。

18. それらの心は、至高の清らかさと最高の真実性を追求していた。それゆえ、彼らは自らのあらゆる行いにおいて、師が教えを輝かせたあの光が放たれるよう心掛けたのである。

19. 同様に、新しい弟子たちもまた、彼らが無気力から引きずり出すために神聖な愛のメッセージをもたらしたその御名を尊ぶべきである。

20. もしあなたがたが、私の業の霊的な意味を理解しようと努め、真の弟子の愛をもってそれを受け入れるならば——まことに、私はあなたがたに告げる。そのとき、良い実がすぐに現れるであろう。そして、その実とは、再生、良心の光の中での善への回帰、健康、和解、そして平和の実である。

それに対して、もしあなたがたが真実を覆い隠すために美しい見せかけを追い求め、私の業を用いて自らの不完全さや弱さを隠そうとするならば、あなたがたは、私がすでに救い出したあの闇と汚れへと逆戻りすることになるだろう。

21. わたしの教えは、その本質において霊的なものであり、光であり、力である。それは降り注ぎ、あなたがたの魂に浸透し、悪との戦いにおいて、魂が勝利を収めるように導く。わたしの言葉は、単に耳に心地よいだけのものではなく、魂の光そのものである。

22. 魂をもってわたしに耳を傾け、魂が養われ、この教えの真意を活かすことを望むか。それなら、心を清め、知性を澄ませ、良心に導かれるようにしなさい。そうすれば、あなたがたの存在の中で、魂だけでなく、道徳的にも、そして肉体的にも、変容が働き始め、それが実感されるようになるだろう。認識を通じて魂が徐々に獲得していく高み——魂が徐々に到達するその清らかさは、心の感情や身体に健康に反映されることになる。

23. 情熱はますます弱まり、悪徳は徐々に消え去り、狂信と無知は、真の信仰と、わたしの律法における深い悟りに、ますます道を譲っていくでしょう。

24. もしあなたがたが、多くの人々に耳を傾けてもらい、その言葉が人々を納得させ、心を揺さぶることを望むならば、その言葉が聞き手の魂に深く浸透するような方法を模索しなさい。しかし、どうすればその言葉が人々の心に浸透し、彼らの魂に感銘を与え、目覚めさせることができるのか。それは非常に簡単である。その秘訣は、常に真理に忠実であり、愛の行いによって証しを立てることにある。

25. わたしの父なる霊が、あなたがたを教え、「整え」、あなたがたの魂と肉体の感覚を目覚めさせ、刷新と律法の履行の生活を送るよう促すために近づいてくる。

26. わたしはあなたがたにすべてを与えた。それは、あなたがたが高みへと昇り、この世において、またあなたがたを待ち受ける来世において、自らの平安を築き上げるために、この地上に遣わされたことを知るためである。

27. わたしの教えを学び、わたしの律法を全うしようと努める者——わたしの言葉が放つ光に照らされ、祈りと警戒をもって従順の道を歩み続ける者——は、祝福されるであろう。

28. 今日、あなたがたは誤りと混乱に満ちた世界に暮らしているが、わたしはあなたがたをそこから遠ざけ、わたしの律法に従って生きるように導いた。そして、あなたがたの準備が整ったとき、わたしはあなたがたを人類のもとへ遣わし、わたしの教えを分断し、わたしの言葉を誤って解釈してきたすべての人々に、わたしの光を示すようにする。

今日、あなたがたが見ているあらゆる相違は消え去り、人の心は変容するだろう。人は自らの行いから得た収穫——それは彼に不快な後味を残しただけだった——の後、で清められた大地に私の種を蒔き、それを育てていく。これこそが、靈化が始まる時となる。

29. 「働き手」としてのあなた方の生涯に降りかかるあらゆる試練は、あなた方の信仰を強め、私があなた方に授けた賜物を認識させるために起こる。ただ私の言葉を聞き、それを周囲の人々に伝えるだけに留まっていたら、あなた方は使命を果たしたことになる。あなた方は語り、その言葉を行いによって裏付けなければならない。あなたがたの多くは、進んで自らの命を捧げることで、わたしの教えを証しすることになるでしょう。しかし、わたしはあなたがたに血の犠牲を求めたわけではありません。

まもなく、あなたがたは人類の中で、飢えた狼に囲まれた羊のようになるだろう。しかし、あなたがたは眠ることはない。一筋の光が常にあなたがたの道を照らし、最も暗い夜でさえ、その光は輝き続けるだろう。

30. 私は、靈的な知識に関しては眠りにについている人間に出会った。その人間は、物質的な科学に没頭し、自らの靈魂については顧みることなく、自然界の最大の神秘を発見していた。私の教えを理解するためには、どれほど大きな努力が必要となることか！ 私の業は、水晶のように澄んだ水の川のようにこの人類の上に降り注ぎ、彼らの知識への渴望は満たされ、準備を整えた者は皆、その恩恵を受けることになる。

31. わたしに耳を傾ける者たちよ——目を覚ませ。わたしの教えに、いかなる外部からの影響も混入させてはならない。その本質と真理を守り抜けば、不信と疑念を抱くこの人類が、わたしの善良な弟子たちの行いを知ったとき、信仰をもってわたしの教えを受け入れるのを、あなたがたは目撃することになるだろう。

この世界に平和と正義の王国が訪れることを切望するあなたがたすべてよ、祈りを通じてこれらの美德を引き寄せなさい。その時が近づいている。あなたがたが、わたしの神性以外の導き手を持たないその時代に入る前に、今こそ、同胞たちを正し、教え、啓発しなさい。

32. わたしの靈感はすべての魂に降り注いでいる。わたしを見、わたしに従いたいと願う者は、立ち上がって、わたしのところに来なさい。あなたがたの霊が、日々どのように生きるべきか、どのように問題を解決すべきかを教えてくれるだろう。あなたがたが靈的

になれば、あらゆる試練や苦しみの中に、高みへと登り、自分を完成させるための階段を見出すようになる。

33. あなたがたの家を、両親がわたしを代表し、互いへの愛と敬意があなたがたの礼拝となる樂園としなさい。しかし、この愛を家族だけに限定してはならない。そうすれば、あなたがたは、両親や子供たちに対してそうしているのと同じように、すべての隣人を愛することができるだろう。

34. わたしは、愛と尊敬に基づいた公正な律法を、わたしの選ばれた民を通して制定する。14万4千の魂が準備されてきた。ある者は霊界におり、また肉体を持つ者たちについては、わたしが世界中に散らしている。それは、その時が来たとき、彼らが豊かな靈感に満ち、わたしが彼らの口を通して語り、わたしの言葉が広まるためである。

35. エリヤはすべての者のために道を整えている。そして、第二の時代と同様に、わたしはあなたがたに告げる。「エリヤはあなたがたにどれほど近くにいたことか。それなのに、あなたがたは彼を認識しなかったのだ！」わたしの王国が人々に近づいたときはいつでも、彼は人々の心を整えてきた。この時代においても、あなたがたの間ではまさにそうであった。

36. 誇示することなく、ひっそりと働きなさい。他者と自分を区別しようとする欲求を抱いてはならない。目立たぬように自分の道を歩みつつ、心には人々への大きな愛を抱きなさい。彼らを守り、助け、あなたの心が箱舟のようになるよう心がけ、その中に病める者、罪人、そして正義への飢えと渇きを持つ者たちに居場所を与えなさい。すべての人々に、魂の救いの目標として霊性を示しなさい。そうすれば、彼らはわたしに従うだろう。しかし、高慢な者たちは、この時代においてもなお、わたしの声に耳を傾けることなく、再び遠ざかってしまうだろう。その後、試練や出来事が、わたしのすべての啓示を物語ることになる。その時、ある者は回心するが、他の者は依然として、神のメッセージに対して心を閉ざしたままであるだろう。

37. 私は、公職にあるすべての人々——統治者、教師、裁判官——を祝福する。啓示を受け、その使命を果たしなさい。

38. さあ、私の言葉に耳を傾けなさい。道徳的にも精神的にも不完全な人々を通して私の言葉を聞くことに、何の問題があるというのか。もしあなたがたが、私がこの時代に、私の啓示のために最も不適切な手段を選んだと考えているなら、それは誤りである。もし

あなたがたが、このようにして人間に私を啓示することが進歩的な形ではないと信じているなら、それは軽率な判断である。

39. 私が人類に語りかけるために、あなたがたの精神と知性を用いているという事実こそ、あなたがたの魂が到達した発展の段階を示しているのではないだろうか。

40. 霊的な交信の時代は、何らかの形で始まらなければならなかった。そして、その方法は、1866年以来あなたがたが経験してきたものであり、1950年に終わりを告げ、霊と霊との対話に道を譲らなければならない。

41. 私の意志によれば、伝達者たちを通じた私の啓示は一時的なものに過ぎず、この民にとって、この真理を証し、広め、そして世界に「第三の時代」の到来を告げ知らせるための規範、法、そして基盤となるべき、準備の短い段階に過ぎない。

42. 人間の知性を通じた私の啓示が、稲妻のように儚いものであると定められていたのと同様に、この啓示に立ち会い、このメッセージを受け取るよう召されるのは、ごく一部の人々の集団のみであることも、あらかじめ定められていたのである。

43. 一方、霊から霊への対話は、時間的な制限なく全人類に届くであろう。なぜなら、わたしを求め、受け入れ、祈り、わたしに耳を傾け、わたしを感じるというこの形は、永遠に通じるものだからである。

44. わたしの言葉を聞き、わたしの教えを集めてきたこの民の責任は、なんと大きいことか！ あなたがたに告げる。世界が霊化への一步を踏み出す前に、世界は、この準備の段階において、わたしがあなたがたに啓示したすべてのことを経験しなければならない。この段階において、わたしはわたしの代弁者たちの口を通してあなたがたに語りかけ、あなたがたが後にそれを研究できるよう、わたしの言葉を書き留めさせたのである。

45. 愛する民よ、あなたがたは主と調和できるよう、備えなさい。見よ、私は私の役割を果たしている。私はすべて、すなわち全人類のために準備を整えている。たとえ彼らがそれを知らなくても、今この瞬間、彼らは自らを清めているのだ。最大かつ最も強力な軍勢を成す霊界は、わたしの業を支え、わたしの決定に従っている。そして、わたしはあなたがたが、悟りを開いた人々の民、わたしの御言葉の忠実な証人、霊的な光を蒔く者たちとなることを望んでいる。彼らの働きは、世界を目覚めさせ、証しをなし、警告を与えることに役立つのである。

46. 第六の封印は解かれ、地上の霊化の先駆者であるあなたがたに、その内容の一部を示した。しかし、今日あなたがたが耳にするこの言葉が一度途絶えたとしても、その光は引き続きすべての人々に注がれ続けるであろう。

47. 第六の封印は、未来の人類に何を明らかにするのだろうか。私があなた方を知恵の宝の相続人としたことを考えれば、それは極めて大きな啓示となるだろう。

48. 第六の封印は開かれ、誰もそれを閉じたり、その光が魂たちに届くのを妨げたりすることはできない。それは、誰も時の流れを止めたり、王の星の光があなた方の世界へ届くのを妨げたりすることができないのと同じである。

49. 長い間封印されていた「知識の書」——あなたがたの魂がそこに踏み込む準備が整うまで——私はそれを開いた。あなたがたの師である「子羊」の愛がそれを開いたのだ。その光は強烈に輝いているが、地上の多くの人々はそれに気づいていない。

50. まもなく、直感力に富む者たち、靈感を受けた者たち、魂の感受性豊かな者たちが立ち上がり、諸国において、彼らが霊によって見ていること、感じていること、聞き取っていること、そして受け取っていることを証しするだろう。改めて言うておくが、わたしの民は、これらの代弁者を通じてわたしの声を聞いた者たちだけに限られるのではない。わたしは、後に種を蒔く者たちが訪れるべき道を整え、畑を耕すために、わたしのしもべたちを地球のさまざまな場所に遣わしたのである。

51. わたしは彼らを力づけ、祝福する。彼らの日々の働きは苦難に満ち、その道は茨に覆われているからだ。嘲笑、侮蔑、中傷、そして卑劣な行為が、どこへ行っても彼らに付きまとう。しかし、彼らは——直感に導かれ、靈感に満ちて——自分たちがわたしから遣わされたことを知っており、その使命を果たすために道の果てまで進む意志を持っている。

52. あなたがたが知らないが、使命を果たし、あなたがたのために道を整えるよう努めている、これらの兄弟たちのために祈りなさい。彼らは、あなたがたが長い間聞いてきたこの言葉による神聖な励ましを、この世では受けてこなかった。そして、彼らを導く霊的な啓示を受けるために、この世の多くの安楽を犠牲にしなければならなかったのだ。

53. あなたがたはどの教えも千回も聞いてきた——もし私の教えに従わなかったとしたら、どのような言い訳ができるのか？ 何もない。もし彼が、あなたがたの過ちを罰するために現れたとき

、苦痛の中で、あなたがたはどのような反抗や反逆を示すことができるだろうか？しかし、私が、苦痛による浄化を避けるために、愛によって自らを清め、互いに仕えることによって自らを新たにしよう、あなたがたに教えてきたことを忘れてはならない。

54. 私の言葉は、愛に満ちた正義に貫かれているがゆえに、厳しい、冷酷だと考える者もいる。その理由は、彼らが自らの良心と向き合う術を知らず、また高慢さゆえに自らを裁こうともしなかったからである。

55. もしあなたがたが、自分の不従順、神聖なものを冒瀆した行い、虚栄心、そして隣人愛の欠如の結果を目の当たりにし、私があなたがたに差し出したものとは正反対の、苦しみの杯を飲み干すことになれば、そのとき、あなたがたは確信を持ってこう叫ぶだろう。「師の非難には、真実と正義があったのだ！」と。

56. わたしは、あなたがたの共同体を構成するすべての人々の群れを一つにまとめるといふ使命をあなたがたに託したが、あなたがたはそれを果たさず、わたしの正義を疑った。わたしは忍耐強く、あなたがたがこの使命を遂行できるよう時間を与えてきたが、これまであなたがたはそれに取り組もうとはしなかった。では、あなた方を目覚めさせ、清め、団結させるのが、私の正義であることを望むのか。もしそうであるならば、愛する民よ、あなた方はその日や時刻を知らないかもしれないが、それは必ずやって来る。なぜなら、私は、不誠実な心を抱いたまま私の真理を証しさせるために、あなた方を見捨てたりはしないからだ。

57. 同様に、質の悪い書物も証として残してはならない。なぜなら、虚偽や不完全なものが混じった証は、焼き捨てられるべきものだからである。汚れや不浄なものは、私が自分の子供たちに差し出すことのないのと同様に、私のところには届かない。まず、種を丁寧に清め、それから初めてそれを蒔かなければならない。

58. この日のわたしの言葉は、苦い杯ではなく、水晶のように澄んだ水の泉である。その泉に心を浸し、心をより清らかにし、御霊に光を与えることができる。

59. 愛をもってこの言葉を受け入れ、深く考えなさい。そうすれば、この日々の業を続けるための力が強まるだろう。

私の平安があなた方とともにありますように！

教え 285

1. 善意ある人々に、わが平安あれ。まことに、あなたがたに告げる。この平安を魂に抱く者は、わが臨在を感じるであろう。

2. この教えの期間において、あなたがたは試練の中で私の平安を感じ、苦しみの中に慰めを見出してきた。このようにして、私はあなたがたに、善意をもって自らの使命を受け入れる者は、あらゆる取り組みにおいて前進することを証明してきた。その者はつまりくかもしれないが、決して倒れることはない。

3. 時折、あなたがたは私にこう言います。「主よ、私たちは他の人々と同じように恩知らずで不従順であるにもかかわらず、なぜ他の民族のように私たちを罰されないのですか？」それに対して、私はこう言います。それは、あなたがたに準備のための時間を与えているからです。もし戦争があなた方を脅かしていたら、あなた方は私の言葉に耳を傾け、その言葉について深く考えることができるでしょうか？私があなた方に託したこの時間がどれほど貴重であるか、そして、その時間を霊的な準備に充てるというあなた方の責任の重さを、よく理解してください。

4. この時間を、あなた方自身と隣人の霊的な幸福のために用いるためには、良心の声に耳を傾けて頻繁に自己点検を行わなければなりません。そうすることで、自己点検すべき点をすべて見出すことができると同時に、あなた方の生活における様々な行動に、私の教えをどのように適用すべきかを理解することができるのです。

5. 人類が置かれている状況を、本当に心を痛めていますか？戦争によって自らを破壊している諸国の痛みを、あなたの心は感じていますか？それなら、彼らのために功德を積み、祈り、そして思いやりをもって彼らに平和を送ってください。

6. 今、あなた方には、世界を脅かしているものが災いであるかのように思えるでしょう。それについて、私はこう言います。あなたがたがしばしば不幸と見なすものは、実は良いことなのです。

7. 苦痛、悲惨、そして死さえも、節度なく生き、限りなく罪を犯してきた多くの人々の元へ、祝福として届けられることになるでしょう。

8. ああ、もしあなたがたが、肉体に降りかかる痛みこそが、精神にとっての癒やしであり安らぎであることを理解してくればよいのに！なぜなら、肉体が健康で安泰であった間、魂はしばしば破滅へと引きずり込まれたり、あるいは、快楽と奔放な情熱に満ちた人生の中にありながら、魂のための光がないために囚われていると感

じたりしていたのだから。やがて、人間の情熱よりも強力な力として痛みが訪れ、盲目的に突き進む人間を止め、魂が解放され、その痛みを祝福し、神の正義ほど賢明な正義はないと悟るよう導くのである。

9. ある者はすぐにこの悟りに至り、それによって多くの苦しみを免れるが、他の者は頑固で理解が遅く、ついには冒涇し、罵り、それによって自らの苦しみの杯を増すことになる。

10. 民よ、すべての人々のために祈りなさい。苦しむ国々がその痛みの中で清められているからといって、彼らのために祈らないという理由で、自分の責任から逃れてはならない。確かにその苦しみは彼らを清めるが、あなたがたの祈りと想いが、彼らが愛をもってその苦しみの杯を受け入れる助けとなり、それによって苦しみの中に込められた意味を理解し、魂の中に改善への決意と、彼らを兄弟愛へと駆り立てるインスピレーションが湧き上がるのだということを理解してほしい。

11. あなたがたが正しく祈るならば、わたしはあなたがたの魂を解き放ち、平和の鳩として、健康と光の使者として、彼らのもとへ届けるようにする。

12. これらの勝利について、あなたがたの心は誇りを持つことはできないだろう。なぜなら、あなたがたが霊的に成し遂げている行いについて、心は何も知らないからである。

13. これらの行いは、あなたがたの功績の書に次々と記録されているが、それを知っているのはわたしだけである。その書は、徐々にあなたがたの精神に刻み込まれていくのだ。

14. あなたがたは大きな出来事の直前に立っている。人類が何らかの出来事、試練、あるいはしるしによって揺さぶられない日は一日たりともないだろう。それは、人々にその思いをわたしに向けよと呼びかける、わたしの正義の絶え間ない声である。そして、この試練の日々において直感が目覚め、思索を重ね、これらの試練を神の正義によるものと結論づける者たちは皆、私の光に満たされ、かつて生きていた霊的な無気力状態に再び陥ることのないようにされるだろう。

15. 人類よ、わが正義は到来した。それは人間の傲慢を砕き、その邪悪さと物質主義の中で、人間がいかにかっぽけであるかを悟らせるためである。

16. そう、民よ、私は、その誤った偉大さに浸っている人間を打ち倒す。なぜなら、私が望むのは、彼らが私の光を見出し、立ち上がって、真の意味で偉大になることだからである。私は、あなたが

たが光、寛大さ、慈愛、力、そして知恵に満ちあふれることを望んでいるのだ。

17. 私の声は再び聞こえるようになる。それは、太古の昔に預言者たちが告げ、また私が弟子たちに明らかにした通りである。

18. 今こそ、私が御霊による再臨を約束した時である――あなたがたが、自分たちの内にも外にも私の臨在をに感じ、御霊から御霊へと私と結びつくことを学ぶ時である。

19. わたしは今、一見貧しいように見えても、社会から疎外された者も、悲惨な者も、精神的に弱い者もない民を育てている。一人ひとりにその賜物を明らかにし、満足してわたしの弟子となり、隣人の役に立てるよう歩み出せるようにしている。

20. わたしの新しい民は、預言者、助言者、教師、そして魂の医師たちから成るであろう。

21. わたしの言葉は、彼らの信仰の炎を煽るそよ風のように、その心へと届く。なぜなら、わたしは彼らを常に灯火のように燃え続ける姿を見たいと願っているからだ。

22. 第二の時代における私の言葉は、私の御業と同様に、人々に天への道を開いた。そして現代において、私はあなたがたに新たな教訓をもたらした。あなたがたは霊界の声を聞き取らなかったのか。あなたがたは、かつては遥か遠く、不確かなものだと考えていたあの世界の近さを感じなかったのか。

23. あなたがたの霊的な兄弟姉妹が、どれほどの光と愛をもって、あなたがたに現れてくれたかを悟りなさい。

24. あなたがたは、あの光の精霊たち、すなわち守護天使や平和の守護者たちが、どこからやってくるのか正確な場所は知らない。しかし、彼らがより高次の来世の世界からやってくるということは、確信しているはずだ。

25. そうである、人類よ。彼らは、あなたがたが完全性へと昇華できるよう助けるために、あなたがたの世界よりも高い住処や世界からやって来ているのだ。同様に、彼らは他の地球の世界に住み、同じくより高い知恵を必要としている者たちをも助けている。

26. もし誰かが、これらの講義を通じてあなた方に語りかける私の教えを悪いものだと考えるならば、私は真実を告げよう。その者は、自分が何を言っているのか理解しておらず、神聖なる師をも知らないのだ。あなた方は、存在や世界が霊的に近くにあることを感じ取れないのか？ すべてをひとつの家族とするという神の計画を、察することができないのか？

27. 私がこれらの啓示をあなた方に与えるのは、あなたがたが、地上において長い間物質的な生活の向上に専心してきたのと同じように、自らの未来について考え始めるためである。

28. 霊界の声を聞きなさい。それは、魂が絶え間なく活動している証である。魂は、自らを磨き、過ちを償い、使命を引き受け――一言で言えば、父に近づこうと努力しているのだ。

29. この「第三の時代」、すなわち聖霊の啓示の時代において、聖霊があなたがたに霊的な生活について語られたのは、ごく当然のことだったと理解しなさい。

30. なぜなら、この教えこそが、情熱、貪欲、悪意、傲慢、そして人間の不正な策略という、荒れ狂う嵐の海から人類を救い出すことができる唯一のものだからである。わたしの言葉は、情熱の海で転覆した難破者たちを救うための救命ボートとして到来したのだ。

31. 弟子たちよ、わたしはあなた方にわたしの言葉を託す。その言葉の真意の中に、わたしを感じ取れ。明日、これらの伝達者たちは姿を消し、彼らの使命は変容するだろう。そして、わたしの意志に従って黄金のペンによって書き記された、あの書物に記されたわたしの言葉だけが、残されることになる。

32. 弟子たちよ。この啓示を通じて私の言葉を悟る者は、今こそ、人間の悪によって破壊されたすべてのものを回復させる取り組みに着手すべき時が来たことを、また悟らなければならない。

33. もし、招かれた者たちが皆、魂を養う食事が供される主の食卓へと駆け寄ったなら、その食卓は満席となるだろう。しかし、招かれた者たちのすべてが来たわけではない。

34. 神の恵みを感謝しないのは人間の本性であり、それゆえ、あなたがたが人々に呼びかけをしたとき、多くの同胞があなたがたを拒絶するのを見てきたのである。

35. しかし、わたしはあなたがたに告げる。わたしの食卓に着き、わたしから学ぶために粘り強く耳を傾けるこの少数の人々こそが、人々の群れに、わたしの言葉の偉大さ、すなわち、終わりを迎えつつある世界を再建し、より輝かしく、より高みへと導くこの教えの真髄を伝える者となるであろう。

36. あなたがたが、伝達者たちを通じて、より清らかな言葉と、より清らかな啓示を受け取れるように、わたしはあなたがたに霊性化と簡素さを勧めてきた。そうすれば、熟した果実のように、愛に満ちた、深みのある言葉が彼らの唇から湧き出るからである。

37. 私の言葉の真理と光が最も強く輝くのは、その形式の簡素さにあることを自覚せず、大衆の感覚に印象を与えるような、外見上

印象的な表現を追い求める者たち——そのような者たちに対して、私はこう告げる。あなたがたが私の教えの中で行う行いや振る舞いにおいては、真実さのみが支配すべきである。

38. たとえそれらの神秘が、あなた方にとって未知なるものとしての魅力を帯びていようと、もはや魂を神秘で養う時代は終わったのである。

39. なぜ、同胞たちが理解できないような外的な顕現によって、人々を感銘させようとするのか。なぜ、一見超自然的な行為を見せびらかすのか。それらは実際には光も真理も欠いているではないか。わが言葉から醸し出される本質は不十分なのか。あるいは、私があなたがたの口を通して語っているという事実こそが、称賛に値するものではないのか。

40. あなた方の多くは、なんと感覚に囚われていることか！しかし、あなた方は、私の啓示——それが私のものであるがゆえにこれほど素朴で単純なもの——に何かを付け加えることは、すべて、周囲の人々が真理を認識することを妨げる、ざらざらとした粗いベールとなるのだと、確信に至らなければならない。

41. この働きがあなた方に提示するいかなる使命の遂行に着手する前に、私があなた方に教えたこと、そしてあなた方が行おうとしていることについて深く考え、私の律法に反する行為を何一つ行わないようにしなさい。

42. 従順な弟子であると自認する者たちのうち、どれほど多くの者が——自覚することなく——私の意志に反抗していることか。また、スピリチュアリズムの使徒であると自認する者たちのうち、その行いゆえに、それを真っ先に拒絶している者がどれほど多いことか。それゆえ、彼らは自ら説く教えの敵となっているのである。

43. 霊的に発達した人間には、何が期待されるのか。自己を統制すること、そしてその能力や霊的賜物を発揮することが期待される。人間の知性はますます高まり、ますます多くの人々が神の御業を理解できるようになることを理解せよ。魂に関しては、それは無為のままでいることはできません。その発展への渴望は本能のようなものであり、魂を向上へと駆り立て、神の法則によって定められた道に沿って自己を完成させるために絶え間ない努力をさせるのです。

44. 弟子たちよ、私はもう一度言う。あなたがたは、簡素さと誠実さの道において霊性を求め、超自然的と呼ぶものに対する感情的な期待を捨て去らなければならない。なぜなら、もしあなたがたが真理の道を歩んでいると確信しているのなら、私から聞かされるこ

とを信じ、私が今、あなたがたに繊細な感性で感じ取り、不必要な複雑さを捨て去るよう教えていることを理解すべきだからである。

45. わたしの言葉が告げ、表現していることに満足できない者たちは、その物質主義的な心が、わたしの啓示を信じられるようにするために、並外れた出来事を期待しているからである。彼らは、天から火が降り注ぐことや、海が割れてその深淵が露わになることを期待し、そうして「神の裁きが地上に下った」と言うのだ。しかし、私はあなた方に問う。なぜそのような出来事に恐怖を感じるのか。平和と愛が示すものの中に神の臨在を感じ、認識すべきであるにもかかわらず、神の正義と力を明らかにできるのは、そうした出来事だけであるべきだとでも言うのか。

46. では、この時期に私が去ることが人類を恐怖に陥れ、それが神聖な出来事であることを証明する、という説は果たして正しいのだろうか？

47. むしろ、私があなたがたと共にいたという証拠が、より良い未来への希望の光であり、人類を震え上がらせ、苦難の只中であっても新たな夜明けの光を見出させる信仰の火花であることを願ってほしい。

48. 私は、あなたがたがあらゆるものに神の慈愛の表れを求めることを望む。なぜなら、あらゆるものの中にそれを見つけることができるからだ。しかし、あなたがたはまだ、霊的なものであるこの神の愛を発見するには未熟すぎる。それゆえ、あなたがたを取り巻く自然を見よ。それは、一步一步、創造主がその子供たちに対して抱く愛を、あなたがたに語りかけているのだ。もし時折、この自然があなた方に厳しく接すると感じるなら、自然もまた、あなた方と同様に発展と完成の過程にある被造物であることを知ってください。そして、すべての被造物が辿る「完成への階段」を登っていくにつれて、自然は、より知性豊かで、霊的に発達した存在たちの住処となることができるのです。

49. 私の言葉が文書として残されるよう努めなさい。そうすれば、未来の人々は、私が今あなたがたに語ったことを預言として認識するようになるだろう。

50. 民よ、もし前進したいのなら、あなた方の中にある怠惰を克服しなさい。もし偉大になりたいのなら、あなた方の行いに私の原則を適用しなさい。もし自分自身を知りたいのなら、私の言葉によって自らを探求しなさい。

51. 愛と知恵、助言と助けをもたらす私の言葉がいかに必要であるかを理解しなさい。しかし同時に、私が与えるものに対して責任

を感じるようにしなさい。なぜなら、この世でそれを必要としているのはあなたたちだけではないからだ。これらの教えを渴望し、飢えている人々は多くいる。あなたたちは、私の愛のメッセージを彼らに届けるために、自らを準備しておくことを忘れてはならない。

52. 忍耐をもって、苦難の杯を飲み干せ。まことに、あなたがたに告げよう。その苦しみの中にこそ、あなたがたの魂のための光を見出すことになる。その痛みは、良心の声を聞き取れるようにしてくれるだろう。とはいえ、あなたがたが背負ってきたその重荷——あなたがたが耐えてきたその痛み、そしてあなたがたの目から流されたその涙は、私の足跡と私の律法によって示された「いのちの道」そのものではない、と私は言わざるを得ない。あなたがたが歩むこの苦難の道は、真の命の道——そこでは互いに愛し合い、仕え合い、善のために尽くすのみである——へと至るために、あなたがたの魂が通らなければならない贖罪と浄化の道である。

53. これらすべてを心に留め、真にわたしに仕えるためには、まず、あなたがたが犯した過ちが一切残らなくなるまで、浄化を経なければならないことを知ってください。あなたがたの模範は、来るべき世代が清められた道に出会い、藪の中で迷ったり、道の岩に足を傷つけたりすることがないようにするためのものとなるでしょう。

54. わたしはお前たちスピリチュアリストに、人類が神と自分たちの間に築き上げた障壁——誤った信仰、永遠なるものへの見せかけだけの信仰、物質主義、そして不必要な儀式行為からなる障壁——を打ち壊すという任務を託す。

55. 民よ、私はあなたに、人々が依然として崇拝している「黄金の子牛」をその台座から引きずり下ろすという使命を与える。彼らは自分たちが偶像崇拝や異教から遠く離れていると自負しているにもかかわらず、なおもそれを崇拝しているのだ。

56. しかし、私はあなたがたに告げる。この闘いにおいて、権力や暴力、あるいは人を傷つける言葉を用いてはならない。あなたがたの武器は、真理を明らかにする「光の言葉」、苦しむ者を慰めて包み込む愛の行い、そしてあなたがたの祈りと思考から湧き出る力でなければならない。

57. 人々を霊的な道から逸らしてきた障害を取り除いたとき、あなたがたは人間の生活において非常に大きな変化の始まりを目にするだろう。これらの変化は、霊的な領域、道徳、科学、制度、そしてあなたがたの統治形態において起こるであろう。

58. 第三の時代におけるこの民の足跡を、誰も消し去ることはできない。なぜなら、その行いの中には、わたしの真理の力が宿っているからである。

59. 苦しみによってあなたがたが何のために清められているのか、理解しているか。あなたがたの道はあらかじめ定められており、あなたがたの使命はわたしによって定められているのだ。

60. 私は、あなたがたが内に抱いていた「死」をあなたがたの心から引き剥がし、あなたがたを命で満たした。

61. その「死」があなた方の内にあったのは、あなた方の魂から信仰と希望が消え失せ、認識の光が欠けていたからである。私はあなた方の前に生命の木を立てた。その実には豊かな栄養と天上の味わい、そして甘美さが満ち溢れ、聴衆の群れの上に豊かに降り注ぎ、彼らの霊的な欠乏を解消するのだ。

62. 今、私はあなたがたの心に神殿を築いている。そこでは、私の臨在がはっきりと感じられ、私の声の響きが明瞭に聞こえ、そこから全人類へと光と平和が放たれるであろう。

63. 初期の頃、わたしはあなたがたに、魂のその偉大な聖所の基礎を啓示した。わたしが人間として師としてこの世にいた時代、わたしはあなたがたに、その高い壁を築く方法を教えた。そして今、わたしはあなたがたに、その事業をどのように完成させなければならないかを明らかにする。その事業は、完成した暁には、あなたがたの父の御前にふさわしいものでなければならないのだ。

64. 私が聖霊の神殿を築くようあなた方に啓示した、これら三つの教訓のそれぞれの本質が何であるか、私に告げることができるか。そう、民よ、祝福あれ。あなた方は皆、心の中で私の問いに答え、真理に近づいているからだ。聖所の基礎とは、初期の時代に律法が教えたものであった。

高い壁は、メシアがその教えを通じて人々に授けた愛と慈悲であった。この建造物に備えられなければならなかったドーム、柱、そして祭壇は、この時代に私の霊が光のメッセージを通じてあなたがたに啓発した、知恵、霊性化、そして高揚である。

65. 私が三つの時代をかけて築き上げたこの神殿こそ、私がエルサレムの神殿を指さしながら、不信仰者たちに「この神殿を壊せ。そうすれば、三日のうちに私がそれを再建してやる」と語った、あの神殿である。

66. 私の神殿はまもなく完成するであろう。一方、エルサレムの神殿については、その基礎の壁さえも残らないだろう。同様に、私

の「愛と靈化」の律法という土台の上に建てられていないあらゆる神殿についても、石が一つも残らないであろう。

67. この時代の輝きがいかに偉大であるかを見よ。わたしが与えたすべての預言、そしてわたしの預言者たちを通して与えた預言がすべて成就する、新しい時代の光を見よ。

68. 真理を求めて、私のもとへ至るために、あなたがたはどれほど多くの道を歩んできたことか！科学も哲学も、あなたがたの呼びかけに応えることはなかった。そして、その探求の末、あなたがたは、この真理が私の中に根ざし、私からすべての存在へと放射されているという結論に達するのだ。

69. わたしは、人間が真の生涯を送り、わたしが彼のために定めた祝福された運命を悟ることができるよう、彼を啓発した。人間は「わたしの姿と似姿」として創造された唯一の被造物であり、それゆえにわたしに最も近い存在である。なぜなら、彼はわたしの靈の息吹を宿しており、それによって、わたしの行いに似た行いを行うことができるからである。

70. あなたがたは意志と自由意志を授かっている。それは、知性をもって行動し、私の声そのものである良心の声に従い、それを通じて何が許され、何を利用してよいかを認識し、また、ふさわしくないもの、すなわちあなたがたにふさわしくないものを拒絶するためである。しかし、私は、あなたがたが地上の生活が始まって最初の頃から物質主義に傾き、あなたがたの存在の主たる理由である靈的な使命を否定し始めているのを見てきた。

71. わたしは、最も初期の時代から、平和と靈的な至福へと導くわたしの戒めをあなたがたに残し、その後、イエスにおいて、わたしの愛をあなたがたに明らかにした。

72. この間、私は厳しい裁き人としてではなく、父としてあなた方に語りかけてきた。しかし、あなた方は、すべてを理解し、すべてを赦すこの限りない愛——忍耐と寛大さそのものであり、ただ善のみを願い、すべての被造物にそれを注ぎ出すその愛——を理解しなかった。

もしあなたがたが、正当に「私の子供たち」と名乗りたいのなら、愛しなさい。なぜなら、あなたがたは、万物を創造したこの神聖な愛によって、その愛を自らに捧げるよう形作られてきたからです。そうすれば、あなたがたは、父のように愛し、守り、祝福するという自らの使命を理解するでしょう。そして、その使命を果たした後、あなたがたは私のもとに戻り、私と共に一つの靈となるのです。

73. 私は、はるか昔より、あなたがたに靈的に私を愛するよう教え、この世において、徳ある人間以外に私を代表しうるものは何もない、と告げてきた。私は、目に見える儀式や礼拝を教えたのではなく、ただこう言うただけである。「もしあなたがたが父と交わりたいと願うなら、魂を高め、高みを目指しなさい。そこから、あなたがたが懇願するすべての賜物と恵みが、あなたがたのもとにやって来るだろう。」

74. かつて私は、死を恐れる必要はないと告げた。なぜなら、死など存在しないからだ。私の創造物においては、すべてのものが生き、成長し、完成へと至る。肉体の死とは、魂が経験する一時期の終わりに過ぎず、その後、魂は本来の状態に戻り、再びその発展の道を歩み続けるのである。信じ、信頼しなさい。そうすれば、あなたがたは永遠に生きるでしょう。今日、これまで以上に、信仰をもって身を守らなければなりません。なぜなら、あなたがたは試練と困難の時代を生きているからです。人間を浄化しなければならない自然の力は解き放たれており、人間を理性、善、そして正義へと立ち返らせるまで、その力は休むことはありません。

75. 誇りを捨て、謙虚さと素朴さを花開かせなさい。そうしてこそ、必ず訪れるあらゆる試練を受け入れることができるのだ。あなたがたが清らかさを取り戻すためには、この試練の炉をくぐり抜ける必要があることを理解しなさい。今日、あなたがたはさらなる教えを受け、もはや靈的な幼年期や青年期ではなく、成熟に達したことを知っているのだから、かつての私の言葉も、この日に私が与える言葉も理解できるようになるだろう。

76. 私の最も内なる御心を知ろうと求めないでください。なぜなら、あなたがたにはまだそこまで踏み込むことはできないからです。ただ、私が完全なる遍在であり全能であること、私の霊が宇宙を満たし、同時にすべての魂の中に宿っていること、そして私がすべての人を愛し、その生活に必要なものを与えていることを知ってください。そうして、この光があなたがたに未来への希望と信頼を与えてくれるのです。

77. あなたがたが耐えていること、そして望んでいることすべてを、私は知っている。そして、あなたがたの痛みを感じている。ただ一つ言うておく。私が与えたその力を用いれば、あなたがたの試練は祝福されるだろう。

78. このメッセージを受け取るために選ばれたあなたがたは、目を覚まし、準備をしておかなければならない。なぜなら、1950年以降、あなたがたは、私があなたがたの元に戻ってきたという知らせ

を、同胞たちに伝えなければならないからだ。しかし、混沌が解き放たれ、至る所で嘆きの声が聞こえるのを見ても、畑が耕されるのと同じように、人間の心も種を受け入れる準備をしなければならないことを忘れないでください。

79. 私はこの期間、高い境地と豊富な経験を持つ霊的存在たちの臨在を、特権としてあなた方に与えてきた。私の光線を通じて人間と結びついている私の霊だけでなく、霊界もまたあなた方を助けにやって来て、それによって極めて崇高な使命を果たしたのだ。多くの人々には知られていないそれらの存在たちの愛と慈悲は、この地上でのその存在を通じてどれほど多くのことを成し遂げたことか。そして、彼らは、契約を結び、あなた方を徳の道へと高めるために、自分たちが住むあの世界とこの世界とをいかに近づけたことか！

80. 彼らの啓示の器として召されたあなたがたよ——愛をもって彼らに仕え、備えなさい。あなたがたは、彼らの霊が放つ御言葉を受け取る器だからである。そうして初めて、私と霊界が人類にもたらした真理を、あなたがたは自らのものとして誇ることができるのだ。

81. あなたがたがこれほどまでに求めてきた真理を、私はこの素朴で簡潔な言葉によってあなたがたに明らかにする。私は、愛そのものであるこの真理を、あなたがたが永遠にそれを持ち続け、隣人と分かち合えるよう、豊かに与えます。それを感じ取り、魂の中に大切に守りなさい。それは、あなたがたが永遠に養われる神聖な本質だからです。

私の平安があなた方とともにありますように！

教え 286

1. 私の神聖な光は至る所に輝いています。あなたがたが私を求める場所はどこであれ、私の臨在を見出すでしょう。

2. 私は、すべての子供たちの間に調和が支配し始めるよう働きかけている父である——地球に住む者たちの中にも、他の世界に生きる者たちの中にも。

3. すべての存在の間に精神的な調和がもたらされるとき、彼らには大きな啓示が与えられ、精神と精神との対話が可能となる。それは距離を縮め、遠く離れた者たちを近づけ、対立や境界を取り除くであろう。

4. 私は、あなたがたが、この地上で目指しうる最大の報いである平和に到達することを望んでいる。

5. 弟子たちよ、定められた道から逸れてはならない。また、私の教えを一切変えてはならない。そうしなければ、あなた方はその霊的な調和を得ることができず、あなた方の高揚のために私が用意しているすべてのものを発見することもできないだろう。

6. 愛と慈悲と高潔さによる行いによって功德を積み、私の秘宝庫からの啓示にふさわしい者となりなさい。

7. 精神が理性を導くべきであり、人間的な偉大さを求める心によってのみ導かれる理性は、あなた方の人生を支配してはならない。よく考えてみよ。もしあなたがたが、脳が命じることによって支配されようとするならば、脳に過度の負担をかけ、その微力な能力が許す範囲を超えて進むことはできなくなるだろう。私はあなたに告げます。なぜ善を行うようにとインスピレーションを受けたのか、なぜあなたの心が隣人愛に燃え上がるのかを知りたいのであれば、あなたの心と知性の力を御霊に導かせてください。そうすれば、あなたは御父の力に驚嘆することでしょう。

8. 人々が、あれほど多くの野心や、あれほど

もし彼らが、敬意を欠くことなく、愛と謙虚さをもって私に問いかけさえすれば——父が彼らが求めた知識を明らかにしてくださる時、どれほど単純かつ容易に、父からの答えを受け取ることができるだろうか。

9. あなたがたが私に問いかけたり、願いを捧げたりするとき、自分の問題を私に明確に説明しようと無理に努力したり、頭の中で最も適切な表現を探そうと苦労したりする必要はない。その瞬間に、あなたがたの精神が世から離れ、心と意識が清らかで、私の靈感を受け入れられる状態になっていれば、それで私には十分です。もし

あなたがたが、自分の内なる私の存在を感じることができないのなら、私に素晴らしい言葉を並べたところで、いったい何の役に立つのでしょうか？

10. 私はすべてを知っている。だから、私があなたたちを理解するために、何も説明する必要はない。

11. あなたがたは、祈りとは何であるかを私に尋ねる。それに対し、私はこう答える。それは、あなたがたの精神が自由に父のもとへ昇っていくことを許すこと。完全な信頼と信仰をもって、その行為に身を委ねること。心と知性をもって、御霊によって受け取られた感銘を受け入れること。そして、真の謙虚さをもって、父の御心を肯定することである。このように祈る者は、人生のあらゆる瞬間にわたしの臨在を喜びとし、決して何かを欠いていると感じることはない。

12. これまで、私は度々人々に近づいてきたが、今こそ、人々が私を求め、私に近づく時である。彼らの魂の成長により、父との真の対話を成し遂げる能力が備わったからこそ、彼らはそうすることができるのだ。

13. この「第三の時代」は、復活の時代である。魂たちは死者のようであり、肉体は墓穴のようであった。しかし、命の言葉をもって彼らに「出てきて、光へと、自由へと立ち上がれ！」と告げた師が、彼らのところへやって来たのである。彼らの中で、真理の目を開き、その後、隣人への愛をもって自らの生活、行い、感情を高められる者は、もはやこの世界を流刑の地や、涙と贖罪の谷とは見なさなくなるだろう。なぜなら、魂の平安がもたらす真の平和の至福を、ますます深く感じるようになるからである。この人生におけるその高揚感は、魂がより良い世界で享受する完全な平安と光の反映となるだろう。そこでは、私自身が魂を迎え入れ、その功績にふさわしい住まいを授けるのである。

14. この恵みの日に、あなたがたは、エリヤがロケ・ロハスを通じて現れ、神の師の再臨が近づいていることを思い出させ、祈りと再生を呼びかけたあの日を記念している。

15. モーセは民をシナイ山の麓へと導き、そこで民に祈り、断食し、身を清めさせ、主であるエホバの臨在を待ち望ませた。

16. モーセは霊化の先駆者であり、エホバの道を切り開いた者、そして律法の制定者であった。彼が十戒の石板を携えて山から降りてきたその日は、イスラエルの民によって記念されてきました。それは、まさに今、あなたがたが、ロケ・ロハスを通じて、「モーセの遺言、イエスの遺産、そしてエリヤのメッセージが、一つの書物

、すなわち『真理と命の書』を成す」と啓示された日を記念しているのと同じことです。

17. モーセが民の心を整えてエホバを受け入れるようにしたように、また今日、エリヤがあなたがたを目覚めさせて聖霊の声を聞くようにしたように、同様に、ヨハネ（洗礼者と呼ばれる者）として転生したエリヤこそが、大衆に悔い改めと祈りを促し、天の御国が人々に近づいていることを告げたのである。なぜなら、私あなたがたにもたらした教えと、私の指導の中には、父の臨在と天の光があったからである。

18. キリストは完全なるものの顕現であり、彼の中にあつて、あなたがたは永遠の律法を見出し、無限の愛を見出し、絶対的な知恵を称賛することができる。

19. イエスは、その生涯をもって、イスラエルがモーセから授かった律法を照らし出し、後に「慰め主」が来て、キリストが教えたこと、そして正しく解釈されなかったことすべてを明らかにし、説明してくれると、あなたがたに告げられた。

20. キリストはすべての時代を包含しており、その御存在はあらゆる時代にわたって存続する。なぜなら、キリストは「永遠の御言葉」だからである。

21. エリヤは先駆者であり、奥義を解き明かす者であり、あなたがたが深遠な真理へと踏み込むための扉を開く鍵である。彼は、モーセによって始められた人類の霊化が完成する時代に遣わされた、霊的な解放者である。

22. 民よ、祝福あれ。あなたがたは第三の時代の到来を歓喜をもって記念し、この日をその記念に捧げている。単なる伝統にとどまらず、この日があなたがたにとって、省察と研鑽、内省の日となり、これまで歩んできた道のりにおけるすべての行いを秤にかけ、記録しているあの神聖な天秤の存在を感じ取れる日となるように。

23. この日にあなたがたが私から聞き、熟考すべき事柄から、知識の宝を築き上げることができる。そうすれば、あなたがたの闘いの時が来たとき、あなたがたがスピリチュアリズムと呼んできたこの教えが、どのような堅固で永遠の土台の上に築かれているかを説明するための論拠や根拠が、決して欠けることはないだろう。

24. あなたがたは、霊的な明晰さが強烈に輝き、あなたがたの人生を変容させる「第三の時代」の夜明けを目の当たりにしている。

25. この新しい時代の始まりは、その大きな闘争、激しい苦しみ、混乱、そして対立によって特徴づけられるでしょう。しかし、これらすべてはあくまで始まりに過ぎません。やがて平和が訪れ、そ

の平和の結果として、魂の開花が起こり、信仰と愛と靈性に満ちた行いを通じて、その上昇的な発展が明らかにされるでしょう。

26. あなた方の多くは、苦痛を呪った後、泣きながら私の元へやって来る。私は、あなた方の過ちが無知に起因するものであることを考慮し、それらを赦す。

27. 心を落ち着かせ、心を開いて、私が今、あなた方に語ることを理解できるようにしなさい、人生の弟子たちよ。もし再び、心が痛みに貫かれるのを感じたなら、しばらくの間、周囲のあらゆるものから離れ、一人きりになりなさい。そこで、寝室という親しみ深い場所で、自分の魂と語り合い、その痛みを手に取り、まるで何かの物体を手にとって調べるかのように、それをじっくりと探求しなさい。このようにして、その悲しみを掘り下げ、それがどこから来て、なぜ訪れたのかを見極めなさい。あなたの精神の声に耳を傾けなさい。まことに、私はあなたに告げる。その内省から、あなたの心のために光と平安という宝を引き出すことになるだろう。

28. 光は、その痛みを取り除く方法を教えてくれるでしょう。そして、平安は、試練が終わるまで耐え抜く力を与えてくれるでしょう。

29. そうして、あなたがたは、祈るために思いをわたしに向けるとき、こうわたしに告げるようになるでしょう。「師よ、お赦してください。この不義は私の運命によるものではなく、私が自分自身に対して不義を犯しているのです。」

30. 弟子たちよ、これはあなたがたが常に心に留めておかねばならない教えである——この在り方こそが、理性を靈の高みへと引き上げることができると悟ってほしい。なぜなら、魂の真の状況と人間の現実を知っているのは、霊だけだからである。

31. 私は、あなたがた自身を観察し、自分自身を知り、瞑想と祈りを通じて、その存在の核心において人生の偉大な教訓を発見できるよう、そう教えているのだ。

32. 今日、多くの人が苦痛を呪っているが、明日には、彼らに高貴で美しい教訓をしてくれた師として、その苦痛を祝福することになるだろう。

33. 私は、人生の道と意味を教えるのが、常に師の愛であってほしいと願っていた。しかし、あなたたちは、痛みが教えることを選んだ。まもなく、あなたたちはこの苦い師を後にし、愛情と優しさをもって教える者の教えを受け入れることになるだろう。

34. もし当面、その苦痛を取り除くことができないのなら、忍耐をもってそれを背負いなさい。その教えを見逃してはならない。そ

れを愛しなさい。なぜなら、それはあなたがたの汚点を清め、信仰と徳と忍耐においてあなたがたを偉大にするからである。

35. もしあなたがたがわたしの言葉を信じるなら、「神の御心なしには、木の一枚の葉さえも動くことはない」とわたしが語った教えも信じなければならない。そうすれば、神の知恵がすべてを熟考しておられ、人間に賢明な教訓を残さないような苦しみなどあり得ないことも、あなたがたは信じられるようになるだろう。

36. 愛する民よ、深く考えなさい。そうすれば、もはや絶えずつまずくことはなくなり、未来の出来事が、あなたがたを無気力な状態に陥らせたまま襲うこともなくなるだろう。

37. あなたがたが、推測や二次的な真理に依存することなく、現実の世界へと昇華する時、たとえ足元がまだ涙と痛みの世界の塵の上を歩んでいようとも、あなたがたの魂は平和の王国に住むことになるだろう。

38. わたしに耳を傾ける民よ、兄弟殺しの戦争で血を流して倒れている諸国の人々の状況や人生と、あなた方の状況や人生を比べれば、あなた方は幸せであるべきだと、わたしは告げる。

39. あなた方には愛があり、パンに不自由せず、住む場所にも事欠かず、わたしの言葉という糧もあるのに、満足していない。しかし、パンを持たず、あらゆるものに欠け、わたしの言葉を聞くこともできず、希望であり、癒やしであり、励ましと勇気を与えるわたしの言葉を聞くという慰めもない者たちは、あなた方よりも謙虚である。

40. 自分の痛みを、あたかも喜びであるかのように祝福することを学びなさい。すべてを祝福しなさい。

41. わたしは、誰かを特別に優遇することなく、全人類を祝福していないだろうか。その祝福という「マント」には、善良で柔和な者たちも、高慢な者や犯罪者たちも等しく包まれているのだ。なぜ私を手本にしないのか。他者の行いに嫌悪感を抱いているのか。あなたがたも人類の一員であることを忘れてはならない。人類を愛し、許すべきであり、拒絶してはならない。それは、まるで自分自身に対して嫌悪感を抱くようなものだからだ。あなたがたが隣人に見るものはすべて、多かれ少なかれ、あなた自身の中にもあるのです。だからこそ、私はあなたがたに自分の内面を探究し、自らの精神的・道徳的な姿を認識することを望みます。そうして初めて、自分自身を正しく評価できるようになり、他者を見つめる権利も得られるのです。

42. 隣人の過ちを探してはならない。あなた自身にある過ちだけで十分である。

43. 私がこのようにあなたたちに語りかけても、気分を害してはならない。私の教えの言葉は、義人や聖人のためのものではないことを理解してほしい。もし彼らが対象であれば、私は全く異なる方法で語りかけるだろう。私は罪人を救うために、この救いの教えを授けているのだ。そして、それを罪深い唇を通して伝えているのである。

44. 人類よ、私はあなたたちを救うために来る。なぜなら、あなたがたが呼吸する空気さえも病んでいるからだ。しかし、私の子供たちの住まいであり宿であったこの地球に対し、私はこう告げる。もし子供たちが自らの過ちによってこの地球を貶めたのなら、彼ら自身が、この地球に対する最後の罪を償わなければならないのだ。

45. 人類が、自らを襲うあらゆる試練に打ち勝つためには、大きな教えを必要としていることを悟りなさい。今こそ、預言者たちが告げ、先見者たちが予見してきた大いなる時である。それは、人々の苦痛が頂点に達し、父の慈悲がすべての人々にその光を注ぎ出す時――すなわち、地上における悪の終わりと善の始まりを告げる時である。

46. おお、民よ！ いつになったら、苦しむ者たちに癒しの香油と平和のメッセージを届ける準備ができるというのか。私は今なお、あなたがたの心の中に真の隣人愛を見出せない。あなたがたは互いに愛し合っていないがゆえに、一步一步、自らを裁き続けているのだ。

47. もし私が望めば、あなた方一人ひとりの過ちを指摘することができると、信じているのか。しかし、私がそのような形であなた方を晒し者にしたら、もはや私はあなた方の師ではなくなってしまうだろうとも、私は告げておく。それなのに、すべてを知り、あなた方を真に知り、あなた方の思いさえも知っている方が、他者の面前であなた方を裁かず、公然と晒し者にもしないというのに――なぜ、他人の心を傷つけ、幸福感を打ち砕き、他人の人生を裁こうと頑なに固執する者たちがいるのだろうか？

48. 今日、あなたがたはまだ私の幼い弟子たちである。まことに、あなたがたに告げる。あなたがたが隣人に苦しみを与えることができなくなり、その代わりにあらゆる痛みを和らげたいという衝動を感じるようになるまで、私はあなたがたを「弟子」とは呼ばず、また私の業を託すこともない。いつになったら、あなたがたは心の中で苦しむ人々の痛みを感じ、その涙を拭うのが、あなたがたの言

葉と行いとなるのだろうか。あなたがたは、実践的な隣人愛を行うにはまだ未熟すぎる。あなたがたの思いやりも、赦しも、まだ十分ではない。

49. もし、溝に横たわっている麻痺した人に同情し、彼を自分の家に連れて行く義務を感じたとしても、まずその人の生い立ちを調べようとするだろう。なぜなら、その人が誰なのか分からないと言うからだ。

あなたがたは、私の教えの言葉を絶えず聞いてきた者たちなのか。それなら、私があなたがたの汚点を顧みることなく、ただその傷を探し求め、私の愛で癒そうとしてきたことを自覚しなければならない。

もしあなたがたが、私の「種を蒔く者」の一員になりたいと願うなら、善に内在する力を知り、それを身につけなければなりません。慈悲が内包する力、そして心がもたらす奇跡とは、他者の苦しみを共感し、分かち合うことそのものに他なりません。

50. 愛する弟子たちよ。あなたがたが私から受けている教えは、レッスンを重ねるごとに、ますます明確になってきた。この光は1866年に、光の火花として現れ始めた。しかし今、私の啓示の最後の数年間において、あなたがたに届くのは火花ではなく、満ち溢れる光そのものである。

1950年をもって、この形での私の言葉の啓示は終わりを告げますが、その教えは続いていきます。なぜなら、その後、あなたがたが私の業に深く没頭するにつれて、私がこれほど頻繁に語ってきた神聖な本質を発見し、その味わいを楽しむようになるからです。

51. 私は、あなたがたが私を聞いたと証しするだけでなく、私の預言者となり、その使命を果たすことによって、霊性化の時代を告げ知らせることを望んでいる。そうすれば、未来の世代は、あなたがたが刻んだ愛と善意の足跡をたどり、確かな歩みで安全な道を歩み始めるだろう。

52. あなたがたは現在、その道のりで茨の茂みに遭遇しており、さらに多くの障害や茨に直面することになるだろう。しかし、あなたがたの隣人愛が、あなたがたをその道から迷わせることのないようにしなさい。そうしてこそ、明日の人々の群れが、整えられた道に出会うことができるのだ。

53. 善、光、真理は、いつの時代も人々の心の中で抵抗に遭ってきたことを、あなたがたは知っている。それでも、わたしを信頼しなさい。わたしは何度もあなたがたに言った通り、闇は勝利することはない。勝利するのは光だからである。

54. 人類は今、自らを清めている。その苦難の杯が、人類の汚点を洗い流し、贖罪を経て清らかな姿で生まれ変わるようにするのだ。なぜなら、平和と正義の霊的な王国が、人々に近づいているからである。

55. 人々を縛りつけている狂信と偶像崇拜の束縛が、次第に解けていくのが見えないのか。その理由は、私が彼らを解放するために来たからである。やがて、私の光は「言葉」という形で人々に届くであろう。そして、その光が、いかにその素朴さと簡潔さにもかかわらず、人々を震え上がらせるか、また、いかにその愛に満ちた性質によって、石のような心をも揺さぶり、悔い改めと赦しと愛という水晶のように澄んだ水をその心から溢れ出させるほどの力を持つか、あなたがたは目にすることになるだろう。

56. 弟子たちよ、泣いてはならない。あと数日間、あなたがたは私の声を聞くことができ、あなたがたの苦しみには、私の言葉が注ぐ蜜の滴が、あと数滴落ちるだろう。その間、私の去った後も私の存在を感じられるよう、身を整えておきなさい。

57. 今こそ、神の御声に耳を傾けるために、目を覚まし、祈らなければならない省察の時である。

58. 時折、あなたがたは私にこう尋ねる。「主よ、全人類を目覚めさせ、彼らが心をあなたに向け、あなたの臨在を感じられるようにするのは、いったい誰でしょうか？」しかし、私はあなたがたに言う。心配するな。私の霊はすでに彼らを訪れ、目覚めさせようとしているのだ。あなたがたは私の業を完全には理解できないため、私だけが見ているその目覚めに気づいていないのだ。

59. すべての人が、新しい日の光、すなわち、より良い時代の幕開けとなるべき平和の夜明けを待ち望んでいる。抑圧された人々は解放の日を待ち望み、病める人々は、健康と力、そして生きる喜びを取り戻してくれる治療法を望んでいる。

60. 最後の瞬間まで待つことを知る者たちは幸いである。なぜなら、彼らが失ったものは、利息を添えて返されるからである。この期待を、私は祝福する。それは、私への信仰の証だからである。

61. 今日、あなたがたは私の言葉の多くを理解していないが、やがてあなたがたの心に光が差し込み、私の教えの一つひとつが何を意味するのかを理解する時が来るだろう。

62. 第二の時代の私の使徒たちは、私の言葉を聞いたその瞬間、その多くを理解できなかった。しかし、私が去った後、彼らが研究と熟考に専念するにつれて、神の光が彼らの知性に差し込むのを感じ

じ、それまで彼らにとって解き明かせない謎であったすべてのことを、極めて明瞭に見るようになったのである。

63. これまで、あなたがたは私の言葉を聞くと、その表面的な意味しか捉えてこなかった。そして、その言葉の中に何を見出したのか。慰め、癒やし、愛撫である。やがて、あなたがたの傷や痛みが癒え、苦痛を和らげるための私の癒しの薬を求める代わりに、隣人を慰めるための知恵を求め始めたとき、あなたがたは私の教えの真意に踏み込むための第一歩を踏み出したことになるだろう。

64. あなたがたが世界のために祈っているのを見ている。そして、私はあなたがたの心からそのとりなしを受け入れている。やがて、ただそれらの民のために祈るだけでなく、彼らを訪ねて行き、私の言葉の愛に満ちたメッセージを伝える日が来るだろう。

私の平安があなた方とともにありますように

教え 287

1. あなたがたの良心の中に響き渡る私の霊の声は、人類に自覚を呼びかける鐘の音のようだ。

2. 霊的な知恵の書は、ページを開いたまま、光への渴きを癒やすために、大勢の人々や大いなる巡礼の行列がそこへやって来るのを待っている。

3. 私の言葉を味わえ、味わえ。その本質からは、甘美さ、知恵、癒やし、そして平和が流れ出ているのだ。

4. 私は人々にこう告げる。人は自分自身を未知の存在としている。なぜなら、人は自らの内面へと深く入り込んでいないからであり、自らの秘密を知らないからであり、自らの本質を知らないからである。しかし、私はこの時代に、長い間人間にとって閉ざされていた、すべての秘密が秘められているその書物の内容を、人間に教えようと思う。それらの秘密については、私はすでに「第二の時代」において、私の霊の光を通してあなたがたに説明すると約束していたのだ。

5. 今こそ、あなたがたが真に自分自身を知り、魂の奥底へと入り込む時が来た。そうすれば、あなたがたは、自分が何者であるかを知り始めていると言えるようになるだろう。

6. 人間はついに、自らの起源、運命、使命、賜物、そして周囲に息づき、織りなされているその無限かつ永遠の命のすべてを知るようになる。もはや隣人を侮辱することも、同胞の存在を侵害することも、周囲にあるものを冒瀆することさえも、もはやできないだろう。なぜなら、万物が神聖であるという悟りに達しているからだ。彼は、自分の魂が内包し、そこに秘められているものを知ることになる。そして初めて、魂が素晴らしいものである以上、父が永遠に魂のために定めた住まいもまた素晴らしいに違いない、という明確な認識と深い信仰を持つようになるのである。

7. あなたがたは、つまりきや過ち、転落を避けるために、なぜ私が最初からすべてを啓示しなかったのかと私に問う。しかし、私はこう言う。あなたがたに魂の成長と開花が見られなかった限り、私の啓示を理解することはできなかつただろう。当時、あなたがたにとっては、私の律法を認識すること、すなわち、尽きることのない知恵と永遠の啓示の源へと導くべきまっすぐな道を知ることが、十分であったのだ。私の知恵は計り知れないほど偉大であるため、一瞬にして理解することはできなかつただろう。だからこそ、私は時代を経て、長い時間をかけてその知恵を教え続けてきたのだ。

8. 私は「命であり、力であり、正義」であるゆえに、私の子供たちの誰一人として、私の知恵という遺産を欠くことのないよう、そのためのあらゆる手段を手にしている。あなたがたの靈魂は私から生まれたものであり、同様に、あなたがたの成長の道と魂の完成のために必要な、あらゆるな生命の世界や肉体も、私から生じているのである。

9. 人は堕ち、闇へと身を投じ、それゆえに私から遠く離れていると感じるかもしれない。人は、死ねば自分にとってすべてが終わると信じているかもしれない。しかし、私にとっては、誰も死ぬことはなく、誰も失われることはない。

10. この世で墮落した人間と見なされていた者たちのうち、今日、光に満ちている者はどれほど多いことか！ 罪や悪徳、犯罪という汚点を跡として残した者たちのうち、すでに浄化を達成した者はどれほど多いことか！

11. あなたがたはわたしにこう問う。「なぜその道はこれほど遠く、魂の歩む道はこれほど試練に満ちているのか？」それは、魂が待ち受ける完全なる王国で享受する至福が極めて大きく、その王国に到達するためには自らの功績によってそれを勝ち取らなければならないからである。

12. 最初の人間――すなわち人類の祖先たちは、しばらくの間、彼らの魂が「靈的な谷」から持ち帰った印象を保ち続けていた。それは美しさ、平和、そして至福の印象であり、彼らの生涯において肉欲や生存競争が現れるまでは、その印象は彼らの中に存続していたのである。しかし、私はあなたがたにこう言わなければならない。あの人々の魂は、光の世界から来たとはいえ、あなたがたが功德によってのみ到達しうる、最も高き住処に由来するものではなかったのだ。それでもなお、それらの魂が最初の歩みを踏み出した際に保っていた、無垢、平和、幸福、そして健康という状態は、光の時代として忘れがたいものであり、その証しは彼らから子供たちへ、そして子供たちからその子孫へと受け継がれていった。

13. その証言の真の意味を誤解した、物質に囚われた人々の知性は、やがて、最初の人類が暮らしていた樂園が地上の樂園であったと信じるようになった。それが、あの被造物たちの魂の状態であったことを理解することなく。

14. あなたがたは、地球に来るために去ったあの靈的な故郷を、少しでも予感しているだろうか。「いいえ、師よ」とあなたがたは私に言う。「私たちは何も予感しておらず、何も覚えていません。」

15. そう、民よ、あなたがたが清らかさと無垢さから遠ざかってから、あまりにも長い時が経ってしまったため、あの平和に満ちた存在、あの幸福な状態を想像することさえできなくなってしまったのだ。しかし今や、あなたがたは御霊の声を聞き、御霊からの啓示を受け取るよう訓練されているのだから、わたしに心を向ける者たちを約束された王国へと導く道は、あなたがたにとって手の届くところにある。それは、「最初の者たち」が去ったあの平和の楽園ではなく、すなわち、精神の無限の世界、知恵の世界、真の霊的至福の楽園、愛と完全性の天国である。

16. もし、地球上の大陸から別の大陸へと旅をするために、多くの高い山や低い山、海、民族、都市、国々を通り抜け、旅の目的地に到達しなければならないとしたら、その約束の地へたどり着くためにも、同様に長い旅をしなければならないことを心に留めておきなさい。そうしてこそ、その長い旅の途中で、経験、認識、そして魂の開花と成長を得ることができるのだ。これこそが、それを手に入れるために多くの苦闘と涙を流した後、最終的にあなたがたが味わうことになる、生命の樹の実となるでしょう。

17. 弟子たちよ、師のもとに来なさい。羊たちよ、あなたがたの羊飼いに近づきなさい。

18. 師はただ一人、弟子は多くいるが、私の教えはただ一つであるため、すべての人に向けたものである。

19. 私は限りない愛をもってあなた方を求めている。私はあなた方の魂にこれほど多くの恵みと賜物を注ぎ込んだので、私の子供たちを一人たりとも失うつもりはない。あなた方は私の霊の一部であり、私の本質の一部である——これほど熱意と愛をもってあなた方を求める者が、果たして悪しき者であり得ようか？

20. 私があなたがたに御言葉を授けるために降りてくるたびに、群衆の中に「最後の人々」を見出す。彼らは、心の中で最も熱心に私に問いかけ続ける者たちである。しかし、私は彼らを喜ばせるために、常に彼らの問いに答えている。今日、最後にやってきた者たちが、私の再臨の目的は何かと問うので、私は、その意味は、人々が自らの力で本来の清らかさへと立ち返ることができるようになることにある、と答える。

21. 創世の初め、人間には生命の認識を追求することが許され、行動するための自由意志が与えられていた。しかし今日、人間の魂がかつてないほどに精神の光の中で輝き、その経験も極めて豊かになっている今、人間は再び、かつてこう告げたあの父の、慈愛に満ちながらも正義を求める声を耳にするのである。「増えよ、子孫を

増やし、地を支配せよ。」しかし今、その声は彼にこう告げている。「汝らの功績をもって、わがもとへ帰れ。」

22. 人間は、功績と努力と犠牲を通じて、かつて去った樂園へと帰らなければならない。それは、多くの神秘を知り、闘い、苦しみ、労働、そして成長を通じて、神にふさわしい子となるためであった——そして、二度と離れることのない樂園へと、帰らなければならないのである。

23. 理解せよ。この人類が、清らかで高貴なものへの回帰について真の認識を得るためには、人々の心と魂の中に、闘争、動揺、そして混乱が生じるだろう。私の明快で、愛に満ち、説得力のある教えは、世界に対し、帰還への光に満ちた道を示すものであり、人々は一人また一人と私のもとへやって来るだろう。しかし、もはや罪の重荷に押しつぶされることなく、高みへと視線を向け、心に信仰を、そして肩には愛の十字架を背負って。

24. 扉は開かれたままであり、愛に満ちた私の霊は、その魂を神聖な懐へと引き寄せる準備ができています。その魂は、二度とそこから離れることはないだろう。

25. 人よ、もしあなた方の生涯のあらゆる行いを導くのが単なる本能だけであったなら、あなた方の父は御自身の律法を啓示する必要もなかっただろうし、あなた方を救うために救い主として来られる必要もなかっただろう。しかし、あなた方は本能に依存しているわけではない。より高次の力があなた方の行いを決定しており、その力は靈魂の中にあるのだ。

26. 魂は、救いを得るために功德を積むべきであるという、意志の自由を享受している。

27. 許されることと許されないことを区別し、それによって道を踏み外さないよう、魂が自由な発展の道を歩む際、誰が導き、指針を示し、助言を与えるのでしょうか。それは良心です。

28. 良心とは、神聖な火花であり、より高次の光であり、人が罪を犯さないよう助ける力である。もし良心が、人を善の道にとどまらせるための物質的な力を持っていたとしたら、人間にどのような功德があるというのだろうか。私が皆さんに知ってほしいのは、その功德とは、その声に耳を傾け、その声が決して嘘をつかず、助言において決して誤らないことを確信し、その指示に忠実に従うことにあるということです。皆さんもきつとお分かりのように、その声をはっきりと聞き取るためには、訓練と自己への集中が必要です。今、皆さんのうち、この従順を実践している人はいますか？ 自分自身に答えてみてください。

29. 良心は常に人間の中に現れてきたが、人間は、その光に人生全体を導かせるために必要な発展段階には至っていない。人間には、法律、教え、規則、宗教、そして助言が必要なのである。

30. 人々が自らの精神とつながる境地に達し、外側に霊的なものを求めるのではなく、内側にそれを求めるようになれば、彼らは、これまで耳を傾けることなく、常に自分たちの内に生きていた、穏やかで、説得力があり、賢明で、公正な声を聞くことができるようになるだろう。そして、霊の中に神の臨在があり、神こそが、人間が父であり創造主である神とつながるための真の仲介者であることを理解するようになるだろう。

31. 人間が精神の高揚という状態に至るための刷新への第一歩は、慈悲である。魂に対する慈悲、肉体に対する慈悲、隣人に対する慈悲である。しかし、私はあなたがたにこう言わなければならない。この感情は正しく解釈されていないのだ。慈悲とは、あなたがたが行う特定の行為にあなたがたが付ける名称に過ぎず、そのほとんどの場合、その核心には同情も、苦難を和らげようとする真の意図も含まれていないのである。

32. あなた方の人間の感情は、まだ現実から遠く離れている。それゆえ、あなた方は、この世におけるイエスの言葉と行いを、慈悲の生き生きとした真実の模範として、常に心に留めておかなければならない。

33. もしある魂が、偽善しか含まない形によって真の慈悲を覆い隠してしまったら、その魂には何が起こるだろうか。その魂が自らの良心と向き合い、正義を愛し容赦のないその声を耳にする日、その目覚めは極めて苦痛に満ちたものとなるだろう。

34. 人々が良心から発せられるあらゆる声に耳を貸さないでいるのに、どうして諸民族が和解し、統治者たちが一致し、戦争が終息することを期待できるでしょうか。

35. 人々が心の中で静まり、自らの高次の理性の声、すなわち、今まさに自分たちがしていることの正反対のことを命じていることを知っているがゆえに、聞きたがらないあの審判者の声を聞き取ることができれば、互いに理解し合うことはどれほど容易になるだろうか。

36. さらに、あなたがたにこう言っておこう。もしあなたがたが良心の指針に耳を傾ける用意がなかったのなら、私の教えを実践する上でも、従順でも意欲的でもなかったということになる。あなたがたは理論上はそれを認めているが、実践では適用していないのだ。あなたがたは、その教えに神聖な本質があると称え、キリストは

偉大であり、その教えは完全であると語ります。しかし、師のように偉大になろうとする者は誰もおらず、真に彼を手本として彼のもとに来ようとする者もいません。しかし、あなたがたは知っておくべきです。私が来たのは、私が偉大であることをあなたがたに知らせるためだけでなく、あなたがた全員が偉大になるためでもあったのです。

37. 人間は、自らの霊的な本質を知ることなく救いを得ようとしています、それはあり得ないことです。

38. 多くの人が来世を信じているとしても、彼らがその生涯を、永遠の救いを得るための功德を積むことに費やしていないのであれば、彼にとって何の益があるというのか。彼らの信仰は、死後、魂が来世へ行くということに限られており、彼らは最後の瞬間まで待ち、無駄にした時間をすべて取り戻し、悔い改めの行為によって自らのすべての汚点を消し去ろうとするのである。

39. これは悲しい誤りである。なぜなら、過ちは、良心の呵責に従ったことを前提とし、犯した罪を贖うのに十分な時間がある場合にのみ、行いによって償われるからである。そして、霊界へと移ろうとしている者たちの悔い改めについて言えば、この時、自分たちが引き起こした悪行のために泣いている者はごくわずかであり、むしろ彼らを苛んでいるのは、彼らが想像する通りの、罰や裁き、あるいは破滅への恐怖である、と私は告げよう。

40. 私が私の言葉を通して行っているように、あなたがたに詳しく語りかけ、あなたがたを準備させ、光を見開くための教えが、もしかすると欠けているというのか。

41. このメッセージを地球の至る所に広めることが、いかに必要であるかを悟りなさい。そうすることで、あなたがたは隣人に対して真の慈悲の業を行うことになるのだ。

42. 人々が霊的な教えについて抱いている、あたかもそれらが無知や欺瞞、詐欺に基づいているかのような誤った印象を取り除きなさい。私の教えを、その純粋さと崇高さのままに示しなさい。そうすれば、人々が自らの霊的な自己について考えることを妨げ、その行動の自由をすべて奪い去ってしまった無知、狂信、そして心の硬化を解消することができるでしょう。

43. あなた方は霊的なものを恐れながら生きており、やがて自分たちがただ「霊」となるだけだということを思い至らない。しかし、あなた方の無知の責任は必ずしもあなた方自身にあるわけではなく、あなた方を導く者たちにあるのだ。

44. 彼らは、本質的な価値の意味をあなたたちには理解できないものにしてしまい、ついには「真理」が「真理」と矛盾していると信じ込むほどにまで至らせてしまった。

45. あなた方は、時に物質的な物を、あたかもそれが神聖であるかのように扱ってははいないか？ あなた方は、はかない物事に永遠の価値を付与してはいないか？ あなた方はキリストを理解したと思い込んでいるが、実は彼を全く知らないのだ。

46. 私が、富や地上の所有物を使って、偉大さの証拠を示したことがあったらどうか？ イエスは物質的な富を持たずに来られ、この世では極度の貧しさの中で現れた。イエスは、その行い、言葉、教えによって偉大であったが、決して外見によって偉大であったわけではない。

47. 地上の財産は、父なる神が人間の被造物のために創造されたものであるのに、なぜ私がそれを利用しなければならなかったというのか。この自然は私から養分を得ているのだから、私がそこから何を必要としたというのか。

48. 私は、人間的な生活よりも高次の生活の美しさをあなた方に示し、高潔な行いにあなた方を鼓舞し、愛を呼び覚ます御言葉を教え、犠牲と信仰と愛の山を登りきることができた魂を待ち受ける、かつてない幸福を約束するために来たのである。

49. あなたがたは、私の教えを通してこれらすべてを悟り、ついに、あなたがたの魂を真の至福へと近づけるのは、あなたがたの善行であるということを理解するようになるべきである。

50. ひとたび最初の教訓を理解し、それに従うようになれば、それはあなた方に甘美な実をもたらす、次のステップへと踏み出す勇気を与えてくれるだろう。

51. 今日、世界にとって新たな段階が始まる。そこでは、人間は思考においてより大きな自由を求め、自らの精神が背負ってきた隷属の鎖を打ち破るために闘うことになる。今こそ、人々が霊的な糧と真の光を渴望して、狂信の障壁を越えていくのをあなたがたが目目の当たりにする時であり、私はこう言おう。たとえ一瞬でも、自由に考え、探求し、行動できるという幸福を味わった者は、二度と自らの意志でその牢獄に戻ることはないだろう。なぜなら、今やその目は光を見出し、その精神は神聖な啓示に心を奪われたからである。

。

52. 人々よ、世の中の戦争が終わりを告げる前に、私の愛の律法はすべての魂に響き渡るであろう。たとえ今日、その方法がまだわからないとしても。

53. この霊的な光のメッセージは、人々にも同様に届くであろう。しかし、それはあなたがたが強くなった時に初めて起こる。この業が真実であると確信していない者は、決してそう言うてはならない。そうすれば、誰もあなたがたを信じないだろう。しかし、あなたがたの信仰が絶対であり、確信が真実であるならば、誰もあなたがたがすべての心にこの福音を伝えることを妨げることはできない。

54. 人よ、あなたがたは常に、空間を漂い、時にあなたがたに近づき、あなたがたを取り囲む目に見えない存在の存在を予感してきた。そして、それらが苦しんでいる魂かもしれないという考えから、あなたがたは彼らのために何かをしようと試みてきた。その意図は善きものではしたが、その慈悲を効果的に発揮させるための知識が、常にあなた方に欠けていました。これまで、あなた方は、混乱したり良心の呵責に苛まれたりしている存在たちに光を灯すための、正しい方法やな手段を知らなかったのです。

55. あなた方は彼らに目に見える儀式や供物を捧げてきましたが、たとえあなた方の心が安らぐことができたとしても、彼らは何も受け取ることができませんでした。なぜなら、この世に属するものはもはや彼らのものではなく、彼らには届かないからです。これらの存在が求めているのは、魂の共感を、慰めを、愛を、そして理解なのです。しかし、どうすれば彼らに霊的な助けを差し伸べることができるだろうか。私の言葉は、あなたがたには目に見えない彼らに、いかにして慈悲を示すかを明らかにしている。

56. もしあなたがたが、霊的な兄弟姉妹のために真に善を行いたいと願い、同時に彼らの悪しき影響から自らを解放したいと望むならば、深い同情と高潔な思いに満ちた、心からの祈りを彼らのために捧げなければなりません。もし彼らがあなた方の人間生活の中で何らかの形で現れていると感じたら、彼らが自らの魂に光を取り入れられるよう、良い手本と善行を示してあげなさい。彼らが、あなたが病人を癒やすのを見たり、あなたを侮辱した者を許すのを見たり、あなたの心の中に高潔な考えが輝いているのを見たり、あなたの口から良い言葉だけが聞かれるのを見たりする機会を与えてあげなさい。

57. あなたがたは彼らに対して、また彼らはあなたがたに対して、果たすべきどのような務めがあるのでしょうか。互いにどのような負債を負っているのでしょうか。あなたがたはそれを知りませんが、まことに、わたしが告げましょう。彼らが人々の道に現れるの

は偶然ではありません。彼らが人間の兄弟姉妹に近づくのには、常に理由があるのです。

58. あなたがたが「霊的な谷」に到着した際、彼らに迎えられ、あなたがたが彼らに示した慈悲に対して感謝のしるしを受け取ることは、あなたがたの魂にとって非常に癒やしとなるでしょう。そして、彼らが光に満ち溢れているのを見たとき、あなたがたの喜びは計り知れないものとなるでしょう。しかし、もしあなたがたが、混乱によって心が闇に覆われた存在たちの群れに出会い、彼らがあなたがたからの愛の行いを期待していたにもかかわらず、あなたがたがそれを与えなかったと知ったなら、どれほど悲痛なことでしょう。この責任について考えるとき――あなたがたは、私がこの教えの中で与えている知識を実践する準備ができていますか？ 私がこの教えの中で、あなたがたにそれらの存在をいかなる形でも物質化することを許可しているわけではないことを理解してください――それどころか、私は、あなたがたが徳高く清らかな生活の模範を示すことによって彼らを霊化へと導く方法、そして、彼らの理解力の中に光を灯すはずの祈りを通じて、彼らの混乱や闇を取り除く方法を、あなたがたに啓示しているのです。

59. ヤコブは夢の中で、霊的な階段の存在をあなた方に啓示した。そこでは、存在たちが絶え間なく昇り降りしていた。その内容を理解した者は誰か。その秘密を解き明かした者は誰か。あの族長が見たイメージの真意の中には、魂の発展、霊的な被造物たちが人間へと絶え間なく転生すること、存在たちの償いと贖罪、神と人間との交わり、そして霊と霊との対話が込められている。

60. あなたがたが過去の時代の啓示に正しい解釈を与えるためには、このメッセージを認識することが必要である。

61. 魂たちが私の教えの核心に到達するまでに、どれほどの時間が経過しなければならないかを悟りなさい。

私の平安があなた方とともにありますように！

教え 288

1. 私は、あなたがたの心へと降りてくる。なぜなら、それは私の聖所だからである。私の言葉は、あなたがたが取り組まなければならない日々の業に向けて、あなたがたを準備させる。この準備は霊的なものであり、あなたがたが遂行する使命と調和している。

2. 最初の時代、民はすでに、捕囚と試練の地であるエジプトを離れ、荒野を通して約束の地へ向かう準備ができていたとき、すべてを見通し、万全の準備を整えていた。旅の杖、サンダル、そして旅の荷物を用意し、旅の途中で何一つ不足することがないように備えていたのだ。

3. 同じように、今、あなた方も「荒野の横断」において何一つ不足がないよう、事前の準備を整え、身を整えなければなりません。

4. しかし、あの民は長い旅路のための食糧を蓄えただけでなく、祈りを捧げ、悔い改め、心を清め、常に団結し、一つの家族となることを決意したことも忘れてはならない。もし、なぜあの民が多くの試練や災難にもかかわらず、約束の地に入ることができたのかを知りたいのなら、それは彼らの信仰と祈り、そして団結があったからだ、私はあなたに告げよう。

5. その霊的な種は、あなたがたの中にあります。なぜ、その模範を参考にし、新たな目標へと至ろうとしないのですか？

6. あなたがたはよく知っている通り、あなたがたを待ち受けているのは砂漠ではなく、人類そのものである。あなたがたが求めるのは、地表にあるいかなる国でもなく、人間界の彼方にある霊の祖国なのである。

7. まことに、わたしはあなたがたに告げる。「イスラエル」は新たに甦り、人類のただ中で松明となるであろう。

8. 今、私があなた方を目覚めさせているのは、あなたがたが私の子供であり、平和と光と霊性というその民の一員であることを知ってもらうためである。

9. 人類を動かし、あるいは苦しめるあらゆることを、あなたがたの心で感じ取りなさい。すべての人の平和のために祈り、あなたがたの思いを他者の心に灯しなさい。私は、隣人を愛し、彼らに仕えるという使命を果たす者たちを、あらかじめ祝福する。

10. 私は、あなたがたの存在が、平和をもたらし、慰めを与え、隣人を祝福へと導くために役立つことを望んでいる。

11. 今日、あなたがたはなお私の教えを受ける弟子であり、痛み、悪徳、悲惨、利己主義がどれほど蔓延しているかを目の当たり

にすると、その闘いに恐れを抱いている。良心が、霊的な充実、働き、そして活動を求めているその瞬間、そしてあなたがたの心は恐る恐るこう問う。「これほど大きな混乱に直面して、私は何をすべきか」と――なぜ恐れるのか、なぜ疑うのか、民よ。私の言葉があなた方をいかに準備させているか、人生が絶えず実践的な教訓を与えているか、そして闘いや試練が、あなた方を待ち受ける日々の務めのために不可欠な強靱さをいかに与えてくれているかを悟りなさい。

12. わたしは、あなたがたに十分な能力がない任務を遂行させるために、あなたがたを遣わすのではない。わたしはこれからもあなたがたを教え続け、あなたがたが強くなれば、こう告げるだろう。「十字架を背負い、わたしの足跡に従え。」それまでの間、祈ることしかできないのであれば、隣人のために祈りなさい。病人を癒す術を知っているなら、彼らにその慰めをもたらしなさい。道徳心を高めようとする願いがあるなら、そうしなさい。しかし、旅立ち、十字架を背負うその時の準備となるよう、自分の魂の益となることを行いなさい。

13. 今日、あなたがたはまだ霊的な使命に専心してはいないが、それでも隣人のために何かをしたいという願いを持っている。それゆえ、私はあなたがたに、祈りを通じて、祈りが持つ力と威能を知るよう勧める。この光は、あなたがたの戦いが始まる前に、すでに手に入れておくべきものである。

14. 祈りによって靈感を受ける者は、試練において無敵であり、周囲の人々に奇跡をもたらすのである。

15. 私は、私から徹底的に教えを受けたこの民が、完全な祈り――すなわち、霊界と結びつくような祈り――を實踐できるようになることを望む。そうして、後に彼らが同胞たちに祈りを教え、自らの道のりで得た経験のすべてを説明し、示せるようになるためである。

16. 物質世界の向こう側に光の世界が広がっているというのに、なぜあなたがたの思考の世界を地球という範囲に限定するのですか？ 視界や理解力の及ばない先には無限の空間が広がっているというのに、なぜ魂を人間生活に縛り付けるのですか？

17. 思考と魂の世界は、あなたがたが祈ることを理解していなかったために、そこへ至ろうとしなかったゆえに、未活用のままとなっている。

18. 思考力と精神が祈りの中で結ばれるとき、人間の中に、あらゆる人間の力を凌駕する力が生まれる。

19. 祈りによって、弱き者は強められ、臆病な者は勇氣に満ち、無知な者は啓発され、内気な者は気兼ねなく振る舞えるようになる。

20. 精神が理性と調和して働きかけ、真の祈りに至ることができれば、それは目に見えない戦士となり、自らの本質に関わる事柄から一時的に距離を置き、別の場所へと身を移し、肉体の影響から解放され、善を行うこと、悪や危険を退け、困窮している人々に一筋の光、一滴の癒やし、あるいは一息の安らぎをもたらすことに専念する。

21. 私があなたがたに語るこれらすべてに基づいて、この人類を覆っている混沌の只中で、あなたがたが精神と知性をもってどれほど多くのことを成し遂げることができるかを理解しなさい。あなたがたは、相反する思考や思想が渦巻き、情熱が荒れ狂い、憎しみの感情が激突し、思考が物質主義によって混乱し、魂が闇に包まれている世界にいるのだ。

22. 祈りを通じて、思考と精神をもって光の領域、すなわち平和の領域へと昇ることを学んだ者だけが、あらゆる人間の情熱が映し出される闘争の世界に、打ち負かされることなく足を踏み入れることができ、それどころか、霊の光を必要とする者たちのために有益なものを残すことができるのである。

23. 愛する弟子たちよ、準備を整えなさい。そうすれば、私はあなたがたに、その苦痛と悲惨の世界へと踏み込むことを許そう。あなたがたの魂は、私の使者としてそこへ赴き、光をもたらすべきである。

24. あなたがたは、この世にいながらにして、これらすべてを認識し、知ることができるのだから――なぜ、霊界に到るまで待つ必要があるのか。魂の進歩と解放を妨げたまま、日々や時が過ぎ去るのを待つてはならない。あなたがたは自分の役割を果たしなさい。残りは私が成し遂げる。

25. 私は力そのものである。それゆえ、私はあなたがたの思考の一つ、祈りの一つを、あなたがたの隣人にとって触れることができ、目に見えるものへと変えることができるのだ。

26. このように働きかけるためには――実のところ、あなた方の存在の核心には、平和の天使が宿っているのではないだろうか？そして、もしこの民が全体として、真の調和と兄弟愛をもって、あの霊的な戦いに備え、そのために団結したとしたら、それはどのようなものになるだろうか？それは、人類の救済を達成するために戦う軍隊となるだろう。

27. まことに、あなたがたに告げる。もしあなたがたがすでに精神、思考、意志において一つになっていれば、互いに襲い掛かろうとするその時の到来に向けて準備を進めている諸国を食い止めるには、あなたがたの祈りだけで十分であろう。あなたがたは敵意を払拭し、同胞たちのあらゆる邪悪な計画に対する障壁となり、権力者を打ち負かす目に見えない剣のようになり、弱者を守る強固な盾となるだろう。人類は、この高次の力の明白な証拠を前にして、一瞬立ち止まり、自省するだろう。そして、その自省によって、そうでなければ自然とその要素から受けるであろう多くの激しい打撃や災難を免れることになるだろう。

28. 科学の木は、嵐の猛威によって激しく揺さぶられ、その実を人類の上に落とし続けるだろう。しかし、人間以外の誰が、それらの自然の要素の鎖を解き放ったというのか？確かに、最初的人类もまた、現実を悟り、良心の光に目覚め、ある法則に従うために、苦痛を知ることとなった。しかし、この時代の、発達し、自覚を持ち、教養のある人間が——どうして生命の木を冒涇するなどということを取えてできるだろうか？

29. 最初的人类の生活は、あるたとえ話に包まれていた。そのたとえ話は、人間が住んでいた無垢の樂園をいかにして失ったか、そしていかにして瞑想と平和の世界を、闘争と労働、発展と功績の世界と引き換えに拒絶したかを、あなた方に明らかにしている。これらすべては、創造主の御心に従い、起こるべきことの一部として定められていた。その拒絶は、人間の内なる神の光である良心の声によって魂が目覚め、功績を積み重ねることで、創造主によって魂のために定められた、より深い生命の次元からより高い次元へと昇華する道を歩み始めるために必要であった。

30. このように、人間が自らの存在の生存、発展、高揚のための闘いにおいて最初の一步を踏み出す時期のために、すべてが予見されていたのは事実である。それは、その道のりで最初の必要性が現れ始めたその最初の瞬間から、人間が、手の届く範囲に、まるで美しく、活力を与え、甘美な果実のような世界、自然、美しい、活力を与え、甘美な果実のように手の届くところに世界、自然、そして生命を前にして、その中身が彼に知恵、愛、そして正義に関する無限の教訓を与えてくれるように。

31. 生命と科学の木は、人間にどれほどの木陰と、どれほどの果実を与えてきたことか！それなのに、なぜ今日、世界において発達した人類として存在するはずの人類は、まるで目が見えないかのように振る舞い、自らに命を与えてくれた要素に反抗し、決して知恵

の果実を拒んだことのないその木を虐待するのだろうか？その理由を、私が教えてあげよう：それは、人間が祈ることをやめてしまったからであり、もはや祈らないがゆえに、靈魂の生活に関わるすべてを忘れてしまったからだ。そして、地上での生活に身を捧げるようになったとき、人間の最高の目標、最大の野心は、権力者となり、富を蓄え、学識を磨き、絶対的な支配者となることだった。しかし、これらすべてが人間を破滅へと引きずり込んだ。なぜなら、人間は儚い名声ばかりを追い求めていたからだ。

32. 確かに、私はあなたがたに憧れを持ち、向上心を持ち、偉大で、強く、賢くなることを夢見てほしいと願っている。しかし、それは精神の永遠の善についてのことである。なぜなら、それらの善を得るためには、慈悲、謙虚さ、寛容、忍耐、寛大さ、一言で言えば「愛」といった、あらゆる美德が必要だからである。そして、あらゆる美德は、魂を高め、清め、完成させるのである。この貧しい世界、この一時的な住処において、人間は——偉大であり、力強く、豊かであり、あるいは博学であるために——利己的であり、偽りであり、復讐心に満ち、残酷であり、無関心であり、非人間的であり、傲慢でなければならなかった。そして、これらすべてが、人間を、真実、愛、平和、真の知恵、そして正義とは正反対の極限へと追いやったのである。

33. 人々が、この世への度を越した愛と、地上のものへの崇拜が、自分たちを悲惨な失敗へと導いたことに気づいたら、何が起こるだろうか。人々は、失われた道を取り戻そうとし、かつて背を向けてしまったあの原則や法則を探し求めようとするだろう。そして、その努力の中で、彼らは教義を打ち立て、規範を定め、哲学や世界観、諸理論が台頭してくることになる。

これらすべてが、新たな大いなる戦いの始まりとなるだろう——もはや、地上の権力への不純な欲望によって引き起こされるものではない。殺戮の武器が、もはや命を奪い、家を破壊し、人間の血を流すことはなくなるだろう。その戦いは異なるものとなる。なぜなら、その時、主要な宗教団体が、新たな教義や新たな宗教と戦いを繰り広げるからである。

34. この戦いで勝利するのは誰か？どの宗教も、この争いから勝者として立ち上がることはないだろう。それは、あなたがたが今日苦しんでいるこの殺戮の戦争において、どの民族も勝利者であり続けることはないのと同じである。*

*ここで言及されている第二次世界大戦には、いわゆる「戦勝国」は存在したが、地上の覇権をめぐる争いは終戦後も今日に至るま

で続いている。しかし、この争いにおいて、最終的に勝利を収める世界大国は存在しないだろう。

35. 地上の覇権をめぐる戦争には、わたしの正義が支配し、その後、ある教義や宗教を押し通すための戦いにおいては、わたしの真理が勝利するだろう。

36. 唯一かつ至高の真理は、嵐の夜の稲妻の光のように輝き、誰もがその場にいる場所で、この神聖な閃光を見るだろう。

37. その時が来るまで、民よ、あなた方には道を歩み進み、同胞たちの道において、天の光の使者、先駆者、そして預言者として自らを現す時間があるだろう。

38. ある者たちが道の障害を取り除く一方で、他の者たちは霊的な種を蒔き、また別の者たちは、私のメッセージが地の果てまで届くようにと戦っていくであろう。

39. 時には、あなたがたの存在や言葉が、人々の混乱を増大させることもあるだろう。しかし、いったんその種が蒔かれれば、遅かれ早かれ芽を出すだろう。なぜなら、それは神聖な起源を持つものであり、手入れをされなくても、地上の種のように枯れてしまうことはないからだ。

40. あなたがたの間には、「救い主」も「裁き人」もいてはならない。しかし、それでもなお、わたしはあなたがたを通して救い、裁くことができる。あなたがたは、父の僕として、また弟子として旅を続け、諸地方へと赴かなければならない。

41. もしあなたがたが真に謙虚で慈悲深いならば、その行いも、言葉も、思いも、たとえ単純なものであっても、何らかの形で真理に背いた者たちの魂に響くことになるだろう。

42. あなたがたは、その道のりで、わたしを代表していると主張しながらも、その行いでそれを証明できない者たちに出会うだろう。学識があると思われる学者たちの無能さを発見するだろう。裁判官たちの正義の欠如や、権力者たちの偽りの偉大さを目の当たりにするだろう。これらすべて、そしてさらに多くのことを、あなたがたの目は目撃することになるだろう。しかし、それでもなお、誰をも裁いてはならない。なぜなら、それはあなたがたの役割ではないからだ。

43. わたしの憐れみが、あなた方をその場所へと導く。そうして、人間の苦難や弱さに心から動かされたあなた方の心が、わたしがあなた方の魂に注ぎ込んだ愛を、癒しの香油として放つようになるためである。

44. もし、他の人々がキリストの御名と御言葉を教えているのを見ても、彼らを見下してはならない。なぜなら、「第二の時代」に私があなたがたにもたらした御言葉が全地球に広まった時に、私の再臨が起こると書かれているからだ。しかし、私はあなたがたに告げる。この世には、まだそのメッセージを受け取っていない場所が依然として存在するのである。救い主が御言葉と御血によってあなたがたに与えた神の愛の種を、彼らがまず受け取らなければ、今日のこの極めて霊的な教えが、どうしてそれらの民に届くことができるのか。

45. 私のメッセージはすべての人に届き、あなたがたは皆、私のもとに来ることになる。私は来るべき時代のためにすべてを準備しており、私が魂と世界、人種と諸民族の主であるゆえに、すべての人において私の御心は成就されるのである。

46. 霊的存在たちの世界は、この地上の谷に住む時が来るのをただ待っている。彼らは光の存在であり、遅れた民族の懷に転生することを厭わない。なぜなら、彼らの使命はまさに、眠っている者たちを目覚めさせることにあるからである。

47. 父の知恵によって蒔かれ、散らされたこれらの光の精霊たちの大軍が地上に宿るようになれば、人々の間に親睦が生まれ、相互理解、調和、そして平和への願いが芽生え始めることに気づくようになるだろう。ある民族が他の民族と一つになる様子が見られるようになるだろう。それは、私のすべての子供たちが到達しなければならない普遍的な統一の兆しである。

48. 誰が私の計画を変えたり、私が定めたことを失敗させたりできるだろうか。人間的なものにはすべて限界がある。それゆえ、私はあなたがたに告げる。あなたがたは今、自由意志という賜物を悪用して作り出した限界に到達しつつあるのだ。

49. 人間の猛烈な歩みは、彼らを急速にこの結末へと導いた。そして、彼ら自身、自らの行いの結果によって裁きを招くことになるだろう。

50. わたしに耳を傾け、それゆえに主の計画を知っている者たちのうち、この世で日々起きている事柄を前にして、誰が動揺したり混乱したりすることがあろうか。また、わたしに耳を傾けた者たちのうち、霊的な指針を必要としているこの世の中で——それはすなわち、より高い道徳を意味するのだが——誰が無関心であり続け、何もしないで黙り続けることができるのか。

51. わたしの正義と愛は、人々の悪よりも強い。それゆえ、わたしの御心はすべての人において成就すると、あなたがたに告げるのである。

52. ひとたび人々の間に平和が訪れ、人類が再び祈りと断食の価値を理解するようになったとき、あなたがたは、私が「命の木」であることを知るだろう。その枝は無限に広がっており、その中に、あなたがたは師の腕を見出すことができる。それは、師があなたがたのために血を流したあの十字架の上で広げられた腕のように、人々の良心に次のような言葉を刻み込んだのだ。「わたしは命である。わたしのもとに来る者は、決して『死ぬ』ことはない。」

53. わたしは、新しいイスラエルの民を創造する一粒の種である——その民は、世界に影を落とし、霊的な命の実を授けることとなる。

54. あなたがたは依然として非常に不器用で臆病であり、信仰は薄く、知識も限られている。その証拠として、今日に至るまで、あなたがたの中から、その徳と、わたしの律法への熱意、そして慈愛によって民に命を与えるべき族長たちは現れていない——それは、イスラエルの初期にその形と名を与えた、あの義にかなった高潔な男たちのような者たちである。アブラハムを思い出せ。彼は指導者として、あらゆる氏族をひとつの家族へとまとめ上げた。また、モーセを思い出せ。彼はその信仰と力、そして愛をもって、イスラエルの諸部族をひとつの民として団結させる術を知っていたのだ。

55. 霊的な洞察力の賜物は、あなたがたの間にもたらされたが、それでもなお、あなたがたは預言者たちの声をほとんど聞き取ることができない。その声は、まだ非常に弱く、不安定だからである。

56. 私がこの形であなた方に語りかけ、将来の世代の模範として永く残る行いをあなた方に期待するためには、まずあなた方に発展の道を歩ませ、その過程で、あなた方が成長できるよう手段を与えたのである。すなわち、私はあなた方を幾度となく地上へ送り出し、知恵の光となる経験を積ませ、魂の向上を意味する試練の中であなた方を清めるために、成長するための手段を与えたのである。

57. あなたがたのうち、今のこの人生が、この地上で送る最初の人生だと信じている者はいるか。いいえ、民よ、もしそうであったなら、私はこの第三の時代にあなたがたを訪ねることはなかっただろう。

58. あなたがたの現在の生は、この世で歩んできた魂の成長への道のりの、また一つに過ぎない。あなたがたの疑いを、私は赦す。

なぜなら、その疑いは霊からではなく、「肉」から生じているからだ。

59. あなたがたは人類の中で最も貧しい者たちであり、無学で無知であると見なされるかもしれない。あなたがたの働きは今日に至るまで取るに足らないものであったかもしれないし、あなたがたの神への崇拝は漠然としたものかもしれない。しかし今、私が霊的にあなたがたを評価して、改めて告げる。私が、私の啓示と啓示のためにあなたがたを選んだのには、理由があったのだ。

60. 私は、私の言葉という彫刻刀をもって、あなたがたの魂、心、そして知性を形作り、あなたがたに十分な知識を与える。そうすることで、あなたがたは、自分たちが何者であるか、誰から生まれたのか、何のためにこの世に遣わされたのか、そして目標が何であるかを知り、自分自身への信頼を深めることになるのだ。

61. わたしがあなたがたに知識と信頼について語ったのは、あなたがたが良心によって示される正しい目標に心を向けるためである。なぜなら、謙虚さを自己への信頼の欠如と混同して、自分を劣った存在だと考えるべきではないのと同様に、誰に対しても自分の方が優れているなどと考えてはならないからである。なぜなら、虚栄心、傲慢、そして高慢さは、光の魂に固有のものではなく、光に目がくらまされた魂にのみ見られるものだからである。

62. さて、あなたがたは今や、自分たちが「巡礼者」であり、この機会に私のメッセージを受け取り、私の啓示の伝達者、仲介者、そして代弁者となるという幸運に恵まれたことを知っている。

63. あなたがたの霊的な使命に関して、いかなる不安や疑いも生じることはないでしょう。すべては語られ、すべては明瞭に満ちた道として切り開かれている。あなたがたに残されているのは、祈りと私の教えに従うことによって強くなり、先祖たち、民の指導者たち、預言者たち、弟子たち、使徒たち、そして神の真の証人たちが歩んできた道を、完全に歩み始めることだけである。

64. 私は、このスピリチュアリズムの民の子供たちを、地球上のあらゆる場所から集めてくる。なぜなら、この民は人種でもなければ、人間的な起源を持つものでもないことを、改めてあなた方に告げるからだ。それは霊的な軍団であり、その数は絶えず更新され、この世には常に、霊から霊へと私の靈感を受け取る者たちが存在し続けるようにされているのだ。

65. 肉眼では、この民に属する者を見分けることはできないだろう。彼らの霊性の高さと、その賜物や能力の開花によってのみ、彼らを見分けることができるのだ。

66. 主の使者であるこの民の本質的な使命とは何だろうか。それは、魂の束縛であれ、思考の束縛であれ、あらゆる束縛から人類を解放することである。律法を思い起こさせ、神の約束を思い出させ、迷いの中にいる者たちを戒め、善へと導き、愛と知恵と平和の王国である「約束の地」へと導くことである。そこへは、すべての存在、すべての民族、そしてすべての世界が、一つの家族、すなわち神の家族を形成するために集まってくるのである。

私の平安があなたがたにあるように！

教え 289

1. 人類よ、あなたがたは平和に生きるために、自らどれほど少ない努力しかしていないことか！

2. 私はあなたがたにこう言おう。大多数の人々は宗教を持っているが、皆が兄弟愛を説いているにもかかわらず、受けた教えに従って生きている者は誰もおらず、良心に刻まれた法や戒め、原則に従っている者もないのだ。

ある人々は、いかなる宗教的信条にも従うことを避けるために、自らの思考を自由に放任し、戒めや法律の外に立っていると信じてきた。しかし、それはあり得ない。なぜなら、彼らは自らの観察や科学、定義を通じて、あらゆるもの、あらゆる場所に、誰も逃れることのできない力、調和、法則、そして賢明で公正かつ慈愛に満ちた教えが現れていることを知ってきたからである。

3. 人類はこれほど長い世紀にわたり不和の中で生き、数多くの苦痛に満ちた苦い経験を積んできたが、今や、民族間の団結やすべての人間の間の調和は、物質的な利益や地上の価値観に基づいては成り立たないことを理解できるようになった。やがて人類は、高潔な魂こそが、人類の平和の基盤となる確固たる土台、揺るぎない岩となることができるのだと理解するようになるでしょう。

4. もしすべての民族が何らかの形で争い、戦争をし、互いに非難し合うのであれば、それはどの民族も、神とその律法が教えたことを守っておらず、それゆえ真理から遠く離れていることを意味する

5. 真理とは、あらゆるものに対する敬意である。なぜなら、すべてのものは神聖であり、愛であり、調和であり、慈悲であり、良心を司る法だからである。

6. 魂を完成させるためには、単純な人間の義務や、さらには宗教的な義務さえも超え、すべての者が水を飲む源に到達し、真理を直視する必要がある。

7. 山の頂上に到達し、その壮麗さを目の当たりにした者は、下山して再び人々と共に暮らす際、必然的に、その判断においてより寛容になり、理解を深め、慈悲深くなるだろう。これは、すべての人を調和させ、一つに結びつける準備が整った要素である。

8. よく考えてみれば、あなた方が必要としている調和は精神的なものであり、自分の情熱や独断を乗り越えたときに初めてそれを手に入れられることがわかるだろう。

9. 誰もが自分の考えだけを唯一の真理として主張し、同時に他者の考えを誤りとして攻撃している状況で、どうして平和を築くことができるだろうか。

10. 狂信とは闇であり、盲目であり、無知であり、その実が光に満ちたものになることは決してない。

11. あなた方は、皆が真実に目覚めることになる大きな試練に近づいています。

12. あなたがたの心は、なぜ私がしばしば大きな試練や出来事について語るのかと問う。私はこう告げる。あなたがたには苦難の時期が待ち受けている。無気力に眠り続けるよりも、あらかじめ警告を受け、目を覚まし、祈るほうがよいのだ。

13. 私の語ることに決して満足しない者たちがいる。私が言葉の中で、未来に訪れる平和と繁栄の時代をあなた方に示しても、あなた方は私の預言が実現するとは考えず、試練や苦しみみの時代について語ると、それは単に恐怖によって使命を果たさせるための脅しに過ぎないと信じている。

14. このように私の言葉を解釈する者たちは、疑いの海に漂っている者たちの一員である。なぜなら、このメッセージを信じる者は、そこから有益なものを引き出そうという高潔な意図を持って、常にそれを研究するからである。

15. 弟子たちよ。第二の時代には、人類に私のメッセージを伝えるのに三年で十分であった。そして――あなたがた全員が知っているように――私はそのメッセージを、最後に私の犠牲の死によって確固たるものとした。まことに、あなたがたに告げよう。その犠牲の死は、父への捧げ物ではなかった――父は血の犠牲を必要とされないからだ――。それは人類への捧げ物であった。なぜなら、人類はまさに、これほど偉大な愛の証を必要としていたからである。

16. 私は、あなたがたに互いに愛し合うよう教えたが、それは単に人間としてだけでなく、霊魂として永遠の愛をもって愛し合うことでもあった。私は、この世界から、あなたがたにとって厚い秘密のペールの向こうにあるかのように思われていた霊界へと続く道を切り開くために来たのである。私の教えは、最初の一語から最後の一語に至るまで、私が予告した通り、霊として再び来臨する時のための準備であった。それは、秘められた宝庫を再び開き、封印された書物を解き明かし、あなたがたを霊的知識の光の中へと導くためであった。

17. あなたがたの物質世界を超越して存在する魂の生命は、人間にとって秘密であるはずもなければ、そうあってはならないもので

した。父はあなたがたの知識への渴望をご覧になり、啓示と靈感という賜物によって教えを始め、無限の様々な形で御自身を現されました。しかし、この教えは最初の人間が誕生した時からすでに始まっており、今日に至るまで絶えることなく続いています。

18. もしあなたがたが、私が今になって初めて霊的な生活について何かを啓示したと考えているなら、それは大きな誤りである。なぜなら、私はもう一度言うが、神の教えは最初の人間が生まれた時に始まったのであり、世界が創造される以前、霊が創造された時から私の教えが始まったと言っても、決して誇張ではないからだ。

19. もしかして、かつての教えは、人間的な知識を啓示することを目的としていたとでも思っているのか。そのためのものは、科学という賜物が与えられている。あるいは、初期の時代の戒めや、私が第二の時代にあなたがたにもたらした教えは、単にこの世で生きることを教えるためだけのものであったとでも思っているのか。それらの啓示の核心を探求すれば、その意図が、永遠の命、すなわち魂の不死へと至る道を示すことにあると気づくでしょう。

20. 霊性主義とは、霊の生き方について語りかけ、あなたがたに父と直接つながることを教え、物質的な生活を超越させる啓示のことであると、私は呼んできた。

21. まことに、あなたがたに告げる。スピリチュアリズムは決して新しいものではなく、またこの時代にのみ属するものでもない。それは、人類の霊的発展に合わせて、ますます明らかにされてきた啓示なのである。

22. 私があなたがたに与える教えは、神と隣人への完全な愛を教え、完全性へと至る道へと招くスピリチュアリズムである。それゆえ、スピリチュアリズムとは、「第一の時代」において神の律法が、また「第二の時代」においてキリストの御言葉が、あなたがたに教えたものでもあったのである。

23. この啓示があなた方にとって新しいものとして映ったのは、私があなた方が知らなかった教訓をもたらしたからである。あなた方は、これほど多くの知恵に目をくらまされたと感じた。しかし、これは、人間の魂が解放と昇華、そして物質に対する支配権を獲得する「時代の完成」に近づいていることに起因するものである。

24. したがって、私がこの第三の時代に到来し、私のな新しい啓示をもってそれを解き明かす以前、霊的な生活が謎であったなどと言う者は誰もいないように。私は改めて言うておく。たとえあなたがたがそれを理解できなかったとしても、時の経過とともに多くの教えが与えられてきたのだ。

25. 人々が、過去の時代の啓示が含むあらゆるものを発見し、その謎を解き明かし、それを現在の出来事と比較しようとし始めたのは、今になってからである。

26. 弟子たちよ、今やあなたがたは、「スピリチュアリズム」と言うとき、それはあなたがたの神が長い年月をかけて与えてきた霊的な啓示のことを指しているのだと理解したはずです。

27. 私は泥棒のように静かにあなたがたの元へ忍び込み、眠っているあなたがたを不意打ちした。

28. いつの時代も、私が到来した際、人類は眠りについてた。ただ、かすかな灯火のように、目を覚まして私を待ち望んでいた心は、ごくわずかであった。

29. 人々よ、あなたがたが過去について少しばかり考えるだけで、経験の果実を受け取ることができる。その後、再び過ちや誤りに陥らないよう、注意を払わなければならない。

30. もし私が、第二の時代に私の血で書き記したあの紙片がどうなったのかと尋ねたなら、あなたがたは沈黙せざるを得ないだろう。なぜなら、あなたがたの良心が、イエスが教えた教えを決して実践してこなかったこと――あなたがたが、その言葉を、心で拾い集める代わりに、まるで命の木から落ちた葉のように風に吹き飛ばしてしまったことを告げるからである。

31. まことに、あなたがたに告げる。あなたがたはすでに、私が「終わりの時」として予告したその時代に入っている。それは、裁きと償い、そして回復によって特徴づけられる時代である。

32. わたしは、かつての預言者たちの口を通して、この時代をあなたがたに予告し、また、わたしの言葉の新たな預言者たちであるこれらの伝達者たちの口を通して、あなたがたに語りかけ、それらの予言の多くを成就させてきた。

33. わたしの言葉は極めて明瞭であるため、あなたがたは今まさにわたしを理解しようとしている。かつては聞き入れられていなかったあなたがたの良心は、今日、あなたがたの存在全体を包み込み、肉の衝動を制する力を持っている。

34. わたしの新しい使徒たちは救命ボートに乗り込み、そこから手を差し伸べて、人間の情欲という海で難破した人々を救い出さよう。

35. わたしは、徐々にわたしの民を形成するためにあなた方を選んだが、今あなた方にはまだ理解できない計画がある。ただ一つ言えるのは、あなたがたの魂の中には、数ある道の中から真の道を見

出すことを可能にする光が存在しているということだ。それゆえ、光の子らには人類に対する責任があるのだ。

私があらゆる教えの中で、あなたがたに高みへと向上し、山の頂上へと登るよう呼びかけている理由を理解してください。なぜなら、あなたがたがその高みに達して初めて、この世界で起きていることを見通すことができ、人類の絶え間ない嘆きを聞き、その計り知れない苦しみを肌で感じるができるからです。

36. 隣人の痛みを感じない者は、その痛みを和らげることはできない、弟子たちよ。それゆえ、私はあなたがたが祈りの中で隣人のことを思うことを望む。なぜなら、それこそが、あなたがたの魂が多くの涙をぬぐい、心が共感、理解、慈悲、そして優しさへと目覚める瞬間だからである。

37. わが民は高揚を必要としている。なぜなら、彼らは依然として人類の苦しみを自らのものとして受け止めていないからだ。確かに彼らは泣くが、それは自分自身のために、自らの苦難や悲しみのために泣いているに過ぎない。

38. なぜ、あなたがたはわたしの言葉に対して無感覚なままであるのか。もしかして、わたしがあなたがたに未知の王国を提示しているというのか。今日、わたしがあなたがたに語っている王国は、第二の時代に約束したものと同一であることを悟りなさい。

39. これらがあなたがたが聞く最後の教えであり、心の奥底にしっかりと留めておかねばならないことを心に留めなさい。そうしてこそ、この啓示の時期が過ぎた後も、わたしの言葉の響きよい音を聞き続け、その真意を保ち続けることができるのだ。

40. もし私が、あなたがたの知性が過去を認識することを妨げているベールを、ほんの一瞬でも取り除いたとしたら――まことに、あなたがたに告げるが、あなたがたは私の御前にひれ伏し、自分の恩知らず、不従順、不誠実、そして私の業に対する信仰の欠如に対する後悔に押しつぶされてしまうだろう。しかし、真の功德とは、直感を養い、良心の声に耳を傾け、あなたがたの中に生き、あなたがたが「魂」と呼ぶ本質を開花させることにある。

41. あなたがたが一度肉体から解放されれば、「霊的な谷」に住むことになる。過去を振り返ることを妨げていたそのベールは、あなたがたの目から取り除かれ、あなたがたはすべてを曇りのない明晰さで見、すべてを思い出し、すべてを理解するようになる。しかし、私はもう一度言うておく。あなたがたの魂にとっての功德とは、信じるために「見る」ことや「触れる」ことを期待することなく、ただ信仰を持つことにあるのだ。

42. よく考え、これらの言葉を霊的に受け止めてください。その言葉の中に、私の容赦ないが、常に愛に満ちた正義が明らかにされているからです。

43. 私は、羊の群れに自由を与える羊飼いです。ただし、それは一定の限界までであり、羊たちが苦痛が待ち受ける境界線を越えることを許さない。

44. わたしはあなたがたを支え、守り、羊小屋へと帰らせる。

45. あなたたちは次々と機会を与えられてきた。その中に、あなたたちに対する私の限りない愛を見出すことができる。なぜなら、私はあなたたちを罰したり、かつてあなたがたが考えていたように永遠に破滅させたりするのではなく、過ちを償い、魂を清め、完成させる機会を、あなたたちの存在に与えてきたからである。

46. これらの教えを知り、それが真実であると信じている者が、それによって自分の魂にさらに厳しい贖罪を課することになることを知りながら、あえて地上の使命に背を向けるだろうか。なぜなら、私の正義が、汚れを取り除き、過ちを償うための新たな機会をあなた方に与えていることは事実ですが、その一方で、機会が増えるごとに試練の数も増え、犯した過ちが重くなるにつれて、その苦労や苦しみも毎回より激しくなるのもまた事実だからです。

47. あなた方の義務——これを「罰」と呼ぶべきではない——は、回復し、刷新し、償い、最後の罪に至るまで清算することにある。天の父も、地上の兄弟姉妹も、「霊界」にいる者たちも、あなたがた自身だけがなすべきことを代わって行ってくれる者など誰もいない。とはいえ、私は常にあなたがたの呼びかけに応えるだろうと告げておく。もしあなたがたが孤独で、見捨てられたと感じる時、私の存在を感じることになるだろう。そして、霊界は常に、あなたがたの十字架の重荷を支えるために駆けつけてくれる。

48. わたしの神聖な光線は、あなたがたの間で言葉となるが、その光は宇宙全体に広がっていく。

49. 人類よ、安らぎなさい。私は、あなたがたが祈り、私の律法について熟考することで力を得られるよう、七日ごとに一日を休息の日として与えたのだ。

50. 私はここにおり、宗教の区別なく、あなたがたすべてを訪ねている。私は肉体と魂の神聖な医者である。私は病める者たちを訪ね、彼らに私の慰めを注ぎ込む。

51. 私の声は全人類に降り注いでいるが、正直に言えば、それを聞き取ることができる者はごくわずかである。

52. 無限の彼方における霊と霊との対話を通じて、主の声を聞く準備をするよう導くのが、私の教えである。

53. わが言葉を人間的な形で聞く民よ。このメッセージを全世界に伝え、人々が立ち上がり、わが光を見ることを妨げてきた狂信と物質主義の鎖を断ち切らせるのは、他ならぬあなた方であることを知れ。あなたがたが同胞のもとへたどり着く頃には、人間の知性を通じての私の啓示はすでに終わっているとしても、それは問題ではない。私の本質は——知恵の言葉へと、癒しの香油へと変容して——私の真実の最良の証しとして、あなたがたの心から溢れ出るだろう。

54. あなたがたの使命は、同胞たちを永遠の命と結びつけ、それによって彼らを真理へと近づけることで、霊性への道を切り開き、導くことである。

55. 弟子たちよ、自らを高めよ。そうしてこそ、後に、物質主義や、余分なもの、無益なものから解放されることの意味を教えることができるのだ。そして、闇の濃い霧をくぐり抜け、魂の糧であり命である神聖な光を見出す方法を示すことができるのだ。

56. この高みへの歩みの中に、あなたがたに「大いなる戦い」として予告された闘いの根拠がある。その戦いには、あなたがた全員が参加することになる——弱き者、無知な者、そして「死者」たちでさえも。なぜなら、この試練を経て、あなたがたは皆、啓発され、清められた姿でそこから立ち上がるからである。

57. わが王国は近づいているが、私は死者ではなく、生ける者たちを治めたい。真の王にふさわしいように、私は愛され、理解され、従順を得たいのである。

58. 今や戦いは全面的に勃発している。人々は私の力と正義を疑い、絶えず彼らの武器を私のものと競わせようとしてきた。しかし、私は彼らを愛しているからこそ、その不信を受け入れてきた。私は彼らの罪と戦い、打ち負かさなければならない。なぜなら、私が彼らを打ち負かすことによって、私は彼らを迷いから救い出すことになるからだ。

59. この戦いにおいて、偶像は倒れ、思考は混乱に陥り、肉体は押しつぶされるだろう。まるで暴風が吹き荒れる中でヤシの木が押し倒されるように。しかし、最終的には、魂は浄化され、光に満ちてそこから立ち上がるだろう。その魂は死ぬことはない。戦いの最中に死ぬなどあり得ない。なぜなら、私はあなたがたに、私が命そのものであり、死者の父ではなく、生ける者の父であり神であると告げたからだ。

60. 人間を救うために開かれたままになる扉はただ一つ、靈化への扉である。救われようとする者は、その高慢、偽りの偉大さ、卑しい情欲、そして利己心を捨て去らなければならない。

61. 人々が大きい戦いで飲まなければならない杯は、極めて苦いものとなるだろう。それでもなお、わたしはあなたがたに言う。その杯を飲み干し、清められた者としてこの世を去る者たちは幸いである。なぜなら、彼らが別の肉体をもってこの世に戻ってきたとき、彼らのメッセージは光と平和と知恵に満ち溢れているからである。

62. この惑星の住民たちから聞こえてくる嘆きの叫びは、実に大きい。抑圧されている者たちや、平和を夢見る者たちは、権力者と呼ばれる人々から、調和と自由の光が放たれることを期待している。それについて、わたしはあなたがたにこう告げる。期待に胸を膨らませているその心は、むしろ祈りをもってわたしのもとへ向けられるべきである。なぜなら、自由と平和を与えることができるのは、わたしだけだからである。もう一度言うておくが、人々が自らの運命の起源、意味、目的を知らない限り、あるいはそれを知っていても、自分たちの内に宿るその真理を信じない限り、彼らは平和を得ることはできない。なぜなら、彼らは神において真の兄弟姉妹として互いを愛することができないからだ。

63. 現代の人類は冷酷であり、実に冷酷で、靈的なものに対してますます無感覚になっている。わたしの言葉を聞きなさい。それは、忍耐強くあなたがたの心を削り出す彫刻刀のようなものである。しかし、あなたがたはこれほど頻繁にそれを耳にしているにもかかわらず——見よ、あなたがたがいかに無関心であるか！ 私は、このメッセージに含まれる最後の言葉を語り終えるまで、あなたがたに語り続けるつもりだ。そうすれば、私がもはやあなたがたに語りかけなくなったとき、私の言葉が明らかにしたすべてのものの中に、真の、そして完全な教えを見出すことができるようになるだろう。

。

64. おお、民よ、この泉から飲みなさい。わたしはあなた方を種として用いて、あなた方の中からわたしを愛する世代を生み出そうとしているのだから。

65. まことに、わたしがあなたがたに告げる。靈性さえも子孫に受け継がれるのだから、あなたがたは子供たちに心の清らかさと、靈的なものに対する感受性を伝えるよう努めなければならない。彼らは、あなたがたが、情欲から解放され、明晰な知性、感受性豊か

な心、そして良心の呼び声に耳を傾ける魂を備えた体を彼らに授けることで、慈悲を示してくれたことに感謝するでしょう。

66. あなたがたは皆、神の民の一員となるよう招かれている。ある者はこの民の子であり、他の者はそうではないというのは嘘である。あなたがたは皆、ただ一つの源、すなわち神から来ている。わたしはあなたがた全員を、神の軍勢の一員となるよう招く。あなたがた全員を、その列の中に迎えたいと願っている。わが民は、光の子であり、平和の使徒であり、わが知恵の相続人である。その真ん中には、わがすべての子供たちが居場所を見出す。

67. 弟子たちよ、私の言葉に絶えず耳を傾けてください。そうすれば、私が去るその瞬間に、私の呼びかけに耳を傾けなかったことを後悔することはないでしょう。

68. 私は、その時刻が、祈りと、熱意と、愛と、感謝に満ちた状態で、あなたがたを訪れることを望んでいる。そうして、霊性、敬虔、そして理解に満ちたその雰囲気の中で、あなたがたは、私の啓示があなたがたの間で終わることを妨げようとはせず、あなたがたに与えてくださった教えに対して、あなたがたの父に感謝するだろう。

69. 私の声はあなたがたの霊の中に響き渡り、深い物悲しさを感じさせるだろう。しかし、あなたがたに語りかけるのは、死を目前にした者の声ではなく、困難な使命を果たすためにあなたがたを送り出し、あなたがたが戻ってくるのを待ちわびて、愛情を込めて抱きしめることを願っている父の声である。私がこれらすべてを語る理由は、私の言葉が終わったとき、あなたがたの心に悲しみが残らないようにするためである。

第二の時代に、師の死を悼んだ者たちは皆、まもなく、師が栄光に満ち、生命と光に満ちて天へと昇って行くのを見て驚かされたことを思い出してください。なぜなら、師の故郷は死者の世界にはなかったからです。

70. わたしの啓示の最終日、あなたがたに涙を流させるのは、無駄にした時間や生かしきれなかった教訓に対する悔恨の涙である場合に限る。

71. 第三の時代にわたしの言葉を聞いた者たちのうち、1950年の最後の日が、父の御意志によって定められたこの啓示の終わりの時であることを知らない者がいるだろうか？ 誰もいない。なぜなら、これらすべての集会所において、また数え切れないほどの形で、わたしはそれをあなたがたに知らせてきたからだ。

72. それは、神聖なものと霊的なものが地上の時間に支配されているからでもなく、また、あなたがたの魂の発達が時計やカレンダーで測れるからでもない。そうするのは、あなたがたが肉体の中にあり、霊的な時代の終わりや新しい時代の到来を悟るにはまだ幼すぎる限り、私が霊的なものを、あなたがたが理解できるよう、ある一定の限界まで人間的かつ地上的なものとして説明しなければならないからである。

73. さて、弟子たちよ、私はあなた方に問う。私が去った後、霊的な次元で、そして強烈な形で私の存在を感じたいと願うか？そのための条件は、あなたがたが兄弟として団結していることである。もしそうでなければ、あなたがたは私の存在を感知することも、この霊的な感覚から発せられる力を享受することもできないだろう。

74. この期間、あなたがたが理解できなかったことすべてに対する答えを、霊的に受け取りたいと願うか。霊性を深めよ。そうすれば、わたしの答えを聞くことができるだろう。

75. 孤独と沈黙の瞬間が訪れるだろう。それは、あなたがたが祈りの中でわたしのもとへ立ち上がるためである。しかし、わたしを見つけれなかったと感じる瞬間もあるだろう。それでも――もしあなたがたがまだわたしの霊の臨在を感じ取れていなくても、それでも耐え忍び、心配してはならない。それは、あなたがたの信仰と霊性への試練だからである。粘り強くありなさい。なぜなら、最も予期せぬ瞬間に、私は一筋の光のように輝きながらやって来て、あなたがたの心と精神に宿り、こう告げるからです。「祝福あれ。あなたがたは、師がどんな呼びかけも聞き逃すことはないと信頼したのだから。」

76. 勇気、信仰、そして忍耐は、常にあなたがたの中に備わっていないからではない美德である。なぜなら、世界観の対立、信仰の信念をめぐる戦い、そして霊的な戦いの時が近づいているからだ。あなたがたは、単に私の教えを知っているだけでなく、実践と経験を通じて強くなってこそよいのである。

77. 人々よ。私の教えの時間はこれで終わりである。あとしばらくの間、「霊的な谷」にとどまり、そこから、同胞たちが戦い、苦しみ、そして同様に救いを待ち望んでいる地球上のあらゆる民族へと、あなたがたの思いを届けなさい。

私の平安があなた方とともにありますように！

教え 290

1. 神は光であり、愛であり、正義である。人生においてこれらの特質を現す者は皆、その主を体現し、主を称えることになる。

2. 最も小さく、最も卑しい者から、最も高貴な者に至るまで、あなたがた全員が、正義、愛、そして知恵とは何かを知るべきである。あなたがた全員が、神の律法は不変であることを理解しなければならない。そうして初めて、あなたがたはそれを愛し、私があなたがたの運命を変えてくれるよう願うことはなくなるのだ。

3. 知っておきなさい。あなたがたの父である創造主が、その律法を決して変えないのであれば、あなたがたにはそれを変える権利など微塵もないのだ。

4. あなたがたの魂は、今や成長することができたからこそ、幸せなのです。なぜなら、魂が転生のために地上にやってくるたびに、過去の人生からの知識を持ち込み、霊界で受け取る光は経験そのものであり、その成長の道を照らす灯台となるからです。

5. 人生への理解こそが真の科学であり、魂の永遠の光である。そして、これらすべての経験の総体が、あなたがたが徐々に獲得していく知識なのである。

6. 結局のところ、魂が守る唯一の宝は、人生の闘いの中で勝ち取った知識となるだろう。それゆえ、私はあなたがたに告げる。あなたがたの遺産であるこの光を、無益な行いに浪費してはならず、善き、高潔で、気高い行いのためにのみ用いるべきである。私が語るこのことについての一つのたとえは、この世のお金に見出すことができます。それは――正しく用いられれば――祝福となりますが、浪費されれば悪をもたらすだけです。

7. また、浄化の時期がゆっくりとしか過ぎないときでも、絶望してはならないことを学ばなければならない。なぜなら、まさにそのときにこそ、魂の多くの美德が心の中で試されるからであり、そのときこそ、人は自分の中に真の祈り――霊から霊へと、沈黙のうちに、静寂の中で行われる祈り――を見出すことができるのだ。そうして初めて、あなた方は内なる存在の声――あなた自身のものにもかかわらず、まだ知らないあの靈魂の声――を聞き取ることができるのです。

私はこの民から軍隊を編成し、あなた方の多くを指導者にしなければならない――しかし、それは地上の権力という意味での指導者ではなく、兄弟殺しの戦争のための指導者でもなく、光のために突破口を切り開き、平和と説得力によって勝利を収め、破壊するため

——そう、破壊するためではあるが、有害なものを破壊し、善を確立するための兵士としてである。

8. あなたがたは心の中でこう言っている。「神は正義である」。それならば、私はあなたがたに問う。もしあなたがたが、神が完全な正義であり、な知恵であることを理解しているのなら——なぜ時折、神の律法が変更されることを求めるのか。

9. あなたがたは、まるで子供であるかのように表面的に判断し、自分たちを苦しめる試練が、自分たちの行いの結果であることを顧みない。それゆえ、試練が降りかかると、それが去ることを願い、苦しまずに済むよう、苦難の杯をこれ以上飲まなくて済むよう、運命が変わってほしいと願うのである。

その理由は、あなたがたが霊的な視力で現実の深層を見通すことができず、自分が刈り取るものはすべて自ら蒔いたものであり、あらゆる苦しみも自ら招いたものであることを理解できないからである。

10. いいえ、あなたがたは真実を突き止めることを決して理解してこなかった。それゆえ、痛みが心に突き刺さると、自分たちを神の不公正の犠牲者だと考えてしまう。しかし、私はあなたがたに告げる。神の中には、ほんのわずかな不公正さえも存在し得ないのだ。

11. 神の愛は不変であり、揺るぎなく、永遠である。したがって、神の御霊が怒りや憤り、激怒に駆られることがあると信じる者は、大きな誤りに陥っている。そのような弱さは、魂の成熟と情欲への自制を欠いた人間にのみあり得るものである。

12. 時折、あなたがたは私にこう言う。「主よ、なぜ私たちは自分たちのものではない行いの結果を『償わなければならない』のですか。なぜ他者が生み出した苦い実を収穫しなければならないのですか？」——それに対し、私はこう答える。あなたがたは、かつて自分が何者であったか、また自分の行いが何であったかを知らないがゆえに、そのことを何も理解していないのだ、と。

13. 恐怖と罰、そして無知に満ちた教えを説く者たちは、私の正義の真実をいかに歪めてきたことか！しかし、あなたがたは、彼らがそのような振る舞いをする理由を知っているか？それは、彼らが他者を支配する必要があるからであり、謙虚さを知らず、その代わりに、自分たちを「真理の所有者」や「選ばれし者」と称し、他者より優位に立つほどの大いなる虚栄心を持っているからだ。

14. 彼らは、特権階級としての地位を失わないために、無知を説き、人々を威圧しているのだ。

15. 私の光と慈悲のみが、大衆を、彼らが導かれようとしている破滅と闇から救うことができるのだ。

16. 私は、盲目的な信仰、すなわち認識を伴わない信仰、恐怖や迷信によって得られた信仰を説く者たちを非難する。

17. 人類を苦しめるあらゆる悪、あらゆる災い、飢饉、疫病を、それらを神の罰や怒りであると称して神のせいにする者たちの言葉に耳を傾けてはならない。彼らは偽預言者である。

18. 彼らから背を向けなさい。彼らはわたしを知らないくせに、神がどのようなお方であるかを人々に教えようとしているのだから。

19. これは、過去の聖典に対してなされた誤った解釈の結実である。それらの聖典の神聖な言葉は、啓示や預言が記された人間の言葉の核心において、まだ解明されていなかったのだ。多くの人々が、真理についてほんの少しの知識も持たずに、世界の終わりや最後の審判、死、そして地獄について語っている。

20. わたしは、人々がやがて抱くことになる光への渴望を知っていた。それゆえ、当時、わたしは彼らに、真理の霊を送ると告げて、再び戻ってくると約束した――それは、わたしが果たした約束であり、絶え間なく、日々、そしてあなたがた一人ひとりの内で成就し続けているのである。しかし、もしあなたがたが、すべてを正しく解釈していると主張する者たちに、「師が御霊として来られ、その教えについてあなたがたに語られることを知れ」と言ったとしても――弟子たちよ、彼らがあなたがたを信じると思うか？ 私が、あなたがたに「十分な備えが必要だ」と告げている理由を理解してください。そうすれば、迷い、愚か、あるいは狂信的な者たちに出会ったとき、あなたがたは動揺することなく、内なる言葉という真の賜物と、霊的な靈感を受け取るための十分な準備をもって、知性の器官を照らし、魂を揺さぶり、心を動かすことができるようになるのです。

21. 私の教えは異なる。私はあなたがたにこう言った。「『死』などない。あなたがたを待っているのは永遠である。永遠の火も、罪人への罰もない。あるのは、浄化、試練、そして悟りである。」

22. すべてのものは絶えず変化し、完全性へと向かっています。その一例は、あなた方自身にあります。あなた方は人生で経験する各段階を経て変化し、その段階を終え、その姿は消え去り、再び戻ってきて、一歩前進するのです。

23. 父はご自身の業を未完成のままにしておくことはない。父が、完全なものへと導くために創造したものを、いつの日か自ら破壊するなど、どうしてそう考えられるだろうか。

24. 祈りなさい。そして、父が御心に従って、その教訓をあなた方に与えてくださるよう受け入れてください。なぜなら、あなた方は、自分たちが何に値し、何が必要で、何が有益なのかを知らないからです。あなた方のことを父の御手に委ね、父が与えてくださるものを、柔和さと喜びをもって受け入れてください。

25. 真実がいかに異なるか、あなたがたは目にしてきた。もしあなたがたの心に恐れを抱かなければならないとしても、それはわたしに対する恐れであってはならず、むしろ、あなたがた自身や、あなたがたの行いに対する恐れでなければならない。なぜなら、その結末から逃れることはできないからだ。

私は、無限を仰ぎ見ることに心を奪われたあなたがたの魂が、地上でまだ見出せないあの平安を味わうために、しばらくの間その状態に留まることを許す。

26. 弟子たちよ。あなたがたは世の中に生きながらも、霊的な生活を送ることができる。なぜなら、霊化とは、肉体にかなうものから背を向けることにあるのではなく、人間の法と神の法を調和させることにあると、あなたがたは考えるべきだからである。

27. わたしの律法を学び、それを人間の律法と一つに統合することを知る者は、祝福される。その者は、健康で、強く、寛大で、幸福になるからである。

28. この時代、人類は、律法からの逸脱によって引き起こされる、失敗と迷い、あらゆる種類の病に苛まれる時代を経験している。しかし、人々が最も混乱しているときこそ、わたしの律法は光として魂に降り注ぎ、人々を平和の道へと招くのである。

29. この時代のわたしの啓示は、わたしの知恵の書における新たな一章であり、その書から切り離された新たな封印である。その書の内容は今、溢れ出し、魂を清め、解放し、人々を新たにしている。

30. 神の光に照らされている兆しを全く見せないこの世界を見よ。まことに、わたしはあなたがたに告げる。人々は、わたしの光が彼らに啓発するものを理解しているという大きな証拠をまだ示していないが、目覚めていない魂はただの一つも存在しないであろう。

31. 人々よ、あなたがたの間でのわたしの言葉の宣教は、ごくささやかなものである。しかし、もし人類がこのメッセージを知り、

それに従おうと決意したならば、人類は救いへの道を歩むことになるだろう。

32. わたしは貧しい人々の間に、優越感を誇示することのない民の懷に、自らを現さねばならなかった。その民は、わたしの臨在と啓示に対して靈的な感受性を持っていた——それは、自らを偉大で、強く、地の支配者であると称する諸民族や諸国家には見出せなかった感受性である。

民よ、私があなたについて語ることを、決して他者に対して靈的な優越性を誇示する口実として用いてはならない。なぜなら、虚栄心に陥る者は立ち止まり、前進できないことを知っておくべきだからだ。それに対し、謙虚な者は、自分がまだほんの少ししか成し遂げていないと常に信じているため、絶えず前進し続けるのである。

33. この言葉を聞くだけで満足してはならない。むしろ、あなたがたの世や周囲で起こるあらゆる事柄を注意深く観察し、私がこの言葉の中で告げているすべてのことが、絶えず成就していることを認識できるようにしなさい。

34. あなたがたが眠っているとき——その時、試練がどのように訪れ、あなたがたを目覚めさせ、「今こそ警戒して生きなければならない時だ」と告げているかを見よ。

35. まもなく、あなたがたはたどたどしい弟子ではなく、人々を魅了する師となるだろう。その道のりには、鬭争や陰謀、迫害が待ち受けている。しかし、この人類にとって最も暗い夜でさえ、あなたがたは私の真理の消えることのない光が輝いているのを見るだろう。

36. 私の使徒たちは地球の隅々に広がり、スピリチュアリズムは、人々の物質主義の上に、平和の雨として、心地よい露として降り注ぐだろう。

37. この愚かで、あらゆる靈的な声に耳を貸さない世界も、やがて第三の時代における私の到来を信じ、私のメッセージを愛するようになるだろう。しかし、民よ、あなた方には、同胞たちに信仰と従順の模範を示す義務がある。それは、人類の歩みにおける励ましと刺激となるべきものである。

38. 地上における魂として、また人間としての任務を果たしなさい。汝らはすでにその法則と道を心得ている。

39. あなたがたの心に自由を与え、他者の痛みに共感し始められるようにしなさい。自分の身にまつわる事柄だけを感じようと、心にばかり気を取られ、努力させ続けてはならない。人類が経験している試練に対して、もはや無関心であってはならない。

40. いつになったら、あなたの愛は、血を分かち合い、あなたの肉から生まれた者を愛するように、多くの同胞を包み込み、愛することができるほど大きくなるのでしょうか。もしあなたがたが、肉体よりもむしろ魂であるということを知っていたとしても、多くの人はそれを信じないでしょう。しかし、私はあなたに告げます。確かに、あなた方は肉体という外殻よりも、魂において兄弟姉妹なのです。なぜなら、魂は永遠に属するものであり、肉体は儚いものだからです。

41. ですから、この地上の家族は今日生まれ、明日にはまた消え去ってしまうのに対し、霊的な家族は永遠に存在し続けるという事実をよく心に留めておきなさい。

42. 今日、あなたがたはまだこれらの教えを感じたり、実践したりすることはできません。しかし、互いに愛し合うという永遠の使命を果たすために、少しずつ心を捧げていかなければなりません。

43. 霊的な兄弟愛の道におけるあなたがたの歩みがより確かなものになり始めると、あなたがたの口からは、あなたたち自身にもまだ知られていない教えや、深遠な啓示が語られるようになるでしょう。

44. わたしに忠実な者たち、強い者たち、真に備えを固めている者たち——彼らに、わたしはこのメッセージ、この言葉を託す。彼らがそれを純粋なまま保ち、守り抜き、外部からの混入から守るためである。なぜなら、わたしの教えは人類を回心させるべきものだからだ。しかし、もしあなたがたがそこに他の考えを混ぜ合わせ、真理を隠してしまうならば、その説得力と光のすべては、あなたがたの口から、そしてあなたがたの行いの中から失われてしまうだろう。あなたがたが誘惑に陥らないよう、私がどれほどあなたがたのために心を砕いているか、よく見てほしい。しかし、堕ちないために祈り、努力するのは、あなたがた自身の責務である。

45. まもなく、あなたがたはこの言葉を聞くことはなくなり、一見したところ、人生の道において羊飼いのいない孤独な状態にあるように思えるだろう。しかし、私はあなたがたを準備している。この啓示の別れの挨拶が終わったその瞬間から、私の霊があなたがたの導き手となり、私の光があなたがたの霊の中に輝き、あなたがたを励ましてくれることを知れるようにするためである。

46. 時が経つにつれ、これまでこの業を軽んじてきた者たちの多くは、自らの使命を果たさず、貴重な時間を無駄にしてしまったことを深く悔やみ、嘆くことになるだろう。しかし、私は心から悔い改める者たちにこう告げるだろう。「ここに私の業があり、ここに

あなたがたの使命がある。立ち上がってそれを果たしなさい。まだそのための時間は残されているのだから。」

47. 愚かさや高慢のゆえに、悔い改めの日を先延ばしにする者たちよ、災いあれ！ なぜなら、もし彼らが小麦の代わりにアザミを蒔くならば——その収穫は一体何になるだろうか？

48. わたしは今、あなたがたのために『未来の書』を読み上げている。それは、あなたがたがどのように歩み、どのように働くべきかを知るためである。

49. わが王国はあなたがたに近づいている。それゆえ、あなたがたを準備させるために、わたしはあなたがたにわが言葉を送り、また、あなたがたを一つにし、清めるために、エリヤの霊を送ったのである。

50. わたしこそが道であり、その道を通して、あなたがたは皆、わたしのもとに来るのだ。

51. あなたがたが今生きている「第三の時代」は、偉大な秘密が明らかにされる時代である。

52. 学者や神学者たちは、私が今、あなたがたに明らかにしている真理に照らして、自らの知識を正さなければならない。今こそ、人々が私の知恵の光に目を開くべき時である。その光は、あなたがたがそれを通して霊的に真の命へとよみがえるよう、私が教えへと変えたものである。

53. 今や、世界は「肉の復活」、すなわち魂の輪廻転生についての真実を知るべき時が来た。

54. 転生とは、物質世界に戻り、再び人間として生まれ変わることを意味する。それは、魂が人間の肉体の中で復活し、その使命を継続することである。これこそが、あなたがたの先祖たちが語った「肉の復活」に関する真実であり、彼らはそれについて、歪曲されたばかりか、荒唐無稽な解釈さえ与えていた。

55. 輪廻転生とは、神があなたの魂に与えた賜物である。それにより、魂は物質の貧しさ、地上での儚い存在、あるいは自然的な不完全さに決して縛られることなく、より高次の性質に由来するものであるがゆえに、この世でその偉大な使命を果たすために必要なだけ、多くの物質的な肉体を用いることができるのである。

56. この賜物によって、魂は「肉体」や死、そしてあらゆる地上のものに対する計り知れない優位性を証明する。すなわち、魂は死を克服し、次々と肉体を変え、たとえどれほど多くの肉体が託されたとしても、それらすべてを生き延びるのだ。魂は、時間、抵抗、そして誘惑を克服する者である。

57. スピリチュアリズムの光は今、転生という魂の能力に内在する真理、正義、理性、そして愛を世界に明らかにしている。それにもかかわらず、世界は当初、この啓示に執拗に抵抗し、それを異質で誤った教義であるかのように見せかけ、善意の人々に不信感を抱かせるだろう。

58. 各宗派が、信者たちを古い信仰観や時代遅れの信仰体系という固定された軌道に留めようとする努力は、無益かつ無駄なものとなるだろう。なぜなら、人間の思考能力の根底にまで浸透し、啓示と神の靈感、疑念や謎の解明、そして精神的な解放の時代に向けて魂を目覚めさせる神聖な光を、誰も止めることはできないからだ。

59. また、思考、精神、そして信仰の自由を渴望して立ち上がる人類が形成する大波を、誰も止めることはできないだろう。

60. 私が様々な宗教団体から、その信徒や信者、あるいは支持者たちを奪い取るとは、誰も信じてはならない——いいえ。しかし、新たな時代が始まり、忘れ去られた教訓が日の目を見、無益な慣習、教義、伝統が排除され、魂があらゆる虚偽から浄化され、解き放たれる時が来た。それは、これまで常に儀式に取って代わられてきた「真の霊の糧」を彼らに与えるためである。

61. この光によって、人々は団結し、諸民族は和解し、敵同士は互いに許し合うようになる。そして、この光によってこそ、ほぼ2,000年にわたり言葉と行いをもってあなたがたに教えられてきた教義の本質が理解されるようになるのである。

62. この時代の人類が霊的なことを理解するとは、あなた方にはあり得ないことのように思えるだろうか？ それなら、直感と、あなたの精神が明らかにするものを頼りに、人類の歴史を振り返ってみよ。そうすれば、かつて——地球上の諸民族が憎しみ、悪徳、無知、迷信、そして狂信の深淵へと突き落とされた後——そこからキリストに感化され、信仰と愛に満ちた人々が立ち上がり、光と希望の止めようのない流れとなって、諸民族や国々に広がっていった時代があったことを知ってください。

63. キリストは、愛という神聖な種を蒔き、広めるために生きた弟子たちや殉教者たちの口に常にかかっていた。キリストは、その僕たちを通して世界に御自身を現し、その神聖な受難の中でキリストを愛した者たちのそれぞれの心の中に生きておられた。

64. 地球上の諸民族や諸国家において、あの平和と調和が実を結んだ期間は短かった。なぜなら、恩知らずと不敬虔という雑草が再び畑を覆ってしまったからである。しかし、霊性、調和、理解、そして兄弟愛が花開いた時代には——人々の間には、どれほどの平和

とインスピレーション、そして光があったことか！もしあの調和と霊性が、一度でもあなた方の生活の真髄となれば——私のまだ明らかにされていない知恵が、どれほどの人々の精神に注がれることになるか、想像できるだろうか？

65. 新しい時代が約束するものを疑ってはならない。なぜなら、もしあなたがたの信仰が真実でなければ、あなたがたは私の言葉の成就を目撃するに値しないからだ。

66. あなたがたの魂をわたしに近づけなさい。そうすれば、わたしは魂に必要なものを与えてあげよう。

67. 神の教えを受け入れ、たゆまず私に耳を傾けてください。そうすれば、間もなく、あなたがたが霊的な知識において著しく成長していくのを体験することになるでしょう。

68. この恵みの時を無駄にしないでください。この道にたどり着き、わたしの啓示を知るために、あなたがたは多くの苦しみを耐え忍ばなければならなかったことを心に留めておきなさい。

69. これほど多くの苦難を経て、今やあなたがたは甘い実を収穫している。それを無駄にしてはならない。明日、あなたがたはそれを、平和と真理を渴望する人々に届けなければならないのだから。

70. もし苦痛があなた方を清めたのなら、魂と心の中にその清らかさを保ちなさい。私は、あなた方が人類の前に、生まれ変わった民として現れることを望んでいる。そうすれば、今まさに苦痛によって清められ、私のメッセージを受け取るにふさわしい者となるべく努力している他の諸民族にとって、あなた方は開かれた書物のような存在となるだろう。

71. 苦しみの杯を底まで飲み干したこれらすべての民族と国々は、多くの痛みに蜜と香油を注ぐであろう、私の新たな啓示をまもなく知よう召されている。

72. すでに、第二の時代に与えられた私の言葉は、地の果てにまで届いている。しかし、これこそが、私の再臨がすべての人々に感じられるようになるという、私があなたがたに与えたしるしであったことを、知れ、あるいは思い起こせ。

73. わたしの御言葉を授かっている者たちよ、同胞たちにその呼びかけを伝えなさい。わたしが彼らの過ちを裁くために来たのでもなく、彼らの汚点を気にかけているのでもない、と彼らに告げなさい。むしろ、彼らの苦難こそが、わたしを彼らのもとへ導いたものであり、わたしは彼ら一人ひとりのために、わたしの元で愛の贈り物を用意しているのだ、と。

74. その愛の贈り物を人々の心に届けなさい。これは、あなたがたがいつか私の教えを未知の国々に伝える際に、役立つことになるだろう。

75. 私の言葉の核心に、あなたがたが思考、神への崇拝、行い、そして働きにおいて清らかな民となることを願う神の望みを見出さないのか。

76. わたしはあなたがたに功德を積むよう促すが、その際、自分自身の魂の救いという利己的な願望に動かされてはならない。むしろ、あなたがたは、隣人のことを思い、また、来るべき世代のことを思いながら行いをなすべきである。彼らにとって、「先駆者たち」によって道が整えられているのを見つけたとき、その喜びは計り知れないものとなるだろう。そうすれば、兄弟姉妹たちの喜びと平安が、あなた方の魂にも届くため、あなた方の幸福は限りないものとなるでしょう。

それとは対照的に、ただ自分の救いと至福のみを求める者たちはどうだろうか。なぜなら、彼らが自らの行いによって勝ち取った場所にたどり着いたとしても、自分たちが置き去りにした者たち——そして、その者たちが背負う苦難の重い荷を見れば、一瞬たりとも平安や喜びを得ることはできないからだ。

77. まことに、わたしはあなたがたに告げる。この教えの真の弟子たちは、わたしの光そのものである彼らの霊のように、その行いにおいても義にかなった清らかな者となるであろう。

わたしの平安があなたがたと共にありますように！

教え 291

1. 民よ。私が去るその日、あなたがたは周囲に空虚さを感じるだろう。長い間、励まし、慰め、癒やし、そして知恵を見出してきたこの言葉に慣れ親しんでいたため、弱さを感じるだろう。人生の闘いにおいてこれほど多くの勇気を与えてくれたこの啓示が、あなたがたには欠けてしまうのだ。

2. しかし、まことに、あなたがたに告げよう。もしあなたがたがすでに、より深い理解を持っていたならば、私の霊があなたがたから離れることはなく、私の靈感も一瞬たりとも欠けることはない、ということを知って、この日を喜びをもって待ち望んでいたはずである。

3. 私がなぜ、これほど頻繁に「私の言葉に慣れ親しむな」「習慣として私の言葉に耳を傾けるな」と告げてきたのか、その理由を悟りなさい。なぜなら、そうした態度をとってきた者たちは、この言葉を失ったとき、心に大きな痛みを抱くことになるからだ。

4. あなた方にはまだわずかな時間が残されている。その間に、多くの教えを理解し、疑念を払拭し、決意を固め、熟考を重ね、私の律法があなた方に与えるものの確固たる基盤についての洞察を得ることができるのだ。

5. 私が、強制された宗教的実践や単なる習慣に過ぎないものはすべて拒絶するよう教えたことを思い出してください。私が、あなた方のために宗教的実践、礼拝の形式、信仰告白を簡素化し、あなた方の良心が、あなた方の人生の小舟を舵取りする舵となることを認めたことを忘れないでください。

6. たとえあなたがたにとって許容され、良いものに見えるとしても、不確かな教えを試みることがないように、私はあなたがたに明確に定義された原則を与えた。

7. 私の言葉に全幅の信頼を置く者は、つまりくことも、失敗することもなく、やがて良い実を結ぶでしょう。

8. 隣人愛、理解、そして同胞への赦しに根ざす「愛の法則」こそが、私があなたがたの霊的使命のために啓発した基盤である。

9. 私の真理を認識するために、人間の学識も、書物に記された人々の知識も必要としない。霊には、真理を直感する賜物と能力がある。

10. 私の言葉は理解しやすく、私の教えの原則は完全に明確に表現されているため、予期せぬ困難が、あなたがたが確固たる歩みで自分の道を歩むことを妨げることを恐れる必要はありません。

11. わたしはあなたがたの心を読んだ。そして、あなたがたが、わたしがもたらしたこの教えに忠実であり続けたいと願っていることを知った。目を覚まし、祈り、耳を傾け、深く考え抜くがよい。そうすれば、試練の瞬間に、あなたがたの善意が、何らかの弱さによって台無しにされることはないだろう。第二の時代にイエスに従い、イエスを理解しているかのように見えた大勢の人々が、犠牲の瞬間、決定的な時において、師を見捨ててしまったことを思い出してください。イエスにこれほど近く従っていた使徒たちでさえ、その時には自らの力、さらには信仰さえも弱まっていくのを感じたのです。

12. その理由は、人間の本性が弱く、強い霊による励ましを必要としているからである。

13. それゆえ、わたしの言葉というぶどう酒を飲み干して、強くなれ。そうすれば、試練が訪れたとき、あなたがたは、祈りと闘い、内省と実践によって鍛え上げられた弟子であることを証明できるだろう。

14. 華やかな手段や公の集会によって、わたしの業を称賛しようと求めてはならない。あなたがたは、それを堅固な土台の上に築いていないため、その勝利は容易に崩れ去ってしまうだろう。

15. 奇跡的な癒やしや目に見える奇跡の証しによって、周囲の人々を感銘させようとしてはならない。そうすれば、互いに狂信的な熱狂を煽り合うことになってしまうだけだからである。真に真理を体現し、誠実な神への崇拝を捧げることを知り、真に愛の種を蒔き広める者たちは、あまりにも質素で、謙虚で、慎み深いため、人々に気づかれることなく他者の中に生きている。彼らは祈るが、誰もそれを知らない。彼らは病人を癒やしても、それを見る者はほとんどいないか、あるいは誰もいない。彼らは隣人のために涙を流すが、その涙は外へ流れ出るのではなく、父のもとへと昇っていくため、目には見えないのだ。

16. 心配するな、民よ。あなたがたが行うことすべてが不完全だと言っているのではない。わたしはただ誤ったことを正すだけであり、あなたがたがわたしに捧げる善きものはすべて受け入れるのだ。

17. ここで、私の言葉を通して教えに注意深く耳を傾け、学びなさい。しかし、人生における行いにおいては、良心の声に耳を傾けなさい。なぜなら、良心は、あなたがたが善行をしているのか悪行をしているのか、使命を果たしたのか果たしていないのかを告げてくれるからです。もし、あなたがたが、隣人の苦しみに対して心か

ら涙を流すのを感じる時、もし、神から受けた恵みを苦しむ人々と分かち合う時、もし、人間の悲惨さを理解し、見返りを期待せずにそれを和らげようと努めるとき——その時、あなたがたはわたしにふさわしい者となり、良心がもたらす平安を感じることができるだろう。

18. 弟子：悲劇、戦争、そして苦痛に満ちたこの時代に、スピリチュアリズムは、自ら実践する教えを勝利へと導くために、何をすべきでしょうか？ 他の人々と団結し、そして皆で私と一つになることです。そうしてこそ、あなた方の力と光が、この世界に確かに感じられるようになるのです。

19. 人類を見てごらん。霊的な進歩に対して無関心だ——物質的な分野だけでなく、伝統や習慣が掟と化してしまった宗教共同体の中においても同様である。

20. ご覧なさい。科学と人類の進歩が著しいこの時代にあってもなお、人は人を殺し続け、諸民族は他民族との兄弟愛や友好の絆を断ち切り、ある人々の世界観は他の人々のそれと対立し、衝突している。

21. 神にとって一見不毛に見えるこれらの野原は、それでもなお、霊的な種を蒔くにはふさわしい場所である。立ち上がって歩み出せば、一步一步、光への渴望、悲惨、無知、そしてあらゆる形態の痛みを目の当たりにするだろう。そこへ思いを馳せ、善意と光に満ちた思想、そして霊的なインスピレーションを込めて、その思いを送りなさい。光と慰め、癒しに満ちた、心の底から湧き出る誠実な言葉を響かせなさい。そうすれば、人類こそが、あなたの精神の働きによってふさわしい畑であることを実感するでしょう。

22. 人生の道においてたゆまず働きなさい。そうすれば、その道中で使命を果たすことによって体験する平安は、あなたの魂が来世へ旅立つ時には、さらに大きなものとなることを、私は保証します。しかし、当面は報いについて考えるのはやめなさい。

23. 魂が、この地上での短い生涯のために、人間の肉体において永遠の報いあるいは永遠の罰を受ける運命にあると、いまだに考えている人間とは、なんと哀れなことか！

24. この時代において、わたしの言葉は、人類の間に光をもたらす灯台となるであろう。今、あなたがたは、今日のこの世界——物質主義的で、敵対的で、利己的な世界——がどのように変容していくかを目の当たりにすることになるだろう。なぜなら、私の教えは、時には嵐のように激しく、時にはそよ風のように穏やかに、不純

なものを一掃し、善き種に命を与え、人々が愛と調和の土台の上に未来を築くことができるようにするからだ。

25. 人々が愛をもって普遍的に考えるようになれば、誰もが自己を完成させ、他者により良く寄り添い、奉仕しようと努めるようになるだろう。罰への恐れは不要となり、人間は恐怖からではなく、確信に基づいて法律に従うようになる。そうして初めて、人類は精神的にも知性的にも発展を遂げたことになる。

26. これまで、人間の傲慢さは、精神的な側面を軽視させてきた。そして、この知識の欠如こそが、人間が完全になることを妨げてきたのである。

27. 人間が、肉体的力と精神的力を調和させて保つことを学ばない限り、人生においてあるべき均衡を見出すことはできないだろう。

28. わが言葉は、あなた方のそばにあったのだ、民よ。それを理解せよ。しかし、もし何らかの疑念を抱くことがあれば、祈り、瞑想し、わが光を求めてほしい。そうすれば、あなたが知りたがっていることについての啓示が与えられるだろう。

29. 信仰を貫き通した旅人たちよ、ようこそ。ここに、あなたがたの揺るぎない信頼に対する報いがある。それは、あなたがたが長い間待ち望んでいた私の言葉である。さあ、満足するまで、その言葉を飲み干せ。

30. 師の言葉に信じる者たちよ、ようこそ。彼らは、私の約束が実現するのを目撃することになるだろう。

31. 今、あなたがたは、長い間願い求めてきたものを受け取った。明日、大勢の人々の前に立つとき、あなたがたは私の呼びかけの真の理由を確かに知るだろう。私だけが、福音を待ち望んで生きている多くの人々がいることを知っています。そして、彼らが私の証人たちの口から私の言葉を聞くことなく死ぬことを、私は望みません。彼らは、かつてのあなたたちと同じように、飢え渴いている人々です。しかし、私があなたたちの必要に憐れみを抱いたのと同じように、あなたたちも彼らに憐れみを抱くべきです。

32. 世界は、私の声が彼らを呼ぶのを待っている。人々の心は、たとえ信仰において死んでいるとしても、キリストの音が近づき、「起き上がり、歩め」と告げるのを待ち望んでいる。

33. 「死者」たち、「盲人」たち、病者たち、そして社会から疎外された者たちは、非常に大きな民を成している。わたしは彼らのところへ行く。なぜなら、霊的にも肉体的にも苦しんでいる者たちこそ、わたしの臨在を最も受け入れやすいからである。世の権力者

たち――権力、富、そして世俗的な栄華を手に行っている者たちは、私を必要としていないと思い込み、私を待ち望んでいない。彼らはすでにすべてを持っているとさえ言っているのだから、キリストが彼らに何を与えられようか？　もしかすると、いくつかの霊的な恵みや、永遠の安息の場だろうか？　そんなことは彼らには興味がないのだ！

34. それゆえ、私は、肉体と魂の両方で病み、貧しいこの大群衆を求め、彼らに私の教えをに示そうとしたのである。彼らは私を切望し、私を探し求めていたからだ。したがって、私が再び人類の前に現れる時が来たとき、彼らが私の臨在を感じ取ったのはごく自然なことであった。

35. その時が来れば、この計り知れないほど膨大な数の病人、貧しい人々、抑圧された者たち、そして社会から疎外された者たちの群れは、私の呼びかけに応じて、世界で最も強く、不敗の民として立ち上がるだろう。彼らが立ち上がり、「主は今、御自身を現しておられる。主は、私たちが霊から霊へと主をお迎えする準備を整えるために、御自身のメッセージを私たちに送られたのだ」と。まさにその通りになるだろう。なぜなら、準備のためのメッセージと私の教えこそが、私がそのために選ばれた伝達者たちを通じて伝えるものであり、そのメッセージは世界各地にいる私の使徒たちの元へと届くからである。

36. 私の証人たちの口から語られる私の言葉は、この民が伝達者の口から直接それを聞いたときと同じような効果を、人々の心に及ぼすだろう。しかし、あなたがたは、誠実さをもって語れるよう準備しなければならない。祈りと隣人愛の中に、あなたがたは靈感を得ることができるでしょう。そしてまことに、私があなたがたに告げます。その時、「死者」たちはよみがえり、不信仰者たちは、聖霊の弟子たちだけがこのように語ることができると告白するでしょう。

37. わたしはあなたがたを準備している。なぜなら、あなたがたは、平和も、愛も、兄弟愛も、調和もない人類に直面することになるからだ。あなたがたは、私があなたがたをその伝道者として任命した神のメッセージを、彼らに伝えることになる。そうすれば、あなたがた自身の内で成し遂げられた再生の奇跡が、私の言葉が同様に届く諸民族や諸国家においても繰り返されるのを目撃することになるだろう。そして、物質主義、偶像崇拜、悪徳、無知という鎖は打ち碎かれるのである。

38. 私が一度、あなた方をこの世に「師」として残した暁には、この「第三の時代」において、あなた方は大きな使命を果たさなければならぬ。

39. 今日、あなたがたは私の言葉を受け取る幼子であるが、明日は教えを学ぶ弟子となり、やがては、受けた教えに従い、それを実践する師あるいは使徒となるだろう。私の言葉の簡潔さが、あなたがたの霊性への道の始まりとなったことを忘れてはならない。それゆえ、決してその言葉に余計なものを付け加えてはならない。

40. 常に現在の自分と過去の自分を比較し、前進しているのか、それとも停滞したままであるのかを見極めなさい。この試練によって目覚め、「主よ、どうして私はこれほど長い間、眠り続けていたのでしょうか？ あなたが私たちの間で語っておられるのに、どうして私は無気力で無関心であり続けられたのでしょうか？ あなたを自分の中に宿しているのに、どうしてあなたを否定することができたのでしょうか？」

41. 私の言葉の力に、誰も抗うことはできない。なぜなら、その言葉には、魂を目覚めさせ、最も硬く無感覚な心さえも感じさせ、震え上がらせる力があるからだ。私は、あなたがたに使命を果たさせるために懲らしめる必要はなかったし、この道へと導くために暴力を振るうこともない。言葉や脅しであなたがたを威嚇することさえしなかった。私の声は愛情に満ち、説得力のあるものであり、それがあなた方の中に信仰と信頼、そして従順を呼び覚ましたのだ。

42. 明日、あなたがたは同じように、隣人たちに語りかけるべきである。その際、恐怖ではなく愛を呼び起こさなければならない。そうでなければ、その種は真実のものではなくなってしまふからだ。

43. 私の業は、人類に純粋な形で伝えられなければならない。そうして初めて、人類は私の律法を全うし、救いの十字架を受け入れるようになるのだ。

44. 私は人々、すなわち全人類に約束をした。そして、私の言葉は王の言葉であるゆえに、私はその約束を果たす。私は弟子たちを通して、私の言葉という黄金の麦を人々に送る。それは人々の備えとなり、彼らがやがて霊から霊への対話を喜びとして享受できるようになるためである。なぜなら、1950年以降、私はここでも、他のいかなる場所でも、*声の媒体となる者の知性という器官を通じて再び自らを現すことは決してない*からだ。

45. 民よ、団結せよ。試練が近づいているからだ。わたしの言葉の敵たちもまた、あなたたちと戦い、散らすために団結するだろう

。しかし、もしあなたがたが祈りの力を信じ、わたしの言葉によって力を得るならば、敗れることはない。あなたたちの力は霊的なものであり、決して金や地上の権力に基づくことはない。

46. 人々よ、この機会を活用せよ。他の時を待つてはならない。あなたがたが活用する術を知らなかったものを、それらがもたらしてくれるような時は決して来ないからだ。

47. 主があなたがたに啓示してくださる多くのことから、常に学びたいという霊的な渴望を持って、わたしの食卓に着きなさい。

48. 私の啓示のこの最後の数年間は、私の霊を通じて彼らの中に注ぎ込まれたものを大切にするすべての人々の心に、消えることのないものとなるだろう。

49. 私の弟子たちは、師が彼らに啓示し、明らかにしたすべてのことを、たゆまず語り継いでいくであろう。

50. 日常の単調な生活を送り、毎日が同じで、教えもどれも同じである人々にとって、私が啓示の最終日にとっておいた栄光は、気づかれることなく過ぎ去ってしまうだろう。また、彼らは、私の言葉が終わるその瞬間から必然的に起こる変化にも気づかないだろう。なぜなら、彼らは高みへと昇ろうとする渴望を一度も抱いたことがなく、魂の進歩と完成をもたらず成長をも愛してこなかったからである。

51. 私は、まだ眠っている者たちを目覚めさせるために、このように語らなければならない。なぜなら、この民の一部だけが救いを得て、他の一部が減びてしまうようなことは望まないからだ。私の願いは、あなたがた全員が光へと昇りつめることである。

52. 誰もが、周囲の人々にとって開かれた一冊の本であり、そのページには、各人が魂の中に抱くものが映し出されなければならない。この本のページは、あなたがたの行いとなる。そして、あなたがたの本質に霊性、愛、そして知恵が存在するならば、世界はあなたがたを、新しい時代の先駆者、光と魂の成長の時代の先駆者として認めるだろう。

それに対して、もしあなたがたの中に、伝統や表面的な形だけの神への崇拝しか存在しないならば、その本には狂信、無知、混乱、そして闇しか記されないだろう。後者たちにとっては、彼らの知性にまだ光が差し込んでいない限り、私の業について語らないほうがはるかに良いでしょう。なぜなら、彼らの種は——たとえ善意があったとしても——他の人々の働きにとって有益であるどころか、有害なものとなるからです。

53. 民よ、あなたがたは私の言葉をどう扱ったのか。私の啓示がまもなく終わりを迎えようとするこの時に、私がこのようにあなたがたに語りかけざるを得ないのは、なぜなのか。

54. あなたがたは眠り込んでいたのだ、人々よ。この啓示が永遠に続くものだと考え、それが私の言葉によってあなたがたを喜ばせ、あなたがたの元を訪れる苦しむ者を癒やすこと以外に何の役割も持たないと信じていたからだ。今日、現実があなたがたを目覚めさせた。1950年——私の啓示の最後として千回も予告されてきた年——が目前に迫っているのだ。

55. 1950年を待ち望み、「目覚めた」状態で、彼らにとってこの時代の終わりを意味する試練に備えている者は、ごくわずか、本当にごくわずかである。

56. この年は、この民にとってのみ重要なものではない——いや、そうではない。あなたがたにとって、ある時代の終わりと別の時代の始まりであるのに対し、教会にとっては裁きと自己反省の年となるだろう。科学にとっても、そして人類全体にとっても、それは試練の時となるだろう。

57. この業が広まり、人々が、私が1950年に人間の知性という器を通じて最後に御言葉を響かせたことを知るとき、彼らは、この数日間、あなた方の生活の中で現れたすべてのものが、聖霊の呼びかけであり、その光の火花であったことを理解するだろう。その時、神学者たちでさえも深く考え込むことになるだろう。

58. 人々よ、目を覚まし、祈りなさい。私があなたがたに最後に語りかける時はすでに間近に迫っているが、それでもなお、真摯な内省を通じて、今何が起きているのか、そして将来あなたがたが何をなすべきかを理解する時間は残されている。

59. これは、あなたがたが取り組まなければならない日々の業において失敗しないよう、準備のための教えである——私があなたがたに与える、さらなる教えである。

60. わが民よ、祝福あれ。あなたがたは、魂の慰めであり糧であるわが言葉を渴望してやって来る。あなたがたは、その本質と真意を汲み取り、わが意志を悟ることを学んだ。

61. 長い間眠り続けていたあなたがたの魂を目覚めさせたこの御言葉は、今日、あなたがたの喜びとなり、あなたがたの心を平安と愛で満たした。それは、寒さに震えていた者たちを包み込み、光を渴望する者たちを希望で満たした。それは、私がイスラエルの民と全人類のために、私の宝庫に秘めておいた啓示である。

62. この時代、私は、あの世で天使たちに語りかけるのと同じように、あなた方にも語りかけてきた。あなた方の魂が、私があなただ方を遣わしたこの地上の谷に生きているからといって、私はあなた方の魂に何の違いも設けなかった。あなた方全員が、私から等しく愛されているのだ。あなたがたは今、成長し、わたしに向かって歩み寄ろうとしている。なぜなら、道の果てでわたしがあなたがたを待ち受け、わたしの神聖な懐はあなたがたの到来を切望しているからだ。父の家、父の御心、あなたがたの神の御霊へと至ることができるよう、その道を学びなさい。

63. 私があなたがたに自らを現したのは、あなたがたが常に、生ける神、すなわちあなたがたの唯一の神を信じてきたからである。その神は決して沈黙せず、隠れることもなく、常に導き、助言し、靈感を与えてくださる。この信仰があなたがたを養い、救うのである。

もし、私の子供たちのうち三人が、人類のただ中でこのように私を求めれば、私は彼らの取り次ぎを通じて、すでに私の恵みを注ぎ出すだろう。しかし、私は、大勢の人々が私の言葉に耳を傾け、私を信じているのを見ている。

イスラエルの民はまもなく全員揃うだろう——私が印をつけた14万4千人は、山のふもと、輝く「谷」、選ばれた都に集まるだろう。その時、私の喜びは計り知れないものとなる。

64. あなたがたが準備を整えれば、私は人類が必要とするすべての知識をあなたがたの中に注ぎ込む。私はあなたがたに大きな権能を与え、第三の時代における私の到来について語らせる。

65. わたしの言葉は、あなた方に多くの思索を促してきた。あなた方は大いなる探究を始め、わたしの教えが無限であり、それが示す地平線が日々広がり、その真実のすべてを把握することはできないと気づいた。

今日、あなたがたは次々と教えを受けているが、私の言葉を忘れてしまうこともあるだろう。しかし、やがて適切な瞬間に、あなたがたはそれらの教えの一つひとつを思い出す時が来る。その時には、あなたがたの説得力は極めて強くなるだろう。

66. 初期の頃、わたしは地上においてわたしを代表すべき者、すなわちモーセを選び、彼を通してわたしの知恵、力、そして厳しさを明らかにした。あなたがたは、魂の発達はまだ未熟であったため、その範囲内でしかわたしを理解できなかった。わたしは族長や預言者たちの口を通して語り、わたしの言葉は人々の心に響いた。民はわたしの啓示と戒めを受け取った。私は、あなた方に大きな教訓

を与えるために、荒野を横断させた。そして、あなた方は魂を開花させ、私への信仰と信頼を体験した。

67. 長い放浪の末、忍耐と経験に満ちた年月を経て、あなたがたはカナンの地に入り、わが霊が日々繰り返し告げていた約束が実現するのを見た。あなたがたは、祝福され、準備された地を見出した。それは、あなたがたが信仰を持ち、増え続けるために、私が与えた平和のオアシスであった。そして、私の使徒たちから教えを受けた後、あなたがたは人々の間へ出て行き、神が人類と結んだ契約の証しを広めていった。

68. このように、私は常に私の約束によってあなた方を励ましてきました。この第三の時代において、私はあなた方にこう告げました。「私は、人類における平和の業をあなた方に託します。」あなたがたが準備を整え次第、私はあなたがたを通してそれを成し遂げる。しかし、それに携わるのは現在の世代だけではない。あなたがたの子供たちやその子孫たちが、この平和の業を引き継いでいく。私は、この使命を遂行するための広き道を民に示している。

69. 私が民全体に与えた使命についてよく考えなさい。あなたがたが歩む道で直面する逆境は大きく、それゆえ、あなたがたは自らの運命の目標に到達するために、強く、力強くなければならない。あなたがたは、父との交わりの中で、完全な祈りの中で生き、私の律法を遵守しなければならない。ただし、決して狂信や神秘主義に陥ってはならない。なぜなら、あなたがたは心の神殿においてのみ、私を愛するからである。

70. 内なる言葉の賜物はすべての人の中に宿るであろう。そうして、あなたがたはわたしの業を容易に説明できるようになる。あなたがたは人々の心を慰め、彼らに必要な糧を与えるであろう。あなたがたは魂と身体の病を癒やすであろう。

この時代、人間は、神聖な法、道徳的・自然の法からの逸脱により苦しみ、この世の欺瞞の中に助けを求めている。人は、自らの病の根源が魂の中にあることを知らない。今日に至るまで、法、秩序、そして霊的な義務の履行という根源的な原理に立ち返ろうとはせず、あらゆる善の源であるその源へと戻ってはいない。

人々が謙虚に私へと視線を向けず、心の繊細な琴線が硬く閉ざされたままであり、信仰が彼らの導き手とならない限り、人々は今後も誤りに陥り続け、病に倒れ、滅びていくことになるだろう。しかし、イスラエルの民よ、私はあなたに勇気と平安、そして癒しの力を授ける。あなたが私の名において、これらを同胞たちに分け与えることができるように。

71. ひととき立ち止まり、深淵へと突き進むこの世の猛烈な流れを見つめよ。人類は何を求めているのか。私は彼らの努力の中に何を見るのか。ただ苦痛と絶望と死だけである。良心の声は沈黙し、その灯は消え失せた。彼らは贖罪の偉大な日を迎え、その苦しみは甚大である。

72. 人々よ、彼らがさらに深く堕ちてしまう前に、彼らを止めてあげなさい！ 祈りと心で戦いなさい。模範を示して教えなさい。そして、試練に直面したときは、信仰と希望のしるしを示し、それらをただ魂を清めるための機会として捉えなさい。

すべての行いにおいて素朴でありなさい。そうすれば、周囲の人々があなた方を理解できるでしょう。あなた方の生活を複雑にしないでください。イエスのように柔和であり、子供や老人のように素朴でありなさい。なぜなら、これらの美德こそが霊性のしるしだからです。

73. また、種まきを喜び、神と結びついて生きる農夫のようでありなさい。農夫は、新たな一日の光が輝き、その日の仕事を成し遂げようとする時、祈りを捧げます。そして正午や、夕日が沈む頃には、主が与えてくださったすべてのものに感謝するために、再び魂を天へと向けます。彼にとって、受け取るすべてのものは素晴らしく、完全なものである。太陽、水、あらゆる要素が、彼に神について語りかけ、彼はそれらの中に神を愛し、神を求め、神の臨在を仰ぎ見る。霊的な畑で働く者たちよ、あなた方もそのようにあれ。

74. 私はこの時代、あなたがたに耕作するための物質的な農地を与えなかった。あなた方の手には、物質的な種を蒔くために畝を掘る力はない。しかし、わたしはあなた方を、心の中にわたしの御言葉を蒔く種蒔き人として召した。あなた方の日々の働きは霊的なものであり、わたしはあなた方の働きに必要なすべて——光、愛、御言葉——を与えた。こうして、わたしは、わたしの子供たちの一部が、自らの蒔き種を喜び楽しむのを見てきた。

75. わたしの恵みは、彼らにとって見過ごされるようなものではなかった。彼らは常にわたしからそれを期待し、試練の瞬間にはこう言った。「主は、わたしの信仰を見るために、わたしを試しておられるのだ。」

あなたがたは、その痛みを「敵」とは呼ばず、私があなたがたに送った数え切れないほどの試練に、嫌気がさすこともありませんでした。

76. 愛する民よ、あなたがたは、自分たちがわたしの中に生きており、わたしがあなたがたのすべての行いを導いていることを知っ

ている。試練があなたがたの心に内省と強さという実を残すまさにその瞬間に、わたしの憐れみがあなたがたを立ち上がらせるのだ。あなたがたは私の言葉と律法を知り、私の愛と慈しみだけでなく、私の正義と厳しさもあることを理解している。もし罪を犯せば、その過ちの結果を耐え忍ばなければならない。

77. わたしは日々、人々の心に語りかけているが、人類はわたしの言葉を理解しようとしなかった。イスラエルはわたしと語り合ったが、人々の大部分はわたしから遠く離れて生きている。彼らの信仰の実践は不完全であるが、今日、わたしの光と正義が人々の心を動かし、彼らは目覚め始め、自分たちの上に、常に愛を込めて見守っている神がおられることを思い出し始めている。

人類は混沌に陥り、人々は自らの問題を解決することができていない。彼らの法律は、不完全な科学と唯物論に基づいていたため、彼らに逆らうものとなってしまった。しかし、私はそれらを破壊するつもりだ。まもなく、人間の精神にとって光の時代が輝き始めるだろう。人々は私に服従し、私の意志を尊重ようになる。私は守護天使たちを送り、彼らの歩みを私のもとへと導かせる。

78. 私は、霊界が短期間、人間と接触することを許した。彼らの霊は、あなた方の霊と同様に限定されているが、純粋さと高潔さに満ちて現れた。彼らは第三の時代の偉大な戦いであなた方を助けるために降りてきて、あなた方は彼らをはっきりと感知した。彼らの恵み深い影響は多くの心を改心させ、彼らの模範は真実である。

79. 私は霊的な働き手たち――すなわち、自らの賜物を開花させ、これらの霊的存在たちが現れることを可能にした働き手たち――を祝福する。なぜなら、彼らもまた、私の目には功績があるからだ。彼らは1950年まであなた方にその姿を現すだろう。その後、彼らは永遠にあなた方を支えることになる。それが彼らの困難な使命だからである。

人間には霊的な導き手が必要です。神聖な導き手はすべての霊の上に立ち、それは私です。しかし、この地上では、私はすべての人間に一人の天使を割り当てています。彼らはあなたたちのために、どれほど苦しんできたことでしょうか！人間の心の冷たさを目の当たりにして、彼らは何度涙を流したことか！しかし、彼らは私を愛し、忍耐強くその任務を果たしています。

80. 今こそ、聖霊の時代の始まりである。この時代には、他の「谷」に住む霊的存在たちが、あなた方にその存在を明らかにする――あらゆる境界が打ち砕かれ、あなた方も同様に私のもとへと昇りつめることができる時代であり、私があなた方のところへやって

来て、人間の知性を通じて自らを明らかにし、あなた方の言葉を使って語りかける時代である。

81. 1950年以降、私はもはやこの言語であなた方に語りかけることはなく、より高次で、より優れた表現方法で語りかけることになる。それは、あなた方が徐々に知ることになる——もはや物質的な言葉を必要としない、あの「言語」である。

あなたがたは、この時代にわたしの教えを受けたスピリチュアリズムの民である。それゆえ、わたしはあなたがたに霊化を求める。そうしてこそ、あなたがたの魂が顕現し、その発展の道においても、祈りにおいても、また霊的な行為においても、いかなる妨げも受けず、その道を自由に歩み、わたしのもとに来ることができるのである。

私は、霊的な対話について多くを語ってきました。あなたがたはそれを高次な方法で用いることを学び、この願いに応えていくことになるでしょう。

82. わたしは、あなた方を「諸国民の光」として備えさせて、ここを去る。備えなさい。なぜなら、この時代のわたしの言葉こそが、遺言であり、現存する中で最も優れた書となるからだ——それは、あなた方の手の中にあるものよりも、むしろあなた方の心の中にあるものとして、なぜなら、わたしはあなた方に完全な知識を啓示したからである。

83. 私が第二の時代にあなたがたのために命を捧げ、子羊のようにこの身を犠牲にしたように、第三の時代には、私はすべての魂のために光として自らを捧げるであろう。備えを整え、私を理解する弟子は幸いである。その心は、私にとって永遠の住まいとなるからである。

私の平安があなたがたと共にありますように！

教え 292

1. 『知恵の書』の新たなページを受け取りなさい。私は、あなたがたに、このメッセージを、より高い霊的發展を遂げ、私の業をさらに深く理解できるようになるであろう、来るべき世代へと伝えるよう命じる。それらの世代は、靈化の種を携えてくるものであり、彼らの使命は、人々の心の中に平和の樂園を築き上げることである。

2. 現在の世代には、私は多くの教えを与えてきたが、明日の民、すなわち私の将来の弟子たちのためには、さらに大きな啓示を留保している。なぜなら、その時には彼らがそれを受け入れる準備が整っているからである。

3. あなたがたは、この世界の向こう側に何かがあるのか、また宇宙を周回するあの星々が、あなたがたの住む世界のようなものなのかと、しばしば私に尋ねてきた。あなたがたの好奇心に対する私の答えは、秘密のベールを完全に晴らすものではなかった。なぜなら、あなたがたには、それを理解するために必要な発展も、他の世界と調和するために不可欠な霊性も、まだ備わっていないと私は見ているからだ。あなたがたは、自分たちが住むこの惑星が与える教えをまだ認識し、理解していないのに、すでに他の世界を探そうとしている。同じ世界の住人である互いの間で兄弟となることさえできなかったのに、他の世界にいる存在の存在を発見しようとしているのだ。ひとまず、私が「第二の時代」に「父の家には多くの住まいがある」と語ったこと、そして今、その言葉を裏付けるように、あなたがたが宇宙の唯一の住人ではなく、あなたがたの惑星だけが生命を宿す惑星ではないと告げていることを、心に留めておいてほしい。

4. 明日の世代には、他の世界へと近づく扉が開かれているのを目の当たりにする機会が与えられ、彼らは当然のことながら父を称賛するでしょう。

5. 慈善と平和を花開かせる善と愛こそが、神秘の扉を開く鍵となり、それによって人々は宇宙の調和へと一步を踏み出すことになるでしょう。

6. 善と愛を、あなた方の生活、精神的な崇拝、科学、そして仕事に注ぎ込むことで、人々は真の知恵に到達するでしょう。

7. 今日、あなたがたは依然として孤立し、制限され、妨げられている。それは、利己心が、魂の自由や高揚を追求することなく、ただ「この世」のために生きることを強いてきたからである。

8. 人間としての過ちから解放される前に、他の世界へ行くことを許されたとしたら、虚栄心に満ちた人々——物質主義によって矮小化されてしまった存在たち——であるあなたたちは、どうなってしまっただろうか？ あなたがたが蒔く種とは何だろうか？ 不和、度を越した野心、虚栄心である。

9. まことに、わたしはあなたがたに告げる。すべての人間が切望するその知識、そして、人間を苦しめ、その好奇心を掻き立てる疑問から思考を解放するその啓示を得るためには、人間は自らを深く清め、徹夜して祈らなければならない。

10. 私の神秘を彼に明らかにするのは、科学だけではない。その知識への渴望が、霊的な愛に促されたものであることが必要である。

11. もし人々の生活が一度でも霊性を反映するようになれば——私はあなたがたに告げる、その時、彼らは自分たちの世界の彼方を探求するために努力する必要さえなくなるだろう。なぜなら、その瞬間、より高い住処に住む者たちが彼らを訪ねてくるからである。

12. 私はこの短いメッセージを残す。その内容は、ただ「誘惑に陥らないよう、目を覚まし、祈りなさい」と告げようというものである。

13. 当面の間、あなた方は引き続き自問自答を続けることになるでしょう。神があなた方のために定められたことを認識し、理解するためには、魂の力がすべての人に知られ、開花していることが必要です。善を行うこと、祈ること、あなたがたの父を崇めることにおいて、私はまだあまりにも多くの不器用さを見ます。それは、あなたがたが自分の魂を表現させず、働かせず、その開花を妨げているからです。

14. あなた方の内には真の宝、すなわち、あなた方が想像すらしていない能力や才能が眠っている。しかし、その無知ゆえに、あなた方は貧しい者たちのように涙を流している。祈りの力や思考の力について、あなた方は何を知っているのか？ 精神と精神との対話に秘められた深い意味について、あなた方は何を知っているのか？ 何も知らないではないか、この唯物論的で世俗的な心を持つ人類よ！

15. まず、魂の賜物を開花させることによって魂を高め、それから初めて、あなた方の世界や理性の彼方に存在するものの知識を求めなさい。

16. 人間の知性は小さく、限られている。なぜ、霊魂だけが発見し、把握できるものを、その知性に委ねようとするのか？

17. ああ、この地上の愚かな子らよ。あなたがたは、多くの者が私を愛していると言いながら、私を師として受け入れることも、私を信じることも拒んだではないか！今や、私が「道であり、真理であり、命である」と告白する時、ようやく私の言葉の真実を理解するだろう。

18. 弟子たちよ、人生は無限の知恵に満ちた一課としてあなた方の前を過ぎ去り、あなた方の魂は知識を深め、その結果、より高い境地へと至るのだ。

19. 自分の行いを自ら裁きなさい。良心の声は常に真実を告げてくれるからだ。その声は、あなたがたが進みが遅すぎるのか、速すぎるのか、あるいは立ち止まったままであるのかを、理解させてくれるだろう。

20. 自らを知り、自らを評価しようと努める者は、自分自身に対しても、他者に対しても誠実でなければならない。その者は、あらゆる行動において良心の「声」を聞き取り、人生の道における歩みは確かなものとなるだろう。

21. 霊魂が肉体に対して勝利し始めると、それは非常に大きな満足感と、自分自身への完全な自信を味わうことになる。

22. しかし、師はこう告げます。あなたがたが自分の行いの価値の高低についてどれほど見識を持っていようとも、この最終的な裁きにおいて決定を下せるのは、至高の裁き主である父のみである、と。

23. 善行を行うその瞬間、その価値が分からなかったからといって、あなたがたが行った善を決して知ることにならないなどと考えてはならない。あなたがたの行いのうち、報いを受けないものは一つもない、と私は告げる。

24. いつかあなたがたが霊界にたどり着いたとき、一見取るに足らないような小さな行いが、いかに多くの場合、善行の連鎖の始まりであったかを悟るでしょう。その連鎖は他者によってますます長く続いていくものですが、それを始めた者自身を、永遠に満足感で満たしてくれるのです。

25. あなたがたは、これらすべてを知らなければならない——この時代に私があなたがたにもたらした御言葉を、人々の心に蒔くことになるあなたがたは。なぜなら、多くの場合、あなたがたは、自分の言葉がどのような影響を与えたのかを知ることなく、人々に語りかけることになるからです——その言葉が実を結んだのかどうかを知ることなく、また、その心の中で種が枯れてしまったのか、それともそれを守り、広めることができたのかを知ることなく。あな

たがたは、道の終わりにたどり着くまで、これらすべてを経験することになるでしょう。

それまでは、働き続けなさい。周囲の人々の間で善行を増やし、彼らのために畑を整えなさい。そうすれば、私があなた方に託した種が、彼らの行いの中で実を結ぶことになるでしょう。

26. あなたがたが光の充満に至るまでの道のりは遠い。父、すなわち神聖な彫刻家が、あなたがたの魂を形作り、磨き上げ、完全な姿を与えるその道のりほど、長い道のりを歩む存在は他にない。

27. 私があなたがたに詳しく語る理由は、あなたがたが使命を果たすために蒔かなければならない小麦が、旅の荷物から欠けてしまわないようにするためである。

28. 神の民は、再び人類の中に現れるだろう——ある人種に具現化された民ではなく、血や人種、言語ではなく、精神こそが決定的な要素となる、私の弟子たちからなる大勢、すなわち大軍である。

29. この民は、書物を通じて私の教えを説くことだけに留まることはない。言葉に命が宿るためには、それを生きなければならない。この民は、書物や書籍を広めるだけでなく、模範と行いをも広める者となる。

30. 今日、私はあなたがたを、あらゆる不必要なもの、不純なもの、誤ったものから解放し、あなたがたの魂が高みへと舞い上がることができる、質素で清らかな生活へと導く。そして、その魂は自らの行いを通じて、その証しを立てるのである。

31. 時が来れば、私はわが民を人類に示すであろう。その時、師は弟子たちを恥じることもなく、弟子たちも師を否むことはない。この時は、世界観の戦争が起こる時期と重なり、そこから、平和の息吹のように、一筋の光のように、スピリチュアリズムが湧き上がってくるであろう。

32. すでに、父の正義は、人々の地上の権力や蓄積された財宝を襲い、わが言葉が、支配したり広めたりするために、権力や物質的な富を決して用いないことを、彼らに理解させようとしている。

33. 人類のその道徳的・物質的な構造全体は、「石一つ残らず」取り壊されることになる。なぜなら、この地上に「新しい人間」が現れるためには、あらゆる汚点を消し去り、あらゆる罪を取り除き、善の種を含むものだけを残すことが不可欠だからである。

34. わたしの臨在と正義の輝きは、全世界に知れ渡るであろう。そして、その光に照らされて、偶像は倒れ、慣れ親しんだ伝統は忘れ去られ、実を結ばない儀式は放棄されることになる。

35. わたしを見ることができなかったが、その不完全さにもかかわらずわたしを求め続けたために、ついにわたしを見出した者たちの魂からは、「新しい歌」が湧き上がるだろう。そして、わたしを求める者は必ずわたしを見出すことを、あなたがたも知っているはずだ。

36. わたしを否定し、わたしを避け、わたしの名を隠し、わたしの存在を認めようとしないう者たちについては、彼らの歩む道において、彼らの目を開き、彼らにもまた真理を見させるような試練が与えられるであろう。

37. ある者は不完全な理解の仕方であつたわたしを愛し、またある者はわたしを否定するとしても、何の問題があろうか。わたしは、彼ら全員が助けを必要としている者たちであることを知っているのだから！

38. 大いなる戦いが目前に迫っている。皆、武器を準備しておきなさい。この戦いにおいて、あなた方全員が関与することになる。あなた方全員がそれぞれの役割を果たすことになるのだ。統治者、聖職者、学者、富裕層、金持ちも貧しい者も――すべての人々が。

39. 裁きの時が訪れたとき、ソロモンの神殿には何が残ったか。良心に刻まれた律法の知識だけである。儀式、伝統、犠牲、献金――すべては消え去った。至聖所と祭壇は破壊されたが、律法と預言者たちの言葉は残された。なぜなら、それらが人類を新しい時代へと備えさせ、新しい種が芽吹くために畑を清めなければならなかったからである。

40. イスラエルの民が不滅だと信じていたあのエルサレムは、彼らの誇りであつた神殿と同様に破壊された。これは、私が人々の間で統治するために来たからである。しかし、私の王国はこの世のものではないため、人の心の中に霊的な聖所を築くためには、物質的な神殿を破壊する必要があつたのだ。

41. さて、当時の私の使徒たちが、物質的なものを何も築かなかつた一方で、言葉、霊、行い、真理を体現する、信仰と徳と愛の神殿を人々の心に築き上げた理由を理解してほしい。彼らには、金も、香も、典礼もなかった。彼らが病人に手を置くと、その人々は癒やされた。彼らがキリストの教えを説くと、人々の魂の中に聖所が築かれた。彼らが十字架について語ると、それは魂の中に火の刻印のように残った。

42. 「わたしの王国はこの世のものではない」と、わたしはもう一度あなたがたに告げる。聖霊の神殿には物質的な土台はなく、地上に祭壇もない。

43. この時代に、人類が作り出したあらゆる外的な礼拝の破壊を目の当たりにしたとき、多くの人々が恐怖に駆られて「なぜ神はこれを許されたのか」と問う姿が見られるだろう。彼らは、自分たちの都市が破壊された際にユダヤ人たちがそうであったように、同じ問いを自らに投げかけることになる。そして、それに答え、説明し、人々に、新しい時代が幕を開け、新たな種が広まりつつあることを明らかにするのは、私の民でなければならない。

44. 大地は湿り気を帯び、私の種蒔き人たちの種を受け入れる準備が整うだろう。ここで、あなたがたは一度、これらの種蒔き人たちの責任について考えてみるべきである。人類が狂信や理性を曇らせる崇拝から解放された後、この民が新たな偶像崇拝を持ち込むことが、果たして正しいことだろうか？ いいえ、愛する弟子たちよ。だからこそ、あなたがたの道のりの一步一步には、教訓と試練があるのだ。

45. あなたがたの使命は偉大である！しかし、不吉な前兆に支配されてはならない。むしろ、近づきつつある苦難の日々は、人々の目覚めと浄化のために必要不可欠であり、それなしには、霊性化の時代の勝利の到来を目の当たりにすることはできない、という考えに勇気を持ち、希望に満ちていよう。

46. 逆境を乗り越えることを学びなさい。心が落ち込むことを許さず、健康に気を配りなさい。わたしについて語り、信仰と希望に火をつけるわたしの教えを彼らに示すことで、兄弟姉妹たちの心を励ましなさい。

47. 多くの人々がどれほど落ち込んだ状態で生きているか、よく見てみよ。彼らは、生きるための闘いにおいて敗北を喫してしまった者たちである。彼らがどれほど早く老い、白髪交じりになり、顔が萎れ、表情が憂鬱になっているか、見てみよ。しかし、強くなければならない者たちが弱ければ、若さは萎れてしまい、子供たちは周囲に悲しみしか見出せなくなるだろう。

48. 民よ、たとえ儚いものであっても、あなたがたが享受することを許されている、あらゆる健全な喜びを、自分の心から奪ってはならない。平和のうちに、その質素なパンを食べなさい。まことに、わたしがあなたがたに告げる。そうすれば、そのパンはより美味しく、より栄養豊かに感じられるようになるだろう。

49. わたしの言葉から、わたしがあなたがたに求めているのは、確信、信仰、樂觀、心の平安、そして強さであり、あなたがたの苦難や災いにもかかわらず、心の中に苦々しさがあってはならないということを理解しなさい。もしあなたがたの心が苦しみや心配、あ

るいは不満で満たされていたとしたら、それを必要としている人々に、どのような親切や励ましを与えることができようか。

50. まさに試練の中にあつてこそ、あなたがたは高揚、信仰、そして謙虚さの最良の模範を示すべきである。

51. 自分の人生にこの靈性を吹き込むことができる者は、常に平安を感じ、たとえ眠っていても、その眠りは穏やかでに安らぎに満ちている。魂はそれを利用して肉体から解き放たれ、あの世へと向かう。そこで魂は、自らを養い、また肉体にも分け与える神聖な力の流れを受け取るのだ。

52. 私の預言が、あなた方の生活をただ暗くするだけだなどと言う者はいないように――それどころか、私の言葉はあなた方を暗闇から救い出すのだ。私があなた方を準備してきたのは、闘いの瞬間にあなた方が弱さを感じないようにするためであることを理解せよ。

53. 戦いが近づいていることを知って、あなたがたの精神が臆病になってはなりません。また、平和があなたがたの世界に戻ってくることを疑ってはなりません。

54. 私はすでに、あなたがたは一つの世界の終わりにあり、別の世界の始まりにあると告げた。惑星は変わらず、自然も変わらず、光も変わらないが、人類の生き方は変わり、その目標、闘い、そして理想も異なるものとなる。正義と真実が支配するようになる。

55. その時代の人類に転生する魂の大多数は、善に深く献身するようになるため、たとえ悪に傾倒する人々が現れたとしても、彼らがどれほど強力であろうとも、善なる者たちが彼らの眼前に示す「真理の光」に屈服せざるを得なくなるだろう――これは、現在起きていることとは正反対である。というのも、墮落した者たちが多数を占めているため、彼らは悪から、善なる者たちを窒息させ、感染させ、包囲し続けるような力を生み出してきたからだ。

56. あなた方の世界は、これからもお魂の試金石であり、闘争と贖罪の世界であり続けるだろう。依然として、あなた方の地球は、ここから旅立った際に義人の住処に近づくような、高潔な魂を私に捧げることはできません。依然として、この地上の谷は、そこに住むためにやって来なければならない偉大な魂たちを受け入れることはできません。それは絶え間ない輪廻転生を繰り返す世界なのです。なぜなら、魂たちはその遅々とした上昇の過程において、手付かずのまま、あるいは負債を残し、報いも受けずに、始めた仕事を置き去りにしてしまうからです。

57. 明日、この地球は、その住民たちの行いを通じて、私に美しい霊的な花を捧げてくれるだろう。そして彼らは、父と隣人への愛に粘り強く従った人生を経て収穫した、熟した実を私に届けてくれるだろう。

58. 明日、この地球に住むのはあなた方の子供たちになるということ、考えたことはないのか。そして、あなた方は自分の子供たちに、自分たちが成し遂げたものよりも良いものを望んでいるのではないか。「はい、父よ」と、あなた方の心は私に告げている。あなた方がこの愛と慈悲に満ちた思いを胸に抱いているのだから、子供たちの道を清め、整えてあげなさい。私は、彼らがあなたがたの足跡を見つけ、あなたがたが彼らに残した謙虚な遺産を受け継ぐことを望んでいる。その遺産は、後の世代によって深く尊ばれることになるだろう。

59. あなたがたの名前が忘れ去られても何の問題もない。重要なのはあなたがたの行いであり、それらはあなたがたが開いた道に消えることのない刻印として残るからだ。

60. 私の正義がそれを守り、護っているのだから、いったい誰がこの痕跡を消し去ることができるだろうか。

61. スピリチュアリズムが、どれほど多くの秘密をあなた方に解き明かし、どれほど多くの美しい啓示をもたらしているか、よく見てください。

62. それらは、「七つの封印の書」があなたがたの魂に降り注ぐ光線である。それは、子羊の声が語りかけ、第六の封印の内容を明らかにするものである。

63. 神の深遠な神秘に踏み込むことができるのは、主の子らにその知恵を啓示するために、ただ子羊のみである。

64. 第三の時代の弟子であるあなたがたが、受けたものをすでに完全に理解したならば、全人類に向けたこのメッセージの福音を広めるために、直ちに出発するだろう。

65. これほど甚だしい物質主義の只中にあっても、私が再び来るとの約束を思い出し、預言者たちの言葉を研究し、人生の出来事を探求している者たちがいることを知れ。彼らは、私が間もなく来るのか、今ここにいるのか、あるいはかつてここにいたがすでに去ってしまったのかを知りたがっているのだ。

66. この啓示の形でわたしを体験し、長い間それを喜びとしてきたあなたがたに、わたしはこう言う。「人々、すなわちあなたがたの兄弟姉妹に憐れみを持て。」

67. 多くの人が喜びをもって受け入れるであろうこの福音を伝えるために、備えなさい。私が「すべての人」ではなく「多くの人」と言うのは、中には「『最初の時代』に神から啓示されたことと、キリストが人々に伝えたことで十分だ」とあなたに言う者もいるかもしれないからだ。まさにそのような時こそ、わたしに動かされ、靈感を受けたあなたがたの口は、信仰を持たない人々にこう告げなければならない。「過去の時代に神から人々に与えられた全き真理を認識するためには、この新しい啓示を知る必要があるのだ」と。

68. 嘲笑や厳しい批判にさらされることなく、どのようにして同胞たちに自分の声を届けることができるだろうか。真の使徒、すなわちこの真理の伝達者として自らを備え、この光を心の中に抱き、人々の魂に、いささかの影も汚れもない状態でそれを授けるよう戒めを胸に刻むことによってである。

69. あなたがたが、地上の諸民族の救い主となるわけではない。しかし、あなたがたは、この世界およびすべての世界の主であり、救い主であり、救い手である方と共に、あなたがた自身とすべての魂のために協力することになるのだ。

70. わたしは自らの業を喜びたい。父が自らの霊の火花を与えたすべての人々から、愛され、理解されていると感じたい。すべての人々がわたしのもとへたどり着き、わたしの王国から神の業の栄光を示し、その観想の中で、主へと至る道のりをすべて歩み終えたことへの至高の至福を、彼ら全員が体験することを望む。

71. わたしの業は永遠である。あなたがたの間でのわたしの言葉の終わりは、終わりを意味するのではなく、むしろあなたがたの闘いの始まりを意味する。

72. 伝達者たちの唇はもはや私の声を伝えることはないだろうが、私の靈感はその知性に光をもたらし、彼らの口から発せられた言葉を理解できるよう助け、そうして彼らが人々の群れにそれを解き明かすことができるようにするのだ。

73. これらの知性の器を通じて私の霊が啓示を伝えた真の目的は、まさに、あなたがたがこれらの教えを通じて、後に霊から霊へと私を求めることを学ぶためであった。

わが平安があなたがたと共にありますように！

教え 293

1. わたしの愛は、限りなく大きな太陽のようにあなた方を照らし、あなた方すべてを包み込む。

2. 私はここにいます。そして、私の思考が言葉となって、あなたがたの心に流れ込むようにしています。それは、心に喜ばれ、靈魂にとってこの上なく愛すべきものであり、あなたがたの口に何の苦味も残しません。

3. 蜂が巣を作り、一滴一滴と蜂蜜で満たしていくように、私が自らを現し、私の言葉を授けるあの幼子たちは、彼らの唇から溢れ出る真髓をもって、靈的な愛を渴望する民の心を一滴一滴と満たしていく。

4. わが民の数はまだ少ないが、あたしは、あたかも大群衆であるかのように、あなたがたに教えを授ける。わが愛は、このわずかな数によって阻まれることはない。なぜなら、師には、利己的な人間に特有の偏見など存在せず、また存在し得ないからである。

5. 試練や闘い、疑いや不確実さ、苦難や痛みに苛まれている民よ、救い主の御光の前で、ようこそ。

6. あなたがたは魂の薬が必要だ。そして、私はあの「第二の時代」に訪れたのと同じように――肉体と魂の病を癒す医師として――あなたがたの元へやって来る。

7. もしあなたがたが、深刻な問題に苛まれ、貧困に押しつぶされ、あるいは試練の苦しみに怯えて私の元へやって来るなら、あなたがたは私の言葉の中に、その痛みを和らげる一節――私の視線があなたがたを見つけ、私があなたがたの声を聞き取っていることを示す言葉――を探し求めるだろう。その時、私はあなたがたの心に寄り添い、私にとって隠されたものは何一つないことを証明してあげる。私はあなたがたに私の平安を注ぎ、私の教えという選りすぐりの食事を与え、力を与えて、再び人生、闘い、償いの道へと送り出します。

8. 私の教えの言葉を通して、あなたがたは、試練の中で、信仰、希望、忍耐、そして不屈の精神という、自分たちができるささやかな役割を果たし、残りの部分は父の愛が成し遂げてくださることを学ぶのです。

9. わたしを信頼する者は、決して絶望することはない。そして、主の愛と憐れみを信頼することを知っていた者への報いは、なんと愛らしいことか。

10. あなたがたが泣くとき、あなたがたの心に寄り添うのは、他ならぬわたしである。わたしはキリストであり、キリストとは愛を意味する。

11. それゆえ、愛する民よ、私はあなたを癒やし、励ます。なぜなら、やがて、最も準備の整った者たち、最も熱心な者たち、そして私の言葉を最も深く探求している者たちの中から、私が「私の者たち」を選び出す時が来るからだ。彼らは私の最初の使者となり、最初の証人となり、また、父と霊と霊との対話を行う最初の者たちとなるだろう。

12. しかし、私がある者を選び、他の者を拒むことを喜んでいるなどとは決して思ってはならない——そのようなことは決してないのだ、弟子たちよ。しかし、私は、あなたがたが徐々に到達し、私に仕えるために必要とする備えの度合いに応じて、あなたがたを用いるのである。

13. 今日、備えることができた者たちが人間の知性を通じて霊的な啓示を得たように、やがて、わたしの声が天上の調和のようにあなたがたの魂に届き、わたしの啓示の知恵と、わたしの霊があなたがたに送る光に満ちた靈感によって、あなたがたの知性が驚きと感嘆に包まれる時が来るであろう。

14. その時は必ず来る、それを疑ってはならない。しかし、その時期を私が定めるわけではない。その時期がもはや未来の話ではなく、現在となるためには、多くのことがあなた方——あなた方の熱意と愛——にかかっているのだ。

15. しかし、私が今、兄弟である伝達者たちのささやかな知性を通じてあなたがたに与えているものを、軽んじてはならない。なぜなら、私の教えは、あなたがたの魂が成長し、霊から霊への対話を待ち望むことができるように、あなたがたを鍛えているからである。ああ、もしあなたがたが、師の言葉の一つひとつに秘められた真意を探求することを理解できたなら——どれほど多くの驚くべき啓示を見出すことだろう！あなたがたの人生に活かすために、どれほどの光が与えられることか！

16. この業の弟子たちであり、この言葉の証人であるあなた方に、師はこう告げます。もし、私が人間の知性を通じてあなた方に明らかにしたこの教訓を理解せず、また従わなければ、あなた方は、あなた方の霊に約束されている新たな教えへと進むことはできないでしょう。それは、外的な手段や形式を必要とせず、内面において、師と弟子との間で直接行われるものである。

17. あなたがたは、私が現在明らかにしている教えのレベルにはまだ達していない――それなのに、すでにその恵みの賜物を手に入れたいと願っているのか？

18. もしあなたがたが、私の言葉が求める進歩の段階に達していたならば、靈魂の光の中で働き、他の人々にあなたがたの癒やしの影響を確実に感じさせることができたでしょう。しかし、現実はそのではなく、それゆえ、あなたがたにとって大きな悔いとなるような教訓が繰り返されているのです。

19. 単一の神聖な御霊による三つの異なる顕現こそが、人類が時の経過とともに神から受け取ってきた啓示であり、それは三つの時代に分かれている。あなたがたが誤って「至聖なる三位一体」と呼んでいるものについて、私は何度も、また様々な方法で説明してきたが、あなたがたはそれを理解していなかったため、説明することができなかったのだ。

20. 私が説明してきたように、あなたがたが「父」と呼ぶものは、唯一の被造物でない存在である、宇宙の創造主である神の絶対的な力であり、あなたがたが「子」と呼ぶ方は、キリスト、すなわち、被造物に対する父の完全なる愛の啓示であり、また、あなたがたが「聖霊」と呼ぶものは、あなたがたの霊が私の啓示をよりよく理解できるようになったこの時代に、神が光としてあなたがたに送る知恵であることを、私は説明してきた。

21. その聖霊の光、すなわち神の知恵は、あなたがたが到来を目の当たりにしているこの第三の時代においてまもなく支配し、靈性を必要とし、真理を渴望し、愛を飢え渴いている人類の思考を照らすことになる。

22. わたしは人々の間に三つの「王国」を定めたが、それらはまもなく一つに統合されるであろう。

23. 第一は力と法の力であり、第二は愛であり、第三は知恵である。

24. 人が、私が「あらゆる領域」において彼に授けた律法、教え、啓示に従って生きようになれば、天の御国が人々の心に浸透したと、真実をもって言うことができるようになるだろう。

25. 同様に真実なのは、民よ、ただひとりの神が、たとえ三つの異なる側面を通じてではあるが、人々に御自身を現されたということである。もしあなたがたが、あの最初の時代の父の御業の中に愛を求めるならば、それを見つけるであろう。また、知恵の光を求めるならば、それも見出すであろう。同様に、キリストの御業と御言葉の中に、愛だけでなく、力と知恵にも出会うであろう。それなら

ば、この時代の聖霊の御業の中に、力、律法、権威だけでなく、愛、優しさ、そして癒しの香油を見いだしたとしても、何ら不思議なことではないでしょう。

26. これこそが最も高次の王国である——それは光のゆえではなく、光は常に同じものだからである。むしろ、人々がより高次の生活を送る能力を備えているからである。

27. それは、知性の器官と魂を照らす光の王国となるだろう——人類を変容させる光である。その輝きは極めて強大であり、かつてわたしを否定していた者たちはもはやそうすることはなくなり、愚かであった者たちは、真昼の光のように明るく、大空のように明瞭に真理を目の当たりにすることで、その愚かさを捨て去ることになるだろう。

28. ひとまず、私は残りの人々の中から、善意に満ちた心を持つ者たちからなる一つの民を選び出さなければならない。彼らは、その時が来れば、霊化の働き手として私に奉仕する者たちである。ここで、静寂と謙虚さの中で、私は彼らを準備し、教えを授けている。

29. 農夫が自分の土地を耕し、職人が自分の仕事に打ち込み、学者が思索にふけり、哲学者が夢を見るように——すべての人々が憂いと絶望に満ちた人生の闘いに苦闘しているように——私は、霊化と平和、善、そして人生に対するより高い認識にインスピレーションを受けた民を創り出したい。その民は、良き種まき人のように働き、見守り、学者のように努力し、哲学者のように夢を持ち、人類が日々の糧を求めて奮闘するように、魂の真の糧を求めて奮闘する民である。

30. 真のスピリチュアリストとは、精神の法則と物質の法則を統合し、それらから徳に満ち、誠実で高潔な生活規範を築き上げる者である。

31. 今日、あなたがたは私の小さな弟子たちであり、孤独な瞑想の中で少しずつ自らの魂を磨き、その後、同胞を助け、彼らの幸福をもたらすことができるようになるのだ。

32. イエスの弟子とは、言葉によって人を打ち勝ち、説得し、慰め、高揚させ、目覚めさせ、打ち負かされた者を、自分自身や逆境を克服する者へと変える者である。

33. キリストの使徒は、自分の苦しみや悩みばかりを考えるような利己心を心に抱くことはできない。彼は自分のことなど気にせず、他者のことを思いやる。なぜなら、霊的な助けを必要とする主の子に身を捧げるために自分のことを後回しにした者には、父が即座

に助けを与えてくださるという絶対的な信頼があるからだ。そして、隣人に希望の微笑み、悲しみの慰め、痛みの癒やしをもたらすために自分自身を忘れて行動した者は、帰還したとき、祝福と喜びと平安である光に照らされた我が家を見つけるのである。

34. 人々が、少しでも隣人を兄弟姉妹のように、そして全世界の子供たちを自分の子供のように感じることができるようになれば、彼らは私の教えにおいて確かな一歩を踏み出したことになるだろう。

35. 愛をその力と源の基盤とする、この偉大な「生命の科学」を知っている者は、いかに少ないことか。

36. 私の教えに含まれる神聖な指針に基づいて善であることを学ぶ者は、食卓を囲むすべての人々に分け与えられるために、食卓の上で分かち合われるパンのような存在にならなければならない。

37. あなたがたがまだ善に完全に満たされておらず、霊的な進歩を怠っている限り――他者の振る舞いに目を向け、それを批判し、非難し続けている限り――、あなたがたは私の愛の道を歩んでいるとは言い切れない。

38. あなたがたは、自分の心と思いを清めない限り、私の光があなたがたの本質に届き、そこに浸透することを妨げる存在になってしまうことを、確信しておきなさい。なぜなら、邪悪な思い、言葉、感情は、純粹そのものであるこの光が、あなたがたの魂に宿ることを妨げる障害となるからである。

39. 私があなたがたの心に引っ越してこられるように、その住まいを清めなければならない――しかし、ほんの一瞬のためではなく、永遠に。私はあなたがたの心の奥深くに住みたいのだ。しかし、あなたがたの準備が続いている間だけ、ほんの短い間そこにいて、その後、情熱が覚めればすぐに追い出されてしまうような形で、私を呼び続けるのはやめてほしい。

40. この世とその誘惑は強い。それゆえ、戦いや試練の真っ只中で、あなたがたの意志が弱まらないよう、あなたがたの善意はそれ以上に強くななければならない。

41. 時折、私は教えを繰り返す。それは、あなたがたの魂を敏感にし、あなたがたの心を震え上がらせたいからである。もし私がそうしなければ、あなたがたは私の言葉の真実について誤った考えに陥ってしまうだろう。かつてのイスラエルの民が、その神にただ容赦のない正義と厳格さと厳しさしか見出せず、主に対してそのようなイメージを抱いていたがゆえに、罰への恐怖こそが彼らを神の律法に従わせたことを、覚えているだろうか？

42. あなたがたは、父が人々に抱く限りない愛を発見した今、彼らが陥っていた誤りをすでに知っている。

43. あなたがたはすでに、神を裁き主というよりは、完全で尽きることのない愛に満ちた父として見ている。そして、神をあなたがたの父として見ていることは良いことだと、私はあなたがたに告げる。とはいえ、あなたがたを油断させないために言わなければならないのは、あの昔の民のように、あなたがたもまた新たな過ちに陥る可能性があるということだ。その過ちとは、道徳的・精神的に自らを向上させようと努力しないこと、あるいは「父はとりわけ愛そのものであり、必ず赦してくださる」と信賴して、絶えず重大な罪を犯し続けても気にかけないことにある。

44. 確かに、神は愛であり、どんなに重い罪であっても、神が赦さないものなどありません。しかし、この神の愛からは、容赦のない正義が湧き出ていることを、あなたがたはしっかりと知っておくべきです。これらすべてを自覚し、あなたがたが私の教えとして心に受け入れたものが真理にかなうものであり、あなたがたの中に存在するかもしれないあらゆる誤った考えを打ち砕くようにしなさい。父の愛は確かにあなた方を赦しますが、赦しを受けたとしても、その汚点はあなた方の魂に刻み込まれたままであり、功德によってそれを洗い流し、あなた方を赦してくださった愛にふさわしい者となる必要があることを忘れてはなりません。

45. あなたがたは、自分の悪行や罪から目を背け、望ましくない重荷を背負って、それを他人の家に置き去りにしようとする傾向がある。しかし、やがてあなたがたは、その汚名を心に刻み込んだ者自身ほど、それを洗い流すのに適した者はいないということを理解するようになるだろう。

46. 救いの門であり、あなたがたを待ち受ける恵みの泉であるにもかかわらず、なぜあなたがたの歩みはそれほど遅いのか。その理由は、神への信仰における冷たさ、この世的な懷疑主義があなたがたに感染し、一時的に、もはや私の慈悲を何も期待していない人々のように感じてしまうからである。

47. この日、わたしに耳を傾ける民よ――儚い人生において快樂に満ちた幸福を求める人々よ、まことに、あなたがたに告げる。もし、あなたがたの努力の結果が、あなたがたの幻想とはいかに異なり、対照的であるかを目の当たりにしたとき、最終的にあなたがたの口に残るのは――苦味と良心の呵責だけとなるだろう。

48. まことに、あなたがたに告げる。生き、戦い、楽しみ、苦しみ、そして死ぬとき、あなたがたは、あたかも杖であるかのように

魂に支えられてこそ、耐え抜くことができるのだ。そして、魂は常に良心の声を聞き取らなければならない。

49. 必要な力は、信仰の中にのみ見出すことができる。

50. ああ、痛みと苦悩によって心を曇らされた、悲しみに満ちた人類よ！目を覚ましなさい。そうすれば、光の王国、すなわち真理の霊の到来を目にするだろう。その霊は、今日に至るまで眠り続けている魂と知性の器官へと降りてきて、それらを目覚めさせるのだ。

51. 神と人との間の仲介者であるキリストが、御霊によってあなたがたに語りかけている。なぜなら、キリストは「御言葉」であり、神の御言葉、愛と真理の御言葉だからである。今日、私は、あなたがたに私の御言葉を啓示しうる無数の形の一つを通じて、あなたがたに語りかけている。明日、この啓示の形が終わりを告げれば、わたしの言葉は書き記されることになる。そして、その書物を通じて、それは地方から地方へ、家から家へ、心から心へと伝えられ、ある者を目覚めさせ、ある者を回心させ、またある者を慰めるだろう。とはいえ、こうも言わなければならない。このメッセージに対して無関心なままの者もいれば、それに対して冒瀆的な言葉を吐く者さえいるだろう。

しかし、それは問題ではない、民よ。やがて、大衆が書物を通じて私の言葉を熱心に求める時が来るだろう。ここにいるこの民でさえ、人生の荒野においてマナであったあの言葉の意味と響きを思い出そうとする時、あなたがたが私の言葉を書き記したページを、愛と敬意をもって集めることになるだろう。

52. 人間には霊的な知恵が必要であり、わたしはそれを与える。かつて、愛に飢えている人類を見て、それを教えたのと同じように。

53. 神にとって「不可能」などない。人間は神を必要とし、神は人間のもとに来られた。人間はより高い知識を必要とし、主は深遠な教えを啓示された。人間は信仰の強化を必要とし、父は深く愛される子の信仰を強められた。

54. この第三の時代に、私が、あなたがたの耳が証しし、あなたがたの心が感じ取った形において自らを現していることを、不思議に思う必要はない。

55. 今日、あなたがたは私が人間として受肉するのを目撃したわけではない。第三の時代において、キリストの臨在は、私の霊と結びつくための靈感と能力を通じて現れている。それは、私の子供たちの一部に与えられた使命である。

56. 人々は、かつて神が啓示されたことを誤って解釈したために、大きな混乱の状態に陥ってしまった。それは、自分たちには理解できない事柄を深く掘り下げる能力の欠如、そして物質主義という壁の向こう側にある永遠の光を見出すための霊的な力の欠如によるものである。

57. あなたがたに、知恵、愛、高揚を意味する光が計り知れないほど欠けていることを鑑み、私は来ざるを得なかった。

58. この光をあなた方に与えるために、私が人間としてあなた方の前に現れることは適切ではなかった。なぜなら、あなた方をな霊性へと導くためには、私が霊的かつ目に見えない、しかしあなた方の信仰と愛にとっては感じ取れる形で、私の存在を明らかにする必要があったからである。

59. この第三の時代における聖霊の到来は、神の霊的な顕現である。それは、第一の時代に自然の力を通じて御自身を現された、力強く正義を愛するエホバと、第二の時代の初めに父が語られた、真の人間であった愛に満ちたイエスとの顕現である。今日、私は再び人々のところへやって来ますが、それは霊としてやって来るのです。なぜなら、聖霊があなた方と直接つながりを結んだとき、あなた方が今や聖霊を理解し、聖霊を信じることができると知っているからです。

60. これは光の時代であり、その明瞭さによって、あなたがたはかつて不可解だと思っていたことを理解できるようになるだろう。私は、過去の時代の教訓の真髄をあなたがたの心に刻み込む。しかし、あなたがたがそれらの教訓の周りに築き上げてきた狂信は、人類が自らの発展の道を歩み続けるその瞬間に、人類自身によって打ち碎かれることになる。

61. 私はここで、宗教団体や信条によってあなた方を区別することなく、すべての人々に語りかけている。精神的な分断や分裂は人間自身が作り出したものであり、互いに非難し合い、戦い合い、互いの真実を否定しているのは人間たち自身である。

62. 私はすべての人を愛し、すべての人を探し求めている。なぜなら、あなたがた全員が道から外れて歩んでいるのを見ているからだ。あなたがたは真理と律法を何に変えてしまったのか？ 多種多様な宗教である。私はそれを非難するつもりはない——それどころか、あなたがたには理解力、進歩、霊性の程度に差があったため、それが許されていたのだ。しかし、ある宗教共同体が他の共同体を敵と見なし、互いに脅かし、傷つけ、殺し合うこと——これは、私の教えが決して定めたことではない。私はあなたがたに言う。その

ような行動をとる者たちは、真理の擁護者ではなく、むしろ真理の敵である。

63. 誰も罪から免れてはいないというのに、なぜ互いに敵対し合うのか。なぜ、他者が完全さを求め、父に近づこうとするその方法を、争うのか。誰が「自分は真理をもたらし、神と共にあり、救われたと自認している」と言えるのか。また、誰が減じる運命にあると言えるのか。

64. 互いに裁き合うとは、なんと愚かなことか！

65. 光が満ち溢れるこの時代に過ちを犯し、しかも、あなたがたの魂はとっくに人間の悲惨さを超越しているはずであるにもかかわらず、恥じ入らないのか。

66. 人々よ、ここに聖霊の声がある。それは、あなたがたの知性を通じて神が示す霊的な啓示であり、新たな律法や教えを明らかにするものではなく、父とつながり、父を受け入れ、父を崇拝するための、より進歩的で、より霊的であり、より完全な新たな方法を示すものである。

67. もし主があなたがたに、「心を尽くし、魂を尽くして神を愛し、隣人を自分と同じように愛しなさい」と言われたなら、また、師が愛の教えを説かれたならば、同じ源から発するこの霊的な声は、あなたがたにこう告げている。すなわち、愛の律法に固くすがりなさい、と。なぜなら、その律法には、この世のいかなる大軍も持ち得ない力があり、愛の土台の上に築かれたものはすべて永遠の命を持つため、その征服は確実かつ永続的なものとなるからだ。

68. 人類は不幸に陥っており、人間の知性は混乱し、地球上で人間が達成した能力ゆえに、心は傲慢になってしまっている。その救済策は常に手の届くところにあったが、人間はそれを軽んじてきた。その救済策とは、霊的な知識である。

69. 私はあなたがたに告げる。目覚め、何が起きているかを自覚している者たちこそ、人々の心に神の御霊に対する信仰の灯をとますのにふさわしい者たちである。

70. あなたがたの魂は、今日に至るまでほとんど全く知られていないその能力、賜物、そして可能性に応じて、開花していかなければならないことを理解しなさい。

71. わたしの言葉は、あなたがたを何の有益な目的にも導かないような、あなたがたの過去や霊的な未来に関する詳細を明らかにするものではない。しかし、わたしは、あなたがたが遣わされたこの世界において、自らの使命を果たすよう教えているのである。

72. それゆえ、魂の生涯における過去や未来について語ることで、あなた方を感化しようとする者たちのあらゆる考えを、拒絶なさい。

73. 弟子たちよ、霊化によって良心がより明確にその声を現すようになることを知れ。そして、この賢明な声を聞く者は、決して惑わされることはない。

74. 良心と親しくなりなさい。それは友好的ない声であり、主が――父として、師として、あるいは裁き主として――その光を透かして輝かせる光そのものである。

75. 試練に直面したとき、良心が「私があなた方を罰しているのではなく、まさにあなた方が清められているのだ」と告げるのを聞き入れなさい。また、解き放たれた自然の力が恐怖を引き起こすのを見たとき、「これは神の罰だ」と言って冒涇してはならない。それは、あなた方を清めるための試練なのだと悟りなさい。

76. 魂の清らかさこそが、その光の衣の輝きを放つことを可能にするのである。

77. 隣人への愛を実践することによって得られる浄化を、求めなさい。

わが平安があなたがたと共にありますように！

教え 294

1. 人々にとって困難で苦難に満ちたこの時代において、わたしの業は、難破した者たちにとっては灯台のように、弱き者たちにとっては盾のように、困窮している者たちにとっては食料で満たされた旅の荷物のようにあるであろう。――わたしは、靈的な事柄について比喩を用いてあなたがたに語っている。なぜなら、人はパンだけで生きるのではなく、わたしの言葉によっても生きるのだと、すでにあなたがたに告げたからである。

2. あなたがたは、この真理の真意を理解しなければならない。なぜなら、多くの困窮者、肉体と魂の両方で病む人々が、あなたがたの道に現れるからだ。しかし、まことに、あなたがたに告げる。彼らの肉体の苦しみは、魂の苦しみよりも大きいものではない。なぜなら、その魂の苦しみとは、悲慘、飢え、裸、寒さ、恐怖、そして闇から成るものだからである。

3. あなたがたは、人々の心の中を覗き込み、彼らが内に秘めているもの、隠しているもの、そして何を必要としているのかを知るために、どれほど準備を整えておかなければならないことか！わたしはあなたがたに、魂を養い、癒やし、光を与え、そして彼らの高みへの成長への道を示すよう教えてきた。

4. この言葉を聞き、それを心に留める者は、魂の導き手、医師、そして助言者となることができるだろう。その言葉の中に、光を必要とする隣人たちへの平和と慰めの賜物を見出すことになる。

5. あなたがたが病人を癒やし、彼らに神の御言葉を聞かせるうちに、多くの魂が深い眠りから目覚め、あなたがたの声に心を揺さぶられて、自分たちが気づかずに持ち続けていた宝や賜物を見出す瞬間を、あなたがたは目の当たりにすることになるでしょう。その時、彼らは自分たちが父の相続人であることを感じ取り、心に大きな喜びが満ちるでしょう。

6. 長い間、彼らは主から遠く離れていると感じていました。しかし、その最も慈愛に満ちた父の使者である一人の兄弟のたった一言で、彼らの存在全体が愛と命に満ちて輝き出したのです。

7. 私の呼びかけは、ある心から次の心へと伝わっていくことで、すべての人に届くでしょう。同様に、私があなたがたの中に靈的に臨在しているという知らせも、ひっそりと広まり、今や「第三の時代」が到来したという認識が伝えられてきました。

8. 私は、あなたがたが私の到来を誇ったり、靈性とは無縁な手段を用いて私のメッセージを広めたりすることを望まない。

9. 私の使徒たちを見習いなさい。彼らは、愛の行い、光に満ちた言葉、そして真理を反映した書物（）を通じて、キリスト、すなわち神聖なる師が彼らと共にいたという証しを、地上のあらゆる民に届けたのである。

10. 弱き民よ、あなたは自らの救いを得るために努力しようとする。私があなた方に求めているのは、果たして犠牲のことなのか。私があなた方一人ひとりに託した使命は、実に単純なものである。しかし、あなた方にとっては、その重みが自分の力を超える十字架のように思えてしまうのだ。

11. 私があなた方をいかなる試練にさらしても、たとえそれが穏やかなものであっても、あなた方は絶望し、私の意志に反抗する。

12. 私が最愛の息子の命を求め、それでも私に服従する用意があったアブラハムは、今どこにいるのか。民を率いて荒野を横断したモーセの力と信仰を、私はどこで見出せるだろうか。そして、師が残した足跡を死に至るまで忠実にたどった使徒たちの忠誠心——それを、私は再びどこで見出せるだろうか。

13. 見よ、私はあなたがたに子供たちの命を要求するわけでも、私の名において血を捧げることを求めるわけでもない。それにもかかわらず、私があなたがたに託した使命は重く感じられ、それを拒む者も大勢いる。

14. わたしは、あなたがたに善を行い、隣人に役立つための手段を示したに過ぎない。それによって、あなたがたは自らの魂のために永遠の平安を勝ち取り、また、周囲の人々が霊性の山を登るのを助けることができるのだ。

15. 良心の声に耳を傾け、その声に耳を傾けた上で、私があなた方に託したこの使命が、あなた方にとって重荷であるかどうかを私に告げなさい。まことに、私はあなた方に告げる。もしあなたが常にその内なる声を聞き分けることができるならば、悔恨の涙を流し、私にこう言わざるを得なくなるだろう。「私たちはあなたに対してなんと恩知らずであったことか。そして、自分自身に対してなんと不義であったことか！」と。

16. あなたがたがこうした考察を行い、心の中に、柔和さと愛をもって使命を果たそうという確固たる決意が芽生えたとき、あなたがたは魂の中で、父なる神があなたがたを祝福してくださるその光を感じるだろう。

17. 恐れるな、民よ。わたしはあなたがたに先立ち、あなたがたの歩みを導き、計り知れないほど大きな灯台のように、あなたがたの道を照らすからである。

18. もしあなたがたが、今日のこの教えを師からの非難と受け止めるなら、そう受け止めてもよい。しかし、その真意を深く探求すれば、そこには、私が私の業においてあなたがたに託した役割に対する、私の正義と愛、そして熱意を見出すことになるだろう。

19. 今こそが「第三の時代」、すなわち霊的な光の時代であることを悟りなさい。

20. 気丈に振る舞いなさい。あなたがたは多くの出来事の証人となり、多くの啓示を受ける恵みにあずかることになるのだから。

21. あなたがたの心は硬くなく、脳は私の愛に対して閉ざされておらず、魂は眠りについていない。光に向かって目を開き、感覚を研ぎ澄ませなさい。そうすれば、あなたがたの上に現れる、私の霊と霊界からのしるし、呼びかけ、そして啓示を感知することができるだろう。

22. この時代において、あらゆる被造物には、霊的な解放の日が定められている——それは、この世の奴隷であり、誘惑の奴隷であり、肉体とその快楽を崇拝する者であることを、永遠にやめる時である。

23. 偽りの装飾品は、あなたがたから脱ぎ捨てられるだろう。なぜなら、魂はこの世の虚栄を拒み、霊化という尊い衣を身にまとうからである。

24. この時代にわたしの言葉を聞いたあなたがたのうち、どれほど多くの者にとって、解放の日とは、まさにこの声を初めて聞いたその日そのものであったことか！あなたがたは、信仰への復活という奇跡を思い起こす、その祝福された日を、どれほど深い愛をもって記憶に刻み込んだことか！

25. 多く泣いたが、待つことを知っていた者たちは幸いである。罪を犯したものの、その後、わが言葉が彼らの心に届くことを予感して、進んで清めを受け入れた者たちは幸いである。彼らは、初めてわが啓示に立ち会ったその日から、わが最初の言葉から、わたしを感じ、認識することができたのである。私が、人生の痛みや不幸によって感受性を高めた彼らの心の琴線に、私の本質で触れたとき、彼らは全身全霊を通じて、師の神聖な生命の雫が流れ込むのを感じた。そして、彼らが力強くなるのと同時に、彼らの魂から悲惨、汚れ、悪徳、苦しみ、闇、そして汚点が剥がれ落ち、その後、彼らは光の魂に固有の衣、すなわち「真理」を身にまとうようになった。

。

26. 私の御前に、霊的な人生において死んでいた人々がやって来た。しかし、彼らが去る時には、ついに真の道が何であるかを知っ

た、信仰に改心した人々として去っていった。なぜなら、信仰こそが魂の羅針盤だからである。

27. 魂が信仰によってよみがえるとき、それは言葉に尽くせないほどの幸福感である！ しかし、それだけではありませんでした。こうして命を取り戻した者たちには、さらに大きな喜びが待っていました。それは、師から学んだように、自らの道のりで「死者」を蘇らせることができること、そして、出会う、人生に確固たる目標を持たずにさまようすべての地上の旅人たちに、進むべき方向を示してあげられるという喜びでした。

28. 隣人を救ったことのない者、同胞に失われた信仰や健康を取り戻させてあげたことのない者は、その魂の歎びを想像することさえできないだろう。それでは、あらゆる魂の救い主、慰め手、師、そして永遠の復活そのものであることの喜びを、いったい誰が想像できようか。しかし、私はこの喜びを自分だけに留めてはいない。なぜなら、私は自分のあらゆる特質の一部をあなた方と分かち合い、救い、癒やし、慰め、そして新たな命へと蘇らせることを教えてきたからだ。私の天の御国がすべての人を待ち受けているように、私の喜びもまた、すべての人々のものとなることを私は望んでいるのだ。

29. 人々よ、もしあなたがたが、より高い力があなたがたの存在を包み込んでいると感じるなら、それはまさにあなたがたが私の臨在を感じているからである。あなたがたは魂を整え、体をそれを受け入れる準備を整えた。それゆえ、この瞬間、私の言葉に心を動かされ、私の御霊から放たれる力に喜びを感じているのだ。よく考えてみてほしい。もしあなたがたが、人生のあらゆる瞬間にこの霊的な境地を持てたなら、どこにいても私の臨在を感じ取ることになるだろう。そうすれば、私の正義があなたがたの人生において完全に現れていることに気づくはずだ。

30. 私は今、地上の諸国民を裁き、私の光をもってすべての魂に触れている。しかし、裁きが訪れたことに気づいている者はごくわずかであり、過去の時代からすでに予告されていたその時の到来を予感している者は、さらに少ないのである。

31. 私はすべての人々に、良心の光のもとで自らの人生を省みるために必要な時間を与えた。また、もし改善すべき点や償うべきことがあるならば、悔い改めと再生のための時間も与えたのである。統治し法律を制定する人々、人類を霊的に導く人々、そして科学者や知識を伝えるすべての人々に対し、私は準備のための時間を与え

た。なぜなら、すべての者は、私の正義が彼らに投げかける問いに答えなければならないからである。

32. もし今日の人々がこれほどまでに冷酷で無感情でなければ、間違いなく絶えず霊界からのメッセージを受け取っているはずであり、時折、人々の目覚めに向けて絶え間なく働きかける無数の存在たちに囲まれていることに気づき、自分たちは決して一人ではないと悟るだろう。

33. ある者はその世界を「目に見えない」と呼び、またある者は「あの世」と呼ぶ。しかし、なぜだろうか。それは単に、彼らが霊的なものを「見る」ための信仰を欠いているからであり、また、彼らの人間としての貧しさゆえに、本来は心で感じなければならないはずの世界から遠く離れ、異質なものだと感じさせられているからである。

34. 私は、私を聞くためにこの質素な集会所に集まるこの人々を、地上の財産や虚栄から解放しなければならなかった。そうして初めて、彼らはこの世のものではないもの、すなわち私の教えに惹かれるようになるのだ。

35. 私は、あなたがたが失った財産のために泣き、それゆえに世俗の栄華の偽りの輝きに少し失望し、物質主義から少し距離を置いていた、そのような貧しい姿で出会った。これは、あなたがたが霊的な存在を感じ、また、魂の開花と向上を切望する助けとなる。もしあなたがたが裕福で健康であり、快適さ、祝宴、そして娯楽に囲まれて暮らしていたとしたら――私の呼びかけに、駆けつけてくれただろうか？

36. 君主たちが私の教えに従うようになるために、私がいまだにどれほど人々の間に自らの存在を強く示さなければならないか、よく理解してほしい。

37. 私があなた方を貧しくありたいと望んでいるわけではなく、ましてや、生活や生存に必要なものを欠いて苦しんでいる姿を見たいわけでもありません。しかし、精神的に成熟した人間は、人間的なものよりも先に魂があるということを知らなければなりません。なぜなら、魂は肉体を離れても生きることができるのに対し、肉体は魂なしには存在できないからです。

38. 私は、すべてがあなた方のものとなることを望んでいるが、必要なものを意識的に活用してほしい。魂の豊かさを理解し、物質的なものを多く所有することも可能である。ただし、それらを正しく活用し、魂と物質の双方に真の価値と地位を与えることが条件である。計り知れないほど裕福な人の魂が、その所有物が隣人の幸福

のためであるならば、どうして自らを傷つけることができるだろうか。また、力ある人が、時折祈るために身を引くことを知り、その祈りを通じて私と交わりを持っているならば、どうして害を受けることができるだろうか。

39. この啓示を聞くあなたがたは、真理を理解している。しかし、まさにこの瞬間にも、闇の中で難破する者たちが大勢おり、私は彼らを救わなければならない。迫り来る嵐の中で、多くの船が沈没し、恐怖と嘆き、呪い、絶望と涙が溢れるだろう。それでもなお、私はあなたがたに保証する。靈的には誰も滅びることはない。なぜなら、最も深い闇の中にあっても、常に一つの光が輝いているからだ。それは星であり、一筋の光であり、すなわち靈そのものであり、そこから信仰と希望の火花が心へと降り注ぐのである。

40. 人々の心の奥底から、私への助けを求める叫びが湧き上がり、「父よ、私たちの救い主よ、私たちのもとに来てください。私たちは滅びてしまいます」と私に告げる時、私は彼らに私の臨在を感じさせ、私の限りない憐れみを明らかにし、それをもう一度彼らに証明してやるだろう。

41. 私は、あなたがたの信仰と悔い改め、そして愛を渴望している――それは、あなたがたが今日に至るまで満たすことができなかった渇きである。なぜなら、私があなたがたに愛という水を求めたたびに、あなたがたは私に胆汁と酢の入った杯を差し出したからである。

42. 私の渇きとは、あなたがたが互いに愛し合うことである。なぜなら、この戒めを果たすだけで十分であり、そうすれば、あなたがたのすべての痛み、苦しみ、そして苦難は即座に止むからである。私の渇きは、私にとっての必要ではなく、あなたがたにとっての必要なのである。

43. 弟子たちよ、この言葉の中に私がどれほどあなた方を愛しているかを感じなさい。私の霊がこの言葉の意味の中に宿っているのだから、あなた方も同様に、この言葉の中で私を愛しなさい。

44. この教えが広まれば、すでに多くの宗教団体が存在しているゆえに、人々はあなた方にこのメッセージの目的を問うだろう。そのとき、あなた方は彼らに、この言葉が人類に与えられたのは、彼らの宗教が教えていない「霊から霊への対話」を人々に教えるためであり、またこのメッセージこそが、あなた方が持つすべての靈的な特質を明らかにする神の光であることを明らかにすべきである。

45. この民は、私の言葉による福音を全人類にもたらすだろう。そしてそれを通じて、人々は、自分たちと霊界との間にはたった一

歩しかなく、両者の間に存在すると彼らが考えていた無限の距離は、単に彼らの想像や無知、そして形式的な宗教的実践の結果に過ぎなかったことを悟るだろう。

46. かつて、人類は、霊的な交わりが可能となる時が来るための準備をされてきたに過ぎなかった。今こそ、あなたがたの魂が力を与えられ、同時に高みへと昇り、より高い生命とつながる能力を備えた、ふさわしい時である。

47. 人間の知性を通じてなされた私の啓示は、私が今述べたことのすべてが真実であることをあなた方に証明しただけでなく、私の声を聞いたこの民にとっての励みともなり、こうして彼らが霊的な対話への第一歩を踏み出す助けとなったのである。

48. 私が当初、あなたがたに教えたのは、後にあなたがたが私の道においてより完全な歩みを踏み出せるようにするためであった。同様に、あなたがたもまず私の言葉を用いて語り、それを説明すべきである。そうすれば、私の業が周囲の人々に理解されたとき、彼らは、父や霊的な兄弟姉妹と交わる準備が整い、その能力を備えることになる。

49. 私の代弁者たちのすべてが、私に仕えるための準備をする能力と意志を持っていたわけではない。そして、私はしばしば、無益なこと、あるいは罪深いことさえに没頭していた、不純な知性の器に、私の光を降ろさなければならなかった。彼らはその過ちによって、私の正義を呼び起こしてしまった。なぜなら、彼らの知性はあらゆる靈感から奪われ、その唇は神のメッセージを表現するための雄弁さを失っていたからである。

そのような場合、聴衆はそれらの貧弱な啓示に対して耳を閉ざしたが、その代わりに魂を開き、その中に私の臨在を感じ、私の本質を受け入れたのである。民は、その瞬間に私の慈悲が彼らに送った本質によって養われた。しかし、伝達者は、自らの唇から発せられないメッセージを妨げ、それによって、まだその形で私の靈感を受け取る準備ができていなかったにもかかわらず、出席者たちに、霊から霊へと師と対話することを強いた。

50. まだ十分な時間が残されている。声の伝達者たちと各教会が準備を整え、私の啓示の最後の年に、人間の知性を通じて、あなたがたがこれまで耳にしてきた中で最も高尚で光に満ちた教えの説教によって、私の言葉がその頂点に達するのを見届けることができるように。もしあなたがたが真に準備を整えるならば、私はその準備と渴望を受けることで、あなたがたに報いる用意がある。私の光は

奔流となって降り注ぎ、あなたがたの魂を包み込み、力と知恵と靈性で満たすだろう。

51. このように、この啓示の時期の終わりに、私の言葉との別れは、魂と知性を可能な限り最高に整えた状態でなされなければならない。そうすれば、あなたがたがもはやこの形で私の声を聞くことができなくなったとき、私の声を聞きたいという計り知れない渴望を感じ、その渴望が、無限なるもの、神聖なるものの中に私を求めよう、あなたがたを駆り立てることになるだろう。そうすることで、あなたがたは、靈的な神への礼拝、すなわち子らと父との真の対話へと、確かな一步を踏み出したことになるのだ。

52. かつて、わたしを感じ取るための手段として用いていた人物や物、あるいは姿が、もはや目の前にはなく、ただ祈りを通してのみわたしの臨在を感知し、わたしを慕う人生のあらゆる瞬間にわたしの靈感を受け取るようになったとき、あなたがたは心の中で歓喜の声を上げてこう叫ぶだろう。「師よ、どうしてあなたはこれほどまでに私たちに近くおられるのですか！」

53. わたしはこれから、あなたがたの師であり、医師であり続け、あなたがたを通して、あなたがたがわたしの前に連れてくる病人の内に、わたし自身を現すであろう。わたしは、あなたがたの心の中に靈感を与え、あなたがたの唇に言葉を授けるであろう。わたしは、靈的な守護者たちをあなたがたに遣わし、彼らがこれからもあなたがたを導き、守り続けるようにするであろう。

54. 最初に達成したことに満足してはならない。むしろ、自らを完成させることに注意と努力を注ぎなさい。なぜなら、この私を求める新たな方法もまた、発展の過程を経るものだからである。

55. 今こそ、第三の時代である。この時代において、あなた方の魂は、すでにこの地上にいながらにして、極めて高次の世界や極めて偉大な知見を夢見始めることができるのだ。なぜなら、この世を去る者が、自らの魂の中に、そこで何に出会うかという知識と、靈的な賜物の開花を宿しているならば、その者は多くの世界を、そこに留まることなく通り抜け、自らの功績によって住むにふさわしい世界にたどり着くからです。

その人は自らの靈的な状態を完全に自覚し、どこにしようとも自らの使命を果たす術を知り、愛と調和と正義の言語を理解し、思考そのものである靈的な言語の純粋さをもって、自らを表現することができるようになるでしょう。彼には、いかなる障害も、混乱も、涙もなく、永遠の遺産として彼に与えられている、彼にふさわしい故郷に近づくという至高の喜びを味わい始めるだろう。

56. 私の業が、人々の心の中で信仰と霊性の聖域として根を下ろすためには、私の僕たちは多くの闘いを強いられ、私の民は数え切れないほどの試練を経験しなければならないだろう。

57. まず、世界はこの教えを拒絶するだろう。しかし、あなたがたは勇気を失ってはならない。なぜなら、私はすでに今、こう告げているからだ。すなわち、これを拒む者は心でそうするであろうが、それは人間の靈魂を通じて行われるわけではない。なぜなら、その魂は私のこの約束をその内に秘めているからである。

58. 私は、あなたがたが待ち受ける旅に心を奪われ、深く囚われているのを見てきた。そこで、あなたがたの心に寄り添い、平安を与え、私の言葉によって道を切り開き、あなたがたがすでに想像力によって作り出し始めている障害を取り除こうとしているのだ。

59. 思索し、苦しみ、そして私の業を案じる者たちは幸いである。それは、彼らがその業を心に抱きしめている証拠だからである。私は彼らの魂を励まし、慈しむ。そうして、彼らが再び信仰と平安と確信に満ちた気持ちになれるようにするのだ。

60. わたしの愛の食卓で、あなたがたは自らの準備によって得た神聖なパンを食べた。もしそれ以上のものを得られなかったのなら、それはあなたがたの備えがそれ以上には足りなかったからである。もしこの日に多くのものを得たのなら、それはあなたがたがこの報いに値する者となることを知っていた証拠である。また、私はあなたがたに告げます。この日、私が他の集会所にも私の光を溢れんばかりに注いだのは、そこに集まった聴衆の群れが備えることを知っていたからであり、それに対して、そのような霊的な準備が存在しなかった場所では、私の言葉が、正義に満ちた子供たちの良心の中に響き渡ったのです。

私の平安があなたがたと共にありますように！

教え 295

1. 人類よ、あなたは物質的なものを霊的なものよりも重要視してきたため、人生の意味を誤って解釈してきた。もしそうではなかったならば、私が再びあなたがたの間に来る必要はなかっただろう。しかし、人々が現実に対して無関心な生活を送っているのを見るゆえに、私の言葉が、あなたがたを高め、霊化へと招いていることに耳を傾けてほしい。

2. わたしの教えは、あなたがたが、待ち受けている、そして永遠に続くであろう人生に関心を持つようにすることを目的としている。それは、人間の肉体から離れることへの恐れ——すなわち死への恐れ——を、あなたがたの心から追い払うためである。わたしの言葉は、あなたがたをあらゆる誤りから解放しようとするものである。

3. まことに、あなたがたに告げる。死など存在しない。なぜなら、創造主こそが命そのものであり、その御業は死ぬことができないからである。

4. 人間こそが、その想像力によって死を創り出し、さらにその貧弱な理解力に従って地獄や天国をも創り出したのである。それならば、人間が私の存在や私の正義、そして永遠の命に関する真実について、どのような正しい認識を持ち得ようか。人々の心には混乱がなく、この混乱こそが、大多数の信仰の信念が築かれている基盤の一部を成している。人類が真の道から離れ続けるならば、どのような未来が待ち受けているだろうか。それはただ、悲惨と動揺、そして苦痛に他ならない。そして、彼らは地上での不運に満ちた生活の中で、その前兆をすでに味わっているのだ。

5. 霊の教え、すなわち私の教えは、民よ、あなたがたが陥っている闇を切り裂く一筋の光である。それによってのみ、人々は自らの霊的な使命に関する完全かつ包括的な教えを得、私の正義の存在について真の知識を持つに至るのだ。

6. 今日の人々は、何らかの形で神に目に見える姿を与えなければ、神について考えることができない。彼らは、魂を墮落させることを使命とする存在として悪の影響を擬人化せずに、誘惑について語ることはできない。同様に、かつて存在したことのない地獄の炎による罰を想像せずに、罪を犯した者の贖罪について考えることもできない。

7. 人々の知性を支配しているこれら三つの誤りについて、私はあなたがたにこう言おう。もしあなたがたが、神は聖霊であると信じ

るならば、神は霊である以上、物質的な姿の中に神を求める理由などないのだ。そして、あなたがたがルシファーやサタンと呼ぶあの架空の存在、は、過去の時代の私の言葉や啓示、メッセージを霊的に解釈することができなかった者たちの心の中にのみ存在する。

まことに、あなたがたに告げる。この「霊界」には、不和や憎しみ、墮落をまき散らす、闇の偉大な霊たちが存在する。人々に邪悪な考えを植え付け、悪行へと駆り立てることで、人々に影響を及ぼす無数の霊たちがいる。しかし、これらの存在は悪魔ではない。それらは、痛みや嫉妬、あるいは復讐心に心を曇らされた、不完全で、動揺し、混乱した存在である。彼らの本質は、あなたがたの魂が持つ本質と同じであり、あなたがたが「天使」と呼ぶ存在たちが持つ本質と同じである、と私が言っても、驚くことはないだろう。

8. なぜ、地球に住む邪悪な人間たちを悪魔と呼ばないのか。彼らもまた、あなた方を誘惑し、悪へと駆り立て、真の道から逸らしているではないか。彼らは、あの世の混乱した存在たちと同様、不完全な魂であるが、偉大さという理想に囚われたために、力と権力を手に入れてしまったのである。

9. まことに、あなたがたに告げる。地上に住む者たちの間にも、霊界にいる者たちの間にも、わたしに敵はいない。わたしを憎んだり、わたしを冒涇したり、あるいは単にわたしを侮辱することそのものを喜びとして、隣人を正しい道から逸らそうとする者は、一人もいない。それは嘘だ！人々を信仰から遠ざけ、隣人の心からわたしの名を消し去り、霊界と戦う者たちは、わたしを侮辱するためにそうしているのではない。彼らは、この世での権力への欲望、偉大さや人間的な栄光への夢を実現するために、そうしているのだ。

10. 愛の道へと導く光に目覚めていない、あの来世の存在たちについても、同じことが言える。彼らは単なる知識によって偉大になろうとしてきた。そして、彼らが兄弟姉妹に影響を与え、彼らを善の道から逸らそうとする時、それは私に苦痛を与えるためでも、私の力と競い合うためでも、悪が善に打ち勝つことに喜びを見出すためでもない——いいえ。その動機は、たとえ悪しきものであっても、私を侮辱するためのものではない。どうしてあなたがたは、生涯を通じて、私に対して、私のものを絶えず奪い取る強力な敵が立ちまわっているなどと考えられるだろうか？

11. どうして、私が人間たちの道に、彼らよりもはるかに強力な存在を置き、絶えず彼らを惑わせ、ついには永遠の破滅へと突き落とすようにしたなどと考えられるだろうか？

12. 私を知り、愛していると主張するあなたがたは、私と私の正義について、なんと悪い考えを抱いていることか！

13. 確かに、悪しき者は善き者を試み、強い者は弱い者を虐げ、不義な者は無垢な者を嘲り、不純な者は清き者を傷つける。しかし、それらは誘惑に過ぎず、それに直面した者は、戦い、身を守るための武器と盾を持っているため、それを退けることができる。その剣とは良心であり、その背後には、悪しき影響に惑わされないための道徳、信仰、そして理性が支えている。

しかし、彼はそれを行うだけでなく、自らの行いによって美德を蒔き、可能な限り悪に抵抗しなければならない。もし、ある者たちが破滅や悪徳、破壊を蒔いているのを見たら、彼は光をもたらし、道に迷った者を救い、倒れた者を立ち上がらせるために立ち上がるだろう。

14. これは、善と悪、光と闇との永遠の闘いであり、高みへと昇り、完全性の頂点に到達するために不可欠な闘いである。

15. 私にとって、最も重い過ちの痕跡にまみれた存在が、崇高な理想に感化されて自らを清めることは、最初から光を愛し、最後まで汚れを避けるために奮闘し続けた、揺るぎなく清らかであり続けた存在がそうすることと同様に、称賛に値する。

16. 混乱した霊たちは、光の霊たちとは性質が異なると考える者たちは、いかに真実からかけ離れていることか！

17. もしそれが真実であるならば、父は不公正であることになるだろう。また、もし父が、汚れ、不浄、不完全な者たちを救うための知恵と愛に欠け、彼らをすべての義人とともに一つの同じ住まいへと結集させることができないのであれば、父はもはや全能者とは言えなくなるだろう。

18. 弟子：人は、自らが成し遂げた行いについて真の認識を持っていれば、虚栄心に惑わされることはない。もしこの卑しい感情が自分の内面に侵入すれば、知性が曇り、成長の道を歩み続けることができなくなり、立ち止まって無気力に陥ってしまうことを、人は知っているのだ。

19. 虚栄心は多くの人々を破滅させ、多くの繁栄していた民族を滅ぼし、諸君の文化を崩壊させてきた。

20. 民族が行動力、有能さ、そして進歩を理想としていた限り、彼らは豊かさ、輝き、そして繁栄を享受していた。しかし、傲慢さが彼らに自分たちが他より優れていると感じさせ、向上という理想が、すべてを独り占めしようとするな飽くなき野心に取って代わられたとき、彼らは気づかぬうちに、また望むわけでもなく、一歩一

歩、自分たちが築き上げてきたものをすべて破壊し始め、ついには奈落の底へと転落した。

21. 人類の歴史は、こうした経験に満ちている。それゆえ、私はあなたがたにこう告げる。この世に、偉大な理想を掲げる民族が現れ、その民族が――自らの善行を常に自覚しつつも――それに驕らないことが正しいのだ。そうしてこそ、その歩みは阻まれることなく、これまで達成してきた輝きは明日にはさらに凌駕され、その後もまた増大していくことになる。

22. 私がこのようにあなたがたに語る時、単に物質的な目標を鼓舞しようとしているのではない。私の言葉が正しく解釈され、あなたがたがそれを物質的な面だけでなく、霊的な面にも適用できるようになることを願っているのだ。

23. 虚栄心は、人間の物質的な生活だけに襲いかかるものではない。私が言っていることの証拠として、その基盤が虚栄心、傲慢、そして偽りの華やかさに蝕まれている大教派の没落と失敗を見よ。それらが権力の絶頂にあると信じたそのたびに、誰かが現れては、それらを夢から覚まさせ、その誤り、迷い、そして律法や真理からの逸脱を突きつけてきたのである。

24. 良心の光に照らされて、わたしの律法を真に認識し、それを全うすることによってのみ、この人類は高みにある生活へと昇りつめることができる。なぜなら、わたしの光である良心は完全であり、曇りがなく、公正であり、決して虚栄にふけったり、曲がりくねった道を歩んだりすることはないからである。

25. 人々が真理に近づくために必要としているのは、まさに霊的な教えではないか、と私に告げよ。なぜなら、人類がこれほどまでに必要としているこの教えこそ、私あなたがたにもたらしたものであるからだ。

26. この言葉が世界中に広まり、人々が「誰がこれを靈感を与え、誰がこれを書き記すよう口述したのか」と問うとき、その伝達者や種を蒔く者たちは、聖霊が、その代弁者たちの準備された知性を通じてこれを啓示されたのだと証しなさい。

27. この人類が私のメッセージを受け取るとき、彼らはイエスを思い出すだろう。山々や荒野、川のほとり、そして谷間で説教をした、あの謙虚なナザレの男を。なぜなら、その御言葉は物質的な神殿を必要としなかったからだ。御言葉が表れようとする場所には、聴衆の群れの内なる神殿が築かれ、彼らの心はまるで日差しの下で花びらが開くかのように開かれていたからである。

28. 今、私はあらゆる心の扉の前に立っている。しかし、人類が私が再び来るとの約束を思い出すならば、私が再び人間として現れると予告したことは決してなく、むしろその再臨は霊によるものであることを、私があなたがたに理解させたことを、併せて思い出す必要がある。

29. 今こそ、理解の時、魂と知性の啓発の時である。この時、人間はついに霊的にわたしを求めようになるだろう。なぜなら、神は単なる人物でも、空想上の存在でもなく、無限かつ絶対的な普遍的な霊であることを悟るからである。

30. ごく少数の人々にしか知られておらず、人類からは顧みられていないこの教えは、まもなく、すべての苦しむ者たちへの癒しの香油として届き、慰めを与え、信仰に火を灯し、闇を追い払い、希望を吹き込むことになる。それは、あなた方を罪、悲惨、苦痛、そして死から引き上げてくれる。

31. そうでないはずがない。なぜなら、これをあなた方に啓示したのは、私、すなわち神聖なる医師であり、約束された慰め主であるからだ。

32. いつの時代においても、わたしの教えは、あなたがたの最も内なる本質が愛であることを明らかにしてきた。愛は神の本質である。すべての存在は、生きるためにこの力から汲み取っている。そこから生命と全創造が湧き出たのである。愛は、父によって創造されたすべてのものの運命における起源であり、目的である。万物を動かし、照らし、生かすその力の前では、死は消え去り、罪は消え失せ、情欲は過ぎ去り、不純物は洗い流され、不完全なものはすべて完全なものへと至る。

33. 私は第二の時代にこの世に生まれ、あなたがたの精神に消えることのない形で刻み込まれた私の教えと模範によって、愛の力を証明するために来た。それにもかかわらず、愛によって世界と死の痛みを克服した私が、まだ成長の途上にあるあなたがた人間に問う。あなたがたは、すでに世界と死の痛みを克服することを学んだのか。

34. あなたがたが今もなお「死者の日」を祝っているのを見てきた。しかし、なぜなのか？ それは、死に対する勝利を祝うあなたがたのやり方なのだろうか？ いいえ、人類よ、誤ってはいけない。それによって、あなたがたは肉体の物質への崇拝と、この世への愛を祝っているのだと悟りなさい。地底へと葬られた者たちへのこの崇拝において、あなた方は、真の永遠の命を体現する魂たちから遠ざかり、それらを忘れてしまっている。私が、あなた方が涙を流

して墓を潤したり、花で覆ったりしているのを見ると、に記された私の言葉を、あなた方に当てはめずにはいられない。「あなた方は、死者たちを見守る死者たちである」と。

35. わたしの言葉を理解し、それを自らの生活に実践している者たちよ、わたしはあなたがたに、物質主義に溺れて真理の意味を歪め、科学を盾に高慢で虚栄心に満ち、ついには自らを賢く、創造的で、強い者と見なし、神に近づき、神に祈りを捧げる者たちを嘲笑するすべての人々のために祈るよう命じる。彼らは、人類の運命を自らの手中に握っていると信じているが、彼ら自身もまた、わたしの神聖な正義の裁きに服することを知らない。彼らは、他の誰よりも、あなたがたの祈りと霊的な支援を必要としている。

36. これらの人々は、科学という手段を通じて行われる、肉体を崇拝する偶像崇拝の道に迷い込んでしまった。しかし、彼らもまた、彼らに定められた大きな試練の中で目覚め、それを通じて、人間には知性を超えた何か、すなわち霊魂が存在すること、そして地上の科学よりもさらに高次のもの、すなわち霊的生活の知識が存在することを、ついに理解するようになるだろう。

37. 理性が精神を駆り立てて科学の観察や探究を行わせるのではなく、精神が理性を高め、導くようになって初めて、人間は、現時点では不可解に見えるが、知性を霊化させた瞬間に明らかにされる運命にあるものを発見するだろう。

38. あなたがたが私の教えのどれかを耳にすれば、これから襲い掛かる世界観の混沌を十分に理解し、さらには予感することさえできるだろう。

39. 偶像崇拝の時代は今や終わりを迎えようとしており、精神化の時代がまもなく人々の心に到来するだろう。すべての偶像は地に倒れ、真理に道を譲り、そこに真の神の祭壇が築かれることになる。

40. わたしは光であり、真理であり、命である。わたしは開かれた書物である。

41. 人類の始まり以来、人々は生命の起源と、自分たちを取り巻くあらゆるものの理由を探求してきた。そのために、彼らは理性の力、すなわち知性の光を駆使してきた。そこから、彼らの科学や哲学が生まれたのである。しかし、人間の理性は、霊のみが理解し、深く見通すことのできる真理を把握するにはあまりにも限られているため、その科学がこの真理について発見できたことは、ごくわずかであった。

42. 人々は靈的な領域においてこの光を探し求めなかった——しかし、私は靈である。したがって、命の源、真理の光、そしてすべての被造物の起源を見出そうとする者は、まず私を求めなければならない——祈りを通じて、魂をもって知識への渴望をもって私を求め、隣人を愛し、彼らにより良く仕え、人間生活の苦難を超越するために。その人には、他の人々が理性を酷使して何世紀もかけてようやく発見した教えが、明らかにされるであろう。

43. わたしは愛そのものであり、わたしを求める者は、愛に導かれてそうしなければならない。

44. 人間は創造主の反映であり、神の似姿である。子供たちは、自分たちを生み出した父に必然的に似てくるものである。この類似性は、靈魂に根ざしている。なぜなら、靈魂は神の特性を備えており、さらに永遠の命を持っているからである。物質、すなわち人間の肉体は、魂にとって一時的な衣に過ぎない。

45. 父は、魂たちがこの地球に住み、そこで自己開花のための手段、強くなるための試練、光に満たされるための教訓、そしてこの生を超越し、物質から解放され、靈界へと導く功德を積むための尽きることのない機会を見出せるようにと、魂たちをこの地上に送り出したのである。

しかし、人間はまだその戦いに勝利しておらず、物質を支配しておらず、世界を自分の従者に仕えさせてはいない。それどころか、人間は自分より下位にある力や要素に支配されてしまっている。人間は自分が世界の支配者であると信じているが、実際には物質の奴隷に過ぎない。

46. この戦いに勝利しない限り、人間は靈的な生活を自らのものとして獲得したことにはならない。

47. しかし、私が人々に、地上の法則から離脱し、もっぱら靈的なものに専念することを望んでいると誤解してはならない。いいえ、民よ、私が望むのは、父が創造し、人類に与えてくださったものを、あなたがたの幸福のため、発展のため、そして昇華のために活用すること——すなわち、自然界の諸領域、力、そして存在を含む物質的な生活に対して、支配することを学ぶことである。しかし、これを達成するためには、あなたがたの知性が到達する範囲を超えていく必要がある。すなわち、靈魂を通じて働きかけることで、父があなたがたの崇高な目標——あなたがたの行いに込めた愛、そして靈魂に与えるべき場所を正しく理解したこと——をご覧になったとき、が、その秘められた宝庫の幕を引き、あなたがたの魂を照らすための知恵の火花を授けてくださるのです。

48. 正しいのは、霊が人間の理性に知恵を啓示することであり、理性が霊に「光」を与えることではない。多くの者は、私がここで語っていることを理解できないだろう。それは、あなたがたが長い間、人生の秩序を逆転させてきたからである。

49. 人間が、自身を取り巻くあらゆるものよりも前に、そしてそれらすべての上に立っていること、すなわち、自由意志と良心を備えている唯一の存在であることを見よ。人間のあらゆる迷い、墮落、そして罪は、この自由意志に端を発している。しかし、それらは、創造主の正義と永遠の前においては、はかない過ちに過ぎない。なぜなら、やがて良心は、肉体の弱さや魂の誘惑に打ち勝つことになるからだ。それによって、無知を意味する闇に対する知識である「光」の勝利が訪れる。それは、愛、正義、調和である「善」が、利己主義、放縦、不正である「悪」に打ち勝つこととなる。

50. あなたがたが自らの生涯や人類の歴史を振り返れば、この闘いが創造の初めから現在に至るまで常に存在してきたことに気づくでしょう。それは、あなたがたの魂を完成させるために必要な闘いであり、金を精錬するための火と同じくらい不可欠なものです。

51. この教えを耳にする者が、魂が完全に開花し、完成するために、たった一度の人間の生涯だけで十分だと考えることができるだろうか。

52. ああ、人間たちよ。あなたがたは人間の人生に過度に囚われ、自分たちが永遠にこの地上にいと信じ込んでいる。しかし、物質化によって新たな肉体を得てこの世に生まれ変わらなければならないことを知らないのだ。それは、以前の機会に成し遂げられなかった一歩を踏み出すためである！

53. しかし、たとえ何度も転生を繰り返したとしても、魂に絶対的な完全さをもたらすわけではない。たとえ地球での最後の生を終えた後、どれほど高みに達していたとしても——「霊的な谷」が、その数え切れないほどの生命の世界、新たな教え、啓示、そして奇跡とともに、なおも魂を待ち受けているのだ。

54. いったんその道を歩み終え、清らかで完全な境地の入り口にたどり着いたとき、あなた方は自らの存在の理由を理解し、真に光の中に住むことになるだろう。

55. ここ地上において、私は人類の霊的生活を三つの段階、時代、あるいは時代区分に分け、その各段階で、あなたがた全員が持つべき知恵を、一步一步、一課ずつ明らかにしてきたのである。

56. 第一の時代は、いわば人間の霊的な幼年期であり、その時期、人間は目を開き、父の御顔を見、その声を聞くが、父を理解する

にはまだほど遠い。その証拠は、人間が、その真意を魂で深く掘り下げることなく、単にテキストの文字に固執することで、父に従おうとしたことにある。

57. 第二の時代には、わたし、「御言葉」が、イエスとしてあなたがたのうちに宿り、わたしの生涯を通じて、魂の道をあなたがたに示すために来た。この第二の時代は、成長期、すなわち霊的な青春の初期にあたる。それは、キリストが人々に愛を教え、眠っている心の琴線をかき立て、父と隣人への愛という力強い衝動のもとで、彼らの心が新たな感情に共鳴するように導いた人生の時期である。

58. 私は、この二つの愛——すなわち、命の源であり、父であり、創造主である神への愛、そして互いへの愛——の中に、律法全体、私の教えのすべてを要約した。

59. 律法は常に良心の中に存在してきた。世代は去り、世代はやってくる。魂は旅立ち、魂はやってくるが、わたしの言葉は堅固で不変である。それにもかかわらず、人間は理解が遅く、心が硬く、わたしの教えの愛の精神を理解した者はごくわずかであった。

60. 人々は増え、成長していく。しかし、知性が目覚めるやいなや、彼らは霊的なものから背を向け、この世の栄華や富、あるいは科学を追い求めるようになる。その結果、その実りは、あなたがたの心が望むほどには甘くはならなかった。いつも、口の中に苦い味が残ってしまったのである。

61. しかし、わたしの言葉が、あなたがたの行いを一概に非難しているとか、あなたがたの科学が成し遂げた成果を断罪しているなどと考えるてはならない。いいえ、民よ、あなたがたが深淵からわずか一步のところにいると言葉で告げているのは、わたしではない——それは、あなたがたの霊性欠如の結果である事実そのものが示しているのだ。

62. しかし、まさにあなたがたが深淵に近づきつつあるその瞬間に、永遠の時計の大きな鐘が鳴り響き、新たな時代の始まりを告げるのである。第三の時代——聖霊が良心に輝き、知恵として、光として、謎を解き明かすものとして、また、人を高め、新たな命へと蘇らせ、慰め、救う力として注がれる時代である。

63. これは、父が人々に語りかけるために用いた、最も繊細かつ至高の形態である。人々にとってはすでに二つの時代が過ぎ去り、彼らは魂の成熟に達している。彼らは今や、より深遠な教訓を把握し、理解することができるようになった。

64. これは、人間の魂が物質主義の鎖から自らを解き放たなければならない「第三の時代」である。これにより、人類の歴史上かつてないほど激しい世界観の争いがもたらされることになる。

65. 墮落、利己主義、傲慢、悪徳、嘘、そしてあなた方の生活を覆い隠してきたあらゆるものは、砕けた偶像のように、それらを崇拜していた者たちの足元に倒れ、謙虚さに道を譲ることになるでしょう。

66. この闘いにおいて、あなた方はどのようにして助けとなることができるだろうか。それは、祈りという強力な武器によってである——口先だけの祈りではなく、思考を高揚させることによってである。

67. あなた方を包む空気よりもはるかに微細な私の霊は、そこに臨在し、あなた方の祈りを受け止め、同時にそれを平和へと、そしてあなた方の隣人たちへの癒やしへと変えていくでしょう。

68. あなた方の思考は、空間の中で光の火花となり、思考の明晰さを必要としているあの知性へと、メッセージとして届くでしょう。

69. あなたがたの執り成しは成就する。なぜなら、わが王国の平和が地上に到来し、あなたがたの行いは、いわば第三の時代に大地の懷に蒔かれる霊化の最初の種となるからである。

私の平和があなた方とともにありますように！

教え 296

1. わたしは、あなたがたの道を照らす光であり、あなたがたの知性に届く知恵であり、あなたがたの苦しみを和らげる癒しの薬である。

2. 私は師であり、あなた方を私の弟子へと変えることを意図して、あなた方のところへやって来る。なぜなら、あなたがたが私の弟子であるならば、地上において義なる人々となるからである。

3. もしあなたがたが、無知という闇を真に打ち破りたいと願うなら、わたしに身を委ねなさい。そうすれば、あなたがたがつまずかないよう、必要な光を授けてあげよう。もしあなたがたの信仰を強めたいと願うなら、ここに来て、わたしの言葉に耳を傾け、たゆまずわたしに従いなさい。

4. 太古の昔、この世界には愛が欠けていた。最初の人類は、その神聖な力——すなわち、すべての被造物の源である精神の本質——を感じ取り、理解することからはほど遠かった。彼らは神を信じてはいたが、神に帰属させるのは力と正義だけだった。人々は、自然の要素を通じて神の言葉を理解できると信じていた。それゆえ、自然が穏やかで平和な姿を見せるときは、主が人間の行いを是認していると見なした。しかし、自然の力が解き放たれるときは、その中に神の怒りが現れているのだと考えたのである。

5. 人々の心の中には、怒りと復讐の感情を内に秘めた恐ろしい神というイメージが形成されていた。それゆえ、神を怒らせたと信じたとき、彼らは神をなだめることを願って、全焼のいけにえや供物を捧げた。私はあなたに告げます。それらの供物は、神への愛から生まれたものではありませんでした。初期の民族が彼らの主へ貢ぎ物を捧げるように駆り立てたのは、神の正義への恐れ、すなわち罰への恐怖だったのです。

6. 彼らは神聖な霊を単に「神」と呼んだが、「父」や「主」とは決して呼ばなかった。

7. 神は確かに正義である——しかし、それは完全なる正義であり、何よりもまず父であり、父としてすべての被造物を愛しておられる——ということを人々に理解させ始めたのは、先祖たちや初期の預言者たちであった。

8. 人類は一步一步、霊的發展への道をゆっくりと歩み、巡礼の旅を続け、ある時代から別の時代へと移り変わり、神があらゆる時代にその子らに与えてきた啓示を通じて、神の神秘について少しずつ理解を深めていった。

9. それにもかかわらず、人間は神の愛を完全に理解することはできなかった。なぜなら、人間は神を真に父として愛していなかったし、また、主が常に自分に向けていた愛を、心の中で感じ取ることもできなかったからである。

10. 人間が、神がいかに深く、どのような方法で彼らを愛しておられるかをようやく知ることができるようにするためには、完全な愛が人間となり、「御言葉」が受肉し、人間にとって触れることができ、目に見える肉体をとることが必要であった。

11. すべての人がイエスの中に父の臨在を認めたわけではない。イエスが、自分を侮辱する者たちに対しても謙虚で、思いやりがあり、愛に満ちて接していたのだから、どうして彼らがイエスを認識できようか。彼らは、神を敵に対しては強くて誇り高く、自分を侮辱する者たちに対しては裁きを下し、恐ろしい存在だと考えていたのだ。

12. しかし、その言葉を拒んだ者が多かったのと同様に、多くの者もまた、心の奥底にまで響き渡ったその言葉を信じた。苦しみや不治の病を、ただ一つの優しい愛撫、限りない憐れみの眼差し、そして希望の言葉だけで癒やすその姿、新しい世界、光と正義に満ちた生活の約束であったその教えは、あの神聖な人が父の真理であり、人々が知らず、それゆえ愛することもできなかった方の神聖な愛そのものであると理解した多くの人々の心から、もはや消し去ることはできなかった。

13. その至高の真理の種は、人類の心に永遠に蒔かれていた。キリストこそがその種を蒔いた者であり、今もなおその種を育て続けている。やがてキリストはその実を収穫し、永遠にその実を喜び楽しむだろう。その時、キリストはもはや御言葉の中で「私は空腹だ」とか「私は喉が渇いている」とは言わなくなる。なぜなら、ついにキリストの子供たちは、キリストが初めから彼らを愛してきたのと同じように、キリストを愛するようになるからだ。

14. 弟子たちよ、キリストについて語るのは誰か。キリストご自身である。

15. 人類よ、今再びあなたに語りかけるのは、私、すなわち「御言葉」である。私を認識しなさい。私が現れる姿が地味であるからといって、私の存在を疑ってはならない。私の中に高慢などあり得ないのだ。

16. かつて私がこの世で歩んだ生涯によって、私を認識しなさい。私が生まれた時や生きた時と同じように、謙虚に死んだことを思い出してください。

17. 私は、新たな発見が人々の生活を一変させたこの時代に、人類の中に現存しており、かつてあなたがたが私に見出したのと同じ謙虚さをもって、あなたがたの間での私の存在を感じさせている。

18. 神の「御言葉」が再び人間となったわけではなく、キリストが再び馬小屋の貧しさの中で生まれたわけでもない——いいえ、そうではない。なぜなら、もはや肉体が神の力を証しする必要はないからだ。もし人々が、この肉体がこの世に降臨した神であると考えるならば、彼らは誤っている。神の臨在は霊的であり、普遍的であり、無限である。

19. もし、この時代に人々が成し遂げたすべてが、正義、許容、善の範囲内にあるのであれば、私が再びあなたがたに語りかけるために降りてくる必要はなかっただろう。しかし、この人類が私に捧げるすべての行いが善であるわけではない。多くの過ち、多くの不正、多くの逸脱、そして多くの悪行が存在する。それゆえ、人間が自らの行いに最も深く没頭している時に、私の慈愛をもって人間を目覚めさせ、彼が忘れてしまった義務とは何か、そして今あるもの、そしてこれからあるべきものすべてを誰に負っているのかを思い出させる必要があったのだ。

20. 霊から霊へと私を聞き取ることができなかった、物質化してしまった人類に私の声を届けるために、私は彼らの霊的な賜物や能力を利用し、人間の知性を通じて自らを明らかにしなければならなかった。

21. 私があなたがたに語りかけるために「降りてくる」理由の説明は、次の通りである。あなたがたは、主と霊から霊へと対話し合うために自ら高みへ昇ることができなかったため、私は一段階下へ降りなければならなかった。すなわち、あなたがたがまだ到達できない霊的な領域、神聖な領域からである。そこで私は、人間の脳内に位置する知性という器官を利用し、私の神聖な靈感をごく普通の言葉や物質的な音へと変換せざるを得なかったのです。

22. 人間にはより深い知識が必要であり、神こそが人間のもとに来て、知恵を託してくださるのだ。もし、これらの代弁者たちの知性という器官を通じて行われる、わたしの短い啓示のために選ばれた手段が、あなたがたにとってふさわしくないとされるなら、わたしは真実を告げよう。彼らを通じて伝えられるこのメッセージは、実に偉大なものである。あなたがたは、私の啓示が、人々に印象を与えるような華やかで厳粛な儀式を伴って行われることを望んでいたかもしれない。しかし、実際には、霊的な観点から見れば、それらは真の光を含んでいないため、虚しいものだっただろう。

23. 私は、自分の力を実感させるために、稲妻や嵐を伴って現れることもできた。しかし、そうなれば、人々が「主の御臨在が訪れた」と告白するのは、どれほど容易なことだったろうか！しかし、その場合、恐怖が再びあなたがたの心に立ち返り、理解を超えた何かという概念も戻ってきたのではないだろうか？ 父への愛の感情はすべて、そのな正義への恐れへと変貌してしまっていたのではないだろうか？ しかし、あなたがたは知っておくべきだ。神は全能の力であるにもかかわらず、その力によってあなたがたを打ち負かすことはなく、それによって支配を強いることもない。むしろ、別の力、すなわち愛の力によってそうするのだ。

24. 今日、宇宙に語りかけているのは神聖な御霊である。かつてあなたがたがはっきりと認識できなかったすべての事柄に光をもたらすのは、まさに御霊である。御霊はすべての人々にとって新たな日の夜明けである。なぜなら、御霊はあなたがたを誤った恐れから解放し、疑念を取り除き、あなたがたの魂と精神を自由にするからである。

25. 私はあなた方に告げます。私の教えの本質と、私の法の正義を知った後、あなた方は、自らの観念が課してきた限界、そしてそれがあなた方を真理のわずかな認識を超えることを妨げてきたことも理解するようになるでしょう。

26. もはや、罰への恐れや恐怖が、あなたがたを探求し、発見することを妨げることはないだろう。ただ、あなたがたが自分にとって理解不能なものを真に知りたがるときのみ、良心がその道を禁じるだろう。なぜなら、人間には全真理が与えられるわけではなく、自分にふさわしい部分のみを把握すべきであることを、あなたがたは知っておくべきだからである。

27. 人々よ。もし私の到来が、戦争や解き放たれた自然の猛威、疫病、そして混沌の真っ只中にあると予告されていたとしても、それは私がこれらすべてをもたらしたからではない。それは、まさにその危機の瞬間に、私の存在が人類にとって助けとなるからである。ここに、私の再臨について語られてきたすべてのことが成就した。世界が死と格闘し、地球が死のうめき声を上げながら震え、揺れ動いて、新しい人類への道を切り開こうとしているまさにその時に、私は人々の元へやって来る。それゆえ、「第三の時代」における神の呼びかけは、愛の呼びかけである——正義、兄弟愛、そして平和をその内に宿し、それらを鼓舞する愛の呼びかけである。

28. この時期に私の声を聞く恵みにあずかったあなたがたに、私はこう言わなければならない。真にスピリチュアリストの弟子とな

るためには、私の教えを自分の人生に適用しなければならない。特定の戒律に従うことが、あなたがたをスピリチュアリストに変えるわけではなく、また、特定の儀式や顕現が、あなたがたを地上の使命の成就へと導くわけでもないのだ。

29. 私だけが成し得る方法でこのようにあなたがたに語りかけることによって、私は神にふさわしい生き方の最善の道を明らかにし、あなたがたの心に植え付けられた父なる神への恐れを取り除いていくのである。

30. しかし、私は、この世でのあなた方の生活に関わる誤りや偏見からあなた方を解放するだけでなく、あなた方に語られてきたような「永遠の破滅」など存在しないことも告げます。なぜなら、魂は、肉体の痛みが生み出すような肉体的な苦痛に耐えることができないからです。魂の痛みは、良心の光に照らされて自らの行いを見つめることに起因する。良心は、犯したすべての過ちや不完全さを、完全な明瞭さをもって認識し、理解させるのである。

31. あなたがたが真理の道を歩んでいるという確固たる確信を持って、わたしのもとに来なさい。そして、無知から生じる恐れによって、この道にとどまることを強いられることのないようにしなさい。

32. あなたがたが、今この時代および過去の時代のわたしの啓示や宣言を吟味すれば、やがて、わたしが常に謙虚さに包まれて現れてきたことを理解するようになるだろう。それゆえ、外見上の華やかさに惑わされてはならない。もし、別の道を歩む人々がやって来て、「主は、あなたがたが示しているこの貧しさや卑しさの中にいるはずがない」と言うなら、神は「御言葉」として現れ、イエスとして謙虚にこの世に生まれ、それにもかかわらず人々は彼を信じ、また、その誕生から数世紀が経過したにもかかわらず、救い主がこの世に現れた際の謙虚さを、人々の心から消し去ることはできなかったのだ、と彼らに思い出させてほしい。

33. あなた方の間には、信徒たちが感覚を刺激するために、外見的なもの、華やかで目に見えるものを愛し、求める集会所がある。しかし、彼らは、外見的なものを求めることによって、霊の教えが内包する奇跡を忘れてしまっていることに気づいていない。

34. 教え、正し、啓示すること——これこそが、あなた方を光の住処へと導くための、あなた方の間における私の業である。しかし、約束の地の門戸にたどり着く前に、あなた方は信仰と愛において功績を積まなければならない。

35. かつてキリストの言葉は弟子たちの心の中で芽生え、彼らに従った民の中でその種は育ちました。その教えは広まり、その真意は全世界に伝わりました。同様に、今日のこの教えもまた広まり、それを感じ取り、理解する能力を持つすべての人々によって受け入れられるでしょう。

36. 愛する弟子たちよ、私の癒しの油を受け入れなさい——聴衆の皆さんよ、私の父なる愛の撫でと、師としての私のメッセージを受け入れなさい——あなたたち自身のため、そしてあなたの愛する人々のために。

37. 私の存在は、あなた方にとって、優しく撫でるようなそよ風のように感じられるでしょう。そうして私は、あなた方の心に命を与えるために、その心へとやって来るのです。

38. 私の到来が近づいていることを予感する者もいれば、霊的な視力で私を見る者もあり、また、その鋭い感性によって私が近づいている時を知る者もいる。この祝福された時、彼らは皆、心の中で「師はここにおられる」と口にする。それは、私の平安が彼らを包み込んでいるのを感じ取ったからである。

39. 人生の果てしない砂漠をさまよっている魂にとって、平和ほど貴重な宝も、これほど切望されるオアシスもない。これこそが、私があなたがたに差し出す宝であり、あなたがたは後に、この宝を周囲の人々と分かち合わなければならない。

40. また、私は、人々の上に祝福された平和の外套を広げるための手段をあなた方に示します。その手段とは、思い、祈り、言葉、そして行いです。

41. 私が今この瞬間、あなたがたを見ているように——私の言葉が与える平和によって結ばれているように——私は、私が去った後、あなたがたに待ち受ける闘いの日々においても、あなたがたを見たいと願っている。その日々において、私はあなたがたに私の存在を微細な形で感じさせ、あなたがたは心の中で私の声を聞くことになるだろう。なぜなら、私はあなたがたに約束する。私の愛撫、私の本質、私の癒しの力に、決して欠けることはないのだ。

42. 不屈の精神と理解をもって、一つの教訓から次の教訓へ、一つの時期から次の時期へと進んでいけば、あなたがたがわたしの業と調和する関係は決して断たれることはない。わたしの律法と使命に対するあなたがたの従順さと意欲は、言葉に尽くせない平安をあなたがたに与え、あなたがたは決して嘆くこともなく、また、あなたがたを泣かせるような茨も生じないだろう。

43. もしあなたがたが私の弟子でありたいと願うなら、あなたがたは平和の使者であり、私が実践するよう教えたすべての美德の体現者でなければならないことを理解しなさい。

44. これまで私があなたがたを地方へ遣わさなかったのは、あなたがたがまだ熟していない実であるのを見ているからである。今もなお、私はあなたがたに命と勇気を与えるために、愛の雨、私の知恵の光、そして神聖な太陽の光線を注ぎ続けなければならない。しかし、あなたがたが私の教えという木の实として熟した暁には、あなたがたを支えていた枝を揺らす風に乗って、その実が落ちることになるだろう。

45. 私がもはやこの姿であなた方に語りかけなくなる日が近づくほど、あなた方は私の霊的教義の中にますます大きな偉大さを発見するようになるだろう。そして、かつてあなた方がそれを限定していたあらゆるものから、知らず知らずのうちに遠ざかっていくことになる——そう、あなたがたはこの神聖な業を、人物や場所、物事に限定してきたからだ。しかし、それは普遍的かつ無限であるため、物質的・人間的な領域を超越しているのだ。

46. 今や、あなたがたは私の業を、もはや人物や場所、あるいは物体に限定されたものとは見なさなくなった。今や、あなたがたはすべてを神性の中、無限に高きものの中に見出し、また、あなたがた自身の存在の高みの中にもそれを見出しているのだ。

47. あなたがたの魂が神への道を歩み終え、そこからこの御業を仰ぎ見て恍惚とし、あなたがたの知性の光と理解を喜びとする時、私の御業はあなたがたにとっていかに輝かしく映るでしょうか。

48. あなた方は、自分たちを待ち受けているその偉大な真理と至福を、かすかに予感している。しかし、その現実を発見するには、あなた方の直感や想像力はあまりにも乏しいのだ。

49. 梯子の段、階段、そして安住の地の一つひとつが、魂により大きな光と、より完全な至福をもたらす。しかし、魂の至高の平安、最も完全な至福は、魂が経験するあらゆる一時的な生の世界を超えたところにある。

50. あなたがたは、神の懷における完全な幸福を予感することが何度あるだろうか。しかし、その幸福感は、この人生の後、あなたがたが移り住むことになる来世の、ほんのわずかな前味にすぎないことを、あなたがたは気づいていない。

51. この時代において、私の種は、理論や解釈という重荷を背負っていない心と精神を持って私のもとにやって来た人々の間で、最も早く芽吹いた。彼らは私の言葉に対して、まるで手つかずの土地

のようであり、私は彼らを用いて、世界に私のメッセージを伝えたのである。

52. 他の人々は、誤りと混ざり合った真理を持ち込んでいたが、わたしの光は彼らを徐々に誤りから解放し、同時に、彼らが内に秘めていた善を確かなものとした。人の心の中がすべて毒草や雑草というわけではない——時にはそこに小麦の苗が育つこともあり、わたしはそれを育て、実らせ、やがてその穀実が倍增するようにしている。

53. 前者も後者も——私は彼らすべてを私の弟子へと変え、一つの民として結集させた。その民は、自らの行いを通じて私の教えを証しするその瞬間、人々がこの教えの力を実感したとき、人々の心を高鳴らせるのである。私の名において、不信仰者や迫害者たちに対して立ち上がるだろう。戦いは激しくなり、書物の中であなた方をスキャンダルや中傷の原因として非難する者たちの口からも、しばしばあなた方の名が語られることになるだろう。

54. これらの試練が訪れた際にあなたがたが驚かないよう、私はあらかじめ告げておく。しかし、私がこの民の中に私の力、私の慈悲、そして私の正義を明らかにする時こそ、まさにそれが起こるのだと、私はあなたがたに告げる。

55. わたしのすべての軍勢は戦いの準備を整え、すべてのしもべたちはわたしの声に従い、わたしについて証しをするであろう。

56. 決定的な時、証人となるのはここにいるこの民だけではない。自然の力は、いつものように「語り」、神の正義を体現し、「霊界」も現れ、この物質主義的な人類——すなわち、永遠を渴望してキリストの道を歩んでいると主張しながらも、それにもかかわらず、霊的な命のあらゆる呼びかけや顕現に対して、自らの目、耳、そして理性を閉ざし続けようとする人々である。

57. まさに、彼らが従い、理解していると信じているそのキリストこそが、他の世界や生命の次元への入り口となる扉を開いたのである——異質な肉体を乗っ取って生きようとする魂たちの混乱を取り除いたのは、他ならぬその方である——その方こそ、使命の最後の時、イエスを通じて、墓の中で死の眠りにについていた魂たちの中に自らの存在を感じさせ、彼らを命の光へと引き上げた方である。しかし、人々がこれらの顕現を信じるようになるために、私は、それらの存在たちがその親族たちの前に姿を現すことを許したのだ。

58. 私はその扉を開いた。私だけがそれを成し遂げることができた。なぜなら、キリストはその愛によって、すべての世界を結びつける絆そのものだからである。

59. あなたがたは、わたしの光の軍団、平和の軍勢、そして世界のために祈る者たちの一員となるべきである。まことに、あなたがたに告げる。他者の苦しみゆえに流されるあなたがたの涙は、あなたがたの父の香油と結びつき、露の滴となって、悲しみに沈む心の上に降り注ぐであろう。

60. 人々よ、真の癒しの香油——あらゆる病を癒やすそのものは——愛から湧き出るものである。

61. 霊をもって愛し、心と知性をもって愛しなさい。そうすれば、あなたがたには、単に身体の病を癒やしたり、人間のささやかな苦難を慰めたりするだけでなく、霊的な謎を解き明かし、魂の大きな不安や動揺、良心の呵責を和らげるのに十分な力が備わるだろう。

62. その癒しの薬は、大きな試練を解きほぐし、光を灯し、苦痛を和らげ、身動きを封じる鎖を溶かし去る。

63. 科学に見捨てられた人間も、この香油に触れることで健康と生命を取り戻すだろう。離反していた魂も、呼びかける兄弟の愛の言葉によって、再び戻ってくるだろう。

64. この時代が頂点に達すれば、人々は至る所で霊的な力に包まれ、かつて見られたことのないような顕現、出来事、そしてしるしが現れるだろう。高慢な科学者たちは言葉を失い、自らの無力さを痛感して、無力さゆえに涙を流す場面も生じるだろう。

65. 人々はキリストに目を向けるようになり、そして自らの行いを振り返ったとき、ついに、第二の時代にこれほど多く、これほど非凡な業を成し遂げた方が、今、再び戻って来られ、ここに臨在し、その力を証ししておられる方その人であることを理解するだろう。

66. わたしは、あなたがたが霊的な生活に入り、自己規律と質素さがあり、祈りと愛の行いがあることを望む。そうすれば、あなたがたはあらゆる霊的な出来事に対して敏感になるだろう。そうすれば、多くの人々には見えないものが、あなたたちには見えるようになるだろう。そうして初めて、あなたたちは、人々が解決策を見出せない、あらゆる出来事の原因を説明できるようになるのだ。

67. 私は、弟子たちの準備と、彼らに託された使命に対する認識が、その道のりにおいて、そして彼ら自身の影響力のみによって、人々の間で見え、隠され、知られず、人類には未知の混乱と苦痛に満ちた存在を生きる存在たちを解放できるほど、十分に深まることを望んでいる。

68. 民よ、汝らの合一を目指して努力せよ。もしこれを達成できなければ——人類にそのメッセージを伝えるために必要とされる、あの高次の世界の光の存在たちが、どうしてあなた方を通して映し出されることができようか。

69. わたしはあなたがたに、他者のために祈り、願い求めるよう教えてきたが、あなたがたが自分のために祈る時も、その声を聞き、その祈りを受け入れている。しかし、あなたがたがまだ未熟であったために、あなたがたの願い通りに与えていた時代は終わったと、あなたがたに告げる。今、私はあなたがたが弟子として働き、祈りの際に自分の靈魂と心を私に捧げつつ、私がその中を読み取り、私の御心を行うことを許すことを望んでいる。

70. 極めて忍耐強い師の愛に包まれた私の知恵ある言葉は、スピリチュアリズムが内包する偉大さを、一步一步理解へと導き、人間的なものから始まり、天的なものと融合する広大な靈的な地平を、あなたがたに垣間見せてくれたのである。

私の平安があなた方とともにありますように！

教え 297

1. 人よ：あなたが蒔いた種の実を収穫したいという願いは高潔である。しかし、私はあなたにこう告げる。忍耐を持つべきであり、自分の行いの結果をすぐに知りたがるべきではない。なぜなら、それは収穫までの時間を短縮し、未熟な実を摘み取ることに甘んじることを意味するからである。

2. この働きの開花は一瞬にして起こるものではなく、長い時間を要する。それゆえ、一人ひとりが、この霊的な畑において自分に課せられた役割を理解し、その後、自分の仕事を、あなたがたの後に続く者たちに委ね、彼らに信頼を寄せなさい。そうすれば、彼らはあなたがたが始めた畑の耕作を引き継ぎ、あなたがたを助けてくれるだろう。彼らの後にはまた別の者たちが現れ、そのまた後にはさらに別の者たちが現れるでしょう。それゆえ、信仰という収穫、すなわち霊性への回心という収穫を刈り取る運命にある者が誰であるか、あなた方には分からないのです。

3. 実りを見届ける者たちは、これが単に最後にやってきた者たちの功績であるだけでなく、最初、二番目、三番目に來た者たちの功績、努力、そして犠牲が結集し、師からすべての人に課せられた霊的な業を勝利へと導いたものであることを知るでしょう。

4. たった一世代では、この全事業を成し遂げることはできないことを知れ。また、今は収穫の時ではないことも知れ。

5. もしあなたがたが私の言葉に従わないのであれば、どうしてそれを人々に理解させることができるだろうか。あなたがたが私の言葉を理解し、それを信じ、使命を果たすために反抗的な肉体を鍛え上げるのにこれほど長い時間を要したのだから——どうして世界の変革が即座に起こることを求めることができるだろうか。

6. また、この働きを独りでやっているなどと思ってはならない。なぜなら、これほど大きな霊的意義を持つ業を成し遂げるには、あなたたちにはまだ十分な力が備わっていないからだ。あなたたちが歩むべき道を示し、種を蒔くべき場所と道筋を教えてくれる存在がいることを知らなければならない。

これらの先駆者たちは、他の世界、他の故郷から來た、あなた方の兄弟姉妹たちです。彼らはそこからあなた方の歩みを見守り、道を開いてくれています。なぜなら、彼らもまた、平和と愛と兄弟愛の働き手だからです。彼らは、あなたたちよりも清らかで、より深い知識と豊富な経験を持つ魂たちであり、彼らから悪を恐れる必要は一切ありません。彼らは、あなたたちが立ち止まることを許さな

い存在——あなたがたが種を放置したとき、心に不安をもたらす者たちなのです。

7. あなた方は一人ではないし、決して自らの力だけに任されることもない。

8. この業を信頼し、その偉大さを見よ。それが人間の理性の産物ではなく、この人類の新たな世界観でもないことを悟れ。それは、古来より人間の魂の道を照らし続けてきた永遠の光であり、その真理の中で、あらゆる不完全さ、あらゆる不純さ、そして罪は消え去るのだ。

9. わたしは、わたしの真理から、愛と正義と知恵に満ちた教えを築き上げた。それを通じて、一時的に正しい道から迷い出た者たちを改心させ、変容させることによって、その力の証しをあなた方に示そう。

10. 人の罪は一時的なものであり、無知の結果に過ぎないのに、なぜ人を滅亡や永遠の苦しみへと断罪しなければならないのか。なぜ、私自身の神性をその内に宿す存在を断罪しなければならないのか。

11. たとえ一瞬であれ、あるいはより長い期間であれ、物質への傾きや悪への嗜好があったとしても、私がその心に私の恵みを届けるという明晰さの瞬間が訪れたとき、その魂はそれに応え、それによって、神がすべての魂の中に存在することを明らかにするだろう。

12. これこそが、人間が自らの内面に求めなければならない本質であり、失ってしまったものであり、しばしば徒労に終わって探してきたものである。そのために、私はあなたがたが自分自身を見出すために持つあらゆる能力を明らかにしたのだ——外見や肉体的な姿に囚われることなく、自らの魂を発見し、真の自分を知ることが教えるためである。

13. 弟子たちよ、霊的なものを求めることを学べ。そうすれば、外的な礼拝の慣行に伴う狂信からも解放されるだろう。

14. そうすれば、霊的な業の偉大さを内包しているのは、集会所でも、象徴でも、儀式でもなく、その永遠の意義と、正義に満ちた究極の目的であることに気づくでしょう。

15. この普遍的かつ無限なる業を限定しようとしたり、あなたがたの霊的成長に制限を設けようとしたりしてはならない。なぜなら、善行と研鑽の道に深く没頭すればするほど、より大きな啓示を受け取るようになるからである。あなたがたは、最も目立たないものの中から神聖な業が湧き上がるのを見、すべての被造物の中にそれ

が顕現しているのを見、自らの存在の奥底でそれが鼓動しているのを感じるだろう。

16. これが、私がスピリチュアリズムの弟子たちに教える「簡素さ」である。それは、弟子たちもまた、その師のように簡素であるようにするためである。弟子は、言葉の真実と行いの力によって人々を説得し、改心させるべきであり、神秘的な力や並外れた能力で誰かを感銘させようとしてはならない。

17. 真の弟子は、その謙虚さによって偉大となる。彼は師を理解すると同時に、周囲の人々にも自分を理解してもらえるようになる。

18. 人生は広大な海であり、誰もがそれぞれの舟で航海している。しかし、ある者たちは安全な港へと舵を切る方法を探している一方で、他の者たちは目標や経験の欠如から転覆してしまう。

19. わたしは再び、あなたがたにわたしの教えをもたらしした。その教えの中に救いの港が存在することを、あなたがたに心に留めておいてほしい。なぜ、わたしが曖昧な教えや、不確かな言葉、あるいは深みの乏しい啓示をあなたがたに与える必要があるだろうか。もしそうであったなら、私はあなた方を新たな狂信に陥る危険にさらすことになるだろう。あなた方は今、良心が安らぎを与えない時代に生きているのだ——とりわけ、私が教えた「慈悲と愛の律法」の真の成就を、見せかけで覆い隠そうとする時こそ、なおさらである。

20. 民よ、私の声を聞きなさい。弟子たちよ、耳を傾けなさい。私は今、あなたがたに光を与え、鎖や束縛、そして闇からあなたがたを解放している。しかし、私はあなたがたに、この業を新たな宗教に変えたり、いつものように偶像や儀式で満たしたりすることを許すわけではない——いいえ！ 私があなた方に与える自由が何であるかを正確に理解し、それを新たな狂信と置き換えないようにしなさい。

21. あなたがたの知性、そしてそれとともに魂の成長が阻まれてきたことに、まだ気づいていないのか。あなたがたの先祖から受け継いだ、数え切れないほどの誤った恐怖や偏見の洪水を覚えていないのか。私があなたがたをそれらから解放したのは、あなたがたが真実をありのままに見つめ、光を受け取れるようにするためだったのだ。

22. もしあなたがたが準備を整えず、不純さが依然としてあなたがたの中に現れ続けるならば、あなたがたの光は物質化の背後に閉じ込められ、隠されたままであり、あなたがたは、この偉大な啓示

について何も知らない者たちのように、周囲の人々の前で無知な者として現れることになるだろう。

23. 弟子たちよ、まず常に、自分自身の目にある「梁」を見よ。そうして初めて、兄弟の目にある「ちり」を見る資格が得られるのだ。

24. つまり、私はあなたがたに、私の教えを、さまざまな宗派に属する周囲の人々の行いを非難するために用いてはならない、と告げたいのだ。まことに、私はあなたがたに言う。あらゆる道には、高潔で犠牲に満ちた生活を通じて私を求める心があるのだ。それにもかかわらず、弟子たちは私に繰り返し問いかける。「なぜ、時には互いに矛盾し、対立を生み、人々の間に敵意を招くような、こうした世界観の多様性を許されるのですか」と。これに対し、師はこう告げる。「それが許されているのは、まったく同じ理解、同じ光、同じ信仰を持つ魂が二つと存在しないからであり、さらに、あなたがたには自らの道を選ぶための自由意志が与えられているからである。」あなたがたは、決して律法の道を歩むよう強制されたことはなく、むしろその道へと招かれたのです。それによって、真理を求める中で真の功德を積む自由を保ってきたのです。

25. 同様に、愛する弟子たちよ、あなたがたの使命は、団結し、調和を保ち、腕を差し伸べ、あなたがたや、あなたがたの癒しの力、言葉、あるいは助けを必要とするかもしれないすべての人々に、あなたがたの能力や賜物を分かち合うことであることを知っておきなさい。

26. まことに、あなたがたに告げる。もしあなたがたの心に高慢が芽生えれば、あなたがたは霊性者とはなり得ない。悟りを開いた魂は、利己的な心をなだめるだけの、そのようなささいな虚栄心では満足することはできない。

27. たとえ兄弟たちの目には、最も熱心で、最も熱烈で、最も粘り強い者たちとして映ったとしても、私の目には、表面的な使命の遂行だけでは、弟子たちを偉大にするものではない。

28. 最も純粋で、最も誠実な働き、ひいてはあなたがたを私のもとは最も高く引き上げてくれる働きとは、たとえ周囲の人々がそれを知らなくても、あなたがたがひっそりと成し遂げるものである。

29. 「右手が左手の行いを知ってはならない」と、私はあの「第二の時代」に弟子たちに語った。それゆえ、今日、私の御霊の光がすべてを明らかにしている今、私はあなたがたにこう言う。偽りのない謙虚さを持ち、他者の苦しみのために心から涙を流し、周囲の人々が享受する善のために心から喜びなさい。このように私の教え

を心に感じ取れる者だけが、隣人のために自らの命を捧げる覚悟ができるのである。

30. 人々よ。もしあなたがたに、農地を整え、種を蒔き始めることが定められており、その実を収穫するのは他の人々でなければならぬとすれば、それを受け入れなさい。なぜなら、父の畑で働き、その喜びを味わう権利があるのは、あなたがただけではなく、すべての兄弟姉妹たちにもあるのだから。

31. 私は道であり、あなたがたはその道を歩んでやって来る旅人である。

32. ひとたび山の頂上にたどり着けば、あなたがたは振り返って、自分の魂が通り抜けてきたすべてのものを見渡し、父に感謝するだろう。

33. 道は遠い。誰が、すでにすべてを経験し、すべての秘密を知り、目に見え、耳に聞こえるものを超えたあらゆるものに深く入り込んだと言えるだろうか。

34. 師があなたがたの働きを軽んじているわけでも、道中で成し遂げたことを過小評価しているわけでもない——いいえ、民よ。あなたがたの功績を最も高く評価しているのは、他ならぬ私である。そうでなければ、私の中に正義など存在し得ない。

私がこのようにあなた方に語るのは、あなた方が人間的にも霊的にも限界に達するほどの大きな能力を持っているにもかかわらず、まだ多くのものが欠けていること——つまり、肉体的な感覚の彼方に存在するものを無限の中で探求すればするほど、認識し、学ぶべき新たな学びの領域をますます発見することになる、ということを理解していただきたいからです。

35. 私が、あなたがたが探究できるよう、あなたがたの知性の及ぶ範囲内で自然を委ねたのと同様に、あなたがたが魂を通じてその世界へと入り込めるよう、この自然を超えた世界の存在を明らかにしたのだ。私は、あなたがたが霊的な生活を知るために、探求し、調査することを許してきた。しかし、私はあなたがたに告げる。今日までに知っているわずかな知識だけに留まってはならない。学びへの意欲を持ち、その無限の世界へと踏み込むために自らを鍛え、勤勉に働き、一日の労働を終えた時に満足してこう叫べるようにしなさい。「我々は使命を果たした」と。

36. わたしの教えは、魂を停滞させることはなく、また人間の進化を妨げることもない——それどころか、それは人間を恐怖や偏見から解放し、待ち受ける光の道を視認させるのである。

37. 科学と研究の頂点に達したかのように見えるこの人類を見よ。しかし実際には、彼らは明日に到達するであろう科学のほんの入り口に立っているに過ぎない。それは、知識への渴望に「兄弟愛」という理想を加えれば、必ずや到達できるものである。

38. 今日、人々は混乱の時代を生きている。それは、彼らの人生そのものとあらゆる努力が、に精神を開花させるためのものであり、その目的は、自らの精神と創造主の精神との対話にあることを理解していないからである。

39. 今日、大多数の人々が信奉している教義は、唯物論である。

40. 信仰の教義や宗教が互いの相違に固執し続ける限り、世界は憎しみを育み続け、真の神への崇拜へと向かう決定的な一歩を踏み出すことはできないだろう。しかし、魂の救済への鍵や秘密、そして永遠の命の鍵を自分たちが握っていると信じ、自分たちの考えでは神に近づくに値しないと見なして、他の道を歩む人々を一切認めようとしない人々が依然として存在する限り、いつになって人々は互いに理解し合い、団結し、互いへの愛への第一歩を踏み出すことができるだろうか。

41. それゆえ、あらゆる宗派、あらゆる人間のイデオロギー、あらゆる分派を超越した教えであるスピリチュアリズムの真の目的を、しっかりと自覚しなさい。

42. 神の律法を含むこのメッセージの真意を深く考察すれば、それがすべての人々、すべての民族、そしてあなたがたが置かれるあらゆる生活状況に適用されるものであることがわかるでしょう。

43. この教えの真理に照らして、違いや疎外、敵意、抵抗がいかに消え去るかを見てください。その光の前では、あなたがたは皆等しく見え、その愛の前では、あなたがたは皆兄弟姉妹であり、その正義の前では、あなたがたは皆不完全だからです。

44. この言葉はわたしから発せられたものであり、命の源であり、アルファでありオメガであり、始まりであり終わりである。それゆえ、人々は自らの無知を克服するために、慣習や宗教的狂信を捨て去り、霊として存在する私のもとへ来なければならない——それは、各人が私に捧げようとしたあらゆる礼拝の形式の中にある私ではなく。しかし、彼らが真の源にたどり着いたとき、私はすべての人を受け入れ、彼らの痛みを取り除き、重い負担から解放し、互いに和解させるであろう。

45. 考えてみてください。もし皆さんがこの人生における自分の役割をすべて理解できたなら、人類はとくに利己的であることをやめていたでしょう。そして、一人ひとりが自分の出自や使命を理

解していれば、その人は自分のすべての行いを、自分が創造された目的と結びつけて考えるようになるでしょう。

46. もはや、この世に多種多様な宗教が存在する必要はない。あなたがたは今や、一つの信仰と一つの神への礼拝の形式の下に団結する段階に達している。思考の統一と魂の結びつきにおいてのみ、あなたがたは、進歩と調和、そして平和へと導く光を見出すことができるだろう。

47. 今や、いかなる宗教も人々の平和や精神的自由を達成することはできないと、あなたがたは目の当たりにするだろう。その代わりに、ある者には聖典を通じて、また別の者には靈感を通じて伝えられる私の神聖なメッセージが、人々の救い、団結、そして霊化をもたらすのを、あなたがたは目撃することになるだろう。

48. スピリチュアリズムは不平等を生み出さない。スピリチュアリズムこそ、人類が必要とし、無意識のうちに切望している教えである。なぜなら、それは人々が渴望する平和であり、愛であり、正義であり、光だからである。

49. この言葉を耳にするあなたがたは、私が、他の宗派を信奉する同胞たちに対して、あなたがたの心に嫌悪や悪意を植え付けることができると思うのか。決してそうではない、弟子たちよ。あなたがたこそが、自分たちと同じ考え方を共有する人々を見るのと同じ愛情をもって、すべての人々を見つめ、愛することで、兄弟愛と調和の模範を示し始めなければならないのだ。

50. すべての宗教団体は、この一步を踏み出さなければならない。彼らは、皆が崇拝すると主張する父への愛の行為として、互いを愛したいという切なる願いに導かれる必要があるのだ。

51. あなたがたが「迷い人」と呼ばれても恐れるな——すべての人に手を差し伸べなさい。あなたがたにとって真実であるこの働きが、他の人々には誤りであるように見えるかもしれないことを心に留めておきなさい。彼らの目には、宗教が認められるために与えられてきた「聖別」が、この働きには欠けているように映るからである。

52. もしあなたがたがわたしを信じ、わたしがこの声の伝達者たちの言葉を通して自らを明らかにしていると信じるならば、周囲の人々の裁きを恐れてはならない。なぜなら、わたしの教えは極めて説得力があり、わたしのメッセージには多くの真理が含まれているため、あなたがたがこれらの武器をうまく使いこなすことができれば、打ち負かされることはまずないからだ。

53. あなたがたが熱心に真理、すなわち完全なるものを求めることを、誰も非難することはできない。それにはあなたがた全員に神聖な権利があり、そのために、光へと向かう自由が与えられているのだ。

54. 民よ、あなたがたは長い間、わたしの食卓で食べ、飲んできた。もし今なお霊的な飢えを感じているなら、それは不当である。なぜなら、あなたがたには日々、食事が供されてきたからだ。わたしはあなたがたの愛を渴望している、しかし、あなたがたはわたしに何を飲ませるのか？ あなたがたの争いや無理解が生み出す胆汁と酢である！

55. この恵みの日に、わたしはあなたがたにこう告げる。わたしの神聖な輝きをあなたがたの心に受け入れて、わたしの臨在を感じ、あなたがたの人生を変容させてほしい。

56. 私は確かに裁き人として来たが、真実を言えば、あなたがたが裁き人の言葉の中に求めるならば、必然的に父の御前にいることになるのだ——その父とは、あなたがたを愛しておられ、それゆえ、あなたがたが父をよりよく知ることができるように、さまざまな形で御自身を現しておられる方である。

57. あなたがたの認識が深まるほど、私への愛も深まることを、私は知っている。

58. 私が「私を愛しなさい」と言うとき——私が何を伝えようとしているのか、分かっているか。真理を愛し、善を愛し、光を愛し、互いを愛し、真の命を愛しなさい。

59. わたしを愛することを学びなさい。あなたがたの過ちや罪にもかかわらず、わたしの愛がどこへでもあなたがたに付き従い、その影響から逃れることも、避けることもできないことを悟りなさい。あなたがたの過ちが重ければ重いほど、あなたがたに対するわたしの憐れみはより大きくなることを悟りなさい。

60. 人々の悪意は私の愛を拒もうとするが、愛は万物を創造し、万物を動かす普遍的な力、すなわち神聖な力であるため、悪意は愛に打ち勝つことはできない。

61. 私があなたがたに語るすべてのことの証拠は、人類が罪の深淵で迷い込んだこの時代に、私があなたがたの間で自らを現した際に、私があなたがたに与えたものである。私の愛は、人間の罪に対して嫌悪感を抱くことはなく、ただ憐れみを抱くのみである。

62. わたしを認め、わたしのところに来なさい。そうすれば、わたしの慈悲という水晶のように澄んだ泉の水で、あなたがたの汚れ

を洗い流すことができる。求めなさい、求めなさい。そうすれば、与えられるであろう。

63. あなたがたの心や魂の中に、私が見ないものなど、私の前に何を提示できるというのか。どのような苦しみ、どのような憧れ、心配事、あるいは秘密を、私の前から隠すことができるというのか。何一つない。それゆえ、霊的に祈ることを学び、内面でわたしに打ち明け、わたしの予知と慈悲を信頼しなさい。そうして、あなたがたの心に、これほどまでに欠けているあの平安が流れ込むようにしなさい。

64. 私はあなたがたに、祈りとは、あなたがたの心が私に向かって語りかけ、嘆き、願い、泣き、そして力づけられるための、魂の言葉であると告げた。しかし時には、あなたがたの存在が至福に満ちたり、平安に満たされたりするとき、その祈りは、私の御国の高みへと届く霊的な賛美歌となる。

65. わたしを信頼しなさい、民よ。わたしを信頼しなさい、人類よ。この地上には、あなたがたの救いを委ねることのできる人間も、民族も、法律も存在しないことを確信しなさい。わたしのもとに来なさい。わたしを求めなさい。真理を求めなさい。そうすれば、いつの日か、あなたがたは皆、一つの「物語」の中で、一つの光の下に結ばれることになるでしょう。

66. 人間、国家、人種、そして諸民族——それらはすべて、人間の精神が、この地上での束縛に嫌気がさして立ち上がり、物質主義の鎖を打ち碎き、霊的な解放の歓声を上げる時、神の呼び声に従わざるを得なくなるだろう。

67. 今日、私の言葉の成就是、この人類の道徳的・精神的な変容と同様に、あなた方にとって非常に遠いもののように思えるかもしれない。しかし、道を切り開き、あなた方に課せられた役割を果たすのは、あなた方の責務である。もしそうしなければ、あなた方には私の言葉の成就を評価する権利はない。

68. やがて、人間が自らの魂をより高い次元へと発展させたいという渴望が、これほどまでに燃え上がる時が来るだろう。その時、人間は手に入るあらゆる手段を駆使して、この苦難の谷を調和が支配する世界へと変え、いわゆる「不可能」を成し遂げ、戦争を防ぐために自己犠牲や超人的な努力さえも厭わなくなるだろう。

69. まさにそうした人々こそが、この世界を高みへと引き上げ、人間の生活から苦難の杯を取り除き、過去の世代が盲目的な権力欲、物質主義、そして軽率さによって破壊してしまったあらゆるものを再建する者となるだろう。彼らこそが、私への真の崇拜——狂信

や、表面的で無益な儀式を伴わない崇拝——を見守る者となるでしょう。彼らは、人間の法律と霊的な法則との調和、そしてそれらの履行こそが、人間が神に捧げ得る最良の礼拝であることを、人類に理解させようと努めるでしょう。

70. あなた方もその一員になりたいと思わないか？ あなた方の子供たちが、高潔な魂を持つ人々の一員となることを望まないか？ あなた方はこの切なる願いを叶えることができる。私があなた方の教育と世話に託した者たちの道を整えるのは、あなた方次第である。そうすれば、時が来て、物質の支配に対する精神の決定的な戦いを始める際、彼らが自らの使命を自覚し、信仰に強く、私の言葉が伝える知識に満たされて団結し、一つの体、一つの民、一つの精神を形成できるようになるためです。その精神は、その道のりで壁を打ち壊し、障害を乗り越えていくでしょう。それは、イスラエルが約束の地を求めた時のように。

71. わたしは知っている。もしあなたがたが、子供たちを十分に備えさせずにこの世に残して去ったならば、来世から、あなたがたの魂は、地上に取り残された者たちの運命を嘆き悲しむことになるだろう。なぜなら、彼らは、地球上の諸民族を懲らしめるためにやって来る災難や疫病の襲来に対して、身を守る術もなく、打ち負かされていくのを見ることになるからだ。

72. 霊界に到着したとき、甘い実を収穫する代わりに、とげの茂みやイラクサしか見つからない魂の贖罪と苦痛を、あなたがたは想像できるだろうか。

73. これこそが、あなたがたが今、すべての人の救いのために私が授ける教えの光を豊かに受けている今、早いうちに避けなければならないことなのです。

私の平安があなた方とともにありますように！

教え 298

1. 肉体と魂の両方のあらゆる苦しみを癒やしなさい。なぜなら、あなたがたには、隣人を慰め、力づけ、癒やすという使命があるからだ。しかし、私はあなたがたに問う。もしあなたがた自身が病気であるなら、どうして苦しむ人々に健康をもたらすことができようか。もしあなたがたの魂が、心配事や苦しみ、良心の呵責、そして低俗な情欲によって乱されているなら、そこからどのような平安が流れ出ようか。

2. あなたがたが心の中に蓄えてきたものだけが、隣人に差し出すことができるものとなる。

3. 今日、あなたがたは、私がこの民に与えている恵みを可能な限り蓄え、敵対や逆境の中でもそれを守り抜くことを学ばなければならない。そうしてこそ、あなたがたの使命を果たすべき時が来たとき、戦いに勝利することができるのだ。平和、光、そして癒しの力は、あなたがたの存在と一体となり——そのようにして、あなたがたは手を置くだけで病人を癒すだけでなく、言葉や思考、視線を通じて健康、平和、そして力を伝えるようになり、多くの場合、あなたがたのただそこにいるという存在そのものが、これらの力を放つようになるでしょう。

4. しかし、私がこれらの賜物を与えたことを知っているだけで十分だなどとは考えてはならない。いいえ——それだけでなく、それらを顕現させる力が必要であることを知らなければならない。そして、私への信仰、隣人への愛の実践、感情の清らかさ、そして無私無欲を通じて、その力を獲得することが不可欠である。これらの原則に従って行動しない者は——たとえ私から恵みを受けていたとしても——何の善も伝えることはできない。なぜなら、これらの賜物は、高潔で純粋、そして高揚させるような感情によってのみ、花開き、増し加わるものだからである。

5. 確かに、準備ができていないにもかかわらず、その道のりに奇跡の痕跡を残す者は多くいる。しかし、それを実行しているのは彼らではなく、私である。なぜなら、私は苦しむ者、病める者、霊的に貧しい者、そして善意を持つ人々に対して憐れみを抱いているからだ。それにもかかわらず、そうした「働き手」たちは、私の奇跡を自分たちの功績として称えるのである。

6. また、私が託した事柄を行う能力がまだ備わっていない者もいる。それは、準備の仕方を知らないからである。しかし、その人の信仰は深く、隣人に対して憐れみを抱いている。私は、その人が働

きに励み、粘り強く歩み続け、より完全な者となるよう励ますために、奇跡を行うことを許している。

7. 私が、与えられた賜物を正しく用いない者からそれを奪うと言うのは誤りである。しかし、私が示した目的のためにそれらをに用いない者は、直ちにそれらを用いる力を失う。

8. 霊的な賜物こそが、人が救いを得るための手段であり、自らを守るための唯一の武器であるのに、どうして私が人間からそれらを奪うことができようか。もし私の正義が、あなたがたが信じているようなやり方で働くならば、私はすでに多くの人々から良心の光を奪い、多くの脳から知性を奪っていたはずである。しかし、私はもう一度言うておく。私は人間からその賜物を奪うことはない。なぜなら、まさにこれらの資質こそが、人間が自らを救い、完全性へと高まっていくために必要なものだからである。

あなたがたは、ある者は正気を失い、ある者は早すぎる死や何らかの能力を失うと私に告げる。確かにその通りだが、彼らにすでに属しているものを奪い取っているのは私ではない。彼ら自身が、弱さや愚かさ、そして迷いによって、父が遺産として与えたものを自ら手放しているのだ。

9. これらすべての中に、私の正義を愛する御手が現れていないだろうか。

10. しかし、私が完全な正義をどのように行使しているかを少し観察してみれば、これらすべての事例において、私の愛が表れており、ある者には光を与え、ある者には平安を与え、またある者には命を取り戻させていることを確信するだろう。もっとも、彼らが失ったものを取り戻すためには、まず大きな浄化を経なければならぬことも、私はあなた方に告げておく。

11. 私はこの言葉の中で、あらゆる事柄についてあなたがたに語りかける。なぜなら、私の教えから一章たりとも欠けてはならないからだ。あなたがたが明日、いかなる疑いも、いかなる不確実性も抱かないように、私はあらゆる事柄についてあなたがたを教え導く。

12. わたしは、あなたがたを、自らの使命を自覚し、その使命を熟知し、全き真実と清らかさをもって、人類の祝福と霊的進歩のために、わたしがあなたがたの心に蒔いたこの祝福された種を蒔き、広める準備が整った民にしたいと願っている。

13. それゆえ、私が本日の説教を始めた際、まず最初に、今日、私のもとで癒やされ、力を得るべきだと告げた。なぜなら、あなた

がたの心にあるものこそが、あなたがたから周囲の人々へと伝えられるものだからである。

14. あなたがたが不完全であり、準備も整っていないにもかかわらず、私を訪ねてくる苦しむ人々に、私が憐れみを注ぐだろうなどとは、決して期待してはならない。なぜなら、今ここで、たとえあなたがたがこの世で悪を隠すことができたとしても、わたしの前では、そしてあなたがたの裁きが訪れたとき、苦痛に満ちた償いからあなたがたを守ることができるのは、あなたがたの功績だけである、とわたしは告げておくからである。

15. この教えが何を説いているか、理解できたか。ならば、決してそれを忘れてはならない！

16. 愛する民よ。わたしはあなたがたの人生の道において自らを現し、さまざまな形であなたがたを試み、あなたがたがわたしを愛していることを見てきた。あなたがたは道の岩につまずいたが、信仰を頼りにして再び立ち上がった。

17. 私の教えはあなた方を救い、私の言葉はあなた方を高めます。それは、あなた方が私の臨在を信じ、この声の伝達者たちの知性を通じてなされる私の啓示を信じているからです。

18. あなたがたの魂は、この啓示において私の臨在を認識することを可能にした、その身体の中に秘められた感受性を発見することに満足を得た。

19. 過去の聖典を通じて、この時代を予告した預言を知っている者はどれほど多いことか。それにもかかわらず——もし彼らが私の啓示に立ち会ったとしても、それを信じようとはせず、また、それがあの約束の成就であると受け止めることもないだろう！ 彼らは、この光を見分けることを可能にするような発展の段階に達していない者たちである。

一方、今日、この時代に人々の前に現れているのが私であることを証しするために命を捧げようとする人々のうち、どれほど多くの者が、こうした出来事を予言する預言が存在することさえ知らなかったことか。その理由は、彼らの魂がすでに光を受け入れる準備ができており、その覚悟ができていたからである。

20. 預言者たち、悟りを開いた者たち、そして予言者たちは、霊において私の到来を感知し、人々の理解力にその内容を注ぎ出すために開かれた書物を見、人々の間に霊界が存在することを確認した。彼らは、主が民を一つに結集するために来られるであろう新しい山を見た。しかし、まことに、あなたがたに告げる。あなたがたがここに来て、わたしを感じ取ったのと同じように、一人ひとりの目

覚めの定められた時が来れば、次々と民が、そして一人ひとりの人が加わっていくであろう。

21. 私が、地球上のあらゆる国や民族において、あなたがたに示したのと同じ姿で現れるとは考えてはならない。しかし、私の無限の力と知恵をもって、私はすべての人の心の扉を叩く術を知っているのだ。

22. 私がこの時代にあなたがたに託したこの霊的な種を、地球の隅々まで広め、知らしめなければならないことを、あなたがたに告げなければならない。

23. わが啓示の時代は、この民を準備する時代であった。教えは長く、また詳細なものだった——その期間は、ある世代がこの世を去り、それに代わる別の世代がやってくるのを見るほど長かった。種が芽吹き、成熟し、実を結ぶためには、これが必要だったのだ。

24. 教えは今や終わりに近づいている。それゆえ、私があらゆる説教の中で、あなたがたが将来、どのように働きかけるべきかを明らかにしていることをよく聞き取れ。

25. わたしの業には大きな最終目標があり、その目標へとあなた方を導くのは、わたしの言葉である。

26. あなたがたは、わたしの声を聞いた民の一員であるにもかかわらず、まだ涙を流すことになるだろうと、わたしは知っている。試練があなたがたを弱った状態で襲うため、あなたがたは分裂を嘆くことになるでしょう。その時、この世が与える痛みと打撃によって、あなたがたは、私が啓示を始めた当初から語ってきた、平和、団結、善意という旗印という権利を奪われてしまうのです。

27. この言葉を聞いて、痛みを先んじて、兄弟愛をもって団結するならば、あなたがたは祝福されるであろう。私は、この民の兄弟愛を夢見てきたにもかかわらず、まだ団結の兆しを見出せない人々の痛みと悲しみを見ている。彼らこそが、静かに私にこう語りかけてくるのだ。「主よ、私たちを結びつけるのはあなたの愛でありますように。私たちの救いのために戦うための、ほんの少しの時間をください。」

28. 他の人々は私にこう問う。「師よ、なぜ心は清められなければならないのですか。また、あなたの御言葉を聞いているにもかかわらず、なぜ苦しみがあるのですか？」しかし、私はあなたがたに言う。民よ、あなたがたは依然としてあらゆる汚れから清められてはおらず、痛みからも解放されていないのだ。あなた方の本質には、まだ試練にさらされていない部分があり、靈魂と心が強固になるためには、それらを試すことが必要なのです。

29. もし、ただわたしに耳を傾けるという事実だけで、もはや痛みを感じなくなるとしたら――その場合、あなたがたは人生において、自らを清め、わたしに近づこうと努力するだろうか。まことに、あなたがたに告げる。そのときは、あなたがたは精神的・道徳的な状態を改善するために、もはや何もしなくなるだろう。

30. 弟子たちよ、あなたがたの闘いの目標は、もはや痛みが及ばないような魂の状態にあることを知れ。そして、この目標は、功德、闘い、試練、犠牲、そして放棄によって達成されるのである。

31. あなたがたが時折、周囲の人々のうちに見出す忍耐、信仰、謙虚さ、そして服従の事例に留意しなさい。彼らは、人類の間に徳の模範を示すために、わたしが遣わした魂たちである。一見すると、これらの存在の運命は悲惨に見えるが、彼らは自らの信仰の中で、ある使命を果たすためにこの世に遣わされたことを知っている。

32. あなたがたは歴史の中で、わたしの使徒や弟子たちによる偉大な模範――あなたがたにもよく知られた名前――を受け取ってきた。しかし、それゆえに、人生の道中で出会うささやかな模範たちを見過ごしてはならない。

33. あなたがたはしばしば、父への捧げ物となり、父の記憶に値し、周囲の人々にとって模範となるような、高潔な行いを成し遂げている。その行いの価値や功績を、常に自覚しているわけではない。しかし、それはむしろあなた方にとって良いことである。そうすることで、心がその功績を誇りに思うことがなく、そうしてこそ種が腐ることはないからだ。とはいえ、魂はその行いの価値を確かに知っている。もしそうでなかったら――魂は、高尚で有益な行いに従事していると信じ込んで、どれほど頻繁に平凡な行いに時間を浪費することになるだろうか。

34. 弟子たちよ、あなたがたは苦難の中で堅固になったが、今や靈化を通じてさらに高みへと発展していかなければならない。人間の生活が、その苦難や心配事、誘惑によってあなたがたを捕らえてしまうことは、重要ではない。あなたがたが自らを解放する方法を見出すことができれば、その束縛は見せかけに過ぎないのだ。では、魂に広がりと自由をもたらすこの方法は、どのようなものなのでしょう。それは、祈り、私の業について深く思索すること、高潔な行いに専心すること、そして逆境を乗り越えることによるのです。

35. これを成し遂げた者は、物質世界における自らの使命を果たすことを怠ることなく、光と平和の世界へと入っていくことになる。

36. これこそが、私があなたがたに示した道であり、それによって、あなたがたは物質主義、地上の苦難、痛み、誘惑、そして悪徳から逃れることができるのだ。

37. 私は、あなたがたを祈り、瞑想、そして善行へと招く。そうして、霊化によって、あなたがたが真理の水で渴きを癒やし、父なる神の光に包まれる領域へと至ることができるように。そこにおいてのみ、あなたがたは、霊的な義務も人間的な義務も、それらを立派に果たすためのインスピレーションを得ることができるのだ。

38. あなたがたが地上に生きなければならない限り、最善の方法で生きなさい。しかし、苦難の杯がその中身があなたがたの心に注がれるとき、もはやこの世に生きたくないと表明して、拒絶の意を示してはならない。この地は、魂が浄化され、より高き住処を得るための功德を積む「谷」である。もし、その住処に住むために、あなたの魂がどれほどの代償を払っているかを知っていたなら。

39. あなたがたは、後世の世代のために道を切り開き、あなたがたの業を引き継ぐためにやって来る者たちのための住まいを整える必要がある。しかし、もしあなたがたが自分に課せられた役割を果たさなければ、彼らはあなたがたが成し遂げなかったことを行わなければならない、そして彼らに命じられたことは、さらに他の人々に委ねざるを得なくなるだろう。そうして、果たしてあなたがたは父の御心にかなうことができると思うのか。

40. あなたがたがここにこの道を歩み始めたとき、先人たちの実りを口に受けた。それが、彼らがあなたがたに遺産として残した贈り物であった。まもなくあなたがたに代わってやって来る者たちのために、同じように準備されたものを残すべきではないと、あなたがたは思わないのか。

41. 目を覚ませ、民よ！あの世は、あなたがたの見守っている！これらの世界は、あなたがたの行いを知っている！もし彼らが、敵意と情熱の海に沈んでいくこの人類を見れば、心を痛み、あなたがたのために祈るだろう。

42. 安心しなさい、あなたがたは見捨てられてはいない。あなたがたの父を信じ、あなたがたを愛し、霊界から守ってくれている者たちを信頼しなさい。

43. 私があなたがたに教えを授けているこの期間に、あなたがたが真に私の業に身を捧げるならば――まことに、私はあなたがたに告げる。この期間は、あなたがたが、これから訪れる新たな時代へと確かな一歩を踏み出す準備を整えるのに十分な時間となるだろう。

。

44. 私の啓示のこの最後の三年間を、私は「第二の時代」に私の教えを説いたあの時代を象徴するものとして定めた。そうすれば、当時私に従った弟子たちの愛、意志の力、そして献身を、あなたがたはよりよく理解できるようになるだろう。彼らにとっては、神の師の弟子となり、真理の使徒となるのに、ほんの短い時間で十分だったのだから。

45. 当時、私に直接従うことになっていたのは十二人の選ばれた者たちであったが、私の別れが近づいた試練の時、その十二人のうちただ一人だけが倒れてしまった。

46. 今日、私は多くの弟子たちを私の食卓に着かせた。それは、彼らが絶えず私の声を聞き、一步一步私の教えに従うことによって、この啓示の時代の終わりを力強く迎えられようようにするためである——主を裏切ることなく、また自分自身をも裏切ることのないほどに、十分に強くなれるように。

47. 「目を覚まして祈りなさい」と、私はあなた方に言う。それは、その時が来た時に私が弟子たちに言ったのと同じ言葉である。目を覚ましていなさい。なぜなら、肉体は弱く、一瞬の弱さの中で魂を裏切ってしまうことがあるからだ。私は、あなた方が後で、人間として、あるいは霊的存在として、一瞬の混乱や弱さのために、苦い涙を流さなければならないような事態を望んでいない。

48. 不従順の結果がすぐに現れるとは考えないでほしい——いいえ、そうではない。しかし、私があなたがたに告げたいのは、遅かれ早かれ、あなたがたは自分の行いに対して責任を問われることになる、ということだ。たとえ、時が経っても私の正義が何の兆しも示さなかったため、あなたがたの過ちには何の結果も生じなかったかのように思えたことがあったとしても。しかし、あなたがたはすでにわたしの言葉によって、わたしが裁き主として容赦ないこと、そしてあなたがたの裁きの時が来れば、良心の光に目を向けることになることを知っている。

49. 誰もこの裁きを自ら招いてはならない。痛み、恐怖、良心の呵責、そして絶望というこの杯を、誰も望んではならない。なぜなら、あなたがたが師から「愛する弟子」、「最愛の人」、「私の王国の相続人」と呼ばれていたにもかかわらず、良心が絶え間なくあなたを「不従順な者」、「裏切り者」、「恩知らず」と絶えず呼び続けるならば、あなたがたの魂は、想像もできないほどの苦しみを味わうことになるだろう。

50. もしあなたがたが、いまだに過ちを犯したり、不従順であったり、自分を貶めたりする可能性があることを私が知っていなければ

ば、このようにあなたがたに語りかけることはなかつただろう。しかし、私はあなたがたの弱さを知っており、あなたがたを奮い立たせる必要があるのだ。それなのに、なぜあなたがたは、私の啓示の終わりに間もなく達しているにもかかわらず、私の指示の一つひとつをどのように解釈すべきかについて、まだ完全な理解を得られていないのか？それは、あなたがたが私の言葉に慣れすぎてしまい、それを永遠に取るに足らないものと見なし、その一方で、自分自身を永遠に重要な存在だと見なししているからだ。

51. 私はあなたがたのためを思って語っている。なぜなら、私の人間の過ちは、私の霊や私の業に何ら害を及ぼすことはできないからだ。しかし、あなたがたは自らの過ちによって、多くの災いを招くことは十分にあり得る。私は、あなたがたがその災いを免れることを望んでいる。

52. あなたがたは、第二の時代に、ある弟子が示した一瞬の弱さが、その師だけでなく、兄弟たちやわたしを愛するすべての人々にどれほどの苦痛をもたらしたかを知っている。その瞬間から、わたしに従う者たちにとって、すべてが変わってしまったのだ。師は弟子たちの腕から引き離され、その唇から何度も語られた愛の言葉は途絶えた。彼らがこの世における神の臨在を感じさせてくれたあの祝福された御体は、姿を消した。彼らは、痛みと見捨てられたという影が自分たちの人生を包み込んでいるのを感じた。しかし、その犠牲的な死を嘆いたのは彼らだけではなく、あらゆる時代の人類がそれを悼んだのである。

53. さて、私はあなたがたに問う。あの裏切り者の弟子の過ちが、私の業の完成を妨げたと思うか。その過ちが、私が予定していたことを変えたと思うか。――決してそうではない。私の業、私の真理、そして私の使命は、最高の完全さをもって成就した。それは、あの弟子たちが彼らの主の目の前に提示することになる、予定されていたあらゆる人生の状況が、必然的に起こるべきであったのと同様に。なぜなら、神の御心は決して人間の行いに従属することはないからだ。神の御心は、人間の罪にかかわらず成就し、これからも常にそうである。

54. 私が、皆を、刻一刻と近づきつつある試練の日に備えさせていることを悟りなさい。しかし、私はあなたがたに告げる。私の最後の言葉を伝え、それによって、私が長年にわたり、多くの伝達者を通じてあなたがたに啓示してきた真理を確固たるものにするためには、ただ一人の誠実で準備の整った伝達者さえいれば、私には十分である。

55. イスラエルよ、命の木の下に身を寄せる者たちの群れがいかに小さいかを知れ。ある者は私の神聖な教えを理解せず、またある者はその道の途中で誘惑に襲われた。しかし、私は父としてあなたたちに良き助言を与え、師としてあなたたちを教え導く。

56. この教えを心に刻み込みなさい。そうして、あなたがたは私の足跡をたどり、盲人に光を与え、耳の聞こえない者に私の愛の呼び声を聞かせ、足の不自由な者が歩み出して私に従うようにし、人類が真昼の光を見るようにするためである。

57. わたしは今、人々をあらゆる罪から解放するために準備を進めている。わたしの光は彼らの心を照らし、互いに愛を実践できるようにするのだ。

58. エリヤがあなた方を羊の囲いへと導いて以来、あなた方は靈化と魂の高みへと至る準備が整っていた。あなた方は私のところに来て、「主よ、あなたの御心を私に成し遂げてください」と言った。

私はあなたがたに新しい衣を与え、あなたがたが私に捧げたぼろ服を取り除き、清らかな衣であなたがたの魂を飾った。私はあなたがたの魂に、私の選民であるイスラエルのしるしを刻み込み、こう告げた。「これこそがあなたがたが属する列である。私の使命に対して服従と従順を示すためだ。」そして、あなたがたは私にこう言った。「父よ、あなたの御心を私に成し遂げてください。」

59. そう、わが子らよ、わたしはあなたがたを啓発した。それは、あなたがたが無知でなくなるためであり、力強い者としてわたしの教えを実践するためであり、心の中にわたしを宿し、悪から身を遠ざけるためであり、物質主義に溺れて盲目的に歩む人々の痛みを感じ取るためである。私は、あなたがたが彼らを癒やし、新たな命を与え、私のもとへと導くことができるよう、靈的な香油を与えたのである。

60. 私はこの時代に、「死者」に命を与え、人類を救い、その深淵から引き上げ、最初のページから現在のページに至るまで、私が時代を超えて与えてきた教えを説くために来た。ここに、私の愛、私の無限の知恵がある。わたしを理解したい者は、わたしの中に生きなさい。わたしを愛したい者は、わたしのそばにいて、靈性化の道を歩まなければならない。そうすれば、もはや苦痛に襲われることもなく、孤独を感じることもなくなるだろう。

61. これこそが、イスラエルよ、あなたの使命である。準備をせよ。あなたがたは私の弟子となり、全神経を集中して師の言葉を聴かなければならない。なぜなら、明日には、あなたがた一人ひとり

が、人々が学び、私の言葉を深く探求する「開かれた書物」とならなければならないからだ。

62. あなたがたの使命の遂行は、集会室の四つの壁の中だけに限られるものではない。いや、イスラエルよ、わたしの鋭い視線はあなたがたのあらゆる行いに注がれている。もしあなたがたが、たとえ短期間であっても道から外れたいと望むなら、あなたがたには自由意志があるゆえ、わたしはそれを許そう。しかし、言うておく。あなたがたが不従順である限り、一步一步、苦痛に直面することになるだろう。だが、もし悔い改めるならば、わたしはこう告げるだろう。「わたしのもとに戻りなさい。わたしはあなたがたを待ち、慰めを与えるためにいるのだから。」

63. 父のもとに來たいと願う者は皆、その高慢や虚栄、そして私の鋭い視線が見抜くあらゆる欠点から自らを解き放たなければならない。

64. わたしは、謙虚な者、無知な者を用いることを喜んだ。わたしの愛がその者の心を動かした。わたしは彼にわたしの律法を託し、わたしの臨在を感じさせ、こう告げた。「行って、あなたの同胞たちに呼びかけ、彼らをわたしのもとへ導きなさい。なぜなら、わたしは彼らの靈的成長に必要なすべてのものを与えるからである。」

それゆえ、私はあなたがたに、あなたがたの使命は偉大であり、困難であると告げたのである。あなたがたは多くのことを理解し、靈的な道のりで多くの努力をしなければならない。しかし、あなたがたは貧しい者ではない。あなたがたは豊かな者である。なぜなら、あなたがたには私がいるからであり、私の声を聞き、私を感じ取ったからであり、私があなたがたを励まし、「心配するな。私の慈悲は常にあなたがたと共にある」と告げたからである。

私は、それぞれの「働き手」に一区画の土地を授け、それを耕し、良き実を收穫するようにと命じました。しかし、もしその実が苦いものであれば、私はそれを受け入れません。その働き手は、良い味を持ち、私の元へ届くにふさわしい実を收穫できるまで、再びその土地を耕さなければならないでしょう。

65. わたしの業は汚れることなく、わたしの真理は常に変わることの無いものである。

66. この民の汚点と冒瀆は、わたしの正義によって一掃され、あなたがたは、わたしの御心が常に成し遂げられるのを目撃することになるだろう。

67. あなたがたは今、私があなたがたに何を求めているか、また私の御心に従って何をしてはならないかを知っている。良心に従って生きなさい。そうすれば、良心は常に、あなたがたが何をすべきかを教えてくれるだろう。

68. もう一度言うておく。あなたがたは目を覚まし、祈り続けなければならない。そうすれば、この時代に、決定的な時に誘惑に陥る者が一人もいなくなるだろう。しかし、もし誰かが、私が命じたことを裏切り、事態を別の方向へと導こうとして、私の意志に逆らうようなことがあれば――まことに、私はあなたがたに告げる。私の業は神聖なものであるゆえ、それによって害を受けることはない。しかし、決定的な瞬間に高慢にも私の意志を無視した者たちは、その本質において、自らの頑固さの結果を身をもって感じるだろう。

私の平安があなたがたと共にありますように！

教え 299

1. 弟子たちよ：師はあなたがたと共にあり、その子供たち一人ひとりに口づけを与えている。

2. 「御言葉」が人間となり、あなたがたの中に住まわれるようになった、あの祝福された夜を、あなたがたがこれらの日々に記念しているその霊的な歓喜が、私にも届いている。

3. もしあなたがたが兄弟愛をもってより緊密に団結し、私があなたがたに託した子供たちに慈愛を注ぐならば、あなたがたは、あなたがたの父が送ってくださった完全な愛を感じるようになるでしょう。私は自分の宝庫を開き、そこから人類にとって光と平和となるべきものを取り出しました。

4. 私は、すべての人が私の存在を感じてくれることを願っている。もし人々が、せめてこの記念の日々において、自らの心を敏感にし、霊的なものへと高めることを理解できれば、彼らはあらゆる場所、あらゆる被造物の道筋、家族の中、そして苦しみが宿る場所で、私を見出すことができるだろう。しかし、私はまだ待たなければならない。すべての人が心の中で私を感じ取れるわけではないからだ。それでもなお、私は子供たち一人ひとりの歩む道に、愛の贈り物を残しています。

5. 私は、無限の様々な形で人々に御自身を現すことができます。たとえ人間の声を通じて私の言葉を聞かせたとしても、他の人々には彼らの精神の中で語りかけているのです。

6. メシアが幼子としてこの地での生涯を始めたあの夜明けを人々が記念するこの日、私は全人類が私の霊的な臨在を感じ取ってくれることを願っている。子供たちには私を喜びとして受け止めてほしい。若者たちには、あなた方を救うために愛をもって人間とられた方を思い起こすために、ひととき立ち止まってほしい。そして、これらの出来事を思い返し、幼少期の幸せな日々を思い出して涙を流す大人たちには、心の中で私の平安を感じてほしい。

7. あなた方が、自分を揺りかごで揺らしてくれた母の懷や、両親の愛と慈しみ、幸せではあったが短い幼少期、そしてその後、この世で次第に失っていったもの――両親、幼少期、喜び、無垢さ――を思い返すとき、喜びと悲しみが交互に訪れるでしょう。

8. 多くの人の心が、わたしを愛し、この世の愛する者たちを愛するには冷たくなりすぎてしまったことを、あなたがたは思い起こさなければならぬでしょう。

9. 愛する民よ、この瞬間に祈りなさい。そして、あなた方を忘れてしまった者たちがあなた方を思い出し、「霊的な谷」へと飛び去った者たちがあなた方の心に近づき、この愛の日にはすべての者が一つに結ばれるように導きなさい。

10. 地上において、神の「御言葉」が人となったという奇跡が起こった日を、喜びをもって記念するのは人間だけではありません。霊界もまた、主の神聖な御業を仰ぎ見ながら、この喜びを分かち合っています。

11. あなたがたこそ、この時代に、この惑星において、私の到来、私の臨在、そして私の御言葉の最も明確な現れを経験した者たちである。声の媒体を通じて人間化された私の声は、あなたがたの魂に光を灯し、謎を解き明かし、霊界に関する新たな知見を明らかにし、それを聞いた者たちの間に奇跡的な御業を成し遂げました。それゆえ、あなたがたは「第三の時代の弟子たち」と呼ばれ、父は常にあなたがたから最も霊的な崇敬を期待しておられるのです。

12. 皆さんは今、私の教えの真意を徐々に理解しつつあります。ですから、この世での私の歩みを思い起こそうとする際、儀式も、式典も、世俗的な祝祭も一切必要としないのです。あなたがたは、その喜びを内なるものとして受け止め、それを表現するときも、私の言葉を聞き、その教えを実践することに魂と心を注ぐことによって行うのである。

13. ああ、祝福され、愛される民よ。この聖なる記憶をあなたの心に留めなさい。それらがあなたの人生の道であり、光となるように。もし、あなたがたが、こうした記念の儀式において、人々が神に対する敬意の限界を超え、冒涇に陥っているのを見ても、私が彼らを赦すように、彼らを赦しなさい。私もまた、彼らに私の光を届けるであろう。

予言されている通り、霊的な大動揺が人類を揺さぶり、その時、人々は目覚めて私のもとへ立ち返るだろう。そのための道は整えられており、並外れた試練や出来事が世界を震撼させ、人々を再生へと招く裁きの呼び声となるだろう。

14. すでに今日、わたしはあなたがたに、諸民族からわたしへと昇り届く祈りと一つになれるような心構えをもって祈ることを教えている。試練の瞬間に、あなたがたが落胆したり、直感に乏しいと感じたりすることがないように、わたしはあなたがたに魂の強さを与える。

15. わたしは、あなたがたが魂の中に真の光を宿して語り、人生の道のりにおける試練や深刻な危機に直面した際、どのように振る舞うべきかを知ることができるように、わたしの言葉を授ける。

16. わたしはあなたがたを祝福し、さらにこう告げる。すなわち、「御言葉」の受肉、すなわちキリストの誕生を思い起こすところにはどこでも、天の母の慈愛に満ちたマントが臨在するであろう。彼女は、神が人となられる際にその胎内を通られるよう、女性となったのである。

17. 彼女は主を深く理解していたからこそ、主をこの世に生み出すために、人間の母とならなければならなかったのです。

18. 彼女は単に「独り子」を愛するために来たものではありません。彼女の神聖な愛は、慰めの普遍的なマントであり、いつの時代にも彼女の臨在は慈愛と執り成しそのものです。彼女に心を向けてください。そうすれば、彼女の中に、あなた方をわたしへと導く天への梯子を見出すでしょう。

19. わたしの御霊は家々に入り、泣く者たちを慰め、すべての心を平安で満たす。

20. 今朝、私があなたがたに伝える霊的なメッセージは、私の啓示の最後の年に備えるためのものです。

21. 私はあなたがたに私の平安をもたらす。それは、あなたがたが後に、それを地上のすべての民に届けるためである。なぜなら、平安こそが、あなたがたが目指すべき最高の目標だからである。

22. 魂の平安とは、そこからあなたがたが私の知恵の光を受け取り、平安の欠如ゆえに混乱した心では理解できないあらゆることを理解できる状態である。

23. 人は、魂に平安を、心に安らぎを必要としている。しかし、この富は暴力によって得られるものではなく、いかなる代価を払っても買うことのできないものである。それは、善に堅く立ち続けることによって得られる恵みなのだ。

24. 愛する民よ、私はあなたに平和の種を託す。あなたがそれを地上に広めるためである。しかし、まことに、あなたがただけがこの種を広めるわけではないと、私は告げる。なぜなら、この国においても、また他の国々においても、他の共同体の中に、平和を祈り、隣人の幸福を願い、その目標を達成するために懸命に働く人々が存在するからだ。

25. この第三の時代において、わたしの言葉の靈感、すなわち霊的な啓示に熱心に耳を傾けるすべての人々に祝福あれ。なぜなら、それらは人々の発達段階に応じた理解力を養うものであり、彼らは

わたしの考えを捉え、言葉と行いを通じて周囲の人々にそれを伝えることを知るようになるからである。

26. 人間は、不滅の霊の力をその内に宿しており、解放への願い、より高い次元へと発展したいという渴望によって、自らの退廃から立ち直ることができるだろう。

27. 今こそ、人間が自らの知性の能力と力を認識する時である。人間はただ、主がその教えの書の中で命じている業を成し遂げるために、自らの魂がこの力を大いに活用することを許すだけでよい。

28. 愛する弟子たちよ、今やあなたがたは知っている通り、人間は——魂が闘い、妨げられることなく自己を表現できるようにするために——重荷を振り払い、心から伝統を根絶し、宗教的狂信から自らを解放しなければならない。それは、地球上のあらゆる場所で立ち上がった者たちが皆、そうしてきたように。

29. 私は、すべての人の道に、互いに出会い、理想と闘い、そして信仰において兄弟姉妹であることを認識し合うべき交差点を用意しておいた。

30. まことに、あなたがたに告げる。世界のあらゆる場所に、スピリチュアリストたちが散在している——彼らは成熟した人々であり、人類の平和をもたらす者たちである。しかし、私はあなたがたに告げる。全世界のスピリチュアリストたちの結束は、新しい教会の組織化によってもたらされるものではない。なぜなら、彼らの力は物質的なものではないからだ。彼らの統一は、思想的、理念的、そして活動において成り立つものであり、そのようにして彼らの力は無敵となる。なぜなら、彼らは私の霊の中にある永遠の源からその力を得ているからである。

31. わたしは彼ら全員にわたしの真理を啓示し、また彼らを訪ねて、彼らの心と知性からあらゆる不純物が消え去るようにする。なぜなら、それらはわたしの光と混ざり合ってはならないからである。

32. あなた方全員には、霊的な教えが、人間の哲学によって汚されることなく、あなた方の霊的な能力によって説明され、明確に認識されるようにする義務がある。

33. かつて、人々は私の啓示や教えに、自らの世界観や哲学、理論を混ぜ合わせてきたが、それによって達成されたのは、人類を分裂させ、混乱させることだけであつた。

34. 私は、その道を見出した者たちが、それをわかりやすく教え、周囲の人々が歩みやすいようにしてほしい。多くの者がそうして

きたように、その道を障害物で埋め尽くして、わたしを求める者たちがわたしのところに来ることを妨げてはならない。

35. 儀礼を固守する者たち――すなわち、神を形や物体、肖像として擬人化することを固執する者たち――に、私はこう告げる。もし彼らが霊化の道を歩まなければ、自覚することなく、同胞を軽視することで諸民族間の戦争を助長する者たちの仲間入りをすることになるのだ。

36. 私は真実を告げる。あなたがたが信じる神は、より純粋であり、その神聖な愛をもって、あなたがたすべてを等しく愛しておられるのだ。

37. もし私が真実を語ったことで、あなたがたが侮辱されたと感じるなら、これを語ったのは単なる人間ではなく、あなたがたを愛し、あなたがたを救うために過ちを指摘する師であることを心に留めておきなさい。

38. 権力への欲望、狂信、そして頑なさは、一度解き放たれてしまえば、もはや止めることのできない洪水のようなものであることに、まだ気づいていないのか。

39. 真実に基づく信仰の信念については、私は誰のそれに対しても異議を唱えることはない。しかし、誤りがあるところでは、私はそれを正す。

40. 今こそ、皆が同じ目標に向かって進み、魂の生活を和解させ、調和させなさい。誰も、自分が兄弟よりも優れた道を歩んでいるなどと思ってはならないし、他者よりも高い段階にいるなどと考えてはならない。言うておくが、死の瞬間、あなたがたの進化の段階に関する真実を告げるのは、私の声である。

41. そこ、良心の前で訪れるその短い悟りの瞬間に、多くの者が報いを受ける。しかし、多くの者は自らの偉大さが消え去るのを見る。

42. 救われたいのか。それなら、兄弟愛の道をたどって、わたしのところに来なさい。それこそが唯一の道であり、他に道はない。それは、わたしの至高の戒めに記されている、「互いに愛し合いなさい」という言葉そのものである。

43. 人類よ。イエスの誕生を記念するこの数日間、あなたがたは心に平安を受け入れ、団結し、幸福な家族のように振る舞っている。私は知っている。あの時代に私がこの世に生を受けたことを記念する際、すべての心が心からの喜びを感じているわけではないことを。内省と静寂の時間を持ち、その喜びを内なるものとし、記念の祝祭が精神の中で行われることを許す者は、ごくわずかである。

44. 今日においても、かつてと同様に、人々は記念日を世俗的で空虚な祝祭に変えてしまい、精神の喜びとはかけ離れた、感覚的な快楽を追い求めている。

45. もし人々がこの日を、神の愛について思いを巡らすことで、その愛を御霊に捧げるために用いたなら——私があなたがたと共に生きるために人間となったという事実こそが、その揺るぎない証拠である——まことに、私はあなたがたに告げる。あなたがたの信仰は、あなたがたの存在の最も高きところで輝き、私へと続く道を照らす星となるだろう。あなたがたの魂は、の慈愛にこれほど深く満たされるため、人生の道において、困窮している人々に善行と慰め、そして温もりを惜しみなく注ぐことになるでしょう。あなたがたは兄弟姉妹以上の絆を感じ、自分を傷つけた人々をも心から許すようになるでしょう。親もなく、住む家もなく、愛もない、社会から疎外された子供たちを見る時、あなたがたは慈愛に満ち溢れる気持ちになるでしょう。戦争によって、人間生活のあらゆる善、高潔さ、そして神聖さが破壊されてしまった、平和のない人々のことを思い浮かべるでしょう。そうすれば、あなた方の祈りは純粋なまま私のもとへ届き、こう告げるでしょう。「主よ、これほど多くの兄弟姉妹が恐ろしい苦しみにあえいでいる限り、私たちに平和を求める権利などあるのでしょうか？」

46. それに対する私の答えはこうだ。あなたがたは隣人の痛みを感じ、祈り、思いやりを示したのだから、ご自宅に集まり、食卓を囲み、その祝福されたひとときを喜びなさい。なぜなら、私はそこに臨在するからである。その瞬間に苦しんでいる人々が大量にいることを知っていながらも、喜んでいても構わない。まことに、あなたがたに告げる。もしあなたがたの喜びが誠実なものであれば、そこから平和と希望の息吹が溢れ出し、苦しむ人々を、まるで愛のうねりのように包み込むだろう。

47. 誰も、私が、あなたがたが一年の中でイエスの誕生を記念して祝う、最も清らかな祝祭を、あなたがたの心から消し去ろうとしているなどと思ってはならない。私はただ、世には世にふさわしいものを、魂には魂にふさわしいものを与えるよう、あなたがたに教えたいのです。なぜなら、あなたがたが人間の出来事を祝うためにこれほど多くの祝祭を行うのなら——なぜこの祝祭を魂に委ねないのですか。そうすれば、魂は幼子となって私のもとへやって来て、愛の贈り物を捧げ、羊飼いたちの素朴さを得て私を礼拝し、また、賢者たちの謙虚さをもって頭を垂れ、真の知恵の主の前にその知識を捧げることができるようにするためではないのか？

48. 私は、この数日間、人々の生活を包んでいる喜びを損なうつもりはない。それは単なる伝統の力というだけでなく、私の慈悲があなた方に触れ、私の光があなた方を照らし、私の愛があなた方をマントのように包み込んでいるからなのです。そうして、あなた方は希望と喜びと優しさに満ちた心を感じ、何かを贈り、体験し、愛したいという欲求に満たされるのです。ただ、あなたがたは、そうした感情やインスピレーションを、その真の寛大さと純粋さのままに表現することを常に許していないのです。なぜなら、あなたがたは、その喜びを世の快楽に浪費し、救い主がこの世に生まれてきた理由である魂が、その瞬間を生き抜き、その光の中に入り、清められ、救われることを許していないからです。なぜなら、人となったその神聖な愛は、すべての人の人生の道に永遠に存在し、人がその愛の中で命を見出せるようにしているからです。

49. この平和の夜、私の霊の平安は、慈愛の外套のようにすべての人々に広がり、また、マリアの魂から発せられる最も愛に満ちた口づけも、同様に彼女の子供たち一人ひとりに届いている。

50. 弟子たちよ、よく見よ。そうすれば、あなたがたの道のりにおいて、日々、あなたがたの神からの愛の贈り物に気づくであろう。

51. あなたがたが祝福された夜を記念するこの恵みの日、すなわち、メシアがあなたがたと共に住むために人となられたこの日——まことに、わたしはあなたがたに告げる。わたしがここに現れて自らを明らかにするのはここだけにとどまらず、あらゆる人々に様々な形で感じられるようにしているのだ。

52. 子供たちにはある方法で、若者たちには別の方法で、そして大人たちにはまた別の方法で近づいている。私はあらゆる宗教共同体の扉を叩き、それぞれの共同体が持つ光に応じて、そこに私の存在を明らかにしている。しかし、誰一人として、私が訪れないままにすることはない。

53. これは、あなたがたが師に対して抱くあらゆる思いの中で、最も愛に満ちた追憶である。子供たちの心は喜びで満ち溢れ、年長者たちの心は、救い主への平安と希望で満たされる。

54. この御言葉を聞く恵みにあずかるあなたがたは、儀式を伴わずに、心の最も清らかな部分でこの祭りを祝う、数少ない人々の一人である。そうすることで、あなたがたは決して神聖さを損なうことにはならない。なぜなら、あなたがたの知性は、主の御前に最も喜ばれる最高の記念とは、師の模範を自らの生活に当てはめ、その教えを実践することにあると悟っているからである。

55. すべての同胞のことを思い、あなたの魂を全世界へと広げなさい。しかし、愛と慈悲をもって、彼らに平安をもたらしたいという願いをもって彼らを思いなさい。まことに、あなたがたに告げる。あなたがたの祈り、思い、願いは決して実を結ばないことはないだろう。

56. わたしは、この人類の霊的覚醒が訪れる時のために、あなたがたのために道を整えている。試練、出来事、そして呼びかけが人々の道のりで起こり、それらが「新しい時代」の到来を彼らに告げるだろう。

57. 私はすでに、宗教間や民族間の世界観をめぐる争いが勃発するのを見ても、あなたがたが落胆しないよう警告してきた。また、人間同士の調和と平和が訪れるためには、この争いが不可欠であると私が語ったことを思い出してほしい。

58. そして、その争いが激化すれば、人々が自発的に真理を求め、脅迫も非難も恐れない姿を見ることになるだろう。その時、支配者や統治者によって抑圧されてきた民族の中から、預言者たちが現れるだろう。この時代、私の教えは、私の新しい弟子たちの働きによって地球上に広められ、その全き輝きを放つことになる。

59. 今日、わたしの言葉はあなたがたを励ますと同時に、あなたがたの魂の試練は、あなたがたに強さを与え、打撃や侮辱、裏切りを恐れないようにする。

60. あなたがたの多くは、家族の懷で敵意や不信仰、嘲笑に直面したため、深い苦しみを抱えながらわたしに従っている。あなたがたの家族は、神があなたがたに与えた賜物や、神があなたがたを遣わして果たすべき使命を疑ってきたのだ。

61. ある者は自宅から追い出され、またある者は他国へ移住することを余儀なくされた。

62. あなたがただけが、身内から信じてもらえなかったわけではないと、私は言うておく。ヤコブの息子ヨセフの事例を思い出してほしい。彼は、自分の兄弟たちによって商人たちに売られてしまった。兄弟たちは、ヨセフが偉大な預言者であることを悟り、彼を妬んだからである。しかし、主の憐れみは、その若者を御衣で覆われた。彼は奴隷としてエジプトに連れて行かれた後、先祖の律法に対する信仰と不屈の精神、そして神の恵みと知恵に支えられ、ファラオの側近として、その民の顧問、大臣、そして預言者となったのである。

63. ヨセフの魂は徳に忠実であり、彼がその国を歩んだ道筋には、祝福、豊かさ、繁栄、そして平和の痕跡が残された。

64. ヨセフは、深く愛していた父ヤコブを忘れてはいなかったし、兄弟たちも忘れてはいなかった。彼らはヨセフを売り渡し、幼い頃の愛情を裏切ること、彼の心に屈辱の棘を突き刺したにもかかわらずである。しかし、ついに神の正義が下る時が訪れた。ヤコブとその息子たちが住んでいたカナンのは、干ばつに見舞われていた。その一帯は貧困と飢餓に覆われていたが、一方、エジプトでは穀物倉庫が小麦で溢れかえっていた。

65. 彼らが忘れ去り、死んだものと思っていたヨセフの兄弟たちは、小麦を求めてエジプトへと旅立ったが、誰の前に現れなければならないのか、そのことなど全く想像もしていなかった。

正義の時が訪れた――しかし、それは罰し、屈辱を与えるためではなく、赦すためであった。誤解し、傷つけた者たちにとって、これ以上の正義があっただろうか。

寛大なヨセフが兄弟たちに正体を明かすと、彼らに祝福と赦しを惜しみなく注ぎました。一方、兄弟たちはひざまずき、悔い改め、心を痛めながら、ヨセフがまだ子供だった頃の預言を思い出し、それが成就したのを見て驚嘆しました。

66. 子供たちよ、理解できたか？ それなら、苦難の日々においても揺るがず、失望や孤独に耐え抜いてほしい。なぜなら、やがて正義の時が訪れ、あなたたちを裏切り、嘲笑した者たちこそが、悔い改めた姿であなたの前に現れるのを見る日が来るからだ。

67. あなたがたは、自分を侮辱した者たちを受け入れ、彼らを赦すというヨセフの気高さを持ち得るだろうか。ヨセフが立ち、ひざまずいて悔い改め、涙を流す兄弟たちを見つめていたあの光景を想像してみなさい。この光景は、私の慈愛に満ちた正義の写しである。ヨセフはその徳ゆえに立っていたが、兄弟たちは悔恨に打ちひしがれてひざまずいていたのだ。

68. わたしは、イスラエルの子であるヨセフのその種が、あなたがたの中にあり、芽吹くことを望む。

69. あなたがたの師であるイエスもまた、この地上での生活を始めたばかりの頃、エジプトへ避難せざるを得なかった。これは、民がその到来を悟ることができなかったためであり、そして、その子が主によってその民に約束されたメシアの王であるというしるしがあったにもかかわらず、人々は彼が王の衣をまとっていないことを理由にそれを疑い、不信仰な眼差しを、みすばらしい飼料葉桶から農家の馬小屋へと移した。彼らの考えでは、そこは王にふさわしい寝床や眠る場所ではなかったからである。

70. 私が訪れた民は、私を守るための宿を提供することができなかったため、私はエジプトのような民の懷に身を寄せざるを得なかった。しかし、私の心が耐えなければならなかった苦しみは、それだけにとどまらなかった。

71. 私がエジプトから戻り、ナザレで暮らしていたとき、絶えず嘲笑され、不信仰や嫉妬に満ちた言葉によって傷つけられた。

72. 私はそこで奇跡を行い、隣人愛と私の力を示したが——見過ごされてしまった。私の生涯と行いを間近で知っていた者たちのうち、私を信じた者は一人もいなかった。それゆえ、宣教の 때가訪れたとき、私はナザレを去る際、こう言わざるを得なかった。「まことに、あなたがたに告げる。預言者は、自分の故郷では信じられないものである。その言葉が聞き入れられるためには、故郷を離れなければならない。」

73. これでもなお、私が苦難の杯から飲み干した最後の苦しみではなかった。さらに大きな苦しみが残っていた——それは、私の仲間の一人、かつて私の食卓を共にし、かつては私の兄弟のようであった者が、三十枚の銀貨と引き換えに、私を私の大義の敵たちに売り渡したとき、私に与えた苦しみであった。

74. 私もまた、ヨセフが兄弟たちにとってそうであったように、死んだものと見なされた。しかし、あの男が自分を忘れていた者たちの驚愕の眼差しの中に現れたのと同じように、私もまた——ただし霊的存在として——驚嘆する弟子たちの目の前に現れ、自分が死んでいないことを彼らに証明した。

75. 私は今、この私の王国にいて、私を忘れてしまった者たち——私を裏切り、嘲笑した者たち全員——の到来を待っている。

76. 私はここにいて、すべての人々を迎え入れ、限りない愛をもって抱きしめるのを待っている。

77. 私は、最後の朝の祈りの一つの中で、あなた方に語りかけている。私の啓示の最後の年が、すでに近づいている。あと数日、ほんの数時間すれば、私が予告し、私の民が恐れていたその年が、あなた方の間で始まるだろう。

78. あなたがたは皆、私があなたがたに注ぎ出すために用意したすべてのものを、心の中に受け入れるために必要な準備ができていだろうか。

79. わたしはあなたがたにわたしの御言葉を差し出し、わたしの御業を目の前にお示しする。それは、祝宴の輝かしい食卓のようになるだろう。

80. 私はその食卓の中央に坐し、そこには御霊の最上の実りと最も美味なる料理が並べられる。家の扉は開かれ、誰もこの祝宴から遠ざかることがないようにする。

81. この食卓から、諸国民への新たなメッセージ、すなわち人々を目覚めさせる福音が発せられる——それは、人類の中に、霊の不滅の種を明らかにする光である。

82. そこには、アベルの純真さ、ノアの信仰、アブラハムの従順、ヤコブの強さ、ダビデの靈感、ソロモンの知恵、わたしの預言者たちの真実さ、わたしの使徒たちの高揚、そしてヨハネの霊性が高らかに輝き出すであろう。

83. 人々は、彼らのような衣を身にまとう必要もなく、外見上も他の人々と異なる必要はない。私の名「」を口にする必要さえもない。なぜなら、私は光、真理、知識、愛、そして正義の種を、あなたがたの人生のあらゆる道に蒔くからである。

84. 私はこの教えを、霊的な贈り物としてあなたがたに与える。あなたがたの師が、私が人間として生まれたことを記念してあなたがたが祝ったこの記念の機会に与えた、最後の教えの一つとして、これを心の中に留めておきなさい。

私の平安があなた方とともにありますように！

教え 300

1. あなたがたは、心の静寂の中で私の臨在を感じ、私の言葉が降りてきて、靈的な知識の光によってあなたがたを照らすとき、喜びに満たされる。

2. 愛する弟子たちよ、人生の道程で多く涙を流してきたあなたがたは、今、魂を癒やされなさい。

3. 見よ、わたしはここにあなたがたと共にあり、あなたがたの魂の永遠の平安のために戦う力を与えている。しかし、まことに、あなたがたに告げる。人類がわたしを知る前から、わたしはすでに無限の彼方からあなたがたを照らし、あなたがたの心に語りかけていたのだ。なぜなら、わたしは父と一つであるゆえに、常に父の中にあつたからである。世界がイエスにおいてわたしを受け入れ、神の御言葉を聞くに至るまで、人類の上に幾つもの時代が過ぎ去らなければなりません。とはいえ、当時わたしの教えを聞いた者たちのすべてが、キリストの中に神の臨在を感じるために必要な靈的な成熟を備えていたわけではない、と申し上げなければなりません。それゆえ、わたしは召された者たちの中から、真理の忠実な証しをなすべき者たちを選ばなければなりません。当時、残りの人々にとって、私の教えを実践することは困難でした。なぜなら、彼らの心には偶像崇拜と異教が支配していたからです。しかし、愛の言葉は、主の十字架を抱きしめることになる世代を待ち望んで、消えることのない文字で良心に刻み込まれていたのです。

4. その後、私の愛の足跡をたどって旅立ったのは、十二人の弟子やごく少数の群衆だけではなく、その慣習、生活、神への崇拜を改めた諸民族や諸国家であつた。

私がこれを語る理由は、今日、あなたがたが新しい時代の夜明けを経験している今、あなたがたの魂が新しいメッセージの光にたどり着いたからである。

この啓示の本質と真意を理解できるのは、それを見て聞いた者すべてではない。ある者たちはこの光を受け入れるだけの精神的な成熟度を備えている一方で、他の者たちは——たとえ望んだとしても——多くの教えを理解できず、それらが謎に包まれているように見えるだろう。しかし、時は流れ、新しい世代が地上にやってくるだろう。そして、私が啓示を行った当時、ごく少数の人々しか受け入れることができなかったその光は、やがて大勢の人々、そして多くの民族や国家の知性の中で輝きを放つことになるだろう。

5. この時代に私を魂の中に受け入れた者たちは、私の弟子としてこの地に残り、この神聖な遺産の責任を担うことになる。この遺産は、世代から世代へと忠実に受け継がれ、スピリチュアリズムが平和と知恵の教えとして花開く者たちが現れるまで続くのである。

6. この時代における私の弟子とは誰か。この言葉を愛し、それを実践するすべての人々である。

7. 私は多くの人々を私の食卓に招き、命のパン、すなわち至高の糧を味わわせた。私は彼らを選ばれた者たちとしたい。なぜなら、種を待ち受ける畑は極めて広大だからである。

8. 民よ：私は何度も、あなたがたに「目を覚ましていなさい」、学び、備えなさい、と告げてきた。あなたがたはいつまでも無知のままであってはならないからだ。やがて、あなたがたの同胞たちが、集会の場の静寂と謙虚さの中で主の御声を聞いたこの民の存在に気づく日が近づいている。そして彼らは、何が起きたのか、私のメッセージとは何だったのか、また私があなたがたに私の真理の証拠として何を示したのかを知りたがるだろう。

9. あらゆる種類の男女が、あなたがたの証しを渴望して、あなたがたの心の扉を叩くことになるでしょう。この民がここにおいて、伝道者たちの知性を通じて私の教えを聞くという幸運に恵まれたのに対し、あなた方の周囲の人々はそうではなかったのだから、私の啓示がどのようなものであったかを彼らが明確に理解できるよう、その証言が明瞭でなければならないというのは、当然のことではないでしょうか。

10. もしあなたがたが、自分の時間の一部を私の言葉について熟考することに費やしたなら、私が降りてきて教えを説明する必要などなかっただろう。なぜなら、そうすれば、あなたがたの瞑想、思索、そして内省によって、責任の重さが理解できたはずだからである。

11. 私がこの姿であなた方に語りかけることができる時間は、もはやごくわずかである。そして、あなた方は理解が非常に遅かったため、私は教えを極限まで広げることで、あなた方を助けなければならなかったのだ。

12. あなたがたがわたしについて証しをするということは、単に周囲の人々にわたしの言葉を繰り返すことだけに限られるのではないことを理解しなさい——いや、それは容易なことであり、大した準備を必要としない。その言葉を記憶や書物に留めておき、前述の通り繰り返すだけで十分だからだ。しかし、あなたがたが、私の言葉の本質を実感させるような愛の行いによって、真の証しをなさな

ければならないことを考えれば、それは同時に、その言葉を徹底的かつ簡潔に説明し、人間的な枠を超えた行いによってそれを証明することになるのだ。そうすれば、あなたがたは、「第三の時代のわたしの言葉の証人」と正当に名乗るためには、な真の靈化を達成しなければならぬことを理解せざるを得なくなるでしょう。

13. あなたがたが、私が教えた行いを彼らの前で成し遂げれば、真実を最も強く疑う者たちでさえ、どれほど穏やかにその真実を受け入れることか！

14. もしあなたがたが真に隣人への愛を感じ、彼らにあなたがたの慈悲を分かち与えたいと願うならば、この教えを深く熟考し、あなたがたに可能な限り最大の誠実さをもって、その戦いに備えなさい。そうすれば、あなたがたは正当に「第三の時代の神の証人」と呼ばれるようになるでしょう。

15. 民よ、あなたがた一人ひとりが自らの使命を引き受け、隣人への真の愛をもってそれを果たすべき時が近づいている。

16. 私が別れの準備をしている間、あなたがたは、この世における霊的な働きの準備をしなければならない。

17. あなたがたは、私の教えを記憶に留めることができなかったことに良心の呵責を感じ、この真理を裏付ける論拠なしに人々に立ち向かわなければならないのではないかと恐れているのが、私にはわかる。しかし、私はあなたがたに言う。恐れる必要はないのだ。なぜなら、私が別れの準備を進める中で、時が来れば、この民の懷において、「第三の時代」の教えと変革を収めた一冊の書物が編纂されるよう命じるからである。そうして、この書物が多くの人々の手に渡り、彼らがその中で私の説教を見出し、それを研究し、私の真理を証しする準備を整えることになるのだ。

18. わたしの言葉を保存するための書物は、極めて重要かつ有益なものとなるであろう。なぜなら、わたしが去った後に初めて、あなたがたは真にその研究に専念するようになるからである。

19. この書物によって、私の教えを聞いたものの、多くの教訓や一節を忘れてしまった者たちは、私から神聖なメッセージを受け取った瞬間を、感動と喜びをもって思い出すだろう。そして、私の教えを聞いたことのない者たちは、私の教えの真意に驚嘆し、そこに無限の天の国を垣間見るだろう。

20. 弟子が徹底的かつ真摯な研鑽を積み、靈化に達したならば、もはや物質的な書物は必要としなくなる。なぜなら、彼が準備を整えるあらゆる瞬間、彼の唇は、その意識の中に永遠に刻み込まれて

いる御霊の導きにより、わたしの言葉を正確に繰り返すことになるからである。

21. この瞬間を待ち望んで見守ってきたあなたがたは、祝福されよ。あなたがたは、霊と真理において活力を得るであろう。あなたがたは光の世界へと昇り、そこから力を得て戻ってくるであろう。

22. そうして、あなたがたが私の言葉を渴望して私のもとに来るとき、あなたがたは世に属するあらゆるものから解放される。あなたがたは私のもとに来て、神聖な本質の杯を飲むのである。

23. 霊的な祝宴に与った後、この世の生活は耐えやすくなり、十字架は軽くなり、試練は和らぐように感じられるでしょう。

24. そう、わが子らよ、霊的な杖に支えられている者は疲れを知らない。天を見上げる者は、地上で倒れることはないのだ！

25. ああ、もしあなたがたが、どれほど多くの光と愛に満ちた存在たちが、霊的な谷からあなたがたに付き添い、支え、インスピレーションを与えているかを知っていたら！しかし、あなたがたがなすべきことを行わないで、どうして彼らに助けを求めることができるだろうか？

26. あなたがたに慈悲を抱く者たちの影響と助けをはっきりと感じたいのであれば、信仰を持ち、彼らの啓示に従順であり、信頼と感受性を持ち、祈りにふさわしい心の在り方を備えなければならない。そうすれば、人生の道において奇跡を体験することができるだろう。

27. わたしの言葉は、苦しみによって苛まれ、硬くなってしまったあなたの心を、愛に満ちたものに変える。あなた方もまた、人々の導き手となるならば、慰めの言葉と愛の行いによって、彼らを励ますべきである。

28. 誠実さ、愛、そして真実の証を目の当たりにして、誰が心を動かされないというのか。あなたがたのうち、私の言葉を初めて聞いたその日、私が彼を迎えた言葉——その優しさと独特さによって、彼が私を認識させたあの忘れがたい声を、誰が覚えていないというのか。

29. わたしはあなたがたの過ちを赦すが、同時に、あなたがたの心から利己心を追い出すために、あなたがたを正す。なぜなら、利己心は、魂を最も深く引きずり下ろす弱点の一つだからである。私は良心を通じてあなた方の心を揺さぶり、兄弟姉妹としての義務を思い出し、「第二の時代」に私が教えたように、その道のりに愛の行いと赦しを蒔くようにと願っている。

30. キリストの十字架は重く、その道は極めて苦しく痛ましいものであり、登り道は岩だらけであった。それにもかかわらず、私は自らの痛みを忘れ、苦しむ者たちを慰め、私を処刑した者たちをも祝福した。

31. 三つの時代の光を受け入れた霊を持つ民よ。この世にどれほどの悲慘と苦しみがあるかを悟りなさい。人類を愛で満たすことが必要である。善行を蒔き、信仰と希望によって彼らを照らし、平和で満たしなさい。

32. この業のためには、わたしの力と愛だけで十分である。しかし、あなたがたは互いに愛し合うことを学ぶために創造されたのだから、計り知れないほど巨大な靈性化の軍隊、すなわちわたしの律法の忠実な守護者となる民が現れる必要がある。そうして、彼らは多くの偽りに対してわたしの真理を貫き、闇の中に光を灯すのである。

33. まもなく、世界では新たな戦争が勃発するだろう。それは、人類がこれまで経験してきたどの戦争とも異なるものとなる。世界観、哲学、教義、イデオロギー、信仰、そして宗教をめぐる戦争である。

34. 民よ。この時に備え、子供たちに警鐘を鳴らさなければならない。

35. 物質主義の波は高まり、荒れ狂う海——苦しみ、絶望、そして人間の不正に対する恐怖の海——となるだろう。情熱、欲望、そして人間への憎悪というその海を乗り越えて航海できる船はただ一隻だけであり、その船こそが私の律法の船である。この時が来たとき、強い者たちは幸いである！しかし、眠っている者たちは災いである！弱い者たちは災いである！宗教的狂信という土台に信頼を置いた諸民族は災いである。彼らは、あの荒れ狂う波の餌食となりやすいからだ！

36. 人類よ、その戦いを予感しないのか？ その時が来た時に身を守る準備をするよう、私の言葉はあなたを動かさないのか？ 私の光はすべての人の中にあるが、それを見ることができるのは、祈り、準備をしている者たちだけである。わが光は、予感、靈感、直感、夢、そして示唆を通じて、あなた方に語りかけている。しかし、あなた方はあらゆる霊的な呼びかけに耳を貸さず、あらゆる神聖なしるしに対して無関心である。

37. まもなく、あなたがたは私の言葉が成就するのを見、これらすべてが真実であったことを証しすることになるだろう。

38. 私の教えと私の名は、あらゆる攻撃と迫害の標的となり、それらが、真理の敵たちがあなた方を迫害する理由となるだろう。しかし、私の教えは、立ち上がって信仰を守る者たちにとってのな光の剣ともなり、無実の人々が保護を見出す盾ともなるだろう。私の名は、ある者からは祝福され、またある者からは呪われながら、すべての人の口に上ることになるだろう。

39. 人間のあらゆる能力が解き放たれるだろう。その知性、感情、情熱、そして精神的な能力は目覚め、戦う準備が整う。

40. その時、なんと大きな混乱が生じるだろう！ 私を信じていると信じていた者たちのうち、どれほど多くの者が、それが真の信仰ではなかったと悟らなければならないことか！ 多くの家庭や心の中で、愛と希望の灯は消え失せるだろう。子供たちや若者たちは、この世以外の神を持たず、この世の法則以外の法則も持たなくなるだろう。

41. この混乱を前にして、私はあなた方に問う、民よ。では、あなた方はどのような使命を果たすつもりなのか。まさか、私があるあなた方に託したこの宝石を隠してしまうつもりなのか。私の教えが記された書を封印し、私の弟子としてあなた方に与えた権威を拒むつもりなのか。いいえ、愛する民よ、私はあなたがたが嵐に不意を突かれないよう準備を整え、また、あなたがたに敵対する者たちの雄弁さや知識に怯えないよう励ましてきた。書物や称号、そして名前は、すべて人間の虚栄に過ぎない。しかし、あなたがたが説くのは、永遠の真理である。

42. あなたがたの真ん中で混乱の波が巻き起こり、それがあなたがた自身の間に不和や非難、議論を引き起こした。眠りについていた者たちが目覚め、あなたがたが最終的にわたしの業の真髄を見出せるようになるために、この試練が民を襲う必要があったのだ。

43. 民よ、この内なる葛藤を恐れてはならない。改めて言うが、それはあなたがたが目覚めるために必要なものである。なぜなら、あなたがたは日常の習慣や伝統を新たな崇拜の対象にしてしまっているからだ。しかし、まことに、私は言う。スピリチュアリズムは、いかなる日常の習慣、慣習、伝統、あるいは外的な儀式からも完全にかけ離れているのだ。

44. あなた方を不意打ちにしたこの試練の中で、真の霊性を実現できていなかったという確信を持って目覚めた者たちがいる。彼らはしばらくの間、身を引かなければならないだろう。なぜなら、民の大多数は、まるでそれが律法であるかのように見なしている自らの慣習や伝統に固執するからだ。

その後、この民が内面で瞑想し、熟考し、観察し、自ら経験を積むための、闘争の一時的な休止期間が入るだろう。なぜなら、その後、私の教えの本質が輝き、私の業がその純粹さと靈性において完全に理解されるよう、闘争が再び最大の勢いで勃発するからだ。

45. この第二の試練において、大多数は真理に目を開く者たちとなるだろう。そして、私の業にふさわしくない儀式を行う他の者たちは、理解と改心を成し遂げ、再び民の仲間に加わることができるようになるまで、兄弟姉妹の輪から身を引かなければならない。

46. 試練があなた方を揺さぶり、目覚めさせる必要があることを悟りなさい。なぜなら、あなた方は自らの意思では、その日常の慣習を打ち破ることはないからだ。

47. あなたがたの心に真の靈性が宿らない限り、あなたがたの間にある調和と平和は、見せかけに過ぎない。しかしその前に、あなたがたは様々な形で試され、清められていくことになる。あなたがたは、この時代に私が与えた言葉の証人として残されることを自覚しなさい。そして、その証言は誤ってあってはならず、あなたがたが伝えうる限り忠実でなければならない。

48. 今日、あなた方を清めるのは苦しみである。明日には、あなた方の靈化がそうなるであろう！

49. もし、私の教えが終わり、あなたがたが試練を乗り越えた後も、あなたがたの間に混乱や苦痛が残り続けるならば、あなたがたは私に対してそのことについて何の弁明もできず、現在経験している試練よりもさらに大きな試練を自ら招くことになるだろう。あなたがたは真理を愛しているか。平和を切望しているか。それならば、私の言葉が求める誠実さをもってそれに従いなさい。そうすれば、あなたがたの魂は調和へと至る道を見出すだろう。

50. この時代、私がこれらの代弁者たちを通して自らを明らかにした際、かつて預言者たちの口を通して語った時と同様に、私の光と啓示を制限していたことを理解せよ。

51. 人類が深淵や滅亡の瀬戸際に立たされていた試練の時、私は、前者も後者も同様に遣わしたのだ。

52. この第三の時代に、私が御言葉を聞かせた者たちもまた、預言者たちである。彼らの唇からは、眠る者を目覚めさせ、道から迷い出た者を戒める声が響き渡った。

53. どの時代においても、預言者たちの言葉は、暗闇の中で響くトランペットの明るい音のようなものであった。多くの者がそれを耳にしたが、すべての者がそれを信じたわけではない。なぜ人々は預言者たちの声に耳を傾けようとしなかったのか。それは、彼らが

常に 迫り来る出来事について語り、神の正義を告げていたからである。彼らは常にこうやってきた。「祈れ、目を覚ませ、悔い改めよ、自分の汚点を清めよ、悔い改めよ。」

54. 初期の預言者たちは直感に導かれており、彼らの口からは、彼ら自身も知らなかった多くの出来事が告げられた。彼らはキリストの存在を知らなかったにもかかわらず、皆、キリストについて語っていた。救い主がこの世に現れるまでにはまだ何世紀もかかるはずだったが、預言者たちはすでに、キリストが人間としてどのように到来し、どのように生き、どのように死ぬかを語っていたのである。

55. 第三の時代の新しい弟子であり、同時に預言者であるあなたがたは、どれほど多くの光を受け取ったことか！今、あなたがたは、さまざまな地方や民族を訪れ、それぞれの場所の住民に対し、その必要、理解力、そして発展の段階に応じて語りかけることができるようになれば、その直感を証明し始めるのである。

56. あなたの声に耳を傾ける者もいれば、あなたたちを嘲笑する者もいるだろう。しかし、あなたは悔い改め――すなわち刷新――を説き続けなければならない。それは、悔い改めと信仰である祈りであり、兄弟愛と愛の表れである慈悲である。

57. 忘れることなく、常に心に留めておきなさい。あなたがたの義にかなった徳高い生き方こそが、周囲の人々の心に信仰を呼び起こす源であるということ。つまり、人々はあなたがたの私生活までも探り、観察し、あなたがたが説く教えの確証を、その行いの中に求めようとするのです。

58. 謙虚で、質素で、控えめでありつつも、常に揺るぎない信仰と不屈の熱意を示しなさい。

59. この民、すなわちこの第三の時代におけるわたしの啓示の受託者は、まだ光の伝達者として認識されていない。しかし、人類がわたしの再臨に関する真実や、わたしの啓示に関わるあらゆる事柄を知りたがるようになるまで、そう長くはかからないだろう。人々はあなた方に問いかけにやって来るだろう。あなた方はそのことに備えておかなければならない。

60. まことに、わたしはあなたがたに告げる。最も敵対的なメディアの中にあっても、たとえたった一つの心であっても、あなたがたの言葉を受け入れるために心を開く者が現れるだろう。

61. 霊性を高め、内なる言葉の賜物を開花させなさい。そうすれば、戦いの最中や試練の瞬間においても、あなたがたは揺らぐことはないだろう。

62. 今日、世界はあなた方を認識していないが、まことに、わたしが告げる。諸国民が切望してあなた方を待ち望む日が来るだろう。これは、の国々で大きな試練や大災害が顕在化し、スピリチュアリストたちが疫病や未知の病気に対して力を持っていることが知られるようになった時に起こる。

63. その時、病人は病床に横たわり、使徒であり働き手であるイエスの到来を待ち望むだろう。イエスは、温かさと隣人愛という香油で彼らを「油注ぎ」するためにやって来るのだ。その時、家々の扉は開かれ、弟子たちを待ち受けるだろう。弟子たちの存在によって、それらの人々の心に平和と光がもたらされるのだ。

64. 私があなたがたに与えたしるしに目をつぶって、すべてを偶然のせいにしていた今日の世代は、私の到来、啓示の期間中の私の臨在、そして私の言葉の完結に伴った出来事の意味を深く考察し、それらがまさに過去の時代に約束されていたしるしであったと認めざるを得なくなるだろう。「父の御心なしに、木の一枚の葉さえも動くことはない」と彼らは言うだろう。そして、その言葉は真実となる。

65. 愛する人類よ、あなたは私が救おうとしている私の娘であり、私が荒野で訪ね、その牢獄の中で慰めてきた者である。私の臨在を感じなさい。そうすれば、あなたにはもはや何も欠けることはない、と私は告げる。

66. 信頼し、希望を持ちなさい！試練は大きく、あなたの贖罪の日々は長かった。しかし、まもなくあなたは、より清らかな道を目の前に見ることになるだろう。まもなく、あなたがこれほど切望してきたあの平安を得るだろう。

私の平安があなたがたと共にありますように！

教え 301

1. 父がこれほどまでに待ち望み、この世に生まれ、その血を流してまで救おうとされた魂たちよ、わが言葉に喜びを見出せ！

2. ここにいるこの人々の群れは、信者と非信者から成っているが、彼らは皆、愛を渴望し、光と真理を渴望している魂である。信仰を持つ者たちが養われ、強くなる一方で、非信者たちは永遠の命のパンを拒み、その飢えと渇きに耐えなければならない。彼らは、物質主義、無知、そして狂信に満ちた生活によって混乱させられ、その状態から抜け出せずに、私の存在を認識し、感じるができない魂たちです。それは、人々の批判を恐れる心なのです。

他人が自分について何と言うかを気にかけている限り、どうして魂の奥底にある高みに意識を集中させ、私の本質を感じ取ることができるだろうか。結局、彼らは「そのような場所に私の存在などない」と言うでしょう。しかし実際には、彼らはそこにいながらも、私のそばにはいなかったのです。なぜなら、彼らの魂は、思考や関心事、心配事、そして情熱に縛られ、そこに取り残されていたからです。

私は確かにやって来た。確かにあなたがたと共にいた。なぜなら、私は常に私を必要とする人々——苦難の杯を飲み干し、隷属と屈辱のパンを食らう人々——のことを思い続けているからだ。

3. 人々は、自らの虚栄心や狂信を克服する意志を欠いているため、信じようとしなない。一方で、信じたいと願っているにもかかわらず、内面に存在する何かが彼らを惑わせ、私のメッセージの真理を発見し、それを喜びとして受け入れることを妨げているために、信じるができない人々もいる。

4. あなたがたは、私がこれらの私の子供たちを見捨てるとするか。彼らが私に背を向け、私が彼らを招いた道から逸れたとしても、私が彼らを忘れるとするか。いいえ、民よ。私の御霊は、たゆまず彼らを追い求め、障害を乗り越える手助けをし、彼らを試練にさらし、彼らが私の言葉から聞いたことが正しかったこと、私の呼びかけが真実であったことを、さまざまな方法で彼らに示していくでしょう。彼らは皆、ある者はある方法で、別の者は別の方法で——ある者はある時期に、別の者は別の時期に——戻ってくるでしょう。しかし、私は常にそこにいて、愛をもって彼らを迎え入れるだろう。

5. わたしはあなたがたに御霊のパンとぶどう酒を差し出す。民よ、食べて、飲んでください。第三の時代の糧を受け取り、それによ

って養われなさい。このパンを食べる者は祝福されよう。その者は目覚め、その目を光に向けて開き、停滞から抜け出すことになるからだ。

6. 長い間、私はこの形であなたがたに語りかけてきたが、教えと啓示からなるこの章を締めくくる日が近づいている。しかし、その時になっても、私の業も、私の神聖な教えも終わることはない。ただ、この魂を準備するための期間は、それでも終わりを迎えるのである。

7. この時代に、伝達者を通じて父の声を聞いた民は、地上に残り、人々に語りかけ、自らの行いによって受けた教えを証しするという使命を帯びることになる。

8. 私の言葉は、この「第三の時代」に現れ始めて以来、愛と憐れみを内包してきた。しかし、その意味するところは正義を含み、あなたがたに責任を問うとともに正してきたものの、今やその終わりが近づいている今、その正義がいかにさらに強まっているか、そして同時にその優しさがあなたがたの心に深く染み渡っているかを悟りなさい。

9. わたしは、あなたがたが、わたしの最後の教えの言葉の中に、闘いにおいて必要となるすべての励ましを見出してくれることを願っている。私は、あなたがたの心に天の味わいを残し、そこに苦味が残らないようにしたい。そうすれば、あなたがたは常に愛をもって私を思い出し、私の言葉が、目覚めの呼びかけとして、祝福として、インスピレーションとして、そして癒しの薬として、あなたがたの記憶から湧き上がってくるだろう。そうすれば、あなたがたは内なる感動をもって、この教えの時期を振り返ることになるだろう。そして、まさに「命の書」の封印を解き、その第六章をあなたがたの目の前で開いたのが、まさに師ご自身であったと理解したとき、あなた方は、光と霊の時代である「第三の時代」への門を開く鍵を手にしたのがエリヤであったことを悟るでしょう。

10. 物質的な生命の彼方にある霊的な存在についての知識に対する人類の信仰を強めるために、かつて、あなたがたには「天使」という名を与えた父の使者たちによるいくつかの顕現が許されました。

それらの初期の顕現に続き、私がイエスを通して成し遂げたいいくつかの業によって、あなたがたを私の秘められた宝庫のさらに奥へと少しばかり導きました。その中から、私は以下のことを思い出させておきます。私の地上への到来を告げた光の存在たちの現れ、「憑依された者」と呼ばれる人々に対する混乱した霊たちの影響、私

の「変容」の瞬間に証明された、魂が肉体から抜け出し、再び肉体に戻る現象；そして、無知という闇に包まれていたために真の王国へと昇華できなかった存在たちの顕現——それは、私が十字架にかけられた日にエルサレムで現れた者たちのようなものです。

11. それらの教訓は、なんと深遠なものであったことか！しかし、当時の偽善的な祭司やパリサイ人たちのように、そこに含まれる光を認めようとしなかった人々は、あらゆる霊的な知識を邪悪な力によるものと見なした。当時、彼らはイエスが悪魔との契約によって憑依された者たちを癒やしていると主張しなかったか？ 私が霊として——霊こそが私の真の本質である——この時代に訪れ、靈魂の生活についてさらなる教え——しかし、私があなた方に啓示した事柄について、あなた方が個人的に体験を積むことができる、より詳細で、より明確で、より深い教え——を与える今、あなた方にも同様のことが起こっているのだ。

12. 現在の時代に私がこの民に与えたものは、人間の知性を通じての私の啓示、および同じ手段を用いた霊界の啓示を考慮すると、あまりにも高すぎるものだったと信じる者たちがいます。また、今日までに受け取ったものがあまりにも偉大であるため、これ以上それを超えることはあり得ないと考える者たちもいます。

それについて、私はこう言わなければならない。あなたがたがこの時代に得て経験してきたことは、将来、スピリチュアリストたちがあらゆる偏見を克服し、魂と知性を解放した後、あなたがたよりも大きな進歩を遂げたときに経験することの、ほんのわずかな予兆に過ぎないのだ。これら明日に予定されている啓示の展開は、人類の発展に合わせて行われるのだから、誰がそれを阻止できようか。盲目的な狂信に囚われてこれに抵抗する者たちは、愚かで理不尽な者たちである。

13. どの時代も、人々に知性と魂のための新しく素晴らしい知見をもたらしてきた。皆、私の神聖なメッセージを受け入れる準備をしておきなさい。新たな時代の扉が開かれたのだから、あなたがたが認識し、学ばなければならないことは数多くあるのだ。

14. 「隣人に対して、慈悲、そしてさらに慈悲を」と、エリヤはこの時代にあなた方に語った。しかし、貧しい人々はこう自問する。「私たちには何もないのに、何を差し出せばよいのか？」確かに、あなた方には何も持ち物はありません。しかし、もしあなたがたが、私の言葉を通して与える恵みと知識を蓄え、私があなた方の魂に満たした賜物を開花させれば、永遠に与えることができ、その富が尽きることは決してないでしょう。

15. ここに、私の霊があなた方に授けてきた恵みのいくつかを挙げよう。あらゆる肉体の苦痛を癒やし、魂のあらゆる悲しみを払拭する癒しの香油；あなた方自身のための絶え間ない平安、そしてそれを、心に平安を持たない者に与えるためのもの；魂の光——それは、あなたがたの道を照らし、歩みを導き、高潔な思考と、知性を駆使した高尚な行いを啓発し、科学の深淵へと踏み込むためのものです。私は、霊的な祈り——すなわち、あなたがたを神聖なるものと結びつけ、私のメッセージや啓示の伝達者、あるいは道具とするもの——をもたらします。また、直感や予知能力の源である預言の賜物も、私はあなたがたの霊に注ぎました。それによって、あなたがたは、一人ひとりが歩まなければならない道のりを、あらかじめある程度見通すことができるようになるからです。

16. これらをはじめとする数々の賜物が、あなた方に託されている。これほど多くの恵みを持っているにもかかわらず、誰が「自分は困窮している」などと言えるだろうか。たとえこの世の物においてどれほど貧しくあろうとも、魂の中にこれほど素晴らしい遺産を宿しているのに、誰が慈善を行うことを拒むだろうか。あとは、私の神聖な輝きに触れたとき、愛撫するような露が降り注ぐと花の萼が開くように、あなたがたの心が開かれることだけが残されている。そうすれば、あなた方は茨の生い茂る道を登り抜くだけの強さを感じ、善行を求め近づいてくるすべての人に与えることができるようになるでしょう。なぜなら、その時にはあなた方は私の霊に満たされているからです。

17. 第二の時代において、私は、慈悲を実践するためにこの世の富を所有する必要はないこと、そして、すべての人への愛に満ちた心を持ち、苦しむ者に共感し、慰める用意があれば、奇跡を起こすことができるということを示す、最も明確で生き生きとした例をあなた方に示しました。

18. 私は、パンが不足した時にはそれを増やし、水をワインに変え、病人に健康を取り戻させ、無防備な悪霊に取りつかれた者たちを解放し、死者に新たな命を与え、一言で硬い心を和らげ、魂を光で満たした。あなたがたも、準備を整えれば、これらの一部あるいは多くを行うことができるだろう。

私がそれらの業を、あなたがたへの手本として行ったということは、あなたがたにもそれができるという証拠である。だから、もしあなたがたが、それらを成し遂げるには自分たちは取るに足らず、不器用すぎると感じるなら、私があなたがたの中に再び現れ、あなたがたの存在が持つすべての賜物と能力を呼び覚ますのを見よ。そ

うすれば、二度と「自分は貧しい」などと言うことはなくなるだろう。なぜなら、そう言うことは、あなたがたが御父のもとへ至るためにすべてを与えてくださった御父を侮辱することになるからだ。

19. エリヤがあなたがたに「隣人に対して、慈悲、そしてさらに慈悲を」と語ったことを忘れてはならない。とりわけ、あなたがたは多くのものを持ち、与えることができると知っているのだから。

20. 第三の時代のマナは、大地に触れることなくあなたがたの上に降り注ぐ。それは、あなたがたの魂によって受け入れられるからである。

21. 民よ、あなたがたは人類の鏡であり、それゆえ、私は人類を代表してあなたがたを受け入れる。ここ、あなたがたの中に、私は苦しみ、弱さ、信仰の欠如、不和、分裂、そして戦争を見出す。私があなたがたに語ることは、すべての人々のために語るのであり、今、私がごく少数の者に与えているものを、明日、あなたがたは隣人に伝えるべきである。なぜなら、私のメッセージはすべての人類に向けられているからである。

22. 私はあなたがたが団結しているとは見ていない。そして、あなたがたは今日、自ら立ち上がって私の言葉を広めることさえできないだろう。なぜなら、あなたがたが団結と調和を保つ術を知らない限り、良心がそれを説くことを許さないからだ。しかし、まもなく、この民のすべての子供たちが団結し、私の教えを、平和、兄弟愛、そして霊性の旗印として広めていく時が来るだろう。

23. あなたがたは人生の道を長く歩んできた。しかし今、帰路につく時が来た。

24. あなたがたは、経験という長い道のりを歩んできた。経験の光を得たとき、盲目であり無知であるあの無垢さは消え去った。さらに、あなたがたは汚れを背負ってしまった。それゆえ、あなたがたを清め、浄化するための試練と苦痛があるのだ。

25. 無知な者は盲目であり、何も理解せず、父のもとへ帰れる道も知らない。経験を積む者はその道を知り、どこへ向かうのかを知っている。

26. そうすれば、あなたがたは、魂が完全なる境地に至るために長い旅路で経験する痛み、人生の試練、誘惑、そしてあらゆる重く苦い経験が、どのような意味を秘めているかを容易に理解できるようになるでしょう。

27. これこそが、なぜ人生があなた方にこれほど多くの問題をもたらすのか、そして、さらに前進するためにはそれらを解決しなければならないのかという理由の説明である。

28. それゆえ、この真理を伝えるために、あなたがたの元へ赴く必要がある。そうして初めて、あなたがたは希望と理想主義を胸に抱くことができるからだ。もし私が絶えず「山上の説教」を繰り返さなければ、あなたがたは生きる勇気を失ってしまう。なぜなら、人生の闘いの意味を見失い、永遠に苦しむ運命にあると信じ込んで、痛み打ち負かされてしまうからだ。

29. 私はあなたがたに私の弟子になってほしいと願っているが、あなたがたは頑なに、私の小さな子供であり続けたいと望んでいる。あなたがたが私にこう言うのを、私はどれほど頻繁に耳にしていることか。「父よ、なぜ私たちにこれほど多くの苦難をお与えになるのですか。なぜ私たちの祈りに応えてくださらないのですか。父よ、あなたは私たちの祈りを聞き入れてくださらなかった。」

30. 私はあなたがたの嘆きを聞き、こう告げよう。私は常にあなたがたの祈りを受け取ってきた。しかし、あなたがたが望むものを、必ずしも祈ったその瞬間に与えるとは限らない。また、それはあなたがたの願い通りに起こるのではなく、私の御心に従って起こるのだ。あなたがたの務めは、祈りの衣を広げ、善き思いで道を照らし、闇を取り除くことである。そうして、私が彼らに私の平安を送る時が来たとき、あなたがたの隣人たちがその準備を整えているようにするためである。

31. 私の正義の前で価値があるのは、外見上の勝利ではなく、あなたがたの努力である。なぜなら、それによってあなたがたは成長、経験、そして完成を得るからである。

32. 私が至る所に光をもたらすという使命を託し、どこにしようとも松明の如くあれと告げたのは、まさにあなた方である。それでは、山を動かし、国々を照らす「信仰の息子たち」とは、いったい誰のことだろうか。

33. もしあなたがたが、わたしの言葉に含まれるすべてを理解していたなら、その中に込められた善を広めるために、確かな足取りで、急いで旅立つだろう。親を亡くし、愛情も教育者もない子供たちを、あなたがたは憐れみの眼差しで見るだろう。

34. あなたがたは、人々が、まだ人生に心を開き始めたばかりの若者たちの心の信仰を殺してしまったために、理想を持たずに生きている若者たちを、憐れみの眼差しで見るだろう。

35. 今、私があなた方に語っている「松明」とは何か、そして私があなた方に授けた「理想」とは何か、理解できたでしょうか。

36. 「はい、師よ」と、あなた方の霊は私に答えます。「その松明とは、人類が陥ったあの長い夜の闇を追い払う、あなたの教えの光であることを、私たちは理解しました。」

37. 祝福あれ、わが子らよ。なぜなら、あなた方は、「神はどこにいるのか？天国とは何か、信仰とは何か？」と自問する若者たちの声も聞くことができるようになるからだ。

38. あなたがたの義務は、幼い兄弟姉妹のもとへ行き、道を見失ってしまった彼らに人生の道しるべを示すこと、父について語り、ほんの少しの霊性さえあれば私の存在を感じることができると伝えることです。その存在は、彼らが破滅へと引きずり込まれないよう、勇気と力を与えてくれるでしょう。

39. あなたがたの使命は、孤児たちに、彼らの母は遠くにはいないこと、この地上において彼らの支えであり避難所であった人々を失ったその瞬間から、母の慈愛と保護の外套が彼らを包み込んでいることを伝えることです。あなたがたは、彼らがどこにいてもその天の温もりを見出せるよう、彼らに教えなければならないのです。

40. 人生の道を力強く歩む者すべてに、私は貧しい孤児たち、すなわち人々の保護を受けられず、母の愛を渴望して街をさまよう子供たちの責任を負わせる。

41. 同様に、あなたがたが今生きている戦いの疲れから癒やされるよう、私はあなたがたを私の平和の王国へと招く。私は、人生の試練をその真の意味で理解することで、あなたがたの十字架の重荷を軽くするよう教える。そうすれば、あなたがたは無意味に苦しむことなく、ただ学び、経験を積み、真に清められていくことができるのだ。

42. 健全で神聖な喜びを糧とし、子供たちの存在を喜びなさい。彼らの中には、私がこの時代のために人類に予告した魂がすでに宿っており、その平和と光の使命は、彼らの最初の歩みからその振る舞いの中に現れているのです。目を覚ましていなさい。彼らの中にこそ、私の約束が成就しているのだから。彼らは未来の世代の希望であり礎であり、その使命は、約束された王国がすでに近づいているというしるしを切望して待ち望む人々にとっての証となるだろう。

43. 人類は今、再生しようとしている。時間が経つにつれて、魂はますます大きな発展を遂げ、その行いによって、人類は当然の地位を占めるようになるだろう。

44. 今日、あなたがたはまだ、自分たちが直面する試練の意味を理解することができない。あなたがたは、それらを不必要で、不公

正で、理不尽なものだと考えている。しかし、あなたがたが年老いた時には、また、あなたがたがこの世の境界を越えて霊的な領域に住むようになった時には、それらの試練の一つひとつにどれほどの正義と節度があったかを、私がまだあなたがたに告げるだろう。

45. 今日、私は、あなたがたが達成できずに置き去りにしてきたもの、すなわち過ちや失敗について語るつもりはない。また、未来を明らかにするつもりもない。私が望むのは、あなたがたの父に対する信頼と献身だけである。なぜなら、あなたがたの人生において、私の霊が祝福し、励まし、教え導くために臨在していない一時間、一つの行動、一つの思考など、一つとしてないからだ。私は、あなたがたの心に信仰が息づき、私を愛し、あらゆる試練の中で私を父として、友として、そして助言者として求めることを望んでいる。

46. そして、あなたがたは現在、償いをしており、罪の代価を支払うことが求められていることを知っているのだから、自分の中で正義の戦いを戦うことを心に留めておきなさい。あらゆる反抗に対して、ある程度の「人間らしさ」を持ち、あらゆる試練に対して多大な勇気を持ちなさい。そうすれば、あなたがたは段階を追って上昇し、やがて最も高い領域に到達するでしょう。

47. 目標がすぐそこにあるとは言わないが、それを達成するための大きな機会を、私が確かに与えていくことを約束する。

48. もしあなたがたが私と結びつく術を知っているならば、執り成し手など必要としない。なぜなら、あなたがた自身が私から靈感を受け、導かれることになるからだ。

49. あなたがたが一つになるその日、あなたがたの思いは地球を包み込み、あなたがたの愛は他の国々へと輝き、そこに広がっていくでしょう。そして人類は、自分たちが理解することのできない何かに引き寄せられ、その何かに取り憑かれたかのように感じ、こう言うことになるでしょう。「超自然的な何かが訪れようとしている。」

50. しかし、この時代に、あなたがたは使者を遣わさなければならない。そうすれば、今日、ごく一部の人々しか目にしていないこの光が、他の民族にも見られるようになるだろう。そして、かつて不毛だった場所——あの見捨てられ、耕作されていない野原——において、命が湧き上がり、御霊の光が輝き、魂が花開くであろう。

51. わたしは、あなたがたがわたしの良き弟子となるよう備えさせている。すなわち、生活の中でわたしの言葉に耳を傾け、さらに

多くを学ぶために静かに研鑽を積む者となるためである。なぜなら、わたしの教えには終わりが無いからだ。

そして、あなたがたが力強くなり、教えることができるようになったら、真理を渴望する者たちをあなたの周りに集め、ヨハネが荒野で行ったように新しい弟子たちを育て、その後、彼らをわたしに引き渡してください。わたしが、彼らをその成長の最終目標へと導いてあげます。

52. 私があなたがたに語っていることは、いつの日かあなたがたが果たさなければならないのだということを心に留めておきなさい。今日、あなたがたは、両親の庇護の下で団結した家族のように、私のそばにいる。しかしその後、あなたがたは世の道へと散らばり、そこで私の言葉の成就と、この業のために戦う機会を見出すことになる。なぜなら、あなたがた、民よ、は私の愛が映し出されるべき鏡であり、あなたがたは兄弟愛の模範を示さなければならないからだ。

53. 私はあなたがたの心の最も繊細な琴線に触れている。なぜなら、私の別れの時が近づいており、私はあなたがたを、痛み、悲惨、そして孤児のような寂しさに対して敏感な心を持ったまま残しておきたいからである。

54. わたしの光は常にあなたがたと共にあり、わたしの神聖な光線は決してあなたがたを離れることはない。なぜなら、わたしの啓示の時が終わりを告げたとしても、その光線はあなたがたの魂を照らし続けるからである。

55. あなたがたが闘いを始め、攻撃を受け、人々があなたがたを嘲笑しているのを見たとき――彼らがあなたがたを「偽者」や「詐欺師」と呼んでいるのを耳にしたとき――この光が引き続きあなたがたの魂の中で感じられることが、どれほど必要となることか！

56. その時、私の光は内なる声としてあなたたちに語りかけ、こう告げるでしょう。「恐れるな。あなたがたが知っていることを語り、私の教えを繰り返せ。」

57. あなたがたは、私がもたらした真理を語らなければならない。しかし、もし誰かが聞いたことに腹を立てたとしても、その件は私に任せておきなさい。だが、私はあなたがたに言う。私の真理を語る時、決して人を傷つける意図を持ってはならない。そうすれば、その言葉の責任を負わなければならないのは、あなたがた自身になるからだ。

58. あなたがたは、あらゆる信仰と宗教を尊重し、あなたがたの神である私が、遍在し全能なる者として、儀式や信条の区別なく、

すべての者を私の子供として受け入れてきたことを心に留めなさい。
。

59. あなたがたはこの教えを愛をもって広めなければならない。その愛こそが、人々に原点へ立ち返ることを教えるものであり、物質的な生活を超えて、より完全な世界へと昇華させる教えでなければならない。

60. 人間の魂を照らし、その魂が道を見出し、出発点へと戻り、人生の意味に関する知識を得るのを助けるために、光がいかに必要であるかを認識せよ。なぜなら、無知であった魂が、神を知るためには、経験という広大な道のりにおける試練や闘いの光を知る必要があったからである。

61. やがて、多くの同胞たちがあなた方を訪ね、扉を叩いてこう言う日が来るだろう。「あなたの霊的なパンを私たちに与えてください。あなた方にはパンがあり、幸せであり、この世のものではない光に照らされているのがわかります。私たちを導くために、その光を私たちに与えてください。」

62. これが、戦争や敵対関係が終わり、闇の王国が滅ぼされる時、平和と兄弟愛の始まりとなるだろう。

63. 今日、あなたがたは、まだ精神的なパンを分かち合う準備ができていない。なぜなら、あなたがたは、利己主義や虚栄心の最後の残滓からまだ解放されていないからだ。しかし、私はあなたがたに、準備をするためのさらなる時間を与える。

64. 民よ、わたしはあなたにさらなる教えを与えた――それは、兄弟愛について語る教えである。命の書はあなたたちの前に開かれ、あなたたちの良心の中では、引き続き師の声が「互いに愛し合いなさい」と語りかけるだろう。

65. この啓示に立ち会った者の中で、物質的な心配事で心を満たしていた者も、また地上の喜びを思っていた者も、そこから得たものはごくわずかである。それに対して、謙虚な心で参列し、師の御声を聞く喜びに身を委ねた者は、心に宝を持ち帰った。その霊的な富は日ごとに増し、やがては隣人にその恵みを分かち合うことができるようになるだろう。

66. わたしは、あなたがたがそうした人々の一員となることを望む。そうして、愛と真理を渴望する人々を探し求めて、世へと出て行ってほしいのだ。

私の平安があなたがたと共にありますように！

教え 302

私の平安があなたがたと共にありますように！

1. わが神性の弟子たちよ。わが教えの説教へようこそ。わが神聖なる御霊があなた方を迎えるこの挨拶に驚かないでほしい。まことに、あなたがたに告げる。この姿であなたがたの間で啓示を行う最後の年、わが到来の瞬間に、わが姿を明らかにするであろう。

2. あなたがたが霊化の道で踏み出す一步一步は、私によって報われるであろう。日常の慣習を打ち破り、礼拝の行いにおいて完全さへと向かうあらゆる教会もまた、父の報いを受けるであろう。私が現れる日々を特定の日付で示すことはない。なぜなら、私は時間の上に立ち、時間を超越しているからである。

3. イエスが十字架にかけられて数日後の、あの第二の時代、私の弟子たち三人が田舎道を歩いていた。彼らは、この世を去った師の思い出にふけることができる、人里離れた羊飼いの小屋へ向かっていた。彼らは悲しみに打ちひしがれた心で歩きながら、魂の空虚さを感じていた。

道中、彼らは一人の旅人と出会い、その旅人は彼らに同行した。旅人が、なぜそれほど明らかに悲しんでいるのかと尋ねると、彼らは胸を打たれる言葉で、自分たちに起こったことすべて——エルサレムで起きたこと、ゴルゴタで起きたこと——を語った。

こうして彼女たちは小屋にたどり着き、中に入った。そして、肉体的だけでなく精神的にも、思いと記憶の交わりの中で一つになったとき、その旅人は栄光に包まれ、彼女たちにこう言った。「わたしの平安があなたがたにあるように。」驚愕した弟子たちは、すぐに師の声を聞き分け、その足元にひれ伏した。

4. 彼らは、その輝かしい御顔、光と愛に満ち、命に満ち溢れた御姿を仰ぎ見た。その瞬間から、主は弟子たちの前に何度となく現れ、あの祝福に満ちた言葉「あなたがたに、わたしの平安があるように」をもってご自身を明らかにされた。わたしも、あなたがたに、あの弟子たちと同じように、わたしを聞き取ってもらいたいと願っている。今日の説教によって私の言葉が終わった後、あなたがたは——もはや肉体の耳ではなく、あなたがたの霊を通して——「私の平安があなたがたと共にありますように」と永遠に語りかける私の神聖な声の響きを聞くことになるでしょう。

5. あなたがたは皆、私の弟子である。最後に加わった者たちも、私を初めて聞く者たちも同様である。なぜなら、私が彼らに与えるこの教えは、初めての教えではないからだ。彼らが私の霊から現

れてから長い時間が経っており、その時から私は彼らのために師となることを始めました。それゆえ、この第三の時代において、彼らが声の媒体を通じて人間として現れた私の声を聞いたとき、私は彼らを私の弟子と呼んだのです。なぜなら、彼らはすでに私から数え切れないほどの教訓を受けてきたからです。

私は、人生そのものを、あなた方にとって至高の知恵の書となるよう創造した。そのページ数は数え切れないほど多く、内容は深遠であり、その全貌を知るには一生では足りず、ましてや理解するにはなおさらです。その規模は大きく、生命とすべての被造物の作者である完全なる存在によって書かれたものです。しかし、この知恵に満ちた書物は、神のすべての御業がそうであるように、シンプルかつ明快到書かれています。

6. 最初の教訓、すなわち最初のページは、最も単純なものです。しかし、その単純さにもかかわらず理解されない場合、最初のページの内容を説明するために第二のページが続きます。そして、私が人間に差し出したこの偉大な「命の書」の終わりまで、そのように続いていきます。今、第六章が開かれている。それは、人間が父を知り、自らの生と使命を認識し、過去と現在、そして――私の御心に従う限り――未来を理解するためである。

7. 第三の時代とともに、人類にとっては聖霊の時代、すなわち霊性を実践する時代が到来した。しかし、この発展段階に到達するために――その道のりで、あなたがたはどれほど多くのことを経験し、耐え忍ばなければならなかったことか！

8. 私は、この時代において、あなたがたの魂が、私の種を蒔くのにふさわしい肥沃な畑となるほどの発達段階に達しているのを見ている。しかし、あなたがたの魂が依然として真理を渴望し、飢えていることも、私は見出している。あなたがたの魂は、痛みや苦しみ、失望の中で開花してきました。しかし、私があなたがたの中にまだ見出せない別の開花があります。それは、私の教えを実践し、私の律法に従い、あらゆる美德の源となる真の愛を開花させることによってのみもたらされるものです。

9. 科学によって人間の脳が探求することは、あなた方の生活を変容させる。その心は、情熱や地上の所有物、この世界に対する支配の中で、自らを偉大だと感じる。しかし、その偉大さは、私の前では何の価値もない。それは儚い偉大さであり、人間の虚栄に過ぎない。そして、今日、人間によって変容させられたこの生活を、私は清めるであろう。すでに、私の聖霊の光が、真理の種として、すべての魂に注がれている。しかし、私のすべての子供たちの中にのみ

覚めが成就するためには、彼らはさらなる試練を乗り越えなければならない。

10. 人々は、良心の声を黙らせ、私の律法を隠し、私の神聖な戒めに背を向けることによって、私の正義の厳しさに反抗してきた。彼らは私の預言者を殺し、私の使者を嘲笑したが、私の力は無限である。

人々は私の目にはまだ非常に未熟であるため、私は彼らに私の全力を解き放つことはない。私は、彼らが自ら崩れ落ちた後に、私に従うよう強制するために、彼らの魂を打ち砕くことはしない。なぜなら、私は人間——私の神聖な特質を授けられた存在——が、しっかりと立ち、顔を天に向け、満足に満ち、魂に真の偉大さを、その存在全体に真の尊厳を宿して、立っている姿を見たいからである。

11. そうしてこそ、私はわが子——創造主の鏡であり、その姿に似せて造られた被造物——を見たいと願う。私はただ、彼を過ちや罪、不完全さから解放するだけである。しかし、私は常に、希望の光と私への信頼を通じてその魂を支え続け、その足元に深淵が開いた時には、彼が転落しないよう、常に手を差し伸べるだろう。

しかし、さらなる試練が訪れる。それは世界規模の大変動となるだろう。そしてこの混沌の中で、かつてのように解き放たれるのは創造の諸要素だけではない——魂もまた揺さぶられ、苦闘し、この戦いのなかで世界的な混沌の一端をなすことになるのだ。

12. その兆しはすでにあなたがたの間に見られる。戦いはますます激しさを増していくだろう。しかし、まことに、わたしがあなたがたに告げる。この嵐の真っ只中であっても、わたしの律法を全うする者は皆、救われるのである。

13. あらゆる悪い種は根こそぎ引き抜かれ、わたしの正義は良い種のみを残し、こうしてこの地球を再び清められた状態に戻すであろう。なぜなら、試練が終わった後、この人類には新たな命が訪れるからである。私がこの地上の生を「悪い種」として奪った者たちすべてを、私は魂として、あなたがたが「来世」と呼ぶあの祝福された領域へと導く。私は彼らを導き、そこで彼らは自らの悔い改めによって、すべての過ちを償うことになる。

14. この時代、魂の中にはこれほど多くの光が満ちているため、彼らにとっては、真の悔い改めのほんの一瞬さえあれば、自らを新たにし、私の律法に従うという、確固たる永続的な決意（）を抱くに十分である。そして、かつてわたしによって立て直された者たちが皆、この準備を整えたとき、わたしは彼らをこの惑星へと送り戻す——ある者は新たな道を歩み始めるために、ある者は破壊され

たものを再建するために、そして最後に、すでに着手した任務を完遂するために。こうして、すべての人に対して、わたしの愛に満ちた正義がもたらされるのである。

人類の初期の時代、人々の間には無垢さと素朴さが支配していた。しかし、その数が増えるにつれて、彼らの発達と自由意志により、罪もまた増え、ますます急速に広がっていった——彼らの美徳ではなく、私の律法に対する違反がそうであった。そこで、私はノアを準備した。私は彼に霊から霊へと自らを現した。なぜなら、私は人類の始まりから、人々とこの対話を続けてきたからである。しかし、かつてはごく少数の人々にしか与えられなかったこの恵みは、来るべき時代には世界的に、そして普遍的なものとなるだろう。父と子供たちとの対話、すなわち祈りや、愛と私の教えの実践によってもたらされる靈感を通じた対話は、私のすべての子供たちの間で行われるようになる。

15. わたしはノアにこう言った。「わたしは人々の魂を、あらゆる罪から清める。そのために、大洪水を送る。箱舟を造り、あなたの子供たち、その妻たち、孫たち、そしてあらゆる種類の動物を一对ずつ、その中に乗せなさい。」ノアはわたしの命令に従い、わたしの言葉どおり、大災害が訪れた。悪しき種は根こそぎ引き抜かれ、善き種はわたしの穀倉に保管された。そこから、わたしは新たな人類を創造した。彼らは、わたしの正義の光をその内に宿し、わたしの律法を全うし、善き道徳を守って生きることを知っていた。

16. あなたがたは、あのように悲惨な死を遂げた人々が、肉体も魂も滅びてしまったとでも思っているのか。まことに、わたしはあなたがたに言う。いいえ、わが子らよ。彼らの魂はわたしによって守られ、裁き主である彼ら自身の良心の前に目覚め、再び命の道へと戻り、その道において霊的な進歩を遂げることができるよう備えられたのである。

17. (大洪水の) 水がもはや大地を覆わなくなったその日、神が人間と結んだ契約のしるしとして、わたしは大空に平和の虹を輝かせた。今、わたしはあなたたちに告げる。おお、「第三の時代」の人類よ、あなたは、自らを清めるためにこれらすべての試練を乗り越えてきた者そのものである。、あなたがたはまもなく新たな混沌を経験することになる。しかし、わたしは、わたしが選んだ民、そしてこの時代にわたしを理解してくれた人類全体を警告するために来たのだ。よく聞きなさい、わが子らよ。ここに箱舟がある。その中に入りなさい。わたしはあなたがたを招いている。

18. イスラエルよ、あなたにとって箱舟とは、わたしの律法に従うことである。最も苦難に満ちた日々、最も厳しい試練の時期に、わたしの戒めに従う者は皆、箱舟の中にあり、強くなり、わたしの愛の守りを感じるだろう。

19. そして、全人類に、私はもう一度告げます。箱舟とは、私の愛の律法です。隣人に対して、また自分自身に対して愛と憐れみを実践する者は、救われるでしょう。私はこの美德を祝福し、それを通じて、人々がこの第三の時代に霊的に救いの箱舟を見出せるようにする——それは単に人間としての命の救いだけでなく、魂の救いと平安をももたらすものである。宗派對宗派、宗教對宗教の戦いが解き放たれる、大いなる試練の時が近づいている。

20. この争いはどれほど続くのか。あなた方には知る由もない。しかし、まことに、あなたがたに告げる。残りの人々の魂を準備させるには十分な時間があるだろう。すべての者、創造物の最後の一人に至るまでが——たとえ幼い子供であっても——目覚めるには十分な時間がある。そうして、あなたがた全員が、自分たちが生きている時代を自覚し、すべての魂を再生へと招く神の正義に対する自らの責任を認識できるようになるためである。

この嵐は過ぎ去り、あなたがたは再び大空に、私と人類との契約のしるしを見るでしょう。しかし、それは七色の地上の虹ではなく、聖霊の光がその豊かさをもって、肉体をまとった魂にも、肉体を離れた魂にも等しく現れるものとなるのです。

聖霊の声は、そのすべての子供たちにこう告げるでしょう。「私は平和であり、道であり、真理であり、命である。私は、あなたがたと私の聖霊、そして私の律法との間に、新たな契約を結ぶ者である。」なぜなら、この時代において、あなたがたは私の教えによって無知の鎖から解放され、私は、物質主義から解き放たれ、骨の髄まで新たに生まれ変わった人々からなる新しい人類に、平和と繁栄の新たな時代を授けるからです。その時代には、わたしの光に照らされて目覚め、この世の道へと戻り、わたしの律法を全うして美德と真理を蒔くために万全の準備を整えられた魂たちが、転生してやって来るであろう。

21. それゆえ、私の教えを知っている愛する弟子たちよ、あなたがたは、未来が何をもたらすかを知っているからこそ、父に対してこれほど大きな責任を負っているのだ。しかし、私の預言がまだ成就していない期間を、年単位で、ましてや世紀単位で測ってはならない。ただ、わたしに愛と信頼の捧げ物を捧げ、わたしの教えの中で一人ひとりに課せられた務めを果たすことだけを心に留めておき

なさい。残りのことはわたしが成し遂げる。そうすれば、あなたがたは常に良心を保ち続けることができるだろう。

22. ああ、イスラエルよ、その時には、他の人々にとって人生がいかに苦しくあろうとも、あなたたちにとっては心地よいものとなることを体験するだろう。そして、私の律法を全うし、私の戒めに従うことによって得た強さゆえに、いかなる苦痛もあなたたちを苦しめることはできなくなる。そうすれば、あなたたちはもはや十字架の重荷を恐れることもなく、この人生における死の到来をも恐れることはなくなるだろう。あなたがたは平然と死を待ち受け、それを友として、姉妹として、あなたがたを解放し、人生における苦痛、悲惨、そして災いの日々を短縮するためにやって来る者として迎えることになるだろう。なぜなら、それさえもまた、あなた方をそこへと導き、確かな足取りで永遠への敷居を跨ぐのを助けてくれるからです——それは、あなた方の魂でさえ知らないあの来世へと。なぜなら、あなた方はすでにそこに住んでいたことはあるものの、これから訪れる時代において到達することになる、最も高い次元ではそうではなかったからです。

23. あなたがたはすでにその領域のいくつかを知っていますが、すべてを知っているわけではありません、民よ。イエスはすでにあなたがたにこう言われました。「わたしの父の家には多くの住まいがある」。そして今日、聖霊はあなたがたにこう告げます。「父の家には無限の数の住まいがある」。

24. 闘争と試練に満ちたあの来世の生活は、あなた方の魂にとってどのように展開していくのでしょうか。あなた方はそれを知りませんし、想像すべきでもありません。なぜなら、それは単なる空想に過ぎず、誤ったイメージを抱かせてしまうだけだからです。

25. この地上の生活——あらゆる点で素晴らしく、完全なものです——は、来世の単なる象徴であり、かすかな反映にすぎない、ということを知っておけば十分です。しかし、あの生命の次元をその完全な姿のまま想像しようと試みてはならない。なぜなら、それは、おおイスラエルよ、生まれつき目の見えない者に、あなた方を囲むすべてのものの色がどのようなものかを理解させようとするようなものだからである。

子供の姿に転生したあなたの魂が、一步一步ごとに奇跡を発見し、青年期には新たな経験を積み重ね、成熟した年齢になってもなお創造を知り続け、老齢に達してこの世を去る際、周囲のすべてを知り尽くせなかったと嘆くように——あなたの魂もまた、この人生から一次の人生に向けて準備を整え——旅立ち、驚きから驚きへ

、教訓から教訓へ、奇跡から奇跡へと永遠に歩み続けるでしょう。それでもなお、その魂は、創造主の無限の栄光をすべて見通すことはできないのです。

26. 人は、神の法則や愛、その御性質において、神を大いに把握し、理解するだろう。しかし、神を完全に把握することができるだろうか？決してそうはならない、わが民よ。なぜなら、創造主は今も、そしてこれからも常に父であり、その子供たちは創造物だからである。

子供たちは主の右に座することはできるでしょうが、決して主の栄誉の座には座れません。しかし、その栄誉の座から、完全な愛の源であるエホバは、決して子供たちを辱めることはありません。主は彼らを常に、大切にされている被造物として、また弟子として見なし、決して僕や被告として見なすことはないでしょう。私は、あなたがたが、主の被告やしもべとしてではなく、主の深く愛された子供たちとして自分自身を感じられる時が来ることを願っている。

27. 私は、この世でも、他のいかなる世界でも、奴隷を望まない。私は、下僕も、家臣も望まない。私は、被告を望まない。私は、私がすべての子供たちを愛するのと同じ愛をもって、理解され、愛されたいと願う。

28. 民よ、これらの教えをもって、私は真理の霊としてあなたがたの中に私が臨在しているという証しを授ける。私の言葉によって、私はこの第三の時代に、あなたがたのために救いの箱舟を築き上げる。わがすべての教えに込められた比喩的な意味を理解し、わが律法を全うするためにその真意を守り抜くがよい。なぜなら、人々の間に混沌が訪れるとき、私がすでに準備を整え、無事でいるあなたがたに会い、転覆しようとしている者たち――滅びゆく者たち、そして罪を犯しながらも時宜を得て悔い改める者たち――に呼びかけを行わせたいと願っているからである。

29. ただ自分の安全だけを求めるな。もしあなたがたがそう行動し、その時に恐怖に駆られて、すでに箱舟の中にいて救われたと自負しているにもかかわらず、人々にわたしの啓示を隠し、口を閉ざしてしまうならば――まことに、あなたがたに告げる。そのとき、あなたがたは難破者たちの中に加わることになるだろう。

30. あなたがたが真に救われるためには、自分自身を忘れ、他者のことだけを考えなければならない。肌の色、血筋、言語、あるいは世界観によって区別することなく、隣人に対して憐れみを抱きなさい。あなたがたは、すべての隣人の中に、普遍的であり、すべて

の子供たちの中に存在する、あなたがたの父の似姿を見なければならない。

31. すべての隣人の中にわたしを見出し、わたしを愛しなさい。わたしがこう言ったことを思い出しなさい。「わたしの子供たちのうち、永遠に滅びる者は一人もない。魂の死を迎える者もない。なぜなら、そのようなものは存在しないからだ。わたしはそれを創造しなかった。わたしは罪だけを滅ぼすからだ。」

32. あなたがたが「誘惑者」あるいは「悪魔」と呼ぶ存在でさえ――まことに、あなたがたに告げるが、彼らは、父がご自身の崇高な御計画と御意図を実行するために、知恵をもって用いている、ただ混乱した、あるいは不完全な存在に過ぎない。しかし、今日、その魂が闇に包まれ、私が与えた賜物を悪用している者たちでさえ、時が来れば私によって救われるだろう。なぜなら、イスラエルよ、主のすべての被造物が私を永遠に賛美する時が来るからだ。もし私が、私の力と知恵と愛をもって、たった一つの魂さえも救うことができないとしたら、私はもはや神ではないだろう。

33. あなたがたは皆、救われることになる。もし地獄の炎や永遠の死について読んだことがあるなら――まことに、わたしはあなたがたに告げる。そこには比喩的な意味を見出し、わたしの教えを誤って解釈してはならない。そうすることは、わたしに、実際にはない不完全さを帰することになるからだ。私は完全であるが、そのことを子供たちの前で自慢したりはしない。なぜなら、あなたがたが今日なお不完全であることは確かだが、それでもなお、私の愛と光によって、私はあなたがたを完全へと導くからである。

34. 弟子たちよ、あなたがたは知っておくべきである。1950年の終わりに、私が現在、声の媒体を通じてあなたがたに伝えている御言葉を撤回したとき、私はあなたがたを、一つの魂、一つの心として残していくのである。私は引き続き神の教えを啓示するが、それらはより高次で、さらに正確なものとなり、さらに、それらは霊と霊との対話の始まりを告げるものとなる。あなたがたが私の律法に従順に団結すればするほど、完全な霊的対話に近づくことになる。

35. 私の啓示のこの段階があなたがたの間で一旦終われば、私はあなたがたに、熟考と準備、そして探求の時間を与える。しかし、この探求は別々に行うのではなく、常に団結して行わなければならない。

私の教えを記憶や記録の中から探し求める前に、準備を整え、祈りを通じて主と結びつくべきである。その瞬間、あなたがたは私によって支えられ、そして私の御言葉を理解しようと取り組むとき

、聖霊が各教訓の真の意味を明らかにしてくれるだろう。なぜなら、私は弟子たちの間に解釈の相違があることを望まないからである。

36. わたしは、あなたがた全員が、わたしの業におけるすべての基本を自らのものとすることを望む。狂信や偶像崇拜が消え去り、あなたがたの間には迷信が存在せず、儀式や不必要な儀礼を排し、ただわたしの真理を実践するために、最も素朴な礼拝をわたしに捧げることを望む。それゆえ、私は教えの冒頭で、あなたがたが靈性へと踏み出す一步一步が、私によって報われると告げたのである。

37. 儀式や祭壇、教会の鐘の時代は、今や人々の間で終わりを迎えようとしている。偶像崇拜と宗教的狂信は、その最後の息吹を吐き出すだろう。私が絶えず予告してきた、闘争と混沌の時代が到来する。そして、嵐が過ぎ去り、すべての魂に平和が戻ったとき、人々はもはや私の栄光を称えて王宮を築くことはなく、鐘の響きによって大衆が召集されることもなく、また、自らを偉大だと感じる者たちが大衆に対して権力を行使することもなくなるだろう。謙虚さと兄弟愛、そして靈性の時代が到来し、それによって人類にとって靈的賜物の平等がもたらされるだろう。

38. おお、イスラエルよ、引き続き自らを清めよ！ わが教えの真意については、それが完全であるゆえに、あなたがたが修正すべき点は何もない。あなたがたが行うあらゆる事柄の向こう側に、常にわが業を見よ。なぜなら、あなたがたの表向きの礼拝、儀式、そして伝統のすべては、その一部ではないからである。

39. すべてを包み込む私の霊は、靈的なものであれ物質的な自然であれ、私が創造したすべてのもののの中に存在している。すべてのものに私の業が現れており、あらゆる生命の次元において私の完全性を証ししている。私の神聖な御業は、私の右に座する最も偉大で完全な存在から、かろうじて知覚できる微小な生物、植物や鉱物、原子や細胞に至るまで、あらゆる被造物に形を与えるものすべてを包含している。それによって、私は再び、物質的な存在から、すでに完全性を達成した霊に至るまで、私が創造したすべてのものの完全性を、あなたがたに指摘する。これが私の業である。

40. あなたがたは、私の遍在する御前にあって、自らを小さく、弱く感じる弟子たちである。しかし、私はあなたがたに告げる。小さく弱いのはあなたがたの肉体だけであり、あなたがたの魂は強くなる。そして、私はその魂を用いるであろう。今日、父があなたがたを訪れ、という贈り物を授けたのは、あなたがたが父を失望させ

ないことを父が知っているからであり、父は決して誤ることはない。

41. 師である父は、人々の群れの中から、困難な使命を果たすべき者たちを見極めることをご存知である。まことに、あなたがたに告げる。私の呼びかけを聞いて、私の教えを聞くために私のところに来た者は多いが、私に忠実であり続け、その使命を遂行している者はごくわずかである。

42. わたしから賜物を受けた者たちのうち、どれほど多くの者が、信仰と愛の灯を消してしまい、わたしに背を向け、わたしを否定し、さらにはわたしの啓示を嘲笑していることか。今、わたしはそのような者たちをも、救いの箱舟の内に招き入れている。彼らには、自己省察と悔い改めを通じて償いを得るための時間が、まだ残されている。しかし、忠実な者たち、不屈の者たちを通してのみ、他の者たちもまたこれを達成することができるのだ。わたしの教えから遠ざかってしまった者たちは、世の誘惑や魅力に対する自らの弱さゆえに、そうしてしまったのである。

43. わたしの完全性は彼らにさらなる猶予を与え、わたしは彼らの内省と救いのために、わたしの光を与える。

44. あなたがたは、心からの祈りを天へと捧げなさい。しかし、それは自分自身のためでも、愛する人たちのためでもなく、苦しんでおり、私の慈愛に満ちた愛撫を拒んでいる全人類のためである。しかし、あなたがたはこの愛をより深く感じ取ることができる。たとえその道のりで大きな試練に遭遇したとしても、あなたがたは滅びることはない。

私の正義があなた方に送る試練もあるが、その大部分はあなた方の弱さによって自ら招いているものである。しかし、どちらの場合でも、私の愛があなた方を強め、道の終わりまでたどり着けるよう助けてくれる。

45. この瞬間、あなたがたは父と一つになり、人類のために目を覚まし、祈りなさい。

46. わたしは、あなたがたが天の穹蒼の星のようになり、そこから光と愛と赦しと慈悲の光線を、地上のすべての民へと降り注ぐことを望んでいる。おお、弟子たちよ、わたしはあなたがたを祝福する。

47. あなたがたの靈魂でさえ、自らの力を理解することはできない。あなたがたが人類を包み込んだ兄弟愛に満ちた抱擁についても、同様に理解できない。しかし、私はそれをよく知っている。それゆえ、民よ、私はあなたにこう告げる。常にそのように祈るべきで

ある。なぜなら、これこそがあなたがたの霊の最も崇高な使命の一つだからだ。しかし、もしあなたがたの唇が慰めを与えることができず、また、病める者たちに手を差し伸べて「油を注ぐ」こともできないとしても、あなたがたの祈りは、魂のための翼となり、それを最も遠い場所へと運び、そこに私の平和と愛のメッセージを届けるであろう。あなたがたが人類のために見守り、祈ってきたのだから、わたしもあなたがたのために見守り、あなたがたの心に深く入り込み、そこに苦しみや苦難を見いだしたなら、それを慰め、贈り物を残してやる。その贈り物こそが、あなたがたが今この瞬間にわたしに求めていることの成就となるのだ。しかし、あなたがたは忍耐強くなければならない。わたしを試したり、せき立てたりしてはならない。

48. 確かに、あなたがたが私に願い求める必要はないが、それでも私はそれを許す。それは、あなたがたがまだ幼子であり、苦難に押しつぶされそうになっているからである。

49. やがて、あなたがたはもはや私に何も願う必要がなくなり、私のところに来て、「父よ、あなたの御心に従って、私の中で働いてください」と言う時が来るでしょう。

50. あなたがたの命、歩み、そして食卓にも祝福がありますように。

わたしの平安があなたがたと共にありますように！

教え 303

1. 民よ：この教えによって、人間の知性を通じての私の啓示の最後の年が始まるにあたり、私はあなたがたに、良心の光のもとで深く、かつ極めて綿密な省察を行うよう求める。そうすれば、私があるあなたがたにこう問うたとき、靈的に答えることができるようになるだろう。「私の業をどこまで理解したか、そしてこの道においてあなたがたが踏み出した決定的な歩みとは何であるか？」と問うたとき、心の奥底に集中したにもかかわらず、自分が何をしたのが良かったか、また何をしたのが悪かったかについて明確な認識が得られないならば、あなたがたの行いに対する完全な裁きは、私の言葉の中に見出されるであろう。

2. 私の啓示の最後の年に最初の一步を踏み出す前に、良心によって均衡を保つことが必要です。なぜなら、私は、その年の終わりに、あなたがたが努力の収穫と捧げ物として、従順、理解、そして靈化の果実を私に捧げることを望んでいるからです。

3. 1950年という期間は、世界を不安に陥れる出来事で満ち溢れるだろう。あなた方の生活のあらゆる分野が動揺を余儀なくされるだろう。宗教における人類の神への靈的な崇拜は試練にさらされ、強国もまた試練にさらされ、科学は自然界に現れる大きな兆候を前にして驚愕し、そして人間の生活全般は、人々が「異質」で「異常」と呼ぶような事実や出来事で満ち溢れることになるだろう。

4. あなたがたは、これらすべてが、私の啓示の最後の年を——人々にとって——目に見え、実感できる出来事によって特徴づけるために起こることを知っている。なぜなら、もし私がこの時代の終わりを告げるしるしを靈的な形で人々に与えたとしても、人々は疑い深く、物事に物質的な側面ばかりを重視する傾向があるため、それを認識できないからである。

5. 1950年の間に世界を揺るがすあらゆる試練や出来事は、あの「第二の時代」に、イエスが十字架上で亡くなられた日にエルサレムで起こった出来事のたとえとなるだろう。

6. もしあなたがたが真に備え、今年起こることを注意深く観察するならば、世界に侵入してくる闇、すなわちあの邪悪な力——諸国民や制度を激しく打ちのめす嵐——に気づくことになるだろう。また、人類が靈的に私の臨在を感じ、直感的に「第三の時代」の光を垣間見るその瞬間にも気づくだろう。その瞬間とは、いったいどのような時になるのだろうか？ 私の啓示の最後の瞬間——エルサレム

で起こったように、神殿の幕が靈的に引き裂かれ、人類が私の光を見て真理を悟るその瞬間である。

7. 民よ、恐れるな。私の慈悲があなたたちを覆い、あなたたちの祈りと使命の遂行は、逆境の中であなたたちを守る鎧となるからだ。

また、わたしの言葉があなたがたの間で終わっても、一人きりになることを恐れてはならない。まことに、あなたがたに告げる。わたしがあなたがたの本質を飾った賜物の中で、あなたがたから離れるものは一つもないからだ。多くの人々を導くことを学んだ者は、これからも人々の心を導き続けるだろう。その知性をもってわたしの光を受け入れた者は、偉大な靈感を受けるだろう。靈界の道具や声の伝達者であった者は、引き続きその声を受け取る感性を持ち続けるだろう。そして、言葉、解釈、癒やし、あるいは預言の賜物を持っていた者は、靈性化と信仰を身にまとうことによって真に備えれば、その賜物の力が倍增するのを見るだろう。

8. 私が去った後、あなたがたが力強い民となり、訪ねてくるあらゆる人を受け入れることができるよう、十分に備えなさい。科学者たちや、彼らが持つ肩書き、あるいは靈的な真理を知っていると自負してあなたがたを試そうとする者たちに対して、自分たちが未熟であるとか取るに足らない存在であるとか感じる必要はないのだ。

9. 今、私の啓示のこの時期に、これらの集会所が満員となっているが、その後、それらがもはや足りなくなることを私は望む。なぜなら、それこそが、この民が出発し、世界へと広がっていくのにふさわしい時が来たことを示すからである。

10. あなたがたが心の中で私にこう言っていることを、私は知っている。「主よ、あなたの力と威厳と本質に満ちた御言葉は、大勢の人々をこの光へと引き寄せるといふ奇跡を成し遂げました。しかし、この時が過ぎた後――あなたのように、大勢の人々やキャラバンを引き寄せるといふ奇跡を、一体誰が成し遂げるのでしょうか？」

弟子たちよ、なぜあなたがたはそれほど信仰の薄い者たちなのか。わたしがあなたがたに託した賜物は、確かなものではないのか。あなたがたは、それらによって成し遂げた奇跡を、至近距離で目の当たりにしてきたではないか。まことに、あなたがたに告げる。将来、あなたがたはさらに偉大な業を成し遂げるだろう。それは、あなたがたが、一致、服従、そして靈化というわたしの至高の戒めを果たすための奇跡が起こるのに十分なものである。

11. まことに、あなたがたに告げる。わたしの言葉が伝達者を通じて響き渡るその瞬間、この民の魂だけでなく、霊的な谷において同様に神の光を必要としているすべての存在もまた、震え上がるのである。

12. 彼らに届くのは、人間の言葉の音そのものではなく、わたしのメッセージの真意と靈感である。なぜなら、わたしの声は普遍的であり、その響きは、神の子が住むすべての世界と住処に届くからである。

13. わたしはあらゆる世界へと、わたしの光の一筋を送っている。あなたがたには、この光を人間の言葉という形で届けたが、他の住処には靈感を通じて届けられているのである。

14. その神聖な光線の光の中で、すべての霊は一つに結ばれ、そこから天への梯子を作り、それが皆を同じ地点、すなわち、私の神性の霊的な一粒であるあなたがたすべてに約束されている霊界へと導くのである。

15. かつて地上で肉体的な絆によってあなた方と結ばれ、今はこの世の彼方に生きるすべての存在たちが、自分たちが耳にする声が、地上の何人かにも聞こえていることを知ったとき、その歓喜を想像できるだろうか。彼らはあなた方から離れたわけでも、あなた方を忘れたわけでも、この地上の谷に少し長く残された人々のために何かをすることを怠っているわけでもありません。彼らの慈愛と祝福は、常にあなた方の上に注がれています。

16. そこには、かつてあなたがたの両親、子供、兄弟姉妹、配偶者、友人、あるいは恩人であった者たちが暮らしています。霊界においては、彼らは単にあなたがたの兄弟姉妹に過ぎませんが、あなたがたへの彼らの愛は以前と変わらず、あるいはさらに深まっており、同様に、あなたがたを助け、守る彼らの力もより強大になっています。

17. 人よ、彼らのために祈りなさい。あなた方も、彼らを愛し、彼らのことを思い続けることをやめてはなりません。なぜなら、あなた方の記憶と祈りは、彼らが直面する苦闘における甘美な慰めとなるからです。

決して、彼らが混乱していたり、闇の中に住んでいると想像してはなりません。それは、あたかもあなたがたが彼らに対して裁きを下し、判決を下す能力があるかのように感じることに他ならないからです。この地上の者たちが、隣人の事柄を裁くことにおいてこれほど不完全で不公正であるならば、ましてや、ある魂に対する裁きとなると、それは一体どういうことでしょうか？

18. 改めて申し上げますが、あなたがたにふさわしいのは、祈りとこの世での善行を通じて、彼らを支えることだけです。

19. 彼らは何らかの物質的な形で、例えば誰かの脳に憑依するといった方法や、その他の手段によって、あなた方の生活の中に現れることを望んではならない。そうすれば、私があなた方に教えた霊性を否定することになってしまうからだ。また、彼らを引き出すために特定の記念日を決めてはならない。霊的なものは地上の時間を超越して存在していることを忘れないでください。したがって、霊的な祈りを通じて彼らに近づくには、どの瞬間もふさわしいのです。

20. あなたがたがしばしば「混乱に苦しむ存在」として思い描いてきた者たちのうち、どれほど多くの者が、地上にいた間は自ら見つけることができなかったあの光の道を、あなたがたに近づけるよう尽力してきた者たちであるか！ 彼らのためにこれ以上涙を流してはならない。ましてや、彼らが霊界へと旅立ったからといって、悲しむことなど決してあってはならない。彼らは実際には死んだわけではなく、あなたがたが別れを告げなければならないその瞬間の、ほんの少し前に去ったに過ぎない。しかし、彼らがあなたがたのために道を切り開くことができるよう、そうなるよう、私が定めたのだ。あなたがたが墓地に行くべきではないこと、そして墓の前で流す涙が、無知と物質主義、そして迷いの涙であることを、私がわざわざ言わなければならないだろうか？

21. あなたがたが泣いている人々の魂は生きている。しかし、あなたがたは、土の中に消え去ったあの肉体の中にいる彼らを、死んだものだと固く信じ込んでいる。あなたがたは彼らを喪失した存在だと考えているが、彼らは愛に満ちてあなたがたを待ち、真理と命について証しをしようとしているのだ。あなたがたは、彼らが遠く離れていたり、無感情で、あなたがたの闘いや苦しみに対して無関心であると思い込んでいる。しかし、彼らがあなたがたのためにどれほど多くの岩を道から取り除き、どれほど多くの危険からあなたがたを守っているか、あなたがたは知らないのだ。

22. 無知は、あなたがた自身や他者に対して不公正であり、さらには残酷でさえあるように仕向けています。しかし、私はこう言わざるを得ません。私の教えの言葉を一つでも聞いた者が、どうして無知であり得るでしょうか。

23. 私の言葉は、あなたがたすべてを包み込み、私の愛の炎の中で一つに結ばれ続けるための光の束である。それを聞いた後、それ

を信じ、従うならば、私を愛し、私を賛美するあなたがたは皆、その瞬間から一つに結ばれ続けるだろう。

24. わたしの霊の光は、あなたがたの本質の中核に隠されていたすべての賜物を明らかにした――あなたがたが、その起源から気づかぬまま持ち続けてきたすべてのものを。今こそ、あなたがたが真に自分自身を知り、自分自身と出会い、自らの遺産を知る時が来たことを、わたしはあなたがたに知らせた。そうしてこそ、あなたがたは偉大な霊となるのだ。

25. 時折、私はあなた方に啓示を与えてきた。最初は律法であり、その後、私の教えであり、そして最後には、あなた方の霊的使命に関する完全な知識であった。

26. あなたがたは、私が三度、人々の間に現れたと言うが、正しいのは、私が常にそこにいたということである。人類の第一の時代に正義の律法を明らかにしたあの父、第二の時代には御子イエスにおいてその「御言葉」を人間として現し、そして今、霊的に世界に御自身を現しておられるその父は、あらゆる時代を通じて、その神聖なたとえ話をあなた方に与えてこられました。その意味は、あなた方の魂の成長に語りかけ、あらゆる時代にあなた方に語りかけてきたお方が、ただひとりの神、ただひとりの霊、そしてただひとりの父であったことを知らせるものです。

27. 私があなたがたに「楽しみを控えるべきだ」と言ったとき、あなたがたは私の言葉を誤解し、ついには「私が、あなたがたが喜ぶ姿を見るよりも、苦しむ姿を見るほうが喜ばれるのだ」と考えてしまった。私はあなたがたの父であるのに――どうして私が、あなたがたが笑顔を見せるよりも泣いている姿を見ることを好むなどと思えるのか。私があなたがたに「楽しみを控えるべきだ」と言ったとき、私が指していたのは、魂を蝕むものや、あなたがたの体に害を及ぼすものだけだった。しかし、私はこう言う。あなたがたは、精神と心に有益であり、かつ手の届く範囲にある喜びを自ら手に入れるべきだと。

28. 人間の生涯には厳しい試練が待ち受けているため、その十字架の重荷をより愛おしく、より軽く感じさせてくれる、あらゆる精神的・肉体的な喜びによって、その生涯を和らげる必要があるのだ。

29. 私は、家庭の温もりの中で人生の最高の喜びを見出し、親から子への愛、子から親への愛、そして兄弟姉妹同士の愛を、神への奉仕とするよう努めるすべての人々を祝福する。なぜなら、その一

致、その調和、そしてその平和は、全能の父とその霊的な家族との間に存在する調和に似ているからである。

30. こうした家庭には、魂の光が輝き、わが王国の平和が宿っている。そして、苦しみが訪れたとしても、それを耐えやすくし、試練の瞬間もそれほど苦くはならない。さらに、他者に満足をもたらすことに喜びを見出し、隣人の健全な喜びを共に喜ぶ人々は、なおも称賛に値する。彼らは喜びの使徒であり、偉大な使命を果たしているのだ。

31. まことに、あなたがたに告げる。もしあなたがたが、満足と喜びの瞬間を求め、また内なる平安の時間を過ごすことを理解できれば、この地上の生涯のあらゆる日に、そうした時を過ごすことができるだろう。しかし、そのためにはまず、魂を高め、感情や人生に対する考え方を、より寛大なものにしなければならない。

32. 私がこの言葉を通じてあなたがたに送るこのメッセージは、光に満ちており、それはあなたがたの道を照らし、あなたがたの本質に高みへの発展をもたらすであろう。それは、平和に生き、私があなたがたの存在に授けたすべてのものを健全に享受することを、あなたがたに教えてくれるだろう。この人類は、苦痛の影と戦い、誤った快楽や虚偽の満足への傾きを克服するために、まだ多大な努力をしなければならない。人類は、真理を認識することを妨げる宗教的狂信と戦わなければならない。すべてが、誰も逃れることのできない最終的な破滅に向かってしていると信じ込ませる宿命論と戦わなければならない。そして、はかない快楽——魂を悪徳、苦痛、絶望、そして闇の深淵へと突き落とす感覚的な快楽——ばかりを追いかめるようにさせる物質主義とも戦わなければならない。

33. わたしは、あなたがたが影を離れ、あなたがたが涙の谷と化してしまったこの惑星において、他のあらゆる喜びが小さく取るに足らないものに思えるほどの、魂と心の真の至福をようやく見出せるよう、わたしの光を与える。

34. わたしは今、すべての人々に向けた新たな教えをあなたがたに与えている。すべての人がわたしの到来を待ち望んで祈っていたわけではないが、苦しみこそが彼らを目覚めさせ、わたしを受け入れる準備を整えてくれたのである。

世界は、「イスラエルの民」が第二の時代以来、神の正義を疑う者がいないようにと遺した経験を味わってきた。主の到来を待ち望み、主から希望と知識の光を受け取ろうとした霊的に貧しい者たちに、預言の賜物、神の知恵、そして霊的な力が与えられたことを、あなたがたは知らないのか。もしあなたがたが、それらの魂たちの

行方について私に問うならば、私はこう答えるだろう。彼らは、この地球という惑星にあるあらゆる偉大なものが、彼らの目には単なる地の塵のように映る、そのような生命の世界に住んでいるのだ、と。

しかし、もしあなたがたが、私の言葉や約束が貧弱に見えたために私の王国を一切受け入れなかった者たちに何が起きたのかと私に問うならば、私はこう告げよう。彼らは、金、この世、肉欲、そして権力を渴望したゆえに、世の終わりまで転生と輪廻を繰り返す者たちの一員である。それゆえ、彼らには、正義に基づき、また彼らの霊的な償いとして、その貧弱な富と偽りの権力を備えたこの世界が与えられたのである。

35. 彼らはしばらくの間、神の正義によって試練に遭ったが、真理の王国へと導く救いの道から追放されたわけではない。それゆえ、今、私があなたがたに私の御霊の光を豊かに注ぐにあたり、私は彼らを熱心に探し求め、彼らに割り当てられた試練の時はもう十分であるかどうかを尋ね、今が「第三の時代」であることを彼らに理解させるつもりである。それはまさに、私がユダヤ人に対する裁きについて語った際に言及した「時代が完結する」その時そのものである。

36. あなたがたは皆、わたしとの約束があり、わたしに耳を傾けるために一つにならなければならない。なぜなら、あなたがたは皆、わたしの声を聞かなければならないからだ。

37. すべては、まだ裁かれていないすべての行いが量られる、わたしの正義の天秤の上に載せられる。わたしの臨在と力は、かつてないほどに感じられるようになるだろう。なぜなら、混沌の後に、すべてのものは本来の軌道に戻るからである。

38. おお、民よ、不意を突かれないよう、絶えず目を覚まし、祈り続けなさい。しかし、まことに、あなたがたに告げる。もしあなたがたが世界のために目を覚まし、祈るならば、目に見えないマントがあなたがたを守ってくれるだろう。なぜなら、あなたがたは隣人を愛し、その痛みを自分のことのように感じる事ができたからである。

39. 私は繰り返す。私は、私の臨在、私の力、そして私の正義を、はっきりと感じられるようにするつもりだ。もし私が、墮落した人間が、人生において聖なるものをすべて冒涇することを許したとしても、私はその墮落に一線を引くつもりだ。私が人間に自由意志の道を歩ませたのであれば、万物には限界があることを彼に証明してやる。私が、人間が世の中で権力と偉大さを求める欲望を度を越

して満たすことを許したとしても、私はその歩みを止め、彼が自らの良心によって自分の行いを裁き、私の問いに答えられるようにするのだ。

40. 私は、痛み、破壊、そして死があなた方の生活の中で実感されることを許した。それは、それらの苦い実を通じて、あなた方が育ててきた「木」の種類を理解してもらうためである。しかし、私はその痛みが消え去り、魂が癒やされ、正気を取り戻すようにも導く。なぜなら、そこから愛の賛歌が湧き上がるからである。人々が魂を高揚の白い衣で包む時、その日が来ることは、語られ、また書き記されてきた。

41. その時、すべての者が救われ、すべての者が赦され、すべての者が慰められるだろう。それでは、死とはどこにあるのか。永遠の破滅や、尽きることのない炎とはどこにあるのか。

42. 私は死も地獄も創造しなかった。なぜなら、私の霊が創造の構想を形作ったとき、私が感じたのは愛だけであり、私の懐からは生命だけが湧き出たからである。もし死と地獄が存在するならば、それらは――儚いものである以上――人間の仕業に違いない。そして、人間的なものは何一つ永遠ではないことを、あなた方はすでに知っている。

43. 選ばれた民よ、ここにあなたがたの師がおり、再び道を示している。わたしはあなたがたを、戦い、わたしの大義を守ることを知る勇敢な兵士とする。

44. わたしの愛によって結ばれたあなたがたは、地上の至る所を巡り、「死者」に命を与えるために旅立つ。そして、道に迷った者たち――人類の破壊者となってしまった者たち――に、聖霊の光をもってこの道を指し示すのだ。あなたがたは、この永遠の命のパン、あなたがたが養われてきたこの「乳と蜜」を、あらゆる場所に届けることになる。

45. あなたがたは、私が肌の色や人種によって区別することのない、私の選ばれた民である。私は、あなたがた全員が真の神を知り、この世の混乱に染まらないようにと、あなたがたすべてに呼びかけを行った。あなたがたは、私が遺産を遺し、私の賜物を託し、人類から認められるよう、計り知れない価値のある宝石を残した、私の選ばれた者たちである。

46. わたしは、あなたがたがあの世界へと入り込み、わたしの御姿を仰ぎ見て、人々の群れにその証しを伝えることができるよう、あなたがたの霊的な目を清め、整えた。あなたがたが決して道から迷うことがないように、またそれによって人類を導くことができるよ

うに、わたしはあなたがたに、黄金の文字で書かれた書物であるわたしの知恵を託した。

47. 私は、あなたがたを私の預言者へと変えた。それは、父があの世でああなたがたに示すものを証しし、また、来るべき世代をも備えさせるためである。

48. この第三の時代において、師はあなたがたに呼びかけ、その食卓へと招いた。ある者は物質的な肉体をもって来たり、またある者は霊的存在として来たりしたが、あなたがたは皆、命の甘露を味わった。

49. あなたがたは私の言葉を聞き、「主は天の高みから来られる」と言う。それに対し、私はこう答える。もしあなたがたが「天の高み」という言葉で、清らかで、完全で、永遠で、賢明なを意味するのであれば、その通りである。しかし、もしあなたがたが「天の高み」という言葉を、あなたがたの上、無限の彼方にある物質的な場所を指すものとして捉えているのであれば、それは誤りである。なぜなら、私は万物の中に、そして至る所に存在し、遍在しており、私の霊はすべてを満たし、包み込んでいるからである。

50. あなたがたが、私が「降りてくる」と言うなら、それは正しい。なぜなら、私があなたがたに現れるとき、私は完全なるものから不完全なるものへと降りてくるからだ。私は、人間であるあなたがたに私を実感してもらうために、自らを人間化し、さらには物質化さえするのだ。

51. 今、私の言葉を聞いているこの人々は、まもなく私が現在教えていることの真意を理解し、私のメッセージを他の人々に伝える準備が整うだろう。

52. 現在、私はここにいるこの人々の群れを、人類を代表するものとして受け入れている。そして、私が人類について言及するとき、それは現代の人々だけでなく、六つの霊的時代を通じて地球に住んできたすべての世代のことを指しているのだ。私がこの六つの時代にあなたがたにもたらしたメッセージは、まさに私が「封印」という名で象徴してきたものであり、あなたがたもすでに知っているように、そのうちのまだ一つが解かれなければ、他のすべてのメッセージの真意や意味――すなわち、魂の生命、発展、そして完成という崇高な意味――があなたがたに明らかにされることはない。

53. 知恵の源として、知識の尽きることのない泉として、私は人類にこの言葉の遺産を残す。人類はこの言葉の中に、神聖なるもの、霊的なもの、そして永遠なるものの至高の歓びを見出すであろう。

。

54.すでにその種は地上に広がり始めている。しかし、種が発芽したとき、私は霊の野を肥沃にする水を注ぐであろう。そうすれば、あなたがたは人類の心の中に霊性が花開くのを見ることになるだろう。

55. 今日、初心者数は少なく、弟子たちの数はさらに少ない。しかし、彼らは増え続け、地球上のあらゆる場所や地域へと広がり、人々に「第六の封印」と呼ばれる時代が到来したことを証しするだろう。それは、地球上における人間の第六の霊的段階であるからであり、また、これは私の霊と人間の霊との三度目の交わりであるため、「第三の時代」とも呼ばれる——エリヤがさまざまな道からあなた方をついに集めた時代である。

私は、あなたがたが困難な使命を果たす中で、自らを完成させることができるように、再びこの世にあなたがたを遣わした。私の教えは、あなたがたが霊化できるよう備えさせるものである。

56. 私はまた、友としてあなた方に語りかけます。この世の試練の中で、もはや孤独を感じることなく、御自身を現し、人間の知性を通じてあなた方に語りかける神への信仰と信頼を、心の中に抱くことができるようにするためです。

もしあなたがたがわたしを感じることはできなかったのなら、それはあなたがたが準備をしていなかったからである。しかし、もしあなたがたが心を整え、魂をわたしへと向けるならば、わたしを感じ、霊の目をもってわたしを見るようになるだろう。

57. 私はこの期間、あなたがたに律法を思い起こさせ、それを果たしてもらうために語りかけてきた。私は、霊界があなたがたと共に生き、助言し、支え、守ってくれるように許した。これらの霊的存在たちは、その霊の中に宿る父の愛をもって戦い、働きかけている。

58. わたしがあなたがたに伝える言葉は、あなたがた全員がわたしを理解し、あなたがた全員がわたしの聖霊の光によって照らされるように、極めて平易で単純なものである。あなたがたがもはやこの知性の器官を通じてわたしを聞き取れなくなったとき、あなたがたがわたしの弟子として準備を整え、立ち上がって、自らの言葉と良き模範をもって、わたしの臨在を証しできるようになることを、わたしは望んでいる。

59. 人々はあなたがたのところに来て、教えがどのようなものか、また、あなたがたの師が人類のために託した霊的な食卓とは何かを尋ねてくるだろう。しかし、あなたがたは、私の言葉に含まれる真意と愛を彼らに示さなければならない。

60. 真理はいつの時代も勝利を収める。わたしはあなたがたに真理の言葉を授ける。それをもって、あなたがたは隣人の涙をぬぐうのだ。

信仰の自由が保障されているこの時代に、偽りに奴隷にされてはならない。今、私は再び愛をもってあなたがたを教えている。そして、私の手には、あなたがたに私を信じるよう強いるための鞭などない。もしそうであったなら、私はもはやあなたがたの父でも、神でもなくなってしまふからだ。

61. わたしの神聖な栄光を求め、赦すことを学びなさい。わたしはあなたがたに賜物を託した。それは、あなたがたがそれらを善用し、人類に指針を与えるわたしの良き弟子となるためである。エリヤとわたしの霊界は、あなたがたの十字架が重くなりすぎないように、あなたがたと共にいる。

62. このメッセージに心を開く信仰深い人々よ、そして私の教えに従う善意ある人々よ、幸いである。彼らは光と平和の子となるからである。

私の平安があなた方とともにありますように！

教え 304

1. 道を見出し、わたしのもとに来る者たちは幸いである。わたしの言葉によって指針を求める者たちは幸いである。わたしは道であり、あなたがたはその道を歩む者たちであり、この道を通して山の頂上にたどり着くであろう。その高みから、あなたがたの魂が成長の過程で歩んできたすべての道筋を見渡すことになるだろう。

2. あなたがたが遭遇するあらゆる障害や岩塊は、試練となる。それを乗り越えれば、功德が与えられるだろう。

3. 誰が、自然の神秘を理解した、目に見えず耳にも聞こえないあの「彼方」の神秘に踏み込んだ、神聖な秘儀に到達し、その御心を知っている、と断言できようか。誰が、自らの行動を精神的・物質的な本性と調和させるほどに、自分自身を深く知ることができたというのか。

4. あなたがたは依然として、目的もなくただ漫然と歩む弱い存在である。なぜなら、あなたがたが持つ知識は人類に奉仕する準備を整えてはいるものの、あなたがたは精神的な賜物を開花させておらず、私や自分自身と調和して生きるための霊的な境地にはまだ達していないからだ。もしあなたがたが自分自身を知ることができなければ、他者を知り、彼らを完全に導くこともできないだろう。まず、真理の道へと自らの歩みを向けることを学ばずに、どうして人々の導き手となれるというのか。

5. イスラエルの民よ、私がこのようにあなたに語りかけるのは、師が私の業におけるあなた方の働きを軽んじているからではない。それは、霊性へのあなた方の歩みに限界がないこと——歩前進するごとに、私の業の偉大さを理解するためのさらなる光を得ることになる——を、あなた方に悟らせるためである。

6. わたしは人間に、自然の構成やその現れを探求することを可能にする知性を授け、宇宙の一部を観察し、霊的な命の現れを感じ取れることを許した。なぜなら、わたしの教えは魂を妨げるものでも、人間の発展を阻害するものでもないからだ——それどころか、それは人間を解放し、啓発して、探求し、熟考し、研究し、努力するように導くのである。しかし、人間が知的な探求の最高峰と見なしているものは、ほんの始まりに過ぎないのだ！

7. すべては、魂の発展のために用意されてきた。明日の人類が、私と霊と霊とで結びつくよう指導できるよう、あなたがたは準備を整えなさい。現代において、世界は、さまざまな世界観によって混乱に陥っている。そして、私の聖霊の光こそが、世界を照らし、

人々が私の靈感を受け取ることで、平和に生きるために彼らを靈化させることのできる純粋な理想を開花させることができるのだ。

8. 私の霊の教えは、真の理解と靈的価値の認識において人々を一つに結びつける。私はその結びつきの中心であり、彼らの魂の開花のための靈感の源である。

9. あなたがたは、苦しみ、喜び、そして問題を抱えて、私のところに来なければなりません。私は、あなたがたの痛みの代わりに、高潔であり、私にふさわしいと感じる喜び——すなわち、過ちを清める機会——を授けます。

10. すべての人間は、私の聖霊の光によって清められ、その光が彼らに、隣人を愛するよう促すでしょう。このようにして、世界における平和は確固たるものとなり、すべての人が一つの力、行動、そして心意気において団結するだろう。そして、いかなる宗教も成し遂げられなかったことを、人々が受け入れた神の靈感によって成し遂げられることになる。それゆえ、この第三の時代において、私はすべての人に、私のもとへ至るための平等な機会を与える。私の霊の教えは、対立の種となることはない。

11. おお、人類よ、たとえ今、あなたの耳が私を聞き取れず、あなたの目が暗い目隠しで覆われていたとしても、やがて聖霊の光を見、私の言葉を神聖な音楽のように聞き取る日が来るだろう。

12. イスラエルよ、あなたのすべての同胞が、あなたがたが授かった恵みの賜物を得るにふさわしい存在であることを悟りなさい。動揺している者を見かけたら、手を差し伸べなさい。あなたがたは皆、同じ目標に到達しなければならないことを知っているのだから。

わたしは、あなたがたに、人間の知性を通じてわたしの言葉を聞くことを許した。しかし、あなたがたの多くの人々は、この啓示の真実を否定し、また、この時代にわたしが再びあなたがたのために道を整え、あなたがたの間でわたしの恵みを注ぎ、わたしの神聖な慈悲によって準備された伝達者にわたしの普遍的な光が宿っていることさえも否定するだろう。彼らは、私の神性が、いかにして不完全な被造物を通じて現れ得るのか、また、私がその知性を通じてあなた方に自らを明らかにしているのかを理解できないだろう。その代わりに、彼らは依然として、古い礼拝の儀式や宗教団体の儀礼、目に見える形の中に私を探し続けるだろう。全能である神にとって、人間の知性を通じて自らを明らかにすることが、果たして難しいことなのだろうか？ 果たして、あなた方は、像や儀式的な崇拝行為を通じてのみ、私への信仰を感じたいとでも言うのか？

13. もしあなたがたが、全能者であり、創造主であり、万物に影響を及ぼす普遍的な権威である私を信じ、私が全被造物の中に存在すると信じるならば、私が選ばれた者たちの知性を整え、彼らを通じて自らを現すようにしたことには疑いを抱くことはできないはずである。

14. わたしは、あなたがたが呼吸する空気の中に、世界が存在する広大な宇宙の中に――あなたがたの惑星へとその光線を放つ太陽の中に――目に見えるもののの中にも、あなたがたには見えないもののの中にも、自らを現している。

15. 選ばれた民よ、他者を非難したり批判したりして、その働きに臨んではならない。手を差し伸べ、様々な形でわたしを求める同胞たちの手を握りしめよ。あなたがたが持つ知識を彼らに伝えるために、彼らに語りかけなさい。しかし、あなたがた自身も何らかの方向性を受け取れるよう、彼らの考えに心を開いて耳を傾けなさい。なぜなら、誰一人として自分だけで十分である者はおらず、あなたがた全員が、わたしの知恵と隣人の知恵を必要としているからだ。

16. スピリチュアリストとして、あなたがたは、隣人がどの宗教団体に属していようと、彼らと愛に満ちた関係を築かなければならない。そうすることで、あなたがたがわたしによって備えられてきたことを証しすることになる。そうすれば、あなたがたの崇高な行いはすべての人の心に届き、利己心なくそれについて考えるすべての人々に理解されるようになるだろう。

17. わが民よ、スピリチュアリズムには目に見える形などない。そのような表れや儀式を必要としないのだ。あなたがたの行いに、理解しがたいものや神秘的なものが表れている限り、あなたがたは真のスピリチュアリストにはなれない。印象を与えるために必要だった外見的な装い、表現、形式、そして物事は取り除かれた。なぜなら、私の言葉には、あなたがたが私を認識し、完全さへと高められるのに十分な力があるからだ。

18. 1950年を過ぎれば、真のスピリチュアリストたちは、私があなたがたに与えた教えを理解し、それを、私の慈悲を必要としている人々に伝えるというただ一つの目的のために実践するようになるだろう。

19. 明日には、人々は、これまでごくわずかな人しか耳にすることがなかったこの言葉をよりよく理解できるようになり、それは広く理解されるようになるだろう。

20. 1950年が終わる時点で、私の言葉がすべての人に理解されていなくても、それは問題ではない。残されたわずかな種さえあれば、将来、実が熟すには十分である。

21. 愛する弟子たちよ、あなたがたは星のようであり、果てしなく広がる海の中の灯台のような存在である。その衣を保つよう努め、心を清め、それを聖所へと変えよ。そこでは、第六の燭台の松明が、昼も夜もすべての魂を照らすのである。

22. わたしのようにあれ——謙虚で、心から柔和であれ。互いに愛し合い、互いに赦し合いなさい。水晶のように澄んだ水の川のようにあれ。その手にたった一つの実を携えなさい。たった一冊の書の教えを、人類のための救命ボートとして提示しなさい。

23. わたしのもとに来なさい。わたしはあなた方を待っている。求める者には与えられ、探す者は見出し、この扉を叩く者には開かれる。わたしは、わたしの言葉という鑿で、あなた方を岩塊のように削り出し、聖霊の光に浸してあげる。

24. ああ、愛する弟子たちよ！世の誘惑から背を向けなさい。なぜなら、私はあなたがたを、明日、師のようになるように備えてきたのだから。

25. 私が人間の知性を通じてあなたがたに啓示を伝える最後の日には、「石」でさえも泣くだろう。しかし、私はすべての人に私の平和の口づけを感じさせ、一人ひとりを私の胸に抱きしめる。そしてその後、あなたがたが準備を整えたのを見れば、私は「雲」の中からこう告げるだろう。「ここに荒野がある。それを通り抜け、私があなたがたに与えたものを世に届けなさい。」

26. おお、弟子たちよ！私は明日のことについて語り、あなたがたを励ましている。それは、私が去るその瞬間に、あなたがたが悲しみのあまりすすり泣くことのないようにするためである。なぜなら、私はその後、あなたがたが悲しむことを望まないからだ——私は、あなたがたが教えを説き、泉の透き通った水を豊かに注ぎ、人類に豊かな実りをもたらす姿を見たいと願っている。

27. わたしの預言者たちのように証しをし、聖霊としてわたしがあなたがたの中にいることを宣べ伝えなさい。あなたがたはもはや声の媒体を通してわたしを聞くことはないだろうが、霊的にはこれから永遠に、わたしの教えを受け続けることになる。あなたがたが霊的になれば、喜びに満ち溢れるだろう。なぜなら、わたしを感じ、靈感を受け、あらゆる試練の中で、わたしがあなたがたと共にいることを体験するからだ。あなたがたは、霊から霊へと、戦いを

前進するよう励ますわたしの声を聞き、わたしがすべての子供たちのそばにいるからこそ、力を得たと感じるだろう。

28. 今日、私は父として、子として、そして聖霊として、あなたがたの中に現れ、本質、臨在、そして力においてあなたがたと共にいる。

29. さあ、私の民イスラエルの一部をなす者たちよ、集まってきなさい。地上でマリアに似た母である女性たちよ、私のところに来なさい。処女たち、若者たち、子供たち、そして大人たちよ、私のところに来なさい。私はあなた方を受け入れ、私の平和の口づけを与えるからである。

30. あなたがたの魂をわたしのもとに来させなさい。なぜなら、わたしはあなたがたの魂が必要とするものを与えることのできる者だからである。わたしは、転生した魂にも、転生していない魂にも、その恵みを注ぐ与え手である。

31. 選ばれた民イスラエルよ、あなたがたはもはや幼子ではない。なぜなら、この霊的な道においてますます成長し、数々の転生を通じて多くの知識を身につけてきたからだ。今、この第三の時代において、あなたがたは神聖なる師の弟子であり、私が日々与えてきた教訓を学び、霊的に偉大となり、人類にとって未知なるものを知る者となるのである。

「イスラエル」は、来るべき時代において、その知識、私の業に対する認識、団結、闘い、従順、そして私の神性および同胞への愛によって、偉大となるであろう。なぜなら、もし私の民がこの霊性を持ち合わせていなければ、世界は私の業を、単に地上におけるもう一つの教えとしてしか見なさないからである。

32. わが民が自らを備えず、わたしを理解せず、霊性を高めないならば、これらすべてが起こることになる。それゆえ、わたしはあなたがたに言う。今こそ、あなたがたが自らを新たにし、わたしの教えを実践することによって霊的に高められるべき時である。

33. しかし、私はこの第三の時代に、聖霊の光をもって自らを現すために、無駄にやって来たのではない。なぜなら、あなたがたは、私が最初に清め、汚れを取り除き、強くし、教え導いた者たちだからである。それは、あなたがたが困難な使命を果たす準備を整え、使徒として、人類の年長の兄弟姉妹として高みへと立ち上がり、人類にとって大空の星のような存在となり、そうして、あなたがたの同胞たちが、わたしや過去の時代の使徒たちによって与えられた預言の成就を、このようにはっきりと認識できるようになるためである。

「イスラエル」よ、あなたは諸民族、諸国の間でその地位を確立し、彼らもまた永遠の命のパンを糧とすることができるようにするのだ。

34. わたしは、あなた方を、預言、わたしの教え、神の啓示、そしてわたしの臨在の証が記された「開かれた書」とする。この書は、この知識を求める者には開かれるだろう。あなた方は、光と真理をもって多くの問いに答えることになる。あなた方は偽り者ではなく、わたしの業を守り、世がそれを冒瀆することを許さない。

35. この教えは、あなたたちだけのためのものではない。なぜなら、あなたがたが主の模範に従って準備が整い次第、言葉と行いをもってわたしについて証しするために旅立つべきだからである。わたしは、自らの知識を誇りとしていた哲学者や科学者たちを、あなたたちの元へと導く。しかし、彼らの学問を恐れてはならない。わたしの知恵の前では、彼らは極めて小さな存在に過ぎないからである。

36. 人々の知性があらゆる曇りから解放されず、その内に秘めたあらゆる闇から解き放たれない限り、彼らはわたしを理解することも、わたしの使者や使徒たちを認めることも、また将来、師として現れる者たちを認めることもできないだろう。

37. イスラエルの民よ、よく考え、あらゆる狂信や物質主義の虚栄から自らを解き放ち、自らの使命を完全に果たせるようにしなさい。

38. もしわが民が、わが意志に従って立ち上がり、努力しないならば、その過ちに気づかせるために、彼らに課される試練は極めて大きなものとなるだろう。そして、その試練は、彼らが自らの義務を認識し、理解することを学ぶよう、彼らの強さに応じて、それに見合った強さを持つものとなる。

39. わたしはお一人お一人の体の中に、わたしの霊の一部である光の原子を宿した。そして、その時が来れば、これらすべての粒子は、わたしの懐へと戻らなければならない。残りの人類に転生した魂たちは、あなたがたの魂と同じであり、その中には、同様にわたしを求める存在もいる。彼らもまた、わたしに問いかけようとして、わたしのもとへと昇る術を知っている。

また、人類が被っている動揺の理由を尋ねるために私のもとへやって来る者たちもあり、彼らは私にこう言います。「父よ、なぜ私たちの祈りに応えてくださらないのですか？ なぜ、私たちが失敗しないための御力を感じられないのですか？ 私たちは、まさか御子の身ではないというのですか？」と。こうして魂たちは私に叫びま

すが、彼らは今、自らを清めていることを知りません——彼らが「第三の時代」に生きていることを知りません——彼らが、転生した者たちと転生していない者たちのための「復活の時代」にいることを知らないのです。

人々は、この世に属するものを誇りとしてきた。彼らは傲慢に満ちており、自らの魂が私のもとへ昇ることを許さなかった。

40. この時代において、私の意志は、すべての者が私のもとに来ること、霊的な世界で私を求め、そこで彼らの父を見出すことにある。

41. この時代において、イスラエルよ、あなたは功德を積み、自らの模範をもって、人々にわたしとの交わりの中で生きることを教えなければならない。

42. 私があなたがたの過ちについて語る理由は、私にとって隠されたものは何一つなく、あなたがたが私の前で清らかな器となるために、自らを新たにする必要があるからに他ならない。私はあなたがたに私の言葉を授けた。その言葉には、あなたがたがあらゆる誘惑と試練を乗り越えるための私の力が宿っている。私は、あなたがたの魂に関わる事柄や、人間としての生活に関わる事柄を理解できるよう、あなたがたを啓発した。そうしてこそ、あなたがたは神の戒めに従うことができる。なぜなら、あなたがたは私の弟子であり、私はあなたがたの魂がますます高みへと発展し、物質主義の重荷や、私の業の中に導入してしまった習慣的な礼拝行為の下で、もはや崩れ落ちることがないように、あなたがたを教えているからだ。もはや、不必要なものに足を止められてはなりません。なぜなら、あなた方にはあらゆる障害を乗り越える力と必要な知識があるからです。絶えず前進し続けなければなりません。

43. あなたがたが清らかさと脱物質化を達成するにつれて、あなたがたの神への崇拝はより霊的なものとなり、わたしの業におけるあなたがたの礼拝の行いは、より簡素なものとなるだろう。なぜなら、あなたがたは私の業において、自分の意志のままに振る舞い、霊化という原則に従わず、祈りを天に捧げるために心を整えることもなく、ただ言葉だけで書き記された祈りを私に捧げただけであり、それによってあなたがたは、他の人々と同じことをしていたからだ。なぜなら、あなたがたの儀式、礼拝の仕方、伝統は、人々が人類に対して示すものと同じだったからだ。それでは、あなたがたは一体どこが異なっていたのか？何が他者とは違ったのか？何もない、イスラエルよ。あなたがたは私の言葉を物質化してしまったし、私の霊的世界に対しても同じことをしたからだ。あなたがたの礼拝

行為は、人類と同様の感覚への執着に陥り、あなたがたの象徴も同様であり、あなたがたは私の業の内部においても、彼らの不和や利己心を露呈してしまったのだ。

44. それゆえ、人類がどうしてあなた方を信じることができたのだろうか？ もしあなたがたが、他の人々と同じ姿を見せているのなら、人類があなた方の振る舞いを通して、どうしてわたしを認識できたのだろうか？

父は、あなたがたの歩みが極めて遅く、感覚に縛られているのをご覧になり、もはやあなたがたに寛容さを示すことはなく、そこで、終わりに近づきつつある御言葉をもってあなたがたを驚かせるべく、あなたがたが団結し、集まるよう命じられた。そして、何の妥協もなく、父はあなたがたに、あらゆる物質主義から解放され、あなたがたの礼拝の行いを清めるよう命じられた。なぜなら、それらは霊的なものというより、感覚的なものに過ぎなかったからである。しかし、私の業は霊的なものであり、私の業には、魂を高め、あなたがたの人間としての生活を刷新し、「肉」と魂が崇高な生活を送れるようにするという目的がある。私の意志は、もはや私の民が深淵に堕ち、そこで私の業を行うことを許さなかった。

45. それゆえ、私の戒めを受け取ったとき、イスラエルには物質主義ゆえの混乱が生じた。しかし、ある者たちは、イスラエルの新たな目覚めの時が来たこと、父が彼らを日常のルーチンや古い慣習から引き離してくださったことを魂で悟り、敬意と服従をもってこの戒めに従い、父に感謝した。

46. これらすべての試練は、日常の習慣に慣れきっていたあなたたちを動揺させた。なぜなら、あなたたちは、誤った礼拝行為によって、自らの知性と魂が向上するのを妨げていたからである。

47. 民よ、今やあなたは知っているはずだ。もし私が与えた教えに従わず、自分の義務を果たさなければ、私の言葉を聞いたとしても何の益もなかったということだ。なぜなら、あなたがたが私の言葉を受け取ったならば、それを実践することが私の意志だからである。人間の知性による私の啓示の終わりが近づいているからだ——1950年を境に、あなたがたはもはや私の霊界の声も聞くことができなくなるのである。

48. 私は、あなたがたがこの理由で魂に痛みを感じることを望まない。なぜなら、私はあなたがたを強い魂となるよう備えさせてきたからである。そうして、明日、あなたがたが、灼熱の太陽の下で疲れ果てた旅人に木陰を与える木々のようになるためである。また、私が去るこの瞬間に、あなたがたが「第二の時代」に私にもたら

したのと同じような痛みを、私の霊に与えることも望まない。あなたがたが、再び自分の罪、不従順、失敗という十字架を私の肩に負わせることを、私は望まない。私はイスラエルにおいて、従順、義務の履行、刷新、霊化、そしてあなたがたの向上を見たい。そうして、あなたがたが私と霊と霊とで交わることができるようにするためである。

49. イスラエルよ、もはや眠っている場合ではない。人類を目覚めさせるという使命に専心するために、あなたは完全に目覚めなければならない。なぜなら、私の光はあらゆる知性を照らしているにもかかわらず、私は私の子供たちが無気力な様子を、私の律法がほこりをかぶった書物の中に眠っているのを見ているからだ。しかし、選ばれた民であるあなたは、人々を導き、彼らのために「見張る」 must のだ。

50. あなたは、狂信的になることなく、この世に霊の教えを語りなさい。

51. 霊と霊との対話を実践し、それを日々さらに完成させていくがよい。なぜなら、あなた方と人類が私と交信することこそが、私の意志だからである。この結びつきを通じて、あなた方は私の靈感や使命を受け取り、私はあなた方の魂を受け入れ、あなた方の祈りを聞き、あなた方の霊的な腕が私を抱きしめることを許すであろう。

。

52. あなたがたが、霊から霊へと私とつながることを学んだとき、あなたがたの賜物は開花し、な宗教的实践の中で、それらの賜物は栄光と霊性の中で花開くであろう。そうすれば、あなたがたは霊的な世界で私を求め、あなたがたの礼拝は完全なものとなるであろう。

53. 人間の知性によるこの啓示は、もはやあなたがたの間には存在しなくなる。私は、私が去った後にあなたがたが孤児のような孤独を感じることも、死があなたがたを不意に襲うことも、またあなたがたの中に弱さが生じることも望まない。なぜなら、1950年以降、あなたがたは準備を整え、霊から霊へと私を求め、調和と私の平安のうちに生きようになるからだ。そうすれば、あなたがたは失われた時間を取り戻し、この惑星に生きている間に、わたしの王国に近づくことのできる霊性の段階に到達するだろう。そして、あなたがたは、わたしへの崇敬を捧げるために、儀式や儀礼、あるいは物質的な象徴を必要としないことを世界に証明するだろう ――あなたがたの礼拝のあり方は高潔で霊的なものであり、あなたがたの信

仰は、人生の道、人々の心、そして魂に光を照らす松明であることを。

54. 私の啓示の期間は、あなたがたが、魂の再生と高揚へと導くような霊性の段階に到達するのに十分なものであった。

55. 私は今、あなたがたが山を登るのを助けています。私はあなたの方の手を引き、その目標へと導いています。そして、私の霊界もまたあなた方を支えるよう許しました。彼らはあなた方の信仰を深め、あなた方の歩みが確かなものとなるよう配慮し、使命を果たす上でもはや疑いが生じないよう、また、長年にわたり、何世紀にもわたって歩んできたその道から、もはや何ものもあなた方を引き戻すことのないようにしているのです。あなたがたが砂漠を横断する際、私は生活に必要なものを用意しました。それゆえ、今やあなたがたは私のすぐそばにいます。

56. 私が人間の知性を通じて啓示を行う時期が終わりに近づいている。その時、あなたがたは旅を続けるために出発しなければならない。なぜなら、ここ地球はあなたがたの目的地ではなく、また、あなたがたにとっての休息の場でもないからだ。私は、あなたがたが待ち受ける戦いに十分に備えることを望んでいる。そうすれば、私があなたがたに授けた賜物によって、あなたがたは師となり、私の使徒となり、私の証人となるだろう。私は、あなたがたが、この人類を構成する様々な民族に私の光をもたらし、大きな松明のようになることを望んでいる。

57. あなたがたは私のそばにいて、私の平安を享受し、備えをするために私の教えに耳を傾けている。しかし、混沌の中にあり、極めて苦い杯を飲み干しているこの世界、そしてこの世に蔓延する混乱を、決して忘れてはならない。私はあなたがたが無感覚になるのを見たくない。なぜなら、この世界の嘆きの叫びは、あなたがたにも届くべきものだからである。

58. あなたがたは、私に対して最も大きな責任を負っている者たちである。なぜなら、私は人間の知性を通じて、あなたがたに私の言葉を与えたからである。私の業の中で、あなたがたの行いがより完全で、より霊的なものになることを私は望む。なぜなら、エリヤと私の霊界によって準備された、あなたがたが至る所に私の教えを広める日が、もはや遠くないからだ。私の王国はすべての人を待ち望んでおり、あなたがた一人ひとは、自らの功績と魂の謙虚さによって、私のもとに来なければならないのだ。

59. あなたがたはしばしば、心の底から私にこう言った。「師よ、父よ、なぜあなたは、これほど繊細で深遠な御業を、これほど罪深く、それにふさわしくない人間たちに委ねられたのですか？なぜ、これほど大きな責任を私たちの手に委ねられたのですか？なぜ、あなたが『イスラエル』と呼ぶこの民を、これほど不器用で無知であると思なしているにもかかわらず、その民に全幅の信頼を置かれたのですか？なぜ、これほど多くの試練、これほど多くの浄化、これほど多くの狂信や偶像崇拜を経験してきた私たちを選ばれたのですか？

しかし、わが子らよ、こう言おう。まさにあなたがたこそ、大いに清められ、試練の只中でわたしを認めた民だからである。試練はあなたがたをわたしに近づけた。それゆえ、わたしはあなたがたを、選ばれ、恵まれた民として他の諸国民に紹介したのだ。それは、あなたがたを媒介として、彼らがわたしの業を受け入れ、知り、それによって刷新され、霊化されるためである。

しかし、私があなた方を選んだのは、あなた方に対してより強い愛情を抱いているからでも、他の人類よりもあなた方を愛しているからでもありません。また、あなたがたを賜物と恵みの所有者としたのは、あなたがたが父の目にふさわしいからでもありません。あなたがたが清めの過程を経たのは、あなたがたこそが最も多くの罪を犯し、最も多くの過ちを犯した民であり、それゆえに最も大きな償いをなすべきだからなのです。

60. 民よ、汝の良心に問いかけ、果たして汝がわが御前にふさわしい者であるか熟考せよ。汝の功績が、わが御前に立つに足るほど大なるものであるかを見極めよ。汝の過去を振り返り、この世を歩む中で行ってきたことが、わが右の座に汝を座らせるにふさわしいものであるか、よく考えよ。

自分の過去を振り返った上で、私の恵み、賜物、恩恵、そして律法を受ける資格を、あなたが獲得したかどうか、私に告げなさい。

「いいえ」と、あなたがたの心は私に言う。「あなたは、私たちが恩知らずな民であり、常にあなたに背いてきた民であると、何度もおっしゃいました。」

しかし、わたしはあなたがたにこう言おう。わたしは、あなたがたがいつの日か清らかな思いを持つ民となり、偉大な業を成し遂げ、魂の大きな高揚を得ることを、わたしの霊の深い願いをもって、あなたがたに恵みを与えたのだ。

61. 真理の種を花開かせるのは、あなた方の孫たちとなるでしょう。あなた方はまず身内の中に、そして次に人類の間にその種を蒔くことになるのです。

62. イスラエルよ。1950年を過ぎれば、あなたにとってすべてが変わるだろう。あなたの礼拝の行いや知識はさらに深まり、あなたの行いはより霊的になり、あなたの思いと祈りはより高揚したものとなり、あなたはさらに霊的な存在となるだろう。なぜなら、その時には、あなたはもはや物質主義の中で生きることはなくなるからだ。

63. 私は、あなたがたが人々の痛みを感じ取れるよう、あなたがたの心を敏感にする。今日、私があなたがたに私の言葉を授けるように、明日、あなたがたこそが、それを世界に伝えなければならない者となるのだ。人類が私のもとに来ようとしなかったのだから、明日、あなたがたが人類のもとへ行き、私の名において、私が人類に遺産として残した愛のメッセージを伝えなければならない。

64. 信仰も、希望も、神もないこの人類の中で、あなたがたが遂行しなければならない戦いと働きは、大きなものとなるだろう。私は彼らのそばにいるにもかかわらず、彼らは私を感じ取らず、私の存在に気づいていない。なぜなら、彼らは感覚的な方法で私を見ようとするからであり、霊の目をもって私を見ないため、私を拒絶し、私を忘れてしまうのだ。まもなく、あなたがたが私の使徒として立ち上がり、力強く霊的な声で人々の群れを目覚めさせ、彼らを信仰へと、霊性へと導くべき時が来る。

65. 現代において、1950年以降、私が自らを証しするために用いるのは、ただ12人の心だけではない。今日、私が全き希望と信頼を寄せているのは、私の祝福された民イスラエルの中から選ばれた14万4千人であり、人類が彼らを通して私の業を知るようになるためである。

66. あなたがたは人類の中で強き者となり、最後までその使命を果たさなければならない。しかし、あなたがたは常に私の御霊によって守られるだろう。私があなたがたの守りとなり、霊的な意味で、私の本質、私の臨在、そして私の力をあなたがたに託す——それは、あなたがたが、全被造物に現れている愛、すなわち霊的な愛を感じ、実践するな程度に応じて行われるのである。

私の平安があなた方とともにありますように！

教え 305

1. 人類の靈的生活は、三つの時代、すなわち三つの期に分けられる。第一の時代には、私は「父」として自らを明らかにし、第二の時代には「師」として自らを顕現し、第三の時代には「審判者」として自らを現す。

2. これらは、私が人々に啓示した三つの段階であり、その間、あなたがたは私を完全に知らなければならない。しかし、ただ一つの神聖な靈しか存在しない場所に、三つの神や三つの人格を見出そうとしてはならない。なぜなら、現代のあなたがたは、これまで神秘に包み込み、理解不能なほど複雑にしてきたすべての事柄を、単純化して受け入れることができるようになってきているからだ。

この「神殿」は存続するだろうが、この事業は何世紀にもわたって進展が見られず、今こそ、それを完成させ、あなたがたの父に捧げることを目標として、これを継続しなければならない。

3. 地球上のすべての民族がこの宣言に立ち会う必要はない。なぜなら、私は「第二の時代」にそうであったように、書物や書籍を通じて、私の教えが地球全体に広まるよう手配するからである。そうすれば、私の靈的なメッセージは広く知られるようになり、善意ある人々はそれに従おうと努めるだろう。

4. この謙虚で質素でありながら、神聖な光に満ちた書物の中で、人々はあらゆる疑念の解明を見出し、かつては部分的にしか明らかにされなかった教えの補完を発見し、古のテキストに象徴として隠されているすべての事柄を解釈するための、明確かつ簡潔な方法を見出すことになるでしょう。

5. この靈的なメッセージを受け取った後、その内容の真実性を確信し、感覚的な刺激への渴望、偶像崇拜、そして狂信と闘い、その知性と心をあらゆる不純物から清めようとする者は、自らの魂を解放し、それに喜びと平安をもたらすであろう。なぜなら、そうして初めて、その魂は、待ち受ける永遠を勝ち取るために戦うことができるようになるからである。しかし、外見的な礼拝行為に固執し、この世のものへの愛に執着し、魂の開花や発展を信じない者たち――まことに、私はあなたがたに告げる。彼らは取り残され、自らの遅れと無知に気づいたとき、涙を流すことになるだろう。

6. あらゆるものが絶えず成長し、変化し、完成へと向かい、開花していく中で――なぜ、あなたの魂だけが何世紀にもわたって停滞し続けなければならないというのか。

7. 人間が成し遂げるあらゆる行いの先頭に立つべきなのは、人間の靈魂である。なぜなら、地上での命は靈魂に託されているからだ。それにもかかわらず、あなたがたはこの世においてその正反対のことをしている。靈魂は、その至高の使命を怠り、地上の目標に没頭し、あなたがたが作り出したその生活の陶醉にますます深く溺れていくからである。

8. あなたがたは科学を通じて多くのことを発見し、学んできたので、創造のあらゆる存在に存在する絶え間ない発展というものを知らないわけではない。それゆえ、私はあなたがたに、自分の魂を、長い間その状態に置いてきたあの後進性と停滞の中に、そのまま放置してはならないことを理解してほしい。また、周囲のあらゆるものとの調和を成し遂げるよう努めなければならない。そうして初めて、自然がその秘密を隠すのではなく明らかにし、自然の力が敵対するのではなく、奉仕者、協力者、兄弟となるような日が、人類にとって訪れるのである。

9. 私がその魂を地上に送り出し、人間として転生させたのは、その者が地上に存在するすべてのものの支配者であり主となるためであり、私が実際に目にするような、奴隷や犠牲者、あるいは苦しむ者となるためではない。人間は、自らの欲求、情熱、悪徳、そして無知の奴隷である。

10. 人間は、この地上を歩む中で、精神的な高みへの欠如がもたらす苦しみ、過ち、そして運命の打撃の犠牲となっている。人間は、人生において自分に与えられている相続分を知らないがゆえに、自分が何を持っているのかを知らず、まるで何も持っていないかのように振る舞うため、貧しいのである。

11. この人類は、まず目覚め、靈的生活の書物を学び始めなければならない。そうして、この思想の世界が世代から世代へと受け継がれていくうちに、やがて私の言葉が成就する、その祝福された種が現れるだろう。私はあなたがたに、この人類はいつか靈化に達し、すべての被造物と調和して生きることが理解し、魂と理性と心が歩調を合わせて進むようになると告げた。

12. 人間の悪が頂点に達しているこの「第三の時代」は、それにもかかわらず、和解と赦しの時代となるだろう。

13. 人々が、利己的な目的や敵意に駆られて、な敵と呼ぶ同胞の滅亡を画策している間、私は、彼らに自らの行いを裁き、認識させることによって、彼らを裁かねばならない時を準備している。

14. その裁きの時、良心が問われ、その光が輝き、理性と心を照らし出すとき、人々は髪をかきむしり、齒ぎしりをして、私にこう

言うだろう。「主よ、どうして私はこれほど多くの悪を犯すことができたのでしょうか？なぜ、私がこのような忌まわしい行いを成し遂げることを許されたのですか？」

15. この裁きの瞬間に目覚める者たちは幸いである。彼らは、私の赦しの光が自分たちの上に降り注ぐのを見、祝福された和解の日が訪れるのを見るからである。その時、多くの人々は私の愛の教えの真意を理解し、たとえ最も罪深い者であっても、私の子供たち一人ひとりが私にとってどれほど大切であるかを悟るだろう。

16. そう、愛する民よ、私はすべての人を限りなく愛している。なぜなら、大罪人の背後にさえ、もはや罪を犯さないために私の光を必要としている魂が隠されているからだ。

17. 私は罪人を救うためにやって来る。なぜなら、罪を犯す人間もまた神の子であり、私にとって、私の子供たちは一人ひとりがかけがえのない存在だからである。

18. わたしは、この教えを、希望と救いの衣のように全地球に広げ、それによってすべての人に、かつての負債と現在の負債を少しずつ返済する機会を与え、彼らが再び自らの存在の最も奥底でわたしを感じられるようになるまで導く。

19. 長い間、あなたがたはわたしを感じず、わたしを見失っていた。今、わたしはあなたがたに、わたしと出会う機会を与える。自分の道の途中でわたしを見出した者は、二度とわたしを見失うことはないことを、わたしは知っている。

20. 罪人よ、私に向かって歩み始めなさい。私の御前にたどり着いたとき、私の声があなた方を周囲の人々の前で裁くのではないかと恐れる必要はない。私はあなた方を裏切ることはないからだ。恐れるな。マグダラのマリアが恐れることなく、私のところに来たように。彼女は、誰がそれを見ていようとも、耳を傾けていようとも、あるいは非難しようとも、重い罪の重荷を振り払ったのだ。彼女は平穏だった。なぜなら、もはや罪にまみれた女ではなく、悔い改めによって清められた罪人であることを知っていたからだ。

21. 彼女たちの悔い改めと愛を、あなたがたの模範とせよ。

22. わたしは、すべての人の良心の中にわたしの声を響かせるだろう——それは父からの声、師からの声、裁き主からの声であり、人々の心に深く入り込み、喜びと驚きと愛によってその鼓動を速めるだろう。わたしの声は、あらゆる被造物の内なるで聞こえるだろう。なぜなら、あなたがたの魂は、この形でわたしを受け入れる準備ができていないからだ。

23. 監房の静寂の中で、私の声が響き渡り、そこにいる男たちや女たちにこう告げるだろう。「私はここ、あなたたちのそばにいる。まさか、私に見捨てられたとでも思っていたのか？ いいえ、信仰の薄い者たちよ、私はあなたがたが殺人者であるか、あるいは盗みを働いたかなどとは尋ねない。私は愛によって罪を犯した者を贖い、つまりいた者を励まし、誹謗中傷や不正、あるいは過ちの犠牲となった無実の者を救うのだ。」

24. 戦いの喧騒の中でも、わたしの声は聞こえるだろう。その響きは極めて鋭く、わたしの臨在が感じられるとき、人々の武器は沈黙するだろう。

25. 病院や、病人がいる場所ならどこであれ、私は同様にその存在を感じさせ、声を聞かせるだろう。そして、私だけが成し得る方法で、病人を「癒やし」、慰めるのだ。私は、周囲の人々に忘れ去られて苦しむ者たちの痛みに、平和と慰めのマントを広げ、彼らの苦しみの上に神聖な香油を注ぎ、彼らを命へと引き上げ、彼らが私の霊的な臨在を証しできるようにする。

26. 家庭においては、子供たちにも大人たちにも私が感じられ、両者が私の臨在を証しするだろう。

27. もし私が、かまどの火が消えているのを見つけたら、私は夫を呼び、こう言うだろう。「なぜあなたは愛情深く、思いやりのある人ではないのか？ なぜ、あなたたちの結婚生活に命を吹き込む炎である、愛の火を灯さないのか？」

もし私が彼がその義務を怠っているのを見たら、私は彼を驚かせてこう言うだろう。「なぜあなたは正しい道から外れ、十字架を捨ててしまったのか？ 杯に残っていた苦い飲み物の最後の一滴までも飲み干す力が、あなたにはなかったのか？」私があなたを導いた道に戻りなさい。そこだけに、私はあなたの信仰と従順と勇気を報いるために、あなたのもとへ現れるのだ。

28. 妻には、心の最も繊細な琴線に触れ、こう問いかけるだろう。「妻よ、あなたは、義務の道から離れたところで、切望する平安を見出せるとでも思っているのか？ いいえ、錯覚してはならない。あなたの功績とは、自己否定と忍耐をもって、私があなたの肩に負わせた十字架を最後まで担い続けることにあるのだ。」

29. 私が神聖な臨在を感じさせず、和解と愛と平和へと招かない心は、一つとして残らないであろう。

30. 私は、そこに私の本質を注ぎ込むために、整えられた心を探している。それは、まるで霊において人の内なる神殿に足を踏み入れるようなものである――その神殿から、聖域が清められるまで、

あたかも俗なる商人であるかのように、私はあなたがたの罪を追い出さなければならないのだ。

31. 私は、あなたがたに私の言葉を理解させるために鞭を持ってくるのではない。あなたがたを高揚という理想の中で強めるために、命のパンをもたらすのだ。

32. 世界は、私が痛みと罪の深淵にある彼らを見捨てたと考えがちだが、私は、決してあなた方を見捨てることのない私の無限の愛の新たな証しを与えるために来たのである。それゆえ、父のようにあなた方に語りかけ、あなた方を赦すのである。

33. 時に、あなたがたは、神聖な優しさに満ちた私の言葉を耳にすると、戸惑うことがある。なぜ私が、罪人に対してこのような教え方をするのか理解できないのだ。本来なら、あなたがたに従わせるために、ある程度の厳しさをを用いるべきであるにもかかわらず。

34. 言うておくが、この「第三の時代」において——たとえあなたがたには不可能に思えても——人類の再生と救いは困難なことではない。なぜなら、贖いの業は神の業だからである。

35. 人々を光と真理の道へと導き戻すのは、私の愛である。私の愛は、ひそかにあらゆる心に浸透し、あらゆる魂を優しく包み込み、あらゆる良心を通して現れる。その愛は、硬い岩を感受性豊かな心へと変え、物質主義的な人々を霊的な存在へと、そして頑なな罪人たちを、善と平和と善意に満ちた人々へと変えていくであろう。

36. 私がこのようにあなたがたに語る理由は、あなたがたの魂の発達を私以上に知る者はいないからであり、また、今日の人間は、その甚だしい物質主義や、この世への愛、そして最大の罪にまで発展した情熱にもかかわらず、一見「肉」や物質的な生活に溺れているように見えるだけであり、実際にはそうではないことを私が知っているからだ。私は知っている。彼らが魂の中で私の愛の優しい触れを感じた瞬間、彼らはすぐに私のもとへ駆け寄り、その重荷を捨て去り、無意識のうちにこれほどまでに切望している真理の道を、私に従って歩み始めるだろう。

37. 私は、初めの時代のように、石に刻まれた律法を彼に見せる必要もなければ、彼が私を感じ取れるように自然の力を通じて私の存在を明らかにする必要もない。苦難に満ちた生涯と血なまぐさい死によって人々の魂を救うために、人間の姿でこの世に生まれる必要さえもない。

38. そのような時代は過ぎ去った。人間の魂は発展を遂げたのだ。もはや、かつてのように、神性を自らの手で触れ、肉体の感覚で

知覚しなければ、わたしやわたしの臨在を信じることができなかった、あの幼子ではない。

39. 物質主義や霊的なものに対する感性の欠如の背後に、人間は光の魂、すなわち霊の魂を秘めている。その魂は長い道のりを歩み、大きな試練を乗り越えてきた。それによって、人間には不屈の精神、経験、そして知識が与えられているのだ。人間が新たな生へと生まれ変わり、その存在の核心において、主の無限の声が、永遠かつ賢明な正義の法則として発せられる真の至聖所——常に光に満ち、確かな道——を発見するためには、良心との内なる対話に入る用意があるだけで十分である。

40. もしこの人類にそのような霊的な発展が存在せず、解放の直前に立っていなかったならば、私はこの時期に、霊から霊への対話に関する啓示をあなた方に与えることはなかっただろう。

41. あなたがたの世界が経験している試練は、一つの時代の終わりを告げる兆しであり、物質主義の時代の没落、あるいは死の苦しみである。なぜなら、物質主義はあなたがたの科学、目標、そして情熱の中に存在してきたからである。物質主義は、私に対するあなたがたの崇敬、そしてあなたがたのあらゆる行いを決定づけてきた。

42. 世への愛、地上のものへの貪欲、肉の欲望、あらゆる低俗な情欲への快楽、利己心、自己愛、そして傲慢——これらは、あなたがたが自らの知性と人間の意志に従って人生を築き上げる原動力であり、その実を、あなたがたの経験が完全なものとなるよう、わたしがあなたがたに収穫させたのである。しかし、今まさに終わりを迎えようとしているこの時代が、人類の歴史においてその物質主義によって特徴づけられることになるとしても——まことに、わたしはあなたがたに告げる。新しい時代は、その霊性によって特徴づけられることになるだろう。なぜなら、その時代において、地上の良心と霊の意志は、愛によって寛大な心を持つ存在たちの世界を築き上げるからである。それは、父の霊が子らの霊の中で脈打つのを感じられるような人生であり、その時には、今日、あなたがたの内に隠されているすべての賜物と能力が、無限をその活動領域として持つようになるからだ。

43. 愛する民よ、あなたがたはわたしを理解しなければならない。なぜなら、わたしは最も平易な言葉であなたがたに語りかけており、わたしの言葉にはいかなる秘密も含まれていないからだ。わたしはあなたがたの父であり、あなたがたに対して何の秘密も持っていない。わたしは自分の宝庫を開き、あなたがたが今まさに経験し

ているこの時代において啓発されるために必要な知恵を、その中に見出せるようにしたのだ。

44. 人間の魂は成長し、その能力は開花しており、今やわたしの業を学び始めることができるようになっている。

45. 準備が整えば、光があなたがたの魂に注がれたゆえに、インスピレーションの賜物、すなわち（内なる）言葉の賜物と知恵の賜物は、あなたがた全員の中に宿っている。

46. 私が人間となったときに、あなたがたのために切り開いたのと同じ道をたどって、私のもとへ至ることが、あなたがたの運命であることを知ってください。私の模範はすべての人に知られています。キリストという名を口にしたことがない者などいるのでしょうか？ 試練の時に、自分の師を思い出さなかった者がいるだろうか？ また、（過去の地上生活において）霊的な領域へと至るために、肉体が息を引き取る死の瞬間に、「わが霊を御手に委ねます」と叫ばなかった者がいるだろうか？ 私は、あなたがたの光への渴望、霊性への憧れを知っている。だからこそ、私はあなたがたの元へ降りてきたのだ。

47. あなたがたの羊飼いは、あなたがたがわたしのもとに来られるよう、準備を整えてくれた。その者は、第二の時代に荒野で呼びかけ、愛に飢え渴く多くの人々が準備を受けるために集まった、あの者と同じである。

48. あなたがたを私のところへ導いたのはエリヤである。なぜなら、私の来るたびに先立って行くという彼の使命は、常に同じであり、これからも変わらないからである。

49. 今日、あなたがたは新たな時代を生きている。そして、目撃した奇跡の数々を前にして、あなたがたの魂はひれ伏した。魂は自分自身に目を向け、私の言葉の中に、疑いを和らげるために必要としていた答え——その道を歩み続けるよう招く光——を見出したのである。そして、その無限の彼方において、魂は、自分を迎え入れてくれる家の扉が開くのを見る。そこでは、父と母が魂を迎え入れ、永遠に共に暮らすことになるのだ。

50. 真実に向けて目を開きなさい。今こそ、秘密を隠す時ではない——それどころか、真実を明らかにする時なのだ。

51. あなたがたの歩みを導くのは恐れであってはならず、また、律法を遵守するよう強いるものであってはならない。信仰と愛こそが、あなたがたの人生において善行を成し遂げるよう駆り立てる力であるべきだ。そうしてこそ、あなたがたの功績は真のものとなるのだ。

52. この光の時代は、すべての人々に理解をもたらすだろう。なぜなら、あらゆる秘密が解き明かされるからである。

53. あなたがたは心の中で私にこう言います。「主よ、もしあなたが私たちにあなたの真理を目の当たりにさせてくださるなら——そのとき、私たちにはどのような功德が残されるのでしょうか。あなたは、『見ずに信じた者たちは幸いである』とおっしゃいました。」

54. ああ、わたしの言葉を解釈できない人々よ。その真意を深く掘り下げ、理解できるよう、わたしがあなた方を助けることがどれほど必要であるか、わからないのか。

55. 確かに、あの時、私はこう言った。「見ずに信じた者は幸いである。」しかし、私が言いたかったのは、「この世の目をもって神聖なものを視ようとはせず、霊的な視力である信仰の光によってそれを見ることを理解できる者たちは幸いである。また、感覚を用いて霊的なものに触れようとしたり知覚しようとしたりすることなく、自らの魂の中に神の臨在を感じる準備ができていた者は幸いである」ということだったのだ。

56. 弟子たちよ、私が「見ずに信じる者は幸いである」と言ったとき、私が「肉」の視覚や感覚を指していたことを理解せよ。なぜなら、そのように信じた者は、魂をもって私を見、感じ取ったからこそそうしたのだから。

57. あなたがたは今、信仰、すなわち靈魂のより高次の視覚によって信じるだけでなく、人間の知性の能力を超えた理解をもって悟る時代を迎えようとしている。なぜなら、霊的な知恵によって照らされた魂こそが、その理解をもたらすからである。

58. 現代においても、わたしはあなたがたにこう告げる。「肉眼で見ることなく、また限られた人間の知性で理解することなく、それでもなお信じる者たちは幸いである。なぜなら、彼らは魂で感じ、精神的な視線で物事を見、あらゆる人間の知恵を超越した知性をもって理解するために、自らを高く高めているからである。」

59. 人の内に神性に対する真の信仰が生まれるのは、その人が霊をもって見たからに他ならない。そうして自ら体験したことを、一体誰が、あるいは何が、その人に否定させることができるだろうか。しかし、霊をもって見たり感じたりすることを決して理解せず、見ることなく「信仰がある」と言うだけで満足し、誤った信仰によって自らを欺いている者たちは、確かに信じている。だが、彼らは最初の試練に直面すると疑いを抱き、不安になったり混乱したりし、ついにはしばしば否定してしまう者たちである。

60. しかし、わたしはあなたがたすべてを救う。それゆえ、かつてあなたがたには、すべての目がわたしを見る時が来る、と告げられていたのだ。

61. あなたがたの進歩、すなわち上向きの成長によって、あなたがたは私の真理を発見し、霊的な世界においても、また私のあらゆる御業においても、私の神聖な臨在を感知できるようになるだろう。その時、私はあなたがたにこう告げるだろう。「どこにでも私を見出すことのできる者は幸いである。なぜなら、彼らこそが、真に私を愛している者たちだからである。

62. 魂をもって、さらには肉体をもってさえも、わたしを感じ取ることができる者は幸いである。なぜなら、彼らは自らの全存在に繊細さを与え、真に霊化を成し遂げた者たちだからである。」

63. 人類が行ってきた不純な宗教的儀式は、どれほど精神的な発展を妨げてきたことか！それによって人々は、霊的な信仰が成し遂げる奇跡が現実となることを阻み、また、霊的なものが人間の生活に及ぼす自然な影響さえも妨げてしまったのである。

64. 人々が私の恩恵、私の答え、そして絶え間ない愛の証を受け取る時、それは信仰や真の霊化に対する報酬としてではなく、彼らの未熟さ、悲惨さ、そして無知に対する私の憐れみによるものである。

65. 私は、この言葉を耳にした多くの人々が憤慨することを知っている。しかし、それは、精神的な混乱の中で、人間には人間的な性質のほかに霊的な本質も存在することを認めようとしない者たち、あるいは、人間の魂を信じつつも、伝統や信仰上の信念という慣習に縛られ、魂には無限に長い発展の道があることを否定する者たちである。

66. また、私は、あなたがたを揺さぶり、世界が陥っている深い無気力状態から目覚めさせるために、正義の言葉をもってあなたがたに語りかけなければならないことも知っている。

人々は長い間、その力を自らの意志を遂行するために用いてきた。つまり、自由意志という賜物を地上の行いに費やしてきたのである。しかし、私には、彼らにはまだ力が残っていることが見て取れる。私はその力を活用し、真の信仰を基盤とし、愛と正義による魂の高揚を目的とする、新しい世界、より良い世界の理想を彼らに啓発するつもりである。これこそが、いつの時代も私の教えであったのではないだろうか？

67. わたしの教えを学び、深く熟考した後、それについて自分の精神に判断を求めなさい。あなた方の知性でも、心でもなく、それ

らを超えたものに対して最初に判断を下すべきではない。なぜなら、あなた方は、私の神聖な光が思考となり、あなた方の知性に届き、それを無限の美と知恵の世界へと導く時代に生きているからだ。

68. ここに、あなた方を待ち続けることに決して倦むことのない方がおられます。その方はあなた方の心に近づき、霊的な憧れを吹き込み、あなた方の計り知れない空虚を私の愛で満たしてくださるのです。

69. 世界がもはや私を聞き、見るものがなくなってから、ほぼ二十世紀が過ぎた。しかし、私が一瞬たりとも世界から離れたことはなく、一瞬たりとも世界に向かって語りかけなかったことはなかったのだ。

70. かつて、あなたがたが私の言葉を聞くことができるように、私は人間にならなければならなかった。今、世界が再び「御言葉」を聞くことができるように、私は人間の知性を通じて自らを現さなければならなかった。

71. 今、あなたがたの目の前に現れているのは、もはやナザレのイエスではない——それはキリストであり、あなたがたの霊に新たな教えを与えるために、あなたがたの霊の前に現れている「霊の師」である。

72. イエスは、私が人々の目に自分を見えるようにするために用いた肉体、すなわち受肉した姿であり、ナザレは、私が人間として育ち、幼少期を過ごし、青年期を迎えた村であった。ナザレは、私が人間となるためにその胎を捧げてくれた、祝福された母マリアの出身地であり、そこでその肉体は成長し発達していった。それゆえ、後に世界は私を「ナザレ人」と呼ぶようになったのである。

73. 今日、私はナザレから来ているわけではない。私は、私にふさわしい世界、すなわち、かつて私がすでにあなたがたに告げ知らせていた霊界に宿っており、そこには障害も距離も存在しない私の声を、あなたがたに聞かせているのだ。

74. 今宵、この形で私の御言葉の啓示を受けることになる、昨年最後の日を迎えるために集まった民よ、私はあなた方を祝福する。

75. まもなく、私はもはや、これらの代弁者たちを通じて、恍惚のうちにあなた方に語りかけることはなくなるだろう。しかし、私が決してあなた方から離れることはなく、また、靈感という形で私の言葉をあなた方に送り続けることを決してやめない、と私が告げたことを忘れてはならない。

76. 私があゝの「第二の時代」に人々の前に現れたとき、人々の間には多くの混乱があった。しかし今日、私が再び人間としての声を

響かせている今、の混乱はさらに大きくなっていることに気づく。そこで、私は人類に再び自らを顕現させるために、私が予告していた時が来たと見て、私の真理を広め、人々が知るべきあらゆる謎を解き明かし、あらゆる説明と解明を見出さなければならない道へと、一步一步人々を導くことで、私の光の業を始めようとしている。

77. 今、始まったのは意義深い時代である——人間と霊的存在にとって計り知れないほど重要な時代である。

78. そして、私の啓示の最後となるこの年も、この民にとって同様に計り知れないほど重要な意味を持つ。なぜなら、この年において、私はあなたがたに、勇気と確固たる決意をもって新たな時代へと踏み出すための規範、光、使命、そして知識を与えるからである。

79. 私のメッセージは、あなたがたが決して誤りや無知という岩礁につまずくことのないよう、明快で、光に満ち、理解しやすいものであった。

80. その真髄を心の中にしっかりと留めておきなさい。そうすれば、あなたがたは私を自分の中に宿すことになり、一人ひとりの内に助言者、導き手、そして癒し手が宿ることになる。

81. もしあなたがたが、私が教えた通りに私の教えに従い、霊的な慈善を実践するならば、やがてあなたがたはもはや幼子ではなくなり、弟子となり、純粹で高みを目指す思考によって、私の霊とつながることがいかに容易であるかを発見するでしょう。そうすれば、あなたがたは、私の啓示の期間がなぜ限られていたのかを理解するでしょう。なぜなら、もしそれが決して終わらなかったとしたら、あなたがたは決して霊化することはなかったでしょう。私の靈感への渴望をもって、自らの浄化と功德によって高みへと昇る代わりに、あなたがたはあの世の下で、伝達者がメッセージを届ける準備をするのをただ待ち続けていたに違いないからです。

82. まことに、わたしはあなたがたに告げる。あなたがたの心の中で種であったわたしの言葉の果実は、わたしの意志によれば、霊から霊への対話となるべきものである。わたしはすでにその種をあなたがたに託し、それを蒔くことをすでに教えた。今、あなたがたには、その種を広め、世話をするという任務がある。なぜなら、私は、私の蒔いた種の実りを待ち望み、私の霊の中で、子供たちが私のそばににいるという言葉に尽くせないほどの幸福を感じ、彼らの霊的な声を聞き、彼らの愛撫を感じたいと願っているからだ。それは、私がイエスの唇を通してそうしていたのと同じように。「私は渴いている、私はあなたがたの愛を渴望している。」

私の平安があなた方とともにありますように！

教え 306

1. あなたがたは、魂に注がれる水晶のように澄んだ水を汲むために、命の泉のほとりに集まった。もしあなたがたが、わたしの言葉の啓示を真理として受け止めるならば、それは、この形でわたしの新たな教えを受け取るために、あなたがたが霊的な道を大きく歩んできたことの証である。

2. まことに、あなたがたに告げる。あなたがたは、「霊的な谷」においても、またあなたがたが住むこの惑星においても、何度も訪れているのだ。しかし、あなたがたがいつ霊的に生まれ、いつ初めてこの世の塵を踏んだのかについても、私が告げなければならない。あなたがたが、私が、あなたがたが何度この世に存在したか、また他の転生において誰であったかを明らかにすることを必要としているのと同様に。

わたしの教えは、あなたがたが当面知るべきではないこと、そしてあなたがたが道の終わりに達して初めて明らかにされてよいことを、明かしてはいない。わたしの業は、善、愛、兄弟愛という階段を一段ずつ登らせていくことで、あなたがたを霊的知識の頂点へと至る道を示しているのだ。

3. この「第三の時代」において私の業を広めるために、私は大いなる群衆の中から14万4千の魂を選び出し、神聖な光の接吻をもって彼らに印を刻んだ——それはユダの接吻でもなければ、あなたがたの魂を危険にさらすような契約の印でもない。私の印とは、聖霊が選ばれた者たちに刻み込み、この「第三の時代」において彼らが偉大な使命を果たせるようにするためのものです。この印を持つ者は、危険から免れているわけではありません——それどころか、他の人々よりも多くの誘惑にさらされ、より厳しい試練に直面することになります。「第二の時代」に私が選んだ十二人の一人ひとり进行を思い起こせば、私が今言っていることが真実であると確認できるだろう。彼らの間にも、疑いや弱さ、混乱の瞬間があり、さらには、口づけによって私を処刑者たちの手に引き渡し、私を裏切った者さえいたのだ。

4. この時代の選ばれた者たちが、誘惑に屈しないために、どうして見張り、祈らなければならないことか！しかし、まことに、あなたがたに告げる。それでもなお、百四十四千人の間には裏切り者が現れるであろう。

5. 目を覚まし、祈りなさい、愛する民よ。この地上の道は危険と誘惑に満ちており、それは光と闇との絶え間ない戦いである。私の

業を裏切りたくないのであれば、絶えず戦い、祈り、私の言葉に従い、備えなさい。真理を裏切れば、たとえ不本意であっても、あるいは無自覚であっても、あなたがたは裏切り者になり得ることを心に留めなさい。

6. 良心と自由意志の間、霊に固有の高きものへの傾きと、自然的なものとの間で引き裂かれているが、自らを解放する可能性と、善が悪に、魂が「肉」に、光が闇に勝利するという最高の勝利を達成するために功德を積む機会があることを知っている。

7. このしるしは、神に対する使命、任務、そして責任を意味する。それは誘惑や病気に対する保証ではない。もしそうであったなら——私の選ばれた者たちには、いったいどのような功績があるというのか。あなたがたの霊は、私の言葉に忠実であり続けるために、どのような努力をするだろうか。私がこのようにあなたがたに語る理由は、この民の中に、選ばれた者たちの数に加えられたいと願う心が多くあるからだ。しかし、私がこのしるしによって与える賜物を通じて人類に奉仕したいという願望以上に、安心感を得たいという願望、あるいは虚栄心が、彼らを動かして私に召しを請うよう仕向けているのを見てきました。私はこれらの私の子供たちである弟子たちを試練にさらすつもりであり、そうすれば彼らは、私の言葉が根拠のないものではないことを自ら確信することになるでしょう。

。

8. その「印」とは、愛と敬意、熱意と謙虚さをもってそれを身につける者が、自らの使命を果たすことを可能にする、目に見えないしるしである。そうして初めて、その印が神の恵みであることを悟ることができるだろう。その恵みは、彼を苦痛の上に立たせ、大きな試練の中で彼を照らし、深い洞察を明らかにし、彼が望むところならどこへでも、魂がさらに前進するための道を開いてくれるのである。

9. その印は、それを所有する者を霊界と結びつける鎖の一環のようなものであり、霊界の思想と言葉があなたがたの世に現れるための手段である。それゆえ、私はあなたがたにこう告げる。印を授かった者は私の使者であり、私の使者であり、私の道具である、と。

10. 印を授かった者の、私の業に対する使命と責任は大きい。しかし、その者はその道のりを独りでは歩んでいない。その傍らには常に守護天使がおり、その者を守り、導き、靈感を与え、励ましてくれるのである。

11. 愛をもって自らの十字架にしがみつくことを知っていた者は、なんと強かったことか。そして、「第三の時代」において、選ばれ

た者としての神聖なしるしを背負う用意がなかったその選ばれた者にとって、その道はなんと厳しく、苦いものであったことか。私を聞くすべての人々に、私はこう告げる。目を覚まし、祈り、愛をもって自分の十字架を背負い、正義と従順をもって行動することを学ばなければならない。そうしてこそ、あなたがたの魂にとって最も光に満ちた転生であるこの人生が、実りのないものとならず、後になって失われた時間や無駄にした才能を嘆くことにならずに済むのだ。

12. この教えについて、印のある者もなければいなくても、皆、よく考えなさい。なぜなら、あなたがたは皆、わたしの業において果たすべき使命を持っているからである。

13. 私は、その律法をあなた方に思い起こさせます——それは、あなた方の精神から消し去られることも、心から忘れ去られることも、また疑問視されることも許されないものです。なぜなら、それは、すべての人類が内面に、神へと導く光を宿すことができるようにと、賢明な知性、すなわち普遍的な知性によって定められたものだからです。

14. 人生のあらゆる行いが真理と正義に基づいて行われるためには、律法に対する深い理解が必要である。律法を知らなければ、必然的に多くの過ちを犯すことになるだろう。しかし、私はあなた方に問う。あなた方の霊は、決して認識の光へと導いてくれなかったというのか。まことに、私はあなた方に告げる。霊は決して無為でも無関心でもなかったのだ。内なる光を拒んでいるのは、あなた方の心であり、またあなた方の理性でもある。それは、外なる光、すなわち世の知識の輝きに魅了されてしまっているからだ。

15. 私があなたがたの最初の愛であるべきであったにもかかわらず、あなたがたは私を最後の愛として扱ってしまった。それは、幻想や夢、この世の愛や情熱が、あなたがたを私を愛する力さえ失わせるほど弱くしてしまったからである。

16. あなたがたは、この世への愛や苦しみによって心をひどく疲れさせてしまったが、一瞬にして高みへと舞い上がることができるあなたがたの魂は、依然として活発である。なぜなら、その魂の中の疲労は見せかけに過ぎず、肉体のように老いることもなければ、心のように消耗することもないからだ。

17. あなたがたは、あらゆる被造物よりも私を愛していると信じていたが、結局、私に捧げたのは、あなたがたの最後の愛だけだったと、やがて悟らなければならないだろう。

18. あなたがたが老齢に達し、自然な理由から心の中の情熱や憧れが死んだと感じるようになったとき、あなたがたは私へと目を向け、こう言うだろう。「主よ、あなたは正しかった。私たちが地上で若く力強いと感じている限り、私たちはあなたを忘れてしまう。たとえ、あなたを愛していると、そしてあなたが私たちの人生において第一であると、しばしば信じていたとしても。」

19. 私が「あなた方の人生において、私があなた方の最後の愛である」と言ったとき、私が真実を語っていたことを理解しているだろうか。しかし、私が「あなた方の人生において、私が第一であるべきだ」と言ったからといって、私以外の誰をも愛してはならないという意味だとは、誰も思ってはならない。私が伝えたかったのは、私を他の誰よりも愛する者こそが、真に愛することになる、ということだ。そのような人は、正しいものだけを愛し、人生において決して疲れ果てることもなければ、失望することもないだろう。なぜなら、その人は私を何よりも愛したことによって、真理と正義を愛したからであり、それらを自分の人生や行いに適用することで、人間の苦難から解放され、幻想から守られ、光と平和と知恵に満ちた世界の中で生きることができたのです。

20. あなたがたは、私の律法に可能な限り従っているにもかかわらず、痛みや不幸、試練から逃れられないことに気づき、時に心を痛めることがある。それは事実である、愛する民よ。しかし、それはここ、この涙の谷においてのみ起こることであり、この谷こそが、魂にとっての試金石であり、清めの川であり、学校なのである。

21. しかし、なぜ試練を罰だと考えるのでしょうか？ 試練は罰ではなく、あなたがたの魂がより多くの光を得るために経験しなければならない試練であると信じるほうがよい。あなたがたが祈りを実践し、信仰に火を灯し、あなたがたの呼びかけに私が即座に応え、慰めと平安を送っていることを実感できるよう、私はどれほど頻繁にあなたがたを試練にさらしていることか！ しかし、あなた方はそうは理解せず、祈り、私を信頼する代わりに、私があなた方を忘れてしまった、私の声が聞こえない、と言い、不感謝で冒涇的な者となってしまう、結局は、あなた方と同じように私を必要としている人々の扉を叩くことになるのです。

22. 私がこの世から私の慈悲を取り上げたのではない。人々がそれを拒んだのだ。私は、しばらくの間、彼らにこのまま続けさせ、彼らの知識と力に信頼を置かせ続けるつもりだ。なぜなら、後になって、世界を覆い尽くすであろう苦痛を克服できないと彼らが確信したとき、彼らの魂は、自分たちが未熟で、脆弱で、恩知らずで、

心硬い存在であることを認めるために、すぐに私のもとへ戻ってくるだろうからである。

23. あなたがたが行った行いが、たとえ悪しきものであったとしても、そこから光を放たないような行いは一つもない。わたしはその光をもたらず者である。そして、世界が混沌から脱したとき、その精神には、墮落する前よりも多くの光が宿るようになるだろう。

24. あなたがたのすべての罪は、無知の産物であったゆえに、私はそれをすべて赦す。しかし、もしあなたがたの内なる光が輝き出たら——その経験と良心を無視して、故意に罪を犯すことなどできるだろうか？ いいえ、弟子たちよ、あなたがたは、あの苦い杯を飲まされた過ちを、二度と繰り返すことは決してないだろう。

25. あなたがたは、試練を「罰」と呼ぶとき、軽率に判断していることに気づいているだろうか。試練には、あなたがたに経験を授け、信仰を強め、真の知識で豊かにし、良心と和解させること以外の目的はないのだ。

26. 心の中に抱いている高慢を克服し、謙虚な心で私の言葉に耳を傾けなさい。そうすれば、徐々に人生の真の意味を発見し始め、一步一步、かつては気づかなかった奇跡に気づくようになるだろう。かつては、あなたがたの無力さが、真実の上に謎のベールを広げていたからである。

ここに私の光がある。それは、謎とされているものを明らかにするだけでなく、あなたがたの目の前から身を隠していたのは私ではなく、私を認めようとしなかったのはあなたがた自身であったことを告げるものである。

27. 私が病院や刑務所、悲しみに沈む家庭、崩壊した夫婦関係、孤児たち、あるいは魂が飢えている人々へと視線を向けるとき——なぜ、私はそこであなたたちを見つけられないのでしょうか。私があなたがたに祈りを教えただけでなく、言葉の賜物も与え、癒すことを教えたことを思い起こしてください。そして、多くの機会に、あなたがたが真に備えさえしていれば、その存在自体が奇跡を起こし得ると、私はあなたがたに語ってきました。

28. 人生は毎日、善を行う機会をどれほど多くもたらしてくれることか！ しかし、祈ることしかできない状況があるのと同様に、言葉を発したり行動を起こしたりすることが必要な状況もあるということをお心に留めておきなさい。

29. 悪意に満ちた視線や陰口を恐れず、ただ善を行うことだけを願う者たちは、祝福される。彼らこそが、霊的に私を病人の寝床へ

と付き添い、闇の中に住む者たちの元へ赴き、信仰、知識、あるいは慰めの光をもたらす者たちである。

30. 悲しみに暮れる人々を思いやり、物質的にも精神的にも貧しい人々のことを心に留める者たちは、祝福されよ。彼らの心は、わたしの御霊に近く鼓動しているからである。

31. もしあなたがたが自らの苦痛に支配されてしまっているなら、どうして他者の痛みを思いやることができるだろうか。もしあなたがたが、不本意ながら自分の十字架を背負い、常に「自分こそが最も不幸だ」と口にするだけなら、この世には、あなたがたよりもはるかに大きな苦しみを味わっている何百万人もの人々がいることに、どうして気づくことができようか。

真の道から遠く、はるか遠くを歩む人々が大勢いる——愛の言葉を一度も聞いたことのない人々、その内に光の片鱗さえ持たない人々が大勢いる。それにもかかわらず、あなたがたは、彼らがあなたがたの道と交差したとき、彼らを助けるために立ち止まることさえしなかったのだ。こうした霊的に貧しい人々のうち、どれほど多くの者が、あなたがたのように不平を言ったり反抗したりすることなく、自らの重荷を耐え忍んでいることか！

32. あなたがたは、自分たち自身を少し超えて、自分の家や感情よりも少し先を見据えることを学ばなければならない。そうして他者の痛みに共感し、愛する民よ、あなたがたの心に慈愛が芽生え、魂が溢れ出し、良心に刻まれた最高の戒め——すなわち「互いに愛し合いなさい」という戒め——を果たせるようにするためである。もしあなたがたが物質的に貧しく、そのために隣人を助けることができないとしても、嘆いてはならない。祈りなさい。そうすれば、私は、何もない場所に光が輝き、平和が訪れるように導く。思いやりが生まれる真の隣人愛こそが、あなたがたが困っている人々に与えることのできる最高の贈り物である。もし、一銭、一斤のパン、あるいは一杯の水を差し出す際に、隣人への愛の気持ちを抱いていないならば——まことに、私はあなたがたに言う。その場合は、何も与えたことにはならない。むしろ、与えるものを手放さないほうが、あなたがたにとってはましである。

33. 人類よ、いつになったら愛の力を知ろうとするのか。今日に至るまで、あなたは生命の源であるその力を一度も活用したことがない。

34. 私が弟子たちに連れられて国中を巡り、村や町、家々を訪れたとき、貧しい人々に硬貨を差し出したことは一度もありませんでした。なぜなら、私にはそれを持っていなかったからです。それで

もなお、私は彼らに、どんな代償を払っても得られなかった健康を取り戻させてあげました。私は彼らを正しい道へと導き返し、光と慰め、そして喜びに満ちた道を授けたのです。

ある時、私の言葉を聞こうと大勢の群衆が砂漠まで私を追い付けてきた。私は人々に魂の糧を与えた後、彼らが飢えているのを見て、数個のパンと魚を祝福し、配らせた。群衆は、これほどわずかな食糧が全員に足りたことに驚いた。これは愛によって成し遂げられた奇跡であり、懐疑的で物質主義的、そして利己的な人類への不朽の教訓となった。

35. ああ、もし地球上の諸民族が、たとえ私の教えを試すためだけであっても、兄弟のようにパンを分かち合えば——彼らはどれほど多くの善を受け取り、どのような驚くべき現れを経験することになるだろうか！しかし、彼らは依然として互いを愛しておらず、諸民族は依然として互いを兄弟として認め合っていない。彼らは互いを他者とし、互いを外国人と呼んでいる。彼らは互いに嫉妬し、恨みを抱き、ほとんど常に憎み合い、互いに戦いを繰り返している。すべての人々によって養われている戦争は、人間の心があるところならどこにでも存在する。ある者はある方法でそれを助長し、別の者は別の方法でそれを助長している。その多くは自分が何をしているかをよく知っており、他の者はそれに気づかずにいる。

36. 愛も、信仰も、善意もないこの不毛の地に、私は慈悲を、恵み深く実りをもたらす雨のように降らせるであろう。しかしその前に、わたしの正義は嵐のようにあらゆる悪を一掃し、悪しき木々を倒し、野原や町を清め、この人類の眠れる魂を目覚めさせ、来るべき時代のためにわたしの愛が用意している神聖なメッセージを受け取れるようにするであろう。

37. あなたがたが今、足を踏み入れた1950年は、永遠の昔から定められていた通り、人間の知性を通じて行われてきた私の霊的啓示の一段階の終わりを告げている。それは、人々の魂が私の臨在を感じ、祈りに身を委ねるようになる年である。

38. 1950年は、ある時代の終焉ではなく、人類にとって大きな啓示と出来事を秘めた新しい時代の幕開けである。

39. 弟子たちよ、昨年はあなた方にどのような経験をもたらしたか。私の啓示の最後の年となる今年、あなた方はどのような決意を固めたか。

40. あなたがたは祈り、私はあなたがたを祝福する。なぜなら、私に祈りを捧げる者は、決して失望することはないからだ。

41. 引き続き祈りなさい。しかし今こそ、これまで以上に私の教えを理解しようと努めなさい。そうして、停滞状態から抜け出し、あなたがたの礼拝の儀式に導入してきたもの、すなわち、進歩をもたらすどころか、ルーチンに縛り付けてきたあらゆるものを排除しなさい。

42. 良心の声に耳を傾けなさい。その声は、障害を乗り越え、伝統を打ち破る勇気を与えてくれるだろう。

43. 愛する民よ、あなたがたは多くの努力をしなければならない。今、私はあなたがたを互いに近づけ、集まりから遠ざかってしまった者たちへと呼びかけを送る。あなたがたはただ一度だけ彼らと呼ばいかけなさい。もし彼らがそれに耳を傾けるならば、私は彼らにその嗣業を明らかにする。しかし、もし彼らが耳を貸さないならば、その件は私に任せてほしい。主の声を聞こうとしなくなった者たちを裁くことができるのは、私だけだからである。

44. この最後の年に私があなたがたに与える私の言葉は、私がこの啓示の時期にあなたがたにもたらしたメッセージ全体の真髄となるでしょう。その言葉の中に、あなたがたは人生のあらゆる歩みに関する教えと啓示を見出し、戦いが始まったときに備えて武器を手に入れることになるでしょう。

45. あなたがたの同胞たちに、わたしがあなたがたに団結と調和を呼びかけたと伝えなさい。なぜなら、その兄弟愛が存在しない限り、あなたがたが一つの民を成しているというのは嘘だからである。その場合、あなたがたは一見団結しているように見えるだけで、実際には分裂し、互いに遠く離れているからだ。彼らに、あなたがたは団結しなければならないと伝えなさい。なぜなら、あなたがたに対する迫害や敵意が押し寄せてくるからだ——私は、彼らが後にその不従順を嘆いたり、過ちを正す時間がもう残されていない時に嘆き悲しんだりすることを望んでいないのだ。

46. わたしが、光を照らさない点の一つも残さないことを悟りなさい。それゆえ、誰も「わたしが御言葉で民に警告しなかった」と嘆くことはできないだろう。

47. わたしの声は預言的なものであり、わたしの言葉は、未来を隠すことのできない神の言葉である。すべてはあらかじめ見通されており、すべては予見されている。あなたがたはただ、わたしの言葉に従うだけでよい。そうすれば、すべてがわたしの御心通りに成し遂げられるのだ。

48. たとえ大多数の人々が誤りに陥り、定められた道から逸れてしまっても、たとえ大多数が私の戒めに背いたとしても、この光は

輝き続けるだろう。なぜなら、真理は決して悪によって覆い隠されることはないからだ。

49. 私にとっては、従順で、行動力があり、靈性に富み、謙虚な心を持つごく少数の者たちさえいれば十分である。彼らを私の道具として用い、私の言葉の真理を今後も広めていくためである。

50. このようにあなたがたに語りかけるのは、私の義務である。なぜなら、あなたがたの多くは、最後の時に、私に新たな苦難の杯を差し出すことになることを、今すでに知っておくべきだからである。この民には混乱と闇が訪れるだろう。それは、イエスが十字架上で息を引き取った時、世界が暗闇に包まれたのと同じである。しかし、あなたがたは今のところ、この闇がどれほど長く続くのかを知らない。それゆえ、あなたがたが誘惑に陥ったり、わたしの教えを無視する者たちの仲間入りをしたりしないよう、目を覚まし、祈り続けなければならないと、わたしは告げる。

51. わたしが告げる。この混乱の闇の中に、一筋の光が差し込むだろう。そうして、心と魂を込めてわたしに従おうとする者すべてが、その道を見出し、靈化の道をたどってわたしのもとに来ることができるように。

52. この民は、明日、彼らを揺さぶり、深い無気力状態から目覚めさせるために、自ら試練を生み出していることに気づいていない。

53. いつの時代もそうであったように、召された者は多くても選ばれた者はわずかであった。なぜなら、私は、その任務を果たす準備が適時に整っている者だけを選び出すからである。そして残りの者たちには、彼らもまた選ばれる時が来るのを待つことを理解できるよう、一筋の光を与えるのである。

54. まだ任務に選ばれる時期ではないにもかかわらず、ただ召されただけで、私の弟子や働き手として加わった者たちがどれほど多いことか。彼らの魂は、この十字架の重荷を担うために不可欠な成長を遂げておらず、また彼らの知性には、私の靈感を受け入れるために必要な光も備わっていなかったのだ！ 彼らの多くは、選ばれた者たちの列に加わった後、何をしたのか。神聖さを冒瀆し、雰囲気汚染し、自らの悪しき性向で他者に悪影響を与え、嘘をつき、不和をまき散らし、私の名と、私が弟子たちに授けた霊の賜物を悪用して私利私欲を貪ったのだ。

55. 彼らが誰であるかを突き止めようと試みる者はいないがよい。なぜなら、あなた方にはそれができないからだ。ただ、私の鋭い裁きの眼差しだけが彼らを見失うことはなく、私は彼らの良心に私

の言葉を届ける。その言葉はこう告げるのだ。「目を覚まし、祈りなさい。そうすれば、時機を逃さず自分の過ちを悔い改めることができる。もしそうするならば、私は約束する。霊的に速やかにあなた方を私の食卓に着かせ、和解と赦しの祝宴を祝うだろう。」

56. 愛する弟子たちよ。今こそ、私があなたがたに私の臨在を感じさせる、この祝福された時である。私があなたがたに御言葉を与えるための声の媒体は準備を整え、私の声を聞く人々の群れは集まり、心の中で私のもとへと高みへと昇っている。

57. 私は、あなたがたが私の啓示の奇跡を目の当たりにし、その存在の最も深いところで私の愛、私のまなざし、私の本質を感じ取れるよう、常にこのようにあなたがたを見守りたいと願っている。

58. まことに、あなたがたに告げよう。霊的な準備の瞬間に、わたしの臨在を授かっているのは、あなたがただけではない。私の霊が臨在していない宗教など存在せず、また、私に捧げられた行為などあり得ない。聴衆の群れが心を動かされ、祈り、願い、私の名を呼び、祝福を捧げるまさにその瞬間に、私は彼らの心の奥底にまで入り込み、彼らが求めたものを与えるのである。

59. もし世界の諸民族や宗教共同体が、すでにその霊的な賜物を開花させていたならば、彼らは、何らかの形で私の臨在を感知し、その恵みを享受することを可能にするような繊細さを獲得していたことでしょう。しかし、彼らは私を見ること、聞くこと、感じることもできない。なぜなら、彼らの感覚や能力は、偶像崇拝や狂信的な儀式の実践の中で眠りについてしまっているからだ。

60. もし今、あなたがたが私にこう尋ねるなら——「師よ、さまざまな宗教共同体の兄弟姉妹たちは、今あなたが私たちに教えられているように、いつあなたを感じ、あなたの声を聞き、あなたを見ることができるようになるのでしょうか？」——私はこう答えるだろう。「それは、すべての人が霊化を成し遂げた時である。」——しかし、もしそうになっていたならば、彼らはすでに、あらゆる感覚に依拠した宗教的実践や、あらゆる狂信的な信仰から遠ざかっていたはずである。

61. 私は、彼らにとっての教訓となる試練を通じて彼らに語りかけている——時には彼らの信仰を報い、時には、私に捧げるにふさわしくない行いによって私の恩恵を求めようとするならば、私の神聖な正義をもって彼らを懲らしめることもある。

62. 彼らが、私が試練を通じて理解させようとしていることを理解することは、極めて稀である。しかし、彼らの苦しみ、信仰、あ

るいは私への希望を鑑みて、私は彼らの過ちと無知を赦し、彼らに私の憐れみを送る。

63. 今こそ、わたしの御霊が絶え間なく、人々の霊、魂、理性、そして心に語りかけている時である。わたしの声は、思考や試練を通じて人々に届く。それによって、多くの人々が自発的に真理に目覚める。というのも、彼らを導き、教えを授けるべき者たちは眠りについており、世界が決して目覚めることのないことを望んでいるからである。

64. 愛する民よ、覚えておきなさい。もしあなたがたが、わたしの言葉による福音を他の国々に伝える準備ができていれば、多くの人々がわたしのメッセージを理解するだろう。

65. 私がこのようにあなたたちに語りかけると、あなたたちは心の奥底でこう言うだろう。「自分の母国語ですら表現するのが不器用だと感じているのに、どうして様々な言語で教えることができるだろうか？」と。

しかし、私はあなたがたに言う。ああ、私の言葉を信じない民よ！ 第二の時代の使徒たちは、さまざまな言語を話すための肉体的な訓練を受けていたと思うのか？ いいえ、わが子らよ。それでもなお、彼らはすべての人に理解されることができた。なぜなら、彼らが話し、私から学んだ言葉は、愛の言葉だったからだ。彼らは、師が教えた通りに人々を慰め、病人を癒やし、平和をもたらし、光をもたらし、真理を明らかにし、道を示した。しかし、彼らは言葉よりもむしろ行いによってそれを成し遂げたのだ。

愛はこうして表現されるのです。すなわち、行いを通して。同様に、光の魂もまた、多くの場合、人間の言葉を必要とせず語りかけるのです。

66. 私があなた方にメッセージを伝えるこの短い時間の間に、この唇からどれほどの霊的な教えが溢れ出ているか、もうお分かりでしょうか？ 私の啓示が続く間、この口からどれほど多くの言葉が語られているか、お分かりでしょうか？ しかし、私が時間ごとに、そして常にあなたがたの間で成し遂げている行いの数と比較すれば、それらは微々たるものに過ぎません。それゆえ、私は真実を告げます。私は言葉よりも、むしろ行いを通じて、あなたがたに語りかけているのです。これまで、あなたがたは、賢明に、そして絶え間なくあなたがたに語りかける私の「言葉」を解釈することを学ぼうと努力してこなかっただけである。あなたがたは、人間の言葉を通じてのみ私の啓示を受け取ることができると信じている。それゆえ、

私はあなたがたが、自分の言語で、人間的な形で私の言葉を聞き取れるように許してきたのである。

私の平安があなたがたと共にありますように！

教え 307

1. あなたがたの心に安らぎを与え、魂に平安をもたらすのは、わたしの「言葉」である。わたしがあなたがたのために定めた最も偉大なものは、平安である。この宝を持つ者はすべてを持っている——この魂の状態を知る者は、たとえこの世で最も偉大な財産や宝と引き換えにしようとも、決してそれを手放すことはないだろう。

2. もしあなたがたが、平安を得て保つための秘訣は何かと私に問うならば、その秘訣は、あなたがたの父の御心を行うことにあり、私は告げよう。そして、もしあなたがたが、神の御心をどのように果たせばよいかと私に問うならば、私は、あなたがたの人生に私の律法と教えを適用することであると答えるだろう。

3. 私が「私があなたがたに与える最大のものは平和である」と言うのを聞いて、失望する者もいる。なぜなら、彼らは私が「この世の宝や財産を分配するために来た」と言うのを聞きたいと思っているからだ。その理由は、彼らが平和とは何かを知らないからである——しかし、そう思っているのは彼らだけではない。

平和を知っている者は誰か。どの人間が、それを手に入れていると断言できるだろうか。誰もいないのだ、民よ。それゆえ、私があなたがたへの最大の贈り物として持ってきたもの、すなわち「平和」を、取るに足らないものだと思なす人々を、私は多く見ている。

もしあなたがたが、この魂の状態とはどのようなものかを知ることができれば、その恵みを失わないよう、あらゆる努力を惜しまなくなるでしょう。なぜなら、それによって、光の王国における霊的な生活がどのようなものになるか、その一端を垣間見ることができるからです。

4. あなたがたは真の平安とは何かを知らないため、それを切望することに満足し、あらゆる手段を尽くし、考えられるあらゆる方法で、わずかな心の安らぎや快適さ、満足を得ようとはするものの、決して真の魂の平安そのものを得ることはできない。私が言うが、それを得ることができるのは、主の御心に対する子供のようないたずらな従順さを持つ者だけである。

5. この世には、私の言葉を正しく説く者、私の教えを正しく解釈する者が欠けている。それゆえ、キリスト教徒を名乗る人々でさえ、霊的に後進的な生活を送っている。なぜなら、私の真の教えをもって人々を揺さぶる者がおらず、私が人々を教えたのと同じ愛をもって心を育む者がいないからである。

6. 毎日——集会所や教会、大聖堂において——私の名が唱えられ、私の言葉が繰り返されているが、内面から動かされる者はおらず、その光に心を震わされる者もない。それは、人々がその真意を誤解しているからである。大多数の人は、キリストの言葉の力は、それを機械的に何度も繰り返すことにあると信じているが、それを暗唱することではなく、研究し、熟考し、実践し、生きることが必要であるということを理解していない。

7. もし人々がキリストの言葉に込められた真意を求めようとしたなら、それは彼らにとって常に新しく、新鮮で、生き生きとして、現実味のあるものとなるだろう。しかし、彼らはそれを表面的にしか理解しておらず、それゆえ、そこから養分を得ることができず、このやり方では今後も決して得ることはできないだろう。

8. 哀れな人類よ——光がすぐそばにあるにもかかわらず暗闇の中をさまよひ、平和が手の届くところにあるにもかかわらず、恐る恐る嘆き悲しんでいる！しかし、人々はあの神聖な光を見ることができない。なぜなら、彼らに容赦なく目隠しをした者たちがいたからである。真にあなた方を愛する私は、あなた方を闇から解き放ち、かつて私が語ったすべての言葉が永遠に有効であり、その神聖な言葉を過去の時代の古い教えとして捉えてはならないことを証明することで、あなた方を助けに来る。なぜなら、私の教え全体の本質であった愛は永遠であり、その愛の中にこそ、迷い、計り知れない苦しみ、そして抑制のきかない情熱が渦巻くこの時代における、あなた方の救いの秘密が秘められているからです。

9. また、私がこの時代にあなたがたにもたらすのは、新しい教えではなく、太古の時代から現在に至るまであなたがたに啓示されてきたすべてのことを理解できるようになるための光である。

10. 人類はこの霊的なメッセージを受け取ったとき驚き、私のこれまでの教えに込められた無限の愛——彼らが想像すらしていなかった愛——を確信するだろう。そうして初めて、彼らは自分たちが父に対して恩知らずで、不誠実で、無関心であったことに気づくことになる。彼らは、何らかの苦難や物質的な窮地に陥ったときだけ、父に助けを求めていたのだ。

11. 私はあなた方を赦し、愛し、真の憐れみを注いでいる。霊的、精神的、知的に備える者は幸いである。その者は私の光を直接受け取り、その瞬間から、この世の仲間たちが示してきた道とはかけ離れた道を歩むことになるからだ。

12. 私があなたがたに私の愛を感じさせるのは、戦いの最中に勇気を失わないようにするためである。

13. 第三の時代は靈的な闘いを意味し、それは試金石であると同時に遺産でもある。なぜなら、私はあなたがたに神聖な遺言を残したからである。

14. わたしの畑で働いてきた労働者たちには、その種まきを大切に育て、すでに近づきつつあるあの恵みの日、すなわち1950年の終わり——あなたがたへのわたしの啓示の最後となるその日——に、それをわたしの前に差し出すよう、わたしが靈感を与えている。その時、あなたがたには、畑で収穫した、最も純粋で美しい黄金の穂を持ってきてほしい。そうすれば、私はあなたがたの収穫を受け入れ、それを祝福し、こう告げるだろう。「これこそが、あなたがたがこれからも私の畑に蒔き続けるべき種である。」

15. 弟子たちよ、あなたがたがこの道でよく戦ったとき、同時に喜びも収穫したのではないか。また、苦難の杯を飲み干したとき、それによってあなたがたの師であるイエスをより深く理解するようになったのではないか。試練を経た後、あなたがたは私をより深く愛するようになったのではないか。そう、民よ、まことに、私はあなたがたに告げる。与えるために「求める」ことと「受け取る」ことの間には、大きな違いがあるのだ。

16. あなたがたが私の言葉なしに過ごす日が近づいている。それは、あなたがた自身が私の教えを語り、行いを通じて、また明快で説得力のある言葉でそれを説明する者となるためである。

17. あなたがたが確かな足取りで、行動の時——すなわち、闘いの時——へと踏み込めるよう、祈りなさい。しかし、人々が荒野やヨルダン川流域、あるいは山の上で、わたしに従ったときに、わたしが彼らに祈らせたのと同じような、その素朴さをもって祈りなさい。

18. 全人類のために祈りなさい。また、スピリチュアリストであるあなた方のためにも祈りなさい。あなた方の試練の時は近づいているのだから。

19. 私が去った後、あなたがたの共同体には混乱が生じ、一時的に分裂することになるだろうと私が告げても、動揺してはならない。あなたがたは、皆が私の戒めを理解するに至るまで、しばらくの間、三つのグループに分かれることになるだろう。しかし、今日の時点で、すでに私は、私の意志を理解し、愛と善意をもってそれに従う者たちを祝福する。なぜなら、私は彼らの魂に、私の靈感という豊かな恵みを授けるからである。彼らは、自ら責任を引き受け、準備を整え、自らの行いを靈的なものへと高め、あらゆる面でわたしの業に忠実であり続けるでしょう。そうすれば、すべての人を

再び一つに結ぶ試練が訪れたとき、彼らは、兄弟姉妹に対して非難も、虚栄心も、優越感も抱くことなく、心を開くことができるようになるのです。

20. これから起こる出来事の予告を耳にしたとき、悲しみの雲があなたがたの心の平安を覆ってしまった。あなたがたが感じているこの痛みが、不忠実になる者たち――すなわち、自分の意志を通そうとして私の言葉を見做す者たち――の一員とならないための糧となることを願う。

21. わたしに背を向ける者たちには、今すでに告げておく。彼らは、自らの過ちを認め、従順の道に戻るまでに、多くの涙を流さなければならぬだろう。そして、わたしに忠実であり続ける者たちには、彼らを待ち受ける戦いは大きなものとなること、また、他の人々が、あなたがたの良心に刻まれているため、あなたがた全員が知っている神の戒めに服従しない限り、不和のために多くの涙を流し、多くのことを耐え忍び、苦しみ、そして希望を抱き続けなければならないことを告げます。

22. 忍耐し続ける者たちは幸いである。彼らは、この民の団結と、霊的な戦いの始まりを目撃することになるからである。

23. 弟子たちよ、光と力に満たされ、誘惑に負けないよう祈りなさい。

24. 愛をもって苦難の杯を飲み干すことを学べ。そこにこそ、弟子としての功德がある。確かな足取りで道を歩み、カルヴァリー山の頂上に到達し、あなたがたの父と人類を祝福せよ。わたしはあなたがたに告げる。信仰を持ち、従順にわたしの道にとどまることを知る者は、転ぶことも迷うこともない。その者は、人生の旅路の全行程において、わたしの臨在を感じ、わたしの平安を体験するのである。

25. なぜ、罪深い生活を送ってきた者たちが、肉体の死の瞬間に救われようとするのか。なぜ、多くの者が、汚れの中に生き、アザミの上を歩いても、自分を汚したり傷つけたりすることなくいようとするのか。

26. わたしは、あなたがたが罪人の中にあって、その影響を受けずに生きることを学び、茨の間を通り抜けながら傷つくことなく歩み、残虐行為や恥辱を目の当たりにしても怒りに駆られることなく、悲慘に満ちたこの世に生きながらもそこから逃げ出そうとはせず、むしろその真ん中に留まり、苦しむ人々に可能な限りの善を行い、あらゆる道で善の種を蒔くことを切望できるようになるためである。

27. 人間の罪によって地上の樂園が地獄へと変貌してしまった以上、人間は自らの汚点を洗い流し、それによって人生に本来の清らかさを取り戻す必要がある。

28. 弟子たちよ、私がこれらの教えの一つひとつを通じて、いかにして私の神聖な計画をますます明らかにし、あなたがたの使命を告げているかに注意を払いなさい。そうすることで、あなたがたはこのメッセージの真意をますます理解するようになるだろう。

29. わたしの教えは広まり、多くの人の心を捉えるだろう。とはいえ、それを嘲笑し、拒絶し、それに立ち向かう者たちも数多く現れるだろう。しかし、これは決して新しいことではなく、あらゆる時代に真実に対してなされてきたことと同じである。

30. この民が、突如として襲いかかる嵐の真っ只中で前進していくためには、わたしの律法の道においてその歩みを確固たるものにしなければならず、心の中に信仰の炎を輝かせなければならない。その精神は救命ボートとして、御霊への真の崇敬を求めなければならず、その心は、人間の生活における第二の神殿である家族への献身に、その避難所を見出さなければならない。

31. この日、私はとりわけ、明日、その存在によって新しい家庭の生活を照らし出さなければならない少女たちに語りかける。彼女たちは、妻としての心と母としての心が、霊が内なる神殿を照らすのと同じように、その聖所を照らす光であることを知らなければならない。

32. 新しい生活が突然訪れることのないよう、今からその準備をしておきなさい。今こそ、あなたがたの子供たちが歩む道を整えておきなさい——その魂たちは、ある使命を果たすために、形を成し、人間の命を受け取るべく、あなたがたの胎内に近づく時を待っているのだ。

33. 私の回復の計画、そして刷新と正義の業において、私の協力者となりなさい。

34. この時代、あなたがたの歩みを待ち伏せている多くの誘惑から背を向けなさい。多くの女性が滅び、多くの聖域が冒瀆され、多くの灯が消えつつある、罪深い都市のために祈りなさい。

35. あなたがたの模範を通じて、人類における霊性の欠如がもたらす結果を食い止める、命と真理と光の種を蒔き広めなさい。

36. この民の乙女たちよ、目を覚まし、戦いの準備を整えなさい！心の情欲に目がくらむことなく、虚構に惑わされてはならない。直感やインスピレーション、感受性、そして繊細な感性を開花させなさい。真理の中で強くなれば、この人生の戦いに立ち向かうため

の最良の武器を身につけたことになる。自らの血を通して愛を伝え、私がこれほど多く語っている「愛」という生命の真髓をもって子供たちを支えるためには、まずその愛を体験し、愛に身を委ね、深く感じ取らなければならない。これこそが、私の教えがあなた方の心に成し遂げようとするものである。

37. 妻の心は幸いである。それは夫の安らぎの場だからである。母の心は、子供たちへの慈愛の源であるゆえに、祝福されよ。しかし、私はまた、あなた方にこう告げる。そのマントの下で苦しむ者たちを保護する乙女たちは祝福されている。なぜなら、彼女たちの慈愛は、人間を超越した婚約のような、母性のようなものとなるからである。この世の義務を拒み、霊の義務を果たすことを理解できた者は、いかに少ないことか。

38. すべての女性や男性が、この世で親となる使命を負っているわけではない。子供たちは母親にとって鎖のようなものであり、子供を持つこととは相容れない何らかの使命を果たすために、自由を必要とする魂たちもいるのだ。

39. この人類は、いつになったら、誰もが――父と共に食卓を囲んだり、祈りを捧げたり、私に向かって立ち上がったるとき――まさに自分の使命を果たしていることへの喜びを私に示す、唯一かつ真の家族を形成するのだろうか。

40. あなたがたは、その従順、その同意、そしてその調和から、まだ遠く離れている。なぜなら、ある者たちは道を踏み外している一方で、他の者たちは自らの運命に同意していないからだ。

41. 私がこれらの声の担い手たちの知性を通じてあなたがたに啓示した霊の教えが、地上に広められることが必要である。そうしてこそ、闇は霊化の光に道を譲り、人類は真理の水を飲むことができるのだ。

42. 今日、私の教えは、あなたがたを戦いに備えさせることに限定されており、私の預言は、ただ大きな試練を告げているに過ぎない。私の言葉は、あなた方を戒め、正し、導くものである。しかし、人間が霊から霊へと通じ合う時、恵みの時が訪れるだろう。その時、人間は自らの存在の至高の領域において、神聖な言葉が響き渡るのを感じるだろう――それは、人間の表現やアクセントを一切伴わずに、それを受け取る者たちには理解される言葉である。

43. その言葉は、もはや裁きの宣告も、非難も、警告ももたらさない。そのメッセージは、知恵と愛に満ちたものとなるだろう。

44. あなたがたはその時代の到来を待ち望んでいるが、まだ辛抱しなければならない——受動的な期待ではなく、絶え間ない努力と働きをもって。

45. わたしはあなたがたに祈ることを教え、靈化に至る道を明らかにした。なぜなら、そこにこそ、御霊を通じて神と人間との完全な対話への扉を開く鍵があるからだ。

46. 愛する民よ、これを達成するために、世の罪に立ち向かうに足る功德を積みなさい。努力を強め、必要ならば自己犠牲に至るまで踏み出せ。もしあなたがたの杯が苦いものであっても、忍耐強くあれ。

47. わたしを信頼しなさい。あなたがたはわたしの弟子であり、わたしを手本としなければならないことを心に留めなさい。もしあなたがたが信仰を持ち、その信仰が深ければ、試練を受け入れ、な勇気をもって逆境を乗り越えなさい。あなたがたがわたしについて証しをするなら、わたしもあなたがたについて証しをするであろう。

48. わたしの靈はすべての人々に注がれたが、あなたがたこそ、わたしの臨在を感じ取ることができた民である。地上の他の民は、この時代の啓示を知らず、第三の時代が幕を開けたことも知らない。それゆえ、あなたがたの使命はさらに大きなものである。なぜなら、あなたがたは、目覚めの呼びかけを響かせる者——すなわち、福音を広める者——でなければならないからである。

49. 確かに、すでに多くの人々が私の再臨のしるしを認識し、預言を求めて聖書を精査し、今日人類を圧迫している試練が主の裁きを物語っていると感じている。彼らは私を求め、私を待ち望み、私を切望しているが、私の神聖な輝きがすでに人々の間に満ちていることを知らない。彼らは、私がこの民にどのように自らを現したか、また、私がすべての物質とすべての魂をどのように照らし出しているかを知らない。

50. 福音は、私の啓示の間に私の声を聞いた者たちの口を通じて、諸国民へと伝えられるだろう。そうして、全世界が私の到来を知り、私のメッセージを知るようになる。人々が、この啓示が始まった時期と終わった時期を知ったとき、あらゆる国、あらゆる民族、そして一人ひとりの人間が、私の臨在を告げる試練や出来事を経験していたことに気づき、驚嘆するだろう。

51. まことに、わたしはあなたがたに告げる。わたしは、あなたがたがこれまで経験してきたような形で、もはや現れることはない——ここでも、他の民族の間でも。なぜなら、この民がわたしの言

葉を地上の至る所に広め、人類がわたしのメッセージを信じることにこそ、その功績があるからだ。

52. まことに、あなたがたに告げる。かつて王たちでさえ、私が生まれた貧しさに驚嘆したように、この時代にも、私があなたがたに私の言葉をもたらすために選んだ、その目立たない方法を皆が知ったとき、同様に驚かされることになるだろう。

53. わたしのメッセージをめぐる論争が巻き起こるだろう。ある者はそれが真実であると断言し、ある者はそれを否定しようと試みるだろう。ある者は自らの霊的な体験について証しをするだろうが、ある者はそのような現れの存在を否定するだろう。しかし、真理は勝利を収めるだろう。今こそ、魂の中に眠っていた賜物や能力が目覚め、人々を通して現れ出る時だからである。なぜなら、な肉体は、この時代において、すでに霊界との交信に不可欠な発展と感受性を備えているからである。

54. 子供たちから始まり、青年期を経て大人に至るまで、すべての人が、当初は奇妙に思えるような現象を経験することになるだろう。なぜなら、人々は長い間、霊的なものから遠く離れて生きてきたからだ。しかしその後、人々はそれらを、人間のより高い生活において全く自然なものと見なすようになるだろう。

これは、子供たちがすでに深遠な事柄について語り、男性も女性も霊的な幻視や預言的な夢を見、そして癒しの賜物が地球全体に広まったときに起こるでしょう。

55. 霊的な賜物の目覚めを最初に示す者たちは、どれほど激しく攻撃されることか！しかし、わたしは彼らに、批判や非難、嘲笑に耐え抜くための力と忍耐を与える。

56. 愛する証人たちよ、心配するな。私はあなたに告げる。長い間、触れるもの、目に見えるもの、限られた知性で理解できるもの、そして科学によって証明されたものだけを信じてきたこの物質主義的な人類は、やがて霊的になり、霊的な眼差しで私を見、真理を求めることができるようになるのだ。

57. 地上の支配者や権力者たちは、私の再臨という真実を目の当たりにしたとき、大きな動揺に襲われるだろう。なぜなら、彼らは心の中で、私が何のために来たのかと自問するからである。それに対し、貧しい者たちの間では、大きな歓喜が湧き上がるだろう。なぜなら、彼らの心は、抑圧された者たちや、愛と正義への果てしない渇きを抱いてきた者たちにとって、今や恵みと自由と平和の瞬間が近づいていると告げるからである。

58. あなたがたが今日なお、社会的無意味さに限定し、その貧しさの中に隠れていると見なしているこの業は、神聖な光として輝き、全地を照らし、眠れる魂を目覚めさせ、心の中に信仰の炎を灯し、人々の理解力の前に「真の命の書」、すなわち「真理の書」を開くことになる。

59. 民よ。なぜ私の啓示がこれほど長くあなた方と共にあったのか、その理由の一つを知りたいと望むなら、それは、私を聞いたあなたが、心の中に私の言葉を留め、それを書物に書き記すためである。あなた方は、それを人々の心に届ける使者であり、使節となるのだ。

60. 私の啓示は1950年に終わりを迎えるため、あなたがたはまもなく、そのための準備を始める自由を得るだろう。

61. まもなく新たな時代が幕を開ける。その時代において、あなたがたは自らの賜物が花開くよう努めなければならない。そうして、靈感の流れが生まれ、（内なる）御言葉の賜物が働き始め、預言の賜物が完成し、あなたがたの心が隣人への愛と憐れみで満たされるように。

62. あなたがたは三つの聖書を唯一の遺産として受け継ぐことになる。そして、その道のみで聖霊の到来を待ち望む人々に出会ったならば、彼らに私のメッセージを示し、メシアを待ち望みながら、彼が現れた時に彼を見分けられず、今もなお待ち続けているユダヤの民のようになってはならないと告げなさい。

あなたがたの霊的使命の道を歩みなさい——そうすれば、人々はあなたがたの生き様を見て、その言葉を聞くと、あなたがたを新しい世界の種、新しい人類の礎となる世代であると認めるようになるでしょう。

63. 地上において、この世代と、まもなく到来する世代を導く特権を与えられた父たち、母たちよ。彼らのために目を覚まし、祈りなさい。彼らのために道を整えなさい。私は、彼らが私の新たな啓示を受け入れる準備が整っているのを見たいのです。彼らの間から、かつての試練の時代に、まるで使者のように、また闇の中の松明のように輝いた古代の偉大な預言者たちと同様に、その予言によって世界を震撼させる預言者たちが現れるでしょう。

64. 霊界は、計り知れないほど大きな守護天使のように、これらの被造物たちの歩みを見守り、私があなたがたに告げ、約束するこれらの人々を、子供のようにその中に迎え入れる者たちを助けてくれるであろう。

65. 民よ、わたしはあなた方を祝福する。あなた方は、ほんの短い間とはいえ、この世に属するあらゆるものから離れ、わたしに耳を傾けるという霊的な喜びに身を委ね、その過程で、あなた方が十字架の重荷を背負い抜くために必要なすべての平安、喜び、そして慰めが、わたしの言葉の中にあることを悟ったからである。

66. わたしの愛があなた方を包み込み、わたしの平和があなた方を優しく撫で、わたしの御霊が、苦しみ、この地上で一滴の癒やしも、慰めや愛の言葉も見つけることのできない人々のために祈るよう、あなた方を招いている。

私の平安があなた方とともにありますように！

教え 308

1. 愛する弟子たちよ。日々、霊的な祈りを実践し、自らを完成させようとする善意のすべてをそこに注ぎ込みなさい。心に留めておきなさい。あなたがたが師と親密な交わりに至り、その瞬間に限りない平安を体験することに加え、それはあなたがたにとって、私の神聖な靈感を受け取る最良の機会なのです。その啓示の中に、あなたがたが理解できなかったことや誤解していたことすべてに対する説明を見出すでしょう。あらゆる危険を未然に防ぎ、問題を解決し、不明点を解消する方法を見出すことになるでしょう。その祝福に満ちた霊的な対話の時間において、あなたがたのすべての感覚が照らされ、善を行うことへの準備が整い、その気にもなっていくでしょう。

2. 今、あなた方の世界があらゆる種類の危険を内包しているこの時こそ、このように祈ることを学びなさい。御霊によって祈ることを学ぶ者は、戦いで無敵となる武器を手に入れ、あらゆる試練に耐え抜く力を与えられるでしょう。

3. あなたがたは、まだ自らの光で道を照らすことができないため、私はあなたがたに私の光をもたらしめます。しかし、一度私の教えをあなた方の生活に適用すれば、あなた方は私にこう言うでしょう。「父よ、人生の道を歩むことを教えてください、ありがとうございます。今や、私たちはもはや自らを滅ぼすことも、倒れることもありません。」

4. かつて私はあなたがたに、「私は世の光である」と言いました。それは、私が人間として語っていたからであり、人々が自分たちの小さな世界の外側について何も知らなかったからです。今、霊の次元において、私はあなたがたにこう言います。私は、すべての世界、天、そして住まいの命を照らし、すべての存在と生き物を啓発し、彼らに命を与える、普遍の光なのです。

5. あなたがたは光の父の子らである。しかし、もしあなたがたが自らの弱さゆえに、苦勞と過ちと涙に満ちた人生の闇に陥ったとしても、それらの苦しみは過ぎ去るだろう。なぜなら、私があなたがたを呼び、こう告げるとき、あなたがたは私の呼び声に応じて立ち上がるからである。「私はここにいる。あなた方の世界を照らし、山に登るよう招く。その頂上には、あなたがたが地上でむなしく蓄えようとしたすべての平安、幸福、そして富が見つかるだろう。」

6. 私の赦しは、この世の諸国民とすべての被造物であるあなた方を包み込み、私の光は、夜に寝室に忍び込む泥棒のように、すべて

の心の最も奥深くにまで届き、父としての私の存在をあなた方に実感させる。なぜなら、私はあなた方すべてを愛しているからだ。

7. 愛する民よ、わたしはあなたがたの苦しみと涙を祝福する。しかし、あなたがたはまだ、愛と服従をもって苦難の杯を受け入れることを学んでいないと告げる。あなたがたは、わたしをの模範とすることを心に決めていない。それゆえ、試練に直面したとき、しばしば不平を漏らし、さらには反抗さえ見せるのである。

8. 見よ、あなたがたは私の弟子でありたいと願っているが、弟子である以上、私が教えた通りにその杯を空にしなければならない。世に自分の弱さを見せるな。また、自分の不運を大々的に吹聴するな。私がゴルゴタへの受難の道で、処刑人たちに抵抗したことがあったか？ いいえ。あの唇はただ祝福を受け、静かな声でこう言ったただけだ。「父よ、御心が行われますように。」「父よ、彼らをお赦してください。彼らは、自分が何をしているのか分かっていないのですから。」

9. 功德とは、単に苦しむことにあるのではなく、父への愛と信仰、そして忍耐をもって苦しみを受け入れ、その苦しみから最大の益を得て、最も深い教訓を学ぶことにあるということを忘れてはならない。もしあなたがたの試練の中に、父の御心に対する愛が存在しないならば、あなたがたは私の目には何の功德も積んでいないことになり、少しでも高みへ昇る機会を活かせなかったことになり、それゆえ、あなたがたの魂が必要とするその試練を、もう一度経験しなければならないことになるでしょう。

もしあなたがたが、苦しみながら十字架を背負って歩くのではなく、その道を歩み進みながら、その痛みを祝福するならば、あなたたちの人生は違ったものになるでしょう。なぜなら、その瞬間、まるで目に見えない手があなたのもとに来て、あなたの唇から苦しみ
の杯を取り除いてくれるかのような感覚を、すぐに感じるようになるからです。

10. 主の御心を祝福する者は幸いである。自らの苦しみを祝福する者は幸いである。それは、その苦しみが自らの汚点を洗い流してくれることを知っているからである。なぜなら、その者は霊の山を登るために、自らの歩みに確かな足場を与えるからである。

11. あなたがたが苦しみ
の杯を底まで飲み干す必要が、常に生じるわけではない。なぜなら、あなたがたの信仰、従順、決意、そして私の命令に従おうとする意志を見るだけで、私には十分であり、それによって、私はあなたがたを、試練の最も厳しい瞬間から免れさせてあげることができるからだ。

覚えておいてほしい。アブラハムには、彼が深く愛していた息子イサクの命が求められた。この族長は、痛みと息子への愛を乗り越え、あなたがたにはまだ理解できないほどの従順、信仰、愛、そして謙遜の試練の中で、イサクを犠牲にしようとしていたのだ。しかし、彼は息子への犠牲を最後まで遂行することを許されませんでした。なぜなら、彼は心の奥底で既に神の御心への従順を証明しており、それだけで十分だったからです。より高い力によって彼の手が止められ、イサクの犠牲を阻止されたとき、アブラハムの心の中の歓喜はどれほど大きかったことでしょうか！彼は主の御名をどれほど賛美し、その英知をどれほど称賛したことでしょうか！

12. さて、愛する民よ、私は、あなたがたが私を真に知るため、試練の中や決定的な瞬間に私の臨在を感じ、あらゆる困難で苦い瞬間に私の慈悲を実感できるよう、私があらゆる時代に与えてきた偉大な教えの模範を、あなたがたに自覚してほしいと願っている。なぜなら、今日に至るまで、あなたがたは私の臨在を感じ取るのできる完全な霊的感受性をまだ獲得していないからだ。それゆえ、あなたがたは、私があなたがたの人生の一步一步において実現している愛と正義の御業を、正しく評価することができないのである。

13. 無知ゆえに、あなたがたは、それらが魂にもたらした光に気づくことなく、どれほどの試練を拒んできたことか！あなたがたの抵抗や信仰の欠如、あるいは臆病さがそれを許さなかったために、どれほどの教訓がその目的を果たせなかったことか！

14. 私が言っているのは、あなたがたに「痛みを愛せよ」ということではない——いいえ、あなたがたが愛すべきなのは、平和であり、幸福であり、光なのである。しかし、あなたがたの不完全さの結果として、苦痛が贖いの杯としてあなたがたの唇に届けられたのなら、忍耐をもってそれを飲み干し、祝福しなさい——それを通じて、あなたがたは自らの浄化と、多くの真理の啓示を得ることができるのだと知ってください。

15. 信仰の薄い男女よ。なぜ試練の中で勇気を失ってしまうのか。私が、倒れた者を立ち上がらせるために急ぎ、泣く者の涙をぬぐい、孤独な者に寄り添い、病人を訪ねる姿を、一度も目にしたことがないのか。

16. 人生で多く涙を流してきた男女よ——この教えはあなた方に捧げられたものである。深く考えを巡らせれば、どれほど甘美な慰めがあなた方の心に満ちてくるかを実感するだろう。あなたがたの存在の最も奥底で、小さな灯が灯り、これまで経験したことのないような感性が、あなたがたの心の萎えた琴線に響き渡り、苦しみの

中にも、喜びの中にも、そして安らぎの瞬間にも、私の霊的な臨在を感じさせてくれるでしょう。

17. こうした瞬間には、あらゆる嘆きや痛みを私のところに委ねなさい。泣いて、すすり泣いてください。泣くことによって、あなたの魂は重くのしかかる重荷を振り払い、その後、心はより自由になるからです。

18. 泣いてください、愛する民よ。泣くことは、神への心からの祈りの中でも最も誠実な祈りの一つだからです。明日、あなたがたが痛みを克服し、霊的な境地に達したとき、もはや泣くことが最善の祈りではなく、あなたがたが私のもとへ近づき、私を祝福するようになる、魂の平安こそが最善の祈りとなるでしょう。

19. 今日、私は霊においてあなたがたの前に現れ、霊によって語りかける。それは、あなたがたが私を少しでもよく知ることができるようにするためである。

20. 私がこの世にいたとき、人々は私を人間として見、私の名前、すなわち「イエス」を知っていました。私が天に昇って初めて、人々は、イエスを通して語られた方が、預言者たちによって予告されていたキリストであったことを理解し始め、それ以来、彼らはイエスを「キリスト」と呼ぶようになったのです。

21. まことに、あなたがたに告げます。キリストはあなたがたの世界で生まれたものではありません。なぜなら、キリストは父と一つであるゆえに、すべての世界が造られる前から存在していたからです。

22. あなたがたの世界で生まれ、母の胎内で肉体をとったのは、イエス、すなわち人間であり、祝福された肉体であった。彼は、人類がわたしを見、わたしの声を聞くことができるよう、わたしの道具であり、わたしの代弁者であった。

23. 今、あなたがたに語りかけている私、キリストは、イエスの中にいた。私は彼に命を与え、彼を力づけ、彼に靈感を与えた。彼は神聖な使命を果たすために定められており、彼に霊的な命を吹き込んだ御方に捧げられた彼の命、その肉体、そしてその血は、「御言葉」が彼の唇を通して語るすべてのことを確証するものとなるはずであった。

24. イエスは人間としての被造物であったが、神に仕える器となるために、汚れも不純物もなく受胎された。「御言葉」——すなわち神の御言葉——が彼の中に受肉していたのである。30歳、すなわち成人期に達したとき、イエスの中に宿っていたキリストは、その栄光、真理、そして愛のすべての輝きを現した。

25. 神の言葉が自らの口から発せられる時を待ち望んでいた、愛に満ちた謙虚なナザレ人イエスは、洗礼の水を受けるためにヨルダン川のほとりでヨハネを訪ねた。イエスは清めを求めるためにそこへ行ったのか？ いいえ、わが民よ。儀式を執り行うために行ったのか？ それも違う。イエスは、ご自身が「自分」であることをやめ、人間としての姿が消え去り、御霊が語られる時が来たことを知っておられました。そして、人々の記憶に深く刻まれるような行為によって、その時を際立たせようとなさったのです。

26. その象徴的な水は、いかなる汚れも洗い流すものではなかったが、人類の模範としてのその肉体を、この世へのあらゆる束縛から解き放ち、御心が望むままに御霊と一つになることを可能にしたのである。そのとき、そこにいた者たちは、人間の言葉で語る神の声に耳を傾けた。「これは、わたしが愛し、喜んでいるわが子である。彼に聞き従え。」

27. その瞬間から、神の言葉はイエスの口から語られる永遠のいのちの言葉となった。なぜなら、キリストがイエスを通してその全き姿を現されたからである。人々はイエスを「ラビ」、「師」、「使者」、「メシア」、「神の子」と呼んだ。

28. 3年間、私はイエスの口を通してこの世に語りかけたが、私の言葉や考えが、その知性によって歪められることは一度もなく、また、イエスの行いのうち、私の意志と一致しないものは一つもなかった。その理由は、キリストが父と一つであるのと同様に、イエスとキリスト、すなわち人間と御霊が一つであったからである。

29. 弟子たちよ。今、私は人間を通して霊的に自らを現すことで、あなたがたに語りかけてきた。しかし、彼らはイエスのように私の体ではないし、また、私はこの時代に人間となったわけでもない。それゆえ、あなたがたが皆そうであるように、不完全な被造物を通して私が語る場合、あなたがたは、私の声を聞き取り、私の声の媒体の不器用で不完全な表現の向こう側にある、私の神聖な意味と真理を見出すために、自らを準備しなければならないのだ。

30. わたしの真意を見出し、それを人間の表現方法の不完全さから切り離す者たちは、祝福されるであろう。なぜなら、彼らはわたしの最も優れた解釈者となるからである。彼らは、第二の時代のわたしの言葉や業を研究する際、いつ人間としてのイエスが語っているのか、いつ御霊としてのキリストが教えているのかを見分けることができない者たちのように、混乱に陥ることはないからだ。

31. 愛をもって私の教えを学びなさい。そうすれば、後になって、私の啓示について証しをしなければならないとき、あなたがたは

隣人に対して、真実かつ率直に話ることができるようになるだろう。

32. あなたがたは喜びをもって私に自分の行いを示し、勝利についても、また敗北についても私に語りかける。そして、あなたがたの人生を導き、永遠にあなたがたを見守る父である私は、あなたがたがすべての行いにおいて徳と正義を成し遂げられるよう、引き続き熱心に戦い続けるよう励ます。

33. あなたがたは、一步を踏み出す前に祈ることを学び、わたしの律法に対する最も厳格な従順をもって行動しようと努め、また、あなたがたがわたしの弟子であるという責任を常に心に留めている。あなたがたは、地上の義務を全うしつつも、それらが時間と注意力のすべてを奪うことのないよう、準備を整えています。そうすることで、最も貴重な時間とエネルギー、そして心を、霊的な使命の成就に捧げることができるのです。

あなたがたは、与えられた生涯が、あなたがたの精神にふさわしい偉大な業を成し遂げるのに、ちょうど十分な長さであることを心に留めている。したがって、自分の賜物を知るとき、あなたがたは自らの存在の全力を尽くして働く準備をする。そうすれば、あなたがたの中に喜びが生まれ、あなたがたの父は満足される。

34. わたしはあなた方と呼び寄せ、この教えの真髄のすべてを宿すことのできる清らかな器として整えた。この器を満たしたら、それを周囲の人々に届け、彼らもまたあなた方の喜びを分かち合えるようにしなさい。

皆さんはすでに、目の前に広がる広大な地平線、すなわち私のもとから始まり、また私のもとで終わる道を垣間見ている。私が「私は道である」と語ったことを思い出してほしい。もしあなたがたが従順にその道を受け入れ、私が差し出すものを愛をもって受け入れるならば、あなたがたの内面に映し出される満足と平安とともに、目的地にたどり着くことになるだろう。あなたがたは、所有していたすべてのものを手放したため、私の前に何の不満も持ち出さないでしょう。あなたがたは、霊性への道を歩む人類の一部——この回復の業においてあなたがたに割り当てられたその一部——を助けるために、全身全霊を捧げてきたのです。

35. 力が湧いてくるまで散らばってはならない。他の地方へと旅立つ前に学びを深め、そうして同胞たちの道しるべとなるのだ。「第二の時代の」私の弟子たちがそうであったように、準備を整えなさい。彼らもまた、師と共に暮らし、私の言葉を熱心に心に刻み、私の奇跡を目の当たりにした後、私の業を継ぐには自分たちは弱す

ぎて取るに足らないと感じ、私にもっと長く彼らのそばに留まってほしいと願ったのである。

しかし、私の別れの日が近づくとつれ、彼らは、愛してやまない師が去り、彼らにとって果たすのが極めて困難な使命を課していくことに対して、ますます納得していくようになった。私は彼らの心に深く入り込み、彼らを押しつぶすような痛みを見ました。そして、私の言葉は、彼らの大きな苦しみを慰めるための香油のように彼らに注がれ、こうして私は彼らにこう言いました。「恐れるな。私はあなたがたと共にいる。そして、私の光は常に降り注ぎ、あなたがたを照らし続けるだろう。」

同様に、私も今、あなたがたが私の恵みを受けてきた一定期間だけ来たのであり、この言葉もまた終わりを迎え、その後は人間の仲介なしに、霊から霊へと流れ続けることになる。

36. 私は、あなたがたがこれらの啓示が消え去ることを不満に思っただけを望まない。むしろ、あなたがたが私の言葉を大いに喜んだのと同様に、この形が終わり、より高次の新しい形へと道を譲り、それによってあなたがたを私により一層近づけることを受け入れてほしい。

37. あなたがたの霊をもってわたしを見つめ、愛に満ちてこの瞬間の厳粛さに身を委ねなさい。私の光は語り手を照らし、私の言葉は、私が愛情を込めて手入れしている庭である、あなたがたの心の奥底へと降り注ぎます。私の言葉は、その庭を潤し、実り豊かで収穫の多いものにする水であり、その後、愛を渴望するこの人類の畑へと、新たな種をまき散らすのです。

38. わたしに導かせてください。そうすれば、道の終わりに、あなたがたは、わたしの御心に従い、それを守ることを知っていたからこそ、あなたがたの業が偉大であることを発見するでしょう。

39. 1950年が終わりを告げようとしている今、私の啓示もすでに終わりに近づいている。その後、竜巻がやって来て、その力強い木を激しく打ちのめし、生命を失った枯れ葉や、その木から実った劣った果実を振り落とすだろう。

40. わが民に降りかかるこの大いなる試練の結果、多くの心は、かつて養分を与えていた木から切り離された枯れ葉のように、落ちていくことになる。彼らは、信仰や愛の欠如、混乱、あるいは理想を持たないために、離れていくのである。しかし、彼らが残した空白は、後に、熱心な信者や善意ある弟子たちによって埋められることになる。

41. 新しい弟子たちは、今日、私の業をその名さえも知らない人々の中から現れるだろう。中には、最初の瞬間から謙虚で熱心な者もあり、彼らに「わたしに従え」と告げる私の声を聞くやいなや、彼らはわたしに従うようになり、それによって、第二の時代に海で漁をしていた時にわたしが出会った弟子たちのようになるだろう。

42. また、私の業に反旗を翻し、私の民を激しく迫害する者たちも現れるだろう。しかし、彼らの間からも、私の偉大な種蒔き人、最も忠実で寛大な弟子たちが現れるだろう。彼らの回心は、私の愛するパウロ——かつてサウロと呼ばれていた者——を思い起こさせるだろう。彼は、師への愛を捧げることで、十二使徒のうち、私を裏切った者が残した空席を埋めたのである。

43. 同様に、現代においても、私から背を向け、私を否認し、あるいは私を裏切った者たちの空いた場所を埋めるために、新たな人々の群れが私の民に加わらなければならない。

44. 試練の時、わたしに背くことになるであろう心よ！ いつかその言葉の中に救いを見出せるよう、あなたがたの魂の中に、わたしの言葉の不滅の種を大切に守りなさい！

45. そして、わたしに忠実であり続ける者たち——最後までわたしに従う者たちには、身構えるよう、わたしの言葉の真髄によって力を得るよう告げる。そうすれば、あなた方を非難し、批判し、中傷し、あるいは迫害する者たちの前に立ったとき、一瞬たりとも弱さを示すことはないだろう。

46. 私の弟子ペトロが、サウロによって死に至るまで迫害された時の出来事を忘れてはならない。私はその忠実な使徒に、彼が試練の中で一人ではないこと、そして私の力を信頼すれば、私が彼を迫害者たちから守ってあげること、を証明した。サウロは、ペトロを逮捕しようと捜し回っていた時、私の神聖な光に襲われたのである。私の光はサウロの心の奥底にまで届いた。サウロは——私の御臨在を前にして地面に倒れ、私の愛に打ち負かされ、私の弟子に対して企てていた任務を遂行できなくなり、心の奥底で自らの全存在が変容しているのを感じ、今やキリストへの信仰に回心して——急いでペトロを探しに出かけた。もはや彼を殺すためではなく、主の御言葉によって自分を教え、その働きに加わらせてくれるよう、ペトロに懇願するためであった。

47. それ以来、サウロはパウロとなった。この名前の変更は、その人の魂の完全な変容、すなわち彼の完全な回心を示していたのである。

48. この時代においても、わたしはわが民にこう告げる。もし彼らがあの子たちのように真にわたしを信頼するならば、中傷者や迫害者たちに対してさえ、身を守る必要などないだろう。なぜなら、わたしは彼らの道の途中で彼らを不意打ちし、彼らの魂の最も清らかな部分で、わたしの声を聞かせるからだ――まさに、サウロの心に語りかけ、「なぜわたしを迫害するのか」と告げたあの声である。

あなたがたは、どれほど多くの回心の事例を目の当たりにするだろう！ あなたがたの目は、どれほど多くの奇跡を目撃することになるだろう！ しかし、備えをし、待ち続けることを心得よ。目を覚まし、祈りなさい、民よ。嵐が木を激しく揺さぶるだろうが、わたしはあなたがた全員が、その木と一つになっていられることを望んでいる。そうすれば、あなたがたは皆、わたしの預言がすべて成就するのを見ることができよう。

49. 記憶力の弱さを心配してはならない
能力の弱さを心配してはならない。私の言葉の大部分が忘れ去られてしまうと思うからである。真実を言えば、試練の時に備え、心を沈めて集中することができれば、一見忘れ去られた私の言葉も、あなたの記憶に蘇るだろう。

50. 瞑想の静寂と内なる集中の中で、あなたがたはその言葉を耳に聞いているかのように感じ、実際にその真意を霊的に受け取るようになるでしょう。

51. この体験は、あなた方を確信で満たすでしょう。なぜなら、あなた方は今、闘いのあらゆる瞬間に私の言葉があなた方の唇に上り、私の光があなた方の知性を照らしてくれることを知っているからです。

52. 先駆者ロケ・ロハスは、エリヤの霊に触発されて、次のように記した。「隣人に対して慈悲、そしてさらに慈悲を尽くせ。そうすれば、あなたがたは、その栄光に満ちたわが父を仰ぎ見ることになるだろう。」

弟子たちよ、この言葉には真理と光がある。なぜなら、人生において慈悲を実践しない者は、決して私の王国に入ることはできないからだ。それとは対照的に、私はあなたがたに保証する。たとえ最も心硬く、頑なな罪人であっても、慈悲によって救われることができるのだ。

53. 慈悲の実践を最後の瞬間まで先延ばしにしないでください。そうしなければ、ごくわずかな功德しか持たないまま霊の王国の門前にたどり着き、中に入ることができなくなってしまうからです。

54. あなたがたがこれから歩むべき人生の道のり全体において、この種を蒔き、育て、豊かな実りを収穫できるようになるよう、私は助言する。

55. 愛の行いを、あなたがたの努力の中で最優先とするよう心がけなさい。そして、慈善を行ったことを決して後悔してはならない。なぜなら、この美德によって、あなたがたは人生における最大の満足と幸福感を得ると同時に、あらゆる高潔な魂が切望するすべての知恵、力、そして高揚感に到達するからである。

56. 隣人への慈悲によって、あなた方は魂を清め、それによって過去の負債を清算することになる。あなた方は人間としての生活を高尚なものにし、霊的な生活を向上させることになる。そして、いつかあなた方が皆、必ず叩くことになるその門にたどり着いたとき、あなた方の至福は極めて大きなものとなるだろう。なぜなら、霊界からあなた方を歓迎する呼び声が聞こえてくるからだ。霊界はあなた方を祝福し、再生と霊化の業へと召してくれるのである。

57. 人間たちよ、わたしのもとに来なさい。そして、わたしの言葉を通して、慈悲を実践することを学びなさい。来て、私の言葉に耳を傾け、私があなたがたに注ぎたいと願うすべてのものを受け取りなさい。そうすれば、あなたがたの中で最も貧しい者でさえ、霊的には宝の富を所有しており、それがあなたがたの慈悲によって、命、健康、慰め、平安、そして知恵へと変えられることを理解するでしょう。

58. 物質的な貧しさゆえに、慈悲の行いを行うことができないなどと言う者は、誰もいてはならない。なぜなら、そう語るのは、その者の無知、信仰の欠如、そして精神的な臆病さによるものだからである。

59. ここ、わたしの民の中には、貧しい者は一人もいない。なぜなら、わたしの王国は人々に近づき、その宝を人々に注ぎ出しているからである。

60. わたしの言葉は、水晶のように澄み切った清らかな水を豊かに湛えた川のようなものであり、畑に水を注ぎ、肥沃にするために、あなたがたの土地へと流れ着いた。その水の中で、あなたがたの心と魂を清めなさい。そうすれば、あなたがたは、罪と呼ぶ過ちの重荷から解放され、その道を歩むことができるだろう。

61. もしあなたがたがまず自らを清めなければ、隣人に対する慈悲の心を抱くことはできず、ましてや彼らと共に泣き、彼らの痛みに寄り添うことなど到底できないだろう。この民が、人類を霊的に

一つの家族として結びつけるという使命を地球にもたらしたということ、常に心に留めておきなさい。

62. あなたがたはすでに1950年、すなわち私がこの形で啓示を行う最後の年にいる。あなたがたは、私を何度も聞いてきたこと、そして私のメッセージが終わる時、私から語られるべきことはすべて語られたということを否定することはできないだろう。

それゆえ、今こそ、あなたがたにこう告げる時が来た。受動的な姿勢を捨て、この祝福された畑で積極的な働き手となるのだ——もはや、ただ私の言葉に耳を傾け、それを聞き、あるいはそれについて考えることに満足するだけの存在であってはならない。今こそ、あなたがたの魂が束縛や拘束、鎖から解き放たれ、この時代に姿を現し、託されたメッセージを世界に伝える時である。

63. これらの霊的な集いに参加することに満足している多くの人々が、自らの使命の遂行に着手し、師の言葉が響き、霊界の助言が聞かれるこれらの集会所を、学校として捉えることが必要です。また、長い間、これらの集会所での活動に限定してきた働き手たちは、まもなく、私の霊が彼らに授けた光と愛の種を蒔くために、地球のさまざまな地域へと散らばらなければならない時が来ることを理解する必要がある。

64. あなたがたは、まだ互いに多くの争いを経なければならず、また、あなたがたが使命を遂行するために必要な備えを身につけることができるよう、私はまだ何度もあなたがたを試さなければならないだろう。

65. これらの試練は、あなたがたの団結を目的としている。なぜなら、この民の懷に霊的な一致が存在しない限り、彼らが収穫する種は実を結ばないからである。

66. それゆえ、私は以前から、あなたがたが将来、全人類と調和を成すことを望むならば、まずは互いに調和を図り始めるべきだと告げてきた。そして、最初の頃からこう言ってきたのだ。「隣人に対して慈悲を、そしてさらに慈悲を示せ。そうすれば、あなたがたは私の父の全き栄光を見るであろう。」

わが平安があなたがたと共にありますように！

教え 309

私の平安があなたがたにあるように！

1. おお、弟子たちよ、私の教えの説き明かしへようこそ。あなたがたは、自らの存在の最も清らかな部分において私を感じ取り、私はあなたがたの魂に語りかけた。私の教えは、イスラエルと全人類に向けられたものである。私は、あなたがたの魂から不確かさが消え去るよう、あなたがたを導いている。

2. あなたがたは、私があなたがたに託した使命の偉大さを理解し、その価値を正しく評価することを学ばなければならない。あなたがたの魂がその使命にふさわしいものとなるためには、祈りによって疑いや不安を振り払い、助けを必要としていることを自覚しなければならない。その助けは、私の啓示、教え、そして靈感によってのみ与えられるのである。

このように私の教えによって目覚めた魂たちは、たゆまず私の教えに耳を傾けてきたゆえに、幼い生徒から弟子へと成長したのである。私の言葉の一つでも聞き逃すと、彼らはそれを嘆きます。彼らこそが、将来の戦いを予感している者たちであり、私の慈悲から受けたあらゆる恵みを、人類と分かち合わなければならないと悟っている者たちなのです。

このようにして大きな責任を理解したすべての人々は、ここで「声の媒体」を通じて私の教えを聞くことになる——それは、あなたがたが人生で次々と経験するあらゆる試練、教訓、出来事を説明し、解釈してくれる言葉である。まことに、私はあなたがたに告げる。私は「声の媒体」を通じて語ることにだけ限定しているわけではない。私があなた方に自らを現す形は無限にあり、ここでのそれは、私が人間の姿を通じてあなた方に教えを聞かせるための、その一つに過ぎない。私は絶えず子供たちの前に現れ、昼も夜も待たず、あなた方に近づくための特定の時刻も、定められた時期も持たない。私は永遠に、すべての被造物の中に存在する。

3. 私の普遍的な臨在は万物を満たしており、宇宙のいかなる場所や生息域にも空虚な箇所はなく、すべてが私によって浸透されている。

4. あなたがたの魂は常に私とつながってきたが、しかし今日に至るまで、あなた方はそのつながりを完全に認識できていない。それゆえ、第三の時代において、私はあなた方自身を通して自らを顕現し、あなた方を永遠の「言葉」の伝達者としたのである。それは、この啓示から「霊から霊へ」の啓示まではたった一步に過ぎないこ

とを告げ、あなた方が私の 神性との最も高次のつながりを達成するよう努めるためである。しかし、その前に、伝達者を通じたこの啓示の期間は終わらなければならない。

5. もしあなたがたが、もはやこの啓示の形でわたしを受け取らなくなったら、わたしの名を呼び求めながら、あなたがたの魂を高揚させることになるだろう。そして、わたしを求めるこの形において、わたしはあなたがたにどれほどの教訓を啓示することになるだろうか！ わたしの神聖な靈感は、あなたがたが歩まなければならない道を照らし出すだろう。そうして、あなたがたは自らの過去を、もはや闇の中ではなく、明るい日差しの中で見つめることになる。あなたがたは、これまで踏み出してきた歩みを理解し、どれが正しく、どれが正しくなかったかを悟るだろう。この高潔な志によって、イスラエルは強くなり、その強さは心から心へ、民族から民族へと広がり、やがてすべての人類が、霊から霊へとわたしを求めるようになるだろう。

6. 世界へと目を向け、それを探求しなさい。そうすれば、その物質主義、卑しい情欲、墮落を目の当たりにするだろう。現時点では、霊性化の実現は不可能に思えるかもしれないが、師はあなたがたが失敗しないよう、過去の時代に手本を残しておかれたのだ。私があなたがたの間で生きるために人間となったとき、私は人類にとって極めて高尚な教えをこの世にもたらししたが、それゆえに、私の弟子たちでさえ、その教えに従うことは困難であり、さらには不可能にさえ思えたことを覚えておきなさい。それにもかかわらず、あの使徒たちは、私の愛の律法を全うする模範を残し、私とその民の心に蒔いた愛のメッセージを実りあるものとし、それを開花させ、実を結ばせたのです。それならば、なぜ第三の時代において、人間の間で霊性の実践が不可能であるというのでしょうか？

7. まことに、あなたがたに告げる。人類は、その物質主義が終わりを迎えようとしていることを示す明確な兆候を示すだろう。自然そのものからその秘密を授かった進歩的な科学者たちは、その限界に達しつつあり、自然の力は、それを冒瀆する者たちに対して牙をむくことになる。自然は、その恵みを悪しき目的に捧げることを拒むだろう。そして、妄想と憎悪に囚われた人々は死を迎え、自らの手で解き放った権力への欲望の果実——暴風雨、疫病、災厄——を味わうことになる。そして、一体誰がこれらすべてを食い止めることができるだろうか？ 果たして彼ら自身の手だろうか？ それとも、愛という鍵ではなく、別の鍵で私の秘密を開き、それを冒瀆し

てしまった人間の科学だろうか？ まことに、私はあなたがたに告げる。彼らはただ、私の天の正義への扉を開くだけなのだ！

8. まことに、第三の時代の人々よ、災いあれ！ 彼らの嘆きの叫びは、地球のあらゆる地域で聞こえるだろう。の苦難の杯の酵母は、かつてないほど飲み干されることになり、誰もが自分に割り当てられた分を受け入れざるを得なくなる。なぜなら、苦痛は日ごとに激しさを増し、人々はすでに飢えと渇きを感じ始めているからだ——純粋な種への飢えと、水晶のように澄んだ水、真実と永遠への渇きである。

9. 人々の間でこうした出来事が起きている中で、あなた方の使命は何でしょうか。私の教えを心に受け止め、理解し、それを実践することです。なぜなら、スピリチュアリズムは単に口先だけのものにしてはならず、それを実践し、精神的、道徳的、そして実践的に生きなければならないからだ。狂信や秘密主義に陥ることなく、素朴かつ純粋に生き、靈魂にふさわしい価値と位置を与え、そうして靈魂が、はかない肉体を超えて、人間生活において裁きを行えるようにし、あなたがたが使命を果たす際に完全な調和が保たれ、この模範が人々の間で実を結ぶように。

10. わたしは、わたしの業におけるあなたがたの歩みのひとつひとつを祝福し、それが何倍にも増すよう導く。そうすれば、やがて世界の広大な道があなたがたに開かれたとき、あなたがたは、わたしの平和と新たな啓示の使者として、その道を歩むことができるようになる。わが神聖な教えによって導かれたあなたがたの魂が、人々のための再生への道を切り開き、人々が崇高なものからインスピレーションを得て靈性への到達を目指すことで、救いとなる理想へと目覚めることができるようにすること、それがわが意志である。その時まで、あなた方は不可欠な準備を整え、魂に強靱さを身につけているでしょう。あなた方の道を歩む上で、何ものもあなた方を後退させることはできないでしょう。

11. その時、今日あなた方を動揺させ、道を阻んでいる試練は、顔に傷一つつけられない微風のようにしか見えなくなるだろう。そのとき初めて、あなた方は私の律法に従うことで得た力を認識できるようになるのだ。

引き続き準備を整え、私の言葉の真意をますます深く掘り下げていきなさい。まずは弟子としてなすべきことを行い、私が師として、父として、光として、あなた方の内に現れることを許しなさい。

12. すべての魂はその使命を果たすことになり、わたしはその一人ひとりを用いて、すべてが整い、わたしの言葉が成就するように

する。しかし、もしあなたがたが、人類を救う使命を負っているのは自分たちだけであり、その使命を果たすという十字架の重荷を負っているのは自分たちだけだと信じているなら、それは誤りである。この大業において、あなたがたに割り当てられる役割はごく一部に過ぎない。なぜなら、あらゆる被造物は、それぞれの異なる人生の次元において、宇宙の統合に協力するよう定められているからである。

13. 平和という理想、祈り、愛、そして善意を道具として旅立つ者たちは多く現れるだろう。そして、これらの美德が彼らを一つに結びつけ、彼らの魂は私の教えによって勝利を収めることになる。

14. あなたがたは、隣人や私の神聖な正義を裁く者となってはならない。私の律法はしばしば人々によって非難されるが、私はあなたがたに告げる。私の高き御心には、私だけが立ち入ることができるのだ。

15. 平和を渴望し、心配の中で生きる人々は、日々、諸国民を悲惨と破滅へと導く者たちの上に下るであろう、私の正義の笏の一撃を待ち望んでいる。あなたがたは、このように私を待ち望む者たちの仲間になってはならない。なぜなら、私の神聖な正義は完全であり、私は私の愛によってそれをあなたがたに証明するからである。

16. わたしの言葉を深く探求しなさい。そうすれば、多くの者たちのように、わたしの神聖な正義の行いに惑わされることはないだろう。なぜなら、わたしは、ほんの些細な過ちを犯した者たちには力強く報い、それに対して、一見すると重大な罪を犯した者たちには赦しを与えているように見えるからだ。師はあなたがたにこう告げる。一見、軽微な過ちを犯した者にのみ、私が力を持って罰を下すのは、私が魂の弱さを知っているからであり、もし魂が律法を遵守する道から逸脱すれば、それが破滅へと導く第一歩となり得るからだ。しかし、私が他の人々の重大な過ちを見逃すのは、大きな過ちこそが、魂にとって同様に大きな悔い改めの理由となることを知っているからである。

17. 裁いてはならない。断罪してはならない。ましてや、諸民族の間で流血を引き起こす者たちに、わたしの正義が下ることを、心の中でさえ願ってはならない。ただ、彼らもまた、あなた方と同様に私の子供であり、私の被造物であり、その大きな罪を大きな贖罪によって償わなければならないのだと、心に留めておきなさい。まことに、私はあなた方に告げる。あなたがたが指を差して、「平和を容赦なく破壊し、あなた方を混沌へと突き落とした者たち」と呼

ぶ者たちこそが、来るべき時代には、偉大な平和の使者となり、人類の偉大な恩人となるのである。

18. 何百万人もの犠牲者の血が、大地からわたしの神聖な正義を求めて叫んでいる。しかし、人間の裁きを超えて、あらゆる魂、あらゆる心に届くのは、わたしの裁きである。人間の裁きは、赦さず、救わず、愛さない。わたしの裁きは、愛し、赦し、救い、新たな命へと蘇らせ、高め、照らす。そして、人類にこれほど多くの苦痛をもたらした者たちこそ、私は彼らを贖い、救う。彼らを大きな贖罪の道を歩ませることで――その道こそが、彼らが浄化され、良心の声に完全に目覚め、自らの行いの最も深い底まで見通せるようになるための試練の炉となるのだ。私は彼らに、彼らが犠牲者たちやその民に歩ませたのと同じ道を歩ませる。しかし、最終的には、彼らは魂の清らかさを手に入れ、この地上に戻り、破壊されたすべてを再建し、台無しにされたすべてを回復することができるようになるだろう。

19. あなたがたは、わが子らのこれらの過ちに対して、わが正義が弱いとも思っているのか。私は寛容で、弱々しい裁き主であるというのか。まことに、あなたがたに告げる。あなたがたが知る最初の殺人者、すなわちカインの時から、私は今この瞬間にあなたがたに語っているのと同じ正義を明らかにしてきたのだ。

カインとアベルがわたしに全焼のいけにえを捧げたとき、わたしは彼らのそれぞれの捧げ物を注視した。アベルの捧げ物は無垢で誠実であったが、カインの捧げ物は虚栄に満ちていた。わたしはアベルの捧げ物を受け入れ、カインの捧げ物を拒んだ。しかし、カインはこれをそう受け止め、憎しみと怒りに満ちて弟を殺した。

私は彼に、その命、その血について責任を問うとともに、それに対する私の不快感を示した。すると彼は私にこう言った。「私の罪は、赦されるにはあまりにも大きすぎる。私が兄弟を殺したために、あなたは私に怒りを燃やされた。あなたは私をこの地から追放しようとしているが、私は、自分が兄弟を殺したのと同じように、この道中で殺されるだろうと感じている。」

しかし、私は彼にこう答えた。「まことに、あなたに告げる。カインを殺す者は、七倍の罰を受けることになる。」そこで彼は、私が依然として彼を愛しており、それが私が彼に赦しを与えた証拠であることを理解した。しかし、その罪を償い、汚名を洗い流し、その崇高で神聖な赦しにふさわしい者となる必要があったのだ。

20. カインに語りかけたその声とは何だったのか。それは彼自身の良心、すなわち私がすべての人間という被造物に宿らせた内なる

審判者の声であった。その同じ声がすべての人間に語りかけるだろう。そして、それは賄賂を受け入れない審判者であるため、容赦のないものとなる。それは、カインに語りかけたのと同じ明瞭さで、その人に語りかけるだろう。しかし、カインが兄弟の血を流したとき、彼はその罪の重さを理解していなかったことを、あなたがたは理解しなければならない。彼は死とは何かを知らなかったが、現代の人々はそれが何であるかをよく知っている。

21. それゆえ、この時代において、私は、人々の司法が同胞の罪に対して何らかの措置を講じるのを待つことはしない。私はわが裁きの座において、わが子ら一人ひとりの到来を待ち受け、そこでわが裁きにより、彼らにふさわしい判決を下す。そうして、良心に対する悔恨がもたらす苦しみを通じて、彼らが贖罪を果たすようにするためである。そこで初めて、彼らは主の偉大なる愛を理解するようになるのだ。

22. この第三の時代において、私はあなたがたに魂の輪廻転生の確証をもたらした。人類は確かに、いつの時代もそれに関する直感的な知識を持っていたし、魂はこの秘密を「肉体」に明らかにしてきたが、肉体は――常に不信仰で弱かったため――それを疑ってきた。

この啓示を人々に伝えるために、あの世から存在たちがやって来たが、彼らを信じたのはごく一部の人々だけであり、その人々は自らの信仰の確信ゆえに攻撃され、無知な者や不信仰者たちから拒絶されてきた。しかし今日、人類の中には、かつてないほど、こうした顕現に対する予感、確信が生きている。たとえ、世間の目を恐れて、それを公言する勇氣を持てない者がいるとしても。

しかし、私はこの時代に、その確証をあなた方に伝え、こう告げるためにやって来たのだ。魂の輪廻転生において、私の完全なる愛の法則が明らかにされるのである。しかし、まことに、私はあなたがたに告げます。この地上にたった一度だけ人間として生まれた者はいかに少なく、また、魂たちが犯した悪を償うために、私はこの世でさまざまな肉体を通じて、魂たちにどれほど多くの機会を与えてきたことか。しかし、あなたがたの肉体は、これらの教えの核心を見出すことを妨げる、厚いベールなのです。

23. あなたがたが時代を超えてどのような存在であったかについて、私があなたがたに知らしめたことはごくわずかである。なぜなら、あなたがたが真の霊的な成熟に達する前に、肉体のうちにあって、私の崇高な御計画の聖域、その奥義に踏み込むことを望まないからである。私は、あなたがたが霊的生活に関する教えを、単なる

好奇心や推測、時間の浪費に導くだけの新たな学問にしてしまうことを望んでいない。私は、あなたがたが霊的な道において、自分たちにとって無益な一步を踏み出すことさえ望んでいない。私は、そのすべてがあなた方にとって有益であり、あなた方の魂の発達に役立つことのみを聞き、そののみが明らかにされることを望んでいる。しかし、単に人間的な満足にのみ役立つものは、決して知ってはならない。それはあなた方の霊的遺産における聖なるもの、秘められたものであるため、常にその前にはベールがかけられているのだ。

24. もしこの人類が、霊化、すなわち私の律法の成就に向けて確かな歩みを踏み出すようになれば、人間としての生活の中ですら、聖霊の偉大な教えを発見するようになるだろう。そしてその時、人類は過去、現在、未来を明確に洞察できるようになる――ただし、それは私の意志が許す範囲内に限られる。

それゆえ、弟子たちよ、私の教えが示す真の霊化の道に踏み出せ。そうして、大衆に危険を告げ、彼らを破滅から救う、良き預言者となるためである。

私は、適切な時に、それらの不信仰者たちの過去生の一部をあなた方に示すことで、あなた方の使命を助けるつもりだ。しかし、これはあなた方が彼らを裁くためではなく、私の啓示によって彼らを導くためである。

25. そうして、人々は自らの成長において目覚め、私からの永遠の教えを知るには、たった一つの人生では不十分であることを理解するようになるだろう。

26. あなたがたがこの戦いに全力を尽くして臨めば、多くの成果を上げることができるだろう。しかし、あなたがたのうち、この世に戻ってくるか、あるいは二度と戻ってこないか、確信を持っている者はいるだろうか。「私が人生で行ったことはすべて、父が私の運命として定めたことだった。今、私は他の世界へと旅立ち、発展の無限の階段を登りながら、神にさらに近づいていくことができる」と、誰が言えるだろうか。

まことに、あなたがたに告げよう。これらの教訓を理解するには、あなたがたが持つ知識は不十分である。しかし、自らの使命を果たすすべての人々は、霊的な道において私へと一步を踏み出し、教訓から教訓へ、生の世界から生の世界へと、永遠に向かって進んでいくことになる。もしそうではなかったとしたら――あなたがたは、より高い生命の次元に住むことができると信じられるだろうか。

そして、私の正義そのものである良心が、それを許してくれると信じられるだろうか。

27. 身を委ね、働き、私の神聖な御心があなたの方の中で成就されるようにしなさい。あなたの方の多くは、まだこの地上の肉体の中にありながら、私の預言の成就、この人類の変容、そして私の律法によるすべての者の救済を目撃することになるだろう。しかしその前に、彼らは、人類がまだ経験したことの無い、歴史の記述にもまだ記録されていないような、大きな闘争や大きな戦争を目の当たりにしなければならぬだろう。

しかし、これから起こる事柄や近づきつつある出来事についてすでに知っており、自らを清めなければならないあなたがたにとって――聖霊（ ）の教えに直面しても目覚めず、私の律法を冒瀆し、自らの使命を忘れ、伝統に縛られ、無知の鎖を身にまとっている者たちには、一体何が起こるのでしょうか？

28. 動揺、苦しみ、そして悔恨は、自らの裁き主の前に現れる大勢の魂たちにとって、まるで溶鉱炉のようなものとなるだろう。しかし、まことに、わたしはあなたがたに告げる。彼らにもまた、わたしは助けを与える。そして、彼らが深い眠りから目覚めたとき、彼らはわたしの赦しを示す輝く御顔を見ることになるだろう。そして、彼らはただ、かつて冒瀆し軽んじていたその道を、過ちを償い、わたしの愛にふさわしい者となるために、わたしが彼らをその道へと導くのを待つだけとなるだろう。そして、慈愛に満ちた父として、わたしは彼らにこれを許すであろう。

29. それゆえ、私は教えの中で、あなたがたにこう告げる。今日、人の血やあらゆる過ちによって汚れているとあなたがたが見ている者たちを、裁いてはならない。なぜなら、あなたがたの永遠の存在において、人の血を流すことよりも大きな罪があるからだ。しかし、ひとまず、すべてを知ろうと求めないでほしい。私はすでに、私だけが私の高き御心によって公正に裁くことができると、あなたがたに示してきた。

30. 今、あなたがたはただ愛し、赦すべきである。そして、私があなたがたに、周囲で起きている出来事を考察し、評価することを許すのは、あなたがたが同胞の苦しみに対して無関心で、無頓着で、無感情になってほしくないからである。私は、時が来たときに、あなたがたがすべての人々に教え、理解、愛、赦し、そして慰めを与えることができるよう、私の教えによってあなたがたを感受性豊かな者にしたのだ。そのために、私はあなたがたを灯台とし、輝く星とし、そして忠実な友とする。そうして、あなたがたが家庭や社

会、そして諸民族の間で、それにふさわしい振る舞いができるようにするためである。

31. 私は、あなたがたがもはや互いを「見知らぬ者」と見なすことを望まない。私は、あなたがたの間で普遍的な兄弟愛が花開き、それがあなたがたの真ん中で実を結び始めることを望む。

32. あなたがたが人間としての法律を守ることは良いことだが、私の教えとあなたがたの霊性を、それらよりも優先させなさい。わたしの律法に従いなさい。まことに、あなたがたに告げる。人間的な法律によって生じる最も厳しい葛藤から、わたしがあなたがたを解放してやる。しかし、不正と戦い、墮落に立ち向かえ――殺戮の武器でも、憎しみでもなく、わたしの愛の種をもって。その戦いにおいて、あなたがたは一人きりではない。私はすでに言った通り、人類の中には、すでにな物質主義から自らを解き放ち、運命の試練の中で強くなり、私と結びつくことを目指して歩み出している人々がいる。それらの魂とは誰か？ 今のところ、あなたがたが彼らを知る必要はない。

33. 魂を高め、互いに愛し合い、来世においてこの普遍的な兄弟愛という理想の下で一つになりなさい。私はあなた方を「霊の山」へと招き、そこで私は、平和と救いを切望するすべての人々――すなわち、力と私の啓示への信仰を与えられ、その恵みを受けて道を歩み続けられるように――と共にいるであろう。これからもなお、魂たちは現れ続けるでしょう――ある者は野の花として、またある者は砂漠の棘として。しかし、どちらの者も一つの理想によって結ばれ、来世において、あなたがたの愛の花々は一つに結ばれ、愛の捧げ物として私のもとへと届いていくのです。

34. 弟子たちよ、この啓示の最後の年において、私はこのようにあなた方に教えを授ける。まことに、私はあなた方に告げる。この期間が終焉を迎えれば、あなた方の霊化は極めて大きな試練にさらされることになるだろう。あなた方のうち、どれほど多くの者が狂信や偶像崇拜の犠牲となるだろうか。あなた方のうち、どれほど多くの者が、ただ秘密主義の道へと歩み、またどれほど多くの者が、人々の間で目立とうとして、わが業に本来属さないものを付け加えようとするだろうか？ 目を覚まし、祈りなさい、おお、民よ！しかし、忘れないでほしい。あなたがたの宗教的実践が純粋で質素であればあるほど、そして私の律法にインスピレーションを得ていればいるほど、あなたがたの魂が到達する完全性はより大きなものとなるのだ。儀式や儀礼を減らし、霊性を高め、隣人に対する慈悲と愛

を深めなさい。そうすれば、あなたがたは私を愛するようになるだろう。

35. 地球上のあらゆる民族において、偶像崇拜と狂信の時代が訪れる。儀式や典礼は最高潮に達し、極限までエスカレートするだろう。様々な宗教や宗派の聖職者や司祭たちは、信者たちを熱狂の極みに駆り立てるだろう。私はこれを許す。なぜなら、これは人類の間に嵐のように吹き荒れ、その混沌の中で魂たちは難破船の乗組員のように感じるようになるからだ。安全な港や救命ボートにいと感じられる者は、誰一人としていなくなるだろう。

36. すべての魂が混乱に陥り、どこにも安らぎの避難所を見出せない時が来るだろう。その時、人々は最も著名な指導者たち、卓越した知性を持つ大臣たち、そして人類から聖人と見なされている者たちを求め始めるだろう。しかし、彼らが、そうした人々もまた、羅針盤も、平安も、光も持たない難破者であることに気づいたとき、その驚きは計り知れないものとなるだろう。

そうして、闇が訪れるだろう。しかし、この混沌の只中で、救いを求めて魂たちは立ち上がり、暗い雷雲の向こうに、新たな命のように、新たな夜明けのように、光を目にするだろう。その光こそが聖霊の光であり、全宇宙を照らし、子供たちの帰還を待ち、荒れ狂う海を照らす灯台となるのだ。

37. この試練の時代の後、人類には霊の自由が訪れる。人々は一かたの偶像を足で踏み碎き、失望のあまり、虚栄と華美、そして偽りの輝きに満ちた集いの場を破壊するだろう。学識ある著作の著者たちは、自らの著作を火の中に投げ込むだろう。

38. その時代には、あなたがたの中で最も教養がなく、最も卑しい者でさえも、注意深く耳を傾けられるようになるだろう。今、この質素で貧しい民の中であって、私の教えを聞きながら、雄弁さや霊性がないと自認して無価値だと感じている者たちのうち、どれほど多くの者が、やがて大勢の人々に取り囲まれることになるだろうか。その中には、彼らが「声の伝達者」を通じて私を聞いたとき、彼らを狂人だと思っていた者たちも含まれているだろう。今日、私のメッセージを疑っている者たちのうち、どれほど多くの者が、後になって、至る所で私の言葉の成就を目の当たりにし、ペトロのように泣くことになるだろうか。

39. それまでの間、引き続き備えを続けなさい。私の教えによって魂を強めなさい。その教えは、霊性化による解放と救いだけをあなた方に求めているため、これまで誰一人として迷わせたことはない。しかし、霊性化とは何だろうか。それは、太古の昔から私が示

してきた道であり、その道を通して、すべての清められた魂は神の懷にたどり着く。その道には、あらゆる美德の源である神の律法がある。そこには、神のすべての知恵を内包する、開かれた書物、すなわち「命の書」がある。私は、この道へと、再びあなた方を招いたのだ。

40. 山の頂上から、私は三度目にあなたがたに語りかけ、こう告げます。「私は道であり、真理であり、命である。もはや私から離れてはならない。」

41. 思い出してください。私の体が十字架から降ろされ、その後埋葬されたとき、動揺し、何が起きたのか理解できなかった弟子たちは、師の死をもってすべてが終わったのだと信じていました。彼らの信仰に火が灯り、私の言葉に対する理解が深まるためには、彼らの目が再び私を見、彼らの耳が再び私の声を聞く必要があったのです。

42. さて、私はあなたがたにこう告げよう。あの弟子たちの中に、私を決して疑わず、試練に直面しても決して揺らぐことなく、一瞬たりとも私から離れなかった者が一人いた。それは、忠実で、勇敢で、情熱的であり、最も愛に満ちた弟子、ヨハネであった。この愛ゆえに、私は十字架の足元に立っていたマリアを彼に託した。そうすることで、彼が今後もその汚れなき心の中に愛を見出し、彼女の傍らで、彼を待ち受ける戦いに備えてさらに力を得ることができるようにするためであった。彼の兄弟たち、すなわち他の弟子たちが、一人また一人と処刑人の死刑執行の下で倒れ、その血と命をもって、彼らが説いた全真理と師の名を確証していった一方で、ヨハネは死に打ち勝ち、殉教を免れた。彼は荒野へと追放されていたため、彼を追い払った島で、その人物に、時代を超えた天からの大いなる啓示が降り注ぐことなど、迫害者たちは思いもよらなかった。その啓示とは、人々が徐々に経験していくもの——すなわち、過去に起こったこと、そしてこれから成就することのすべてについて人々に語りかける預言である。

43. ヨハネは兄弟たちに多くの愛を注ぎ、師の名において彼らに仕えるという使命に生涯を捧げた後、彼らとは離れて、独りで生きなければならなかった。しかし、彼は常に人類のために祈り、イエスがその血を流して救おうとした人々のことを常に思い続けていた。

44. 祈り、静寂、内省、その存在の純粹さ、そして思考の善意が、ある奇跡をもたらした。すなわち、他の人々が達成するのに数千

年を要するであろう成長を、その人、その魂は短期間で成し遂げたのである。

45. そう、弟子たちよ、ヨハネは、来るべき時代に人間の魂が到達するであろうものの模範である。ヨハネが語り、見、聞いたあの恍惚状態は、あなたがたがこの時代に体験することとなるものの啓示であった。象徴によって表現された霊的な幻は、預言の賜物、すなわち霊的な視力によって見られたのである。

46. 彼の脳に届き、彼の心に響いた神の声と霊界の声は、この時代にあなたがたが「声の伝達者」や「賜物の担い手」を通じて受けた啓示の先駆けとなるしるしであった。そして最後に、ヨハネは天使の導きのもと、自分が見聞きしたすべてを書き記すことで、人類に、の人々が人生において不純物や物質主義から解放されたときに訪れるであろう、霊と霊との対話を明らかにした。

47. 人々はいつ、私の最愛の弟子が書き残したものに注目するようになるのだろうか。その啓示が記されている様式は奇妙であり、その意味は神秘に満ち、その言葉は計り知れないほど深遠である。果たして誰がそれを理解できるだろうか。ヨハネの黙示録に関心を持ち始めた人々は、それに没頭し、解釈し、観察し、研究する。ある者は真実に少し近づくが、ある者は黙示録の真意を発見したと思い込み、それを全世界に宣言する。またある者は混乱したり、さらに探究を続けるには疲れすぎてしまったりして、ついにはそのメッセージからあらゆる神聖な意味を否定してしまう。

48. 「第三の時代」の弟子たちよ、今、私はあなたがたに告げる。もしあなたがたが真にこの聖域に入り、それらの啓示の真の意味を知りたいと切に願うのであれば、霊から霊への祈り——すなわち、ヨハネが流刑の地で実践したまさにその祈り——に親しむ必要があるのだ。まず理解しなければならないのは、神の啓示は、たとえ地上の姿やイメージによって表現されているとしても、全体として人間の魂、その発展、葛藤、誘惑と転落、冒涇と不従順について語っているということである。それは、私の正義、私の知恵、私の王国、私の愛の証し、そして人間との交わり、人間の目覚め、再生、そして最終的には霊化について語っているのです。

49. そこで私は、あなたがたが魂の発達をよりよく理解できるよう、人類の霊的な人生の旅を、時代ごとに区分して啓示した。

50. さて、弟子たちよ、この啓示はあなたがたの霊的な生活に関わるものであるから、霊的な観点からこれを研究し、考察することがふさわしい。なぜなら、もしあなたがたが地上の出来事だけに基

づいてこれを解釈しようとするれば、他の多くの人々と同様に混乱に陥ってしまうからである。

51. 確かに、多くの地上の出来事は、その啓示の成就と関連しており、今後もそうなるでしょう。しかし、あなたがたは、そこに含まれる出来事やしるしは、また、あなたがたが私の真理を理解し、魂の清らかさの道を歩んで私のもとへ昇るという使命を果たす助けとなる、象徴や比喩、例えでもあることを知っておくべきです。その道については、私の弟子ヨハネが、主との「霊から霊への対話」において、人類より千年の先を行く輝かしい模範を残してくれました。

私の平安があなた方とともにありますように！

目次

教え 277	節番号
霊的な使命	1
霊的なイスラエル	14
霊的な分析	28
霊的なインスピレーション	32
啓示と預言	35
人間の未熟さ	42
霊魂は完全性へと向かう	47
教え 278	節番号
霊的能力の目覚め	2
真の霊的祈り	16
悔い改めの秘跡に関する誤り	18
戦争の終焉に関する予言	24
試練の意味	31
完全な精神的なコミュニケーション	42
霊的イスラエルの民の使命	59
神秘の意味	61
教え 279	節番号
霊的な祈り	1
預言の成就	9
償いの時	17
主の再臨の時	39
霊性	65
神による征服と人間による征服の違い	75
教え 280	節番号
第三の時代のメッセージ	2
人間自身が下す裁き	11
過渡期	20
父からの助言	31
第三の時代の使徒たちの使命	49
象徴は消え去る	65
新しいマナ	71
教え 281	節番号
新しい霊的顕現の目的	1

霊的な祈り	23
平和の基礎	29
行い、言葉、そして思考の調和	42
霊的な分析	46
真の価値	63
教え 282	節番号
御霊の力	3
人間の儂さと脆さ	9
人間の無知と精神の真の知恵	17
人間は霊的顕現の媒体である	31
約束された慰め主	57
真の霊的祈り	61
教え 283	節番号
運命の真の意味	10
イスラエルとその使命	15
スピリチュアリティは宗教性ではない	23
良心によって導かれる科学	48
すべての人に向けた準備としての霊的なインスピレーション	51
自然とは何か？	57
教え 284	節番号
「命の書」の構成	11
霊的および物質的な充足	24
待ち望まれた「平和の王国」	31
44,000人の準備の整った魂たち	34
第三の時代	38
第六の封印が解かれた	46
教え 285	節番号
私たちの内なる平安	1
痛みの良さ	6
祈りは精神的な営みである	10
「第三の時代」と精神生活	18
感覚の崇拝を伴わない精神の発達	43
スピリチュアリストたちの闘い	54
真の神の神殿	62
人間の存在理由	69

真理は神の本質である	81
教え 286	節番号
転生した靈魂と 非受肉した靈魂との調和	2
靈的な高揚	9
1866年9月1日、第三時代の幕開け	14
イエス、モーセ、エリヤの使命	15
痛みについて	27
預言者たちによって予告された時代	45
靈的な目覚め	57
教え 287	節番号
創造主への回帰という輝かしい靈的な道	6
樂園の意義（161,7参照）	12
本能と良心	25
慈悲とは何か	31
至福への道	37
精神的な慈悲	54
ヤコブの梯子	59
教え 288	節番号
御霊による新しいイスラエル	1
失われた樂園のたとえ（161,7参照）	29
真理の神聖な閃光	36
靈的存在たちは、その使命と 運命に従って転生する	46
繰り返される転生	56
二つの世界の間をさまよう者たち	62
教え 289	節番号
真の精神的価値への目覚め	3
靈界の存在	17
時代の成就	31
平和の王国の到来	57
すべての人は神の子である	66
1950年の重要性	67
教え 290	節番号
転生における発展	4
人間の誤った解釈と神の真理	13

霊魂と血縁の観点から見た家族の意義	40
輪廻転生に関する啓示	53
霊的解放の時代	58
教え 291	節番号
平静さと誠実さ、 充実の	2
愛の法則	8
真理の認識	9
1950年の精神的意義	44
1950年、私が最後に御言葉を響かせることを知れ	57
14万4千人とその使命	63
精神的なコミュニケーション	81
教え 292	節番号
「父の家には多くの住まいがある」	3
普遍的な調和へと	5
知的な容量と霊的な	15
新しいイスラエル	28
スピリチュアリズムの台頭	31
「石一つ残らず崩れ去る」	33
逆境の中でも前を向いて	46
あなた方の惑星の使命	53
主の再臨	65
教え 293	節番号
霊から霊への交わりのための準備	11
「三位一体」	19
神の愛に相当する人間のものは、功績である	44
新たな神の到来は、私たちが 物質主義の壁を越えさせてくれる	56
神は宗教間の区別をなさらない	61
良心の声	73
教え 294	節番号
霊性の時	1
霊的な解放	24
「あの世」	32
魂と身体の関係	37
精神から精神へのコミュニケーションの時間	44
教え 295	節番号
生と死、光と闇の意味	1

人類の大きな過ち	2
誘惑	13
虚栄心の危険性	18
霊における「御言葉」の復活	26
死者のための祝日に関する解説	34
スピリチュアリティと科学	36
人間の霊魂は創造主の似姿である	44
自由意志と良心	49
輪廻転生と霊的生活	52
地球における三つの時代	56
教え 296	節番号
人間の精神的進化	2
神の新たな到来	20
良心が私たちの探求を導かなければならない	26
永遠の破滅など存在しない	30
平和という宝	39
第三の時代の神の御業の偉大さ	45
霊的生活の顕現	55
愛の力	60
教え 297	節番号
霊的業の意義と目的	2
私たちは一人ではない	6
宗教やカルトにおける唯物論	39
より良い世界に関する予言	68
教え 298	節番号
霊的な賜物を行使することは、人を解放し、高めてくれる	1
魂の準備の重要性	19
霊界は私たちを取り囲んでいる	41
教え 299	節番号
1949年のクリスマス	2
哲学的な混入のない霊性	32
ヨセフの例	60
教え 300	節番号
スピリチュアリズムの証し	3
第三の時代の書物の重要性	17
新たな戦争が迫っている	33
霊性への準備	36
あらゆる時代の預言者たち	50
教え 301	節番号

霊的な準備の段階	2
御霊のパンとぶどう酒	5
第六の封印	9
霊的存在に関する知識	10
御霊の賜物	14
試練の理由	24
若者に対するスピリチュアリストの使命	33
教え 302 (1950)	節番号
霊性への道	2
エマオの小屋にて	3
神からの教訓	5
輪廻転生の理由	14
大洪水	15
霊的な箱舟の意義	17
数え切れないほどの霊的な住まい	23
永遠に失われるものはない	31
偶像崇拜の消滅	36
教え 303	節番号
霊的な準備	1
霊的存在間の関係	11
狂信と無知について	20
墓地における	
今こそ、霊的な自分を知る時である	24
楽しみにについて	27
時代の完結と審判	35
死、永遠の罰、煉獄はどこにあるのか	41
七つの封印	52
教え 304	節番号
精神の成長には準備と意志が必要である	1
神は遍在である	13
試練は過ちに見合うものである	38
1950年以降の霊的交信	51
教え 305 (1950年1月1日)	節番号
三つの時代とその書面によるメッセージ	1
人類への霊的な呼びかけ	2
霊魂こそが原初のものである	6
審判の時が近づき、すべての人への赦し	12
神聖な波動の遍在性	22
霊的な神殿の神聖な清らかさ	30

人類の霊性への目覚め	36
物質主義の時代の死の苦闘	41
エリアスの使命	47
あなたたちを導くべきは、恐れではなく愛である	51
誤った信仰	59
神の慈悲と霊的進化	64
良心は理性や感情よりも上位にある	67
イエスとキリスト	71
1950年の重要性	74
教え 306	節番号
選ばれた14万4千の霊的存在	1
霊的な特徴	3
永遠の霊的価値と儚い物質的価値	14
試練の恵み	20
慈悲を実践する機会（ヘブライ人への手紙 13:16）	27
憐れみのないところには戦争がはびこる	35
1950年は新しい時代の幕開けである	38
召された者、選ばれた者	53
宗教心ではなく、スピリチュアリティ	59
普遍的な言語	65
教え 307	節番号
平和は最高の精神的財産である	1
実践における霊化	6
乙女たちへの言葉	31
真の霊的な家族	36
準備	42
メキシコにおける霊的顕現	49
霊的賜物の開花	54
教え 308 (1950)	節番号
霊的な山への登り	5
試練への服従	7
イエスとキリスト——人間と霊	20
ペトロとサウロ＝パウロ	42
準備の経験	48
慈悲	52
教え 309	節番号
普遍的な神の臨在	3
スピリチュアリティと唯物論の没落	6
平和の使者	10

神の正義	14
カインとアベルの教訓	19
輪廻転生の完全なる法則	22
普遍的な兄弟愛	31
羅針盤なき難破者たち	35
精神の自由	37
ペトロの模範	38
使徒ヨハネのパトモス島への追放	42

1866年から1950年にかけてのメキシコにおける神の 教え 参考文献

ライヒル出版社、D-56329 ザンクト・ゴア、電話：+49 (0)6741 1720

『真の生命の書』第I巻、第II巻、第III巻、第IV巻、第V巻、第VI巻

『第三の聖書』（スペイン語、英語、フランス語版も刊行）

『メキシコの神の啓示』（概要）

人生に関する神の啓示

第三の時代のための予言

『人生のための書籍サービス』、マンフレッド・ベーゼ、Kirchweg 5、D-88521 エルティンゲン

電話：+49 (0)7371 929 66 42、Eメール：manfredbaese@gmx.de

神の愛——私たちの人生とあらゆる存在の起源、本質、そして目的

『El Amor Divino』——私たちの人生とあらゆる存在の起源、本質、そして目的

『真の生命の書』第VII、VIII、IX、X、XI、XII巻

『第三の聖書』

ユニコン財団、D-88709 メースブルク

電話：+49 (0)7532 808162、Eメール：info@unicon-stiftung.de

『真の生命の書』入門（無料）

アソシアシオン・デ・エストウディオス・エスピリチュアレス・ヴィダ・ベルデラ A.C.

Orinoco N° 54 Interior 5, Col. Zacahuitzco, 03550 メキシコシティ

『真の生命の書』、第I巻～第XII巻

『第三の聖書』

およびメキシコのこれらの神の啓示に関するその他の書籍

ウェブサイト

www.drei-offenbarungen.net

www.reichl-verlag.de

www.unicon-stiftung.de

www.drittes-testament.de

www.drittetestament.wordpress.com（多言語対応）

www.tercera-era.net（スペイン語）

www.144000.net（多言語対応）

www.dritte-zeit.net